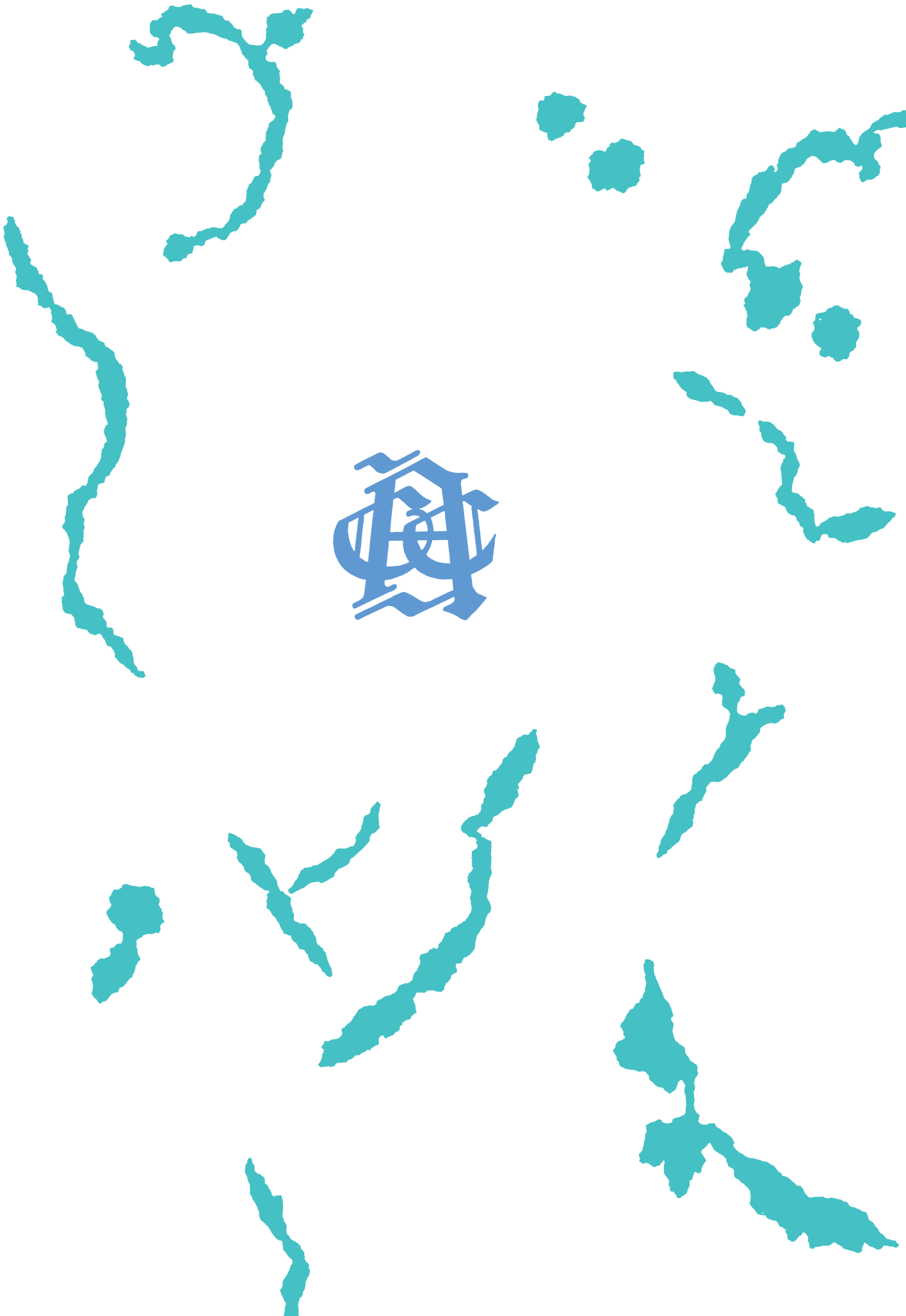


社団法人

芦屋カンツリー倶楽部

輝ける50年の軌跡

2002



社団法人
芦屋カンツリー倶楽部

開場50周年記念

序

芦屋の山に集い

美しい自然の懐に抱かれ

フェアウェイに白球を追って

至福のひとときを過ごした

数多くのプレイヤー達に

この青春の譜を捧げる

50の年輪を重ねて

芦屋カンツリー倶楽部が、めでたく開場50周年を迎えました。人間で言えば、最も円熟した働き盛りの時期で、わが倶楽部も50の年輪を重ねて、関西の名門コースの名に恥じない風格を備えるに至りました。ご同慶の至りであります。

近代ゴルフコースの理論を完成させたのは、英国のアリスター・マッケンジー博士であると言われていています。その設計理論を要約しますと、理想的コースの基本は、

1. 最大多数のプレーヤーが常に楽しんでプレー出来るものでなくてはならない。
2. 技術と同様戦略も要求するものでなくてはならない。
3. 自然の美は最大限に保存されねばならない。

ということであります。

芦屋カンツリー倶楽部の歩みも、この理想の追求であったかと思えます。顧みれば、わが倶楽部は昭和23年、当時の芦屋市長が国際文化都市建設の構想をたてられ、スポーツ振興の一環として計画されたものであります。

当時の記録によれば、コース敷地の選定をはじめ山地の開発、クラブハウスの建築、更には資金の調達等、今の時代からは想像の及ばぬ苦労があったとされるされてあります。創始の大業に取り組んだ先人の方々の献身的な努力や、先見性に富んだ英知の結果によるもので、その勇気と、大胆な着想に深甚な敬意を表するものであります。



そして昭和27年正式に倶楽部が発足したあと、この50年間には幾多の変遷がありました。クラブハウスやコースの改造、倶楽部周辺の整備等多くの努力の集積によって、今日の芦屋カンツリー倶楽部の姿があります。その間、営々として“あしや”の歴史を作りあげて来た人々 — 故人も現存の方も含めて — のご苦勞にも、多大の敬意を表したいものです。

50周年を祝う記念の事業としては、この年史をはじめとして色々な企画がありますが、特筆すべきものとしては、乗用カートの導入と別館の改築があげられると思います。カートの導入によって高齢者のプレーが可能となり、コースに活力が溢れて来ました。また、別館の改築によってプレーのあとの懇親が一段と楽しくなりました。

「真の完全なラウンドは十九番ホールで終わるのだ」という言葉は、英国のさる有名な小説家が最初に使ったと言われていますが、新装なった別館は正に格好の十九番ホールと言えましょう。

総ガラス張りの部屋から眺める雄大なコースの緑、それを取り囲む六甲の山並みは、四季折々の彩りを添えて、“あしや”のクラブライフに一層の充実感を与えてくれます。また、この別館は、一般市民の皆さんへの開放も展望出来、公益法人としてのコミュニティ活動にも大きな力を発揮するものと考えます。取り巻く環境が益々厳しくなるなか、無事50周年を迎え得たことを共に喜び合うと同時に、社員一同心を合わせて芦屋カンツリー倶楽部の更なる飛躍と発展を誓い合いたいと考えます。

理事長 平田 豊

芦屋カンツリー倶楽部 開場50周年を祝って——

芦屋カンツリー倶楽部開場50周年誠におめでとうございます。

心からお慶び申し上げます。

貴倶楽部は都市部に在りながら瀬戸内を望む六甲山に抱かれ、自然環境豊かな最高の立地条件により、古くから名門倶楽部としてその名を全国に馳せてこられました。

コースコンディションづくりにおかれましても、スタッフのご努力により、常にベストの状態を維持され、一度はプレーをしたいゴルファー憧れの名門コースとしてひろく内外に誇っておられます。

また、経営面でも、今日、日本経済の低迷でゴルフ場の経営状況は大変厳しいことと存じますが、貴倶楽部は早くから経営の健全化に取り組んでこられました。

一方、貴倶楽部におかれましては、永年にわたり芦屋市民ゴルフ大会やチャリティゴルフ大会の開催など、市民の健康づくりにご貢献いただくとともに、幼稚園児へのゴルフ場の開放、毎年体育振興のために多額のご寄附を賜るなど、地域社会への多大な奉仕活動をして頂いておりますことに対し、深く感謝しております。



特に、阪神・淡路大震災の折りには、芦屋市が阪神間で一番被災率が高く、壊滅的な被害を受け、多くの被災者はライフラインの断絶等により、「食べ物がない」、「水がない」という困窮状態に陥りましたが、その時、貴倶楽部も大きな被害を受けられたにも拘らず、いち早く被災者のためにお風呂場や食堂を開放、ご協力いただいたお陰で、多くの市民がどんなに喜び心身を癒されたか、その功績は計りしれません。ここに改めて、貴倶楽部の歴代理事長はじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

我が国は現在、長引く経済不況などにより明るい話題が非常に少ない中、オリンピックやマスターズゴルフなど、世界の一流選手が集う競技大会で、日本選手の奮闘ぶりに国民の多くが感動するのを見るにつけ、スポーツこそは元気を取り戻すための何よりの活力源だと痛感いたします。

また、我が国は世界最高の長寿国ですが、高齢者が元気であるためにも、生涯スポーツであるゴルフの隆盛を願って止みません。

最後になりましたが、貴倶楽部がいつまでも誇れるゴルフ場として、また市民に愛され親しまれるゴルフ場として、ますますご発展されますことを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

芦屋市長 北村春江

〈104歳を迎えられる名誉社員〉

芦屋カンツリー倶楽部の思い出

芦屋カンツリー倶楽部が開場50周年の良き年を迎えられるとのこと、本当におめでとう。そしてわが故郷とも云える懐かしの芦屋カンツリーが、設立後半世紀を経て益々隆盛である事を聞くにつけ、感無量の想いがある。

私は昭和2年にゴルフを始めたが、12年前に下半身が不自由になる迄、約65年間ゴルフを楽しむことが出来た。

ゴルフは健康によいばかりでなく、ゴルフから私は多くのことを学び、ゴルフによって多くの友を得、ゴルフのお陰で実に心豊かな人生を楽しむことが出来た。又、ゴルフは自分自身が審判員だと云うところも、紳士のスポーツとして素晴らしいと思う。

ゴルフには所謂5つの楽しみがあると云われる。即ち「プレーする楽しみ」、「見る楽しみ」、「語る楽しみ」、「読む楽しみ」、そしていささかはた迷惑な「教える楽しみ」である。しかし私は、その他に第6番目の「ゴルフ場を作る楽しみ」も随分味わうことが出来た。その数多くのゴルフ場作りの楽しみの中でも、印象深いもののひとつに芦屋カンツリー倶楽部がある。

難産だったゴルフ場建設

昭和25年頃だったか、私の山手町の家の直ぐうしろの天神山にゴルフ場を作ろうと云う話が持ち上がり、お隣の西川道夫さん、高畑誠一さん、西村熊市さん等の方々と現地調査を行い、何度か会合を持った。しかし土質がコースにふさわしくなく、広さも18ホールには充分

渡邊 忠雄

●発起人／元理事／元三和銀行頭取

でなく、その上、土地価格が法外に高かったので断念することとなった。

それからしばらくして、お多福山の麓が候補地となり、西川さん、西村熊さん、大西さん等とゴム長靴を履き、熊笹をかき分け、危険な目に何度か出遭い乍ら、現地探索を行ったことも懐かしい思い出だ。

当時は、ゴルフ場作りに銀行の資金を回す余裕など全くなかった時期だったので、資金の調達にはいろいろ工夫をこらし、苦労を重ね、やっとのことで開場を迎えることが出来た。

出来上がったゴルフ場は山岳コースと云うか、1番ホールからいきなり胸突き八丁の急斜面の打ち上げで、当時未だ50歳そこそこの元気な私だったが、芦屋カンツリーのコースを80台のスコアで征服するのは、なかなかの努力と運が必要だった。

その後、何度か台風による被害を受け、谷を埋めたり、山を削ったり、芝を貼り替えたり、コースの改修には随分苦勞をした。

石井勉夫プロのこと

ところで、当時芦屋カンツリー倶楽部に、スウィングフォームのまことに美しい石井勉夫プロが居り、私はプレーのあと、随分と熱心に彼のレッスンを受けたものだ。昭和31年英国のウェントワースゴルフクラブで開催された第4回カナダカップに、その石井プロと林由郎プロが日本チームとして初参加することとなった。



その頃、私は丁度三和銀行ロンドン支店開設披露パーティーに参加することとなり、羽田空港で偶然にも石井勉夫プロと一緒にになった。そのとき、彼のゴルフバッグが重量制限で高額の追加料金を要求されて困っていたので、そのバッグを私の荷物としてチェックインし、石井プロを助けてあげることが出来た。

彼は初めての海外遠征に臆することなく、その一時私の荷物となって運ばれたゴルフバッグを使用し健闘した。トーナメントの最終日、私は18ホール彼のプレーについて廻り応援した。そして彼は随所に素晴らしいショットを見せ、日本チームは善戦4位に入賞した。試合後、彼と共にその喜びを頷ち合った時のことは、今も忘れることが出来ない。

得意淡然と共に

さて、私はこの永い人生で、「得意淡然、失意泰然」と云う言葉をモットーのひとつとして来た。ゴルフでもナイスショットした時に凶に乗ったり、慢心すると次はとんでもないミスショットをし勝ちである。即ち得意淡然が肝要だ。一方ミスショットをしてカーッととなったり、腐ってしまったりしてはスコアを崩すことになる。即ち失意泰然が望まれる。

私のこの身体では、今はもう芦屋カンツリー倶楽部に行くことも、プレーすることも出来ない。しかし私は、得意淡然、失意泰然を自らに云い聞かせ乍らプレーをした、芦屋のあの美しい自然の中の18ホール

のひとつひとつを頭の中に描き、既に天国に逝った多くの芦屋のゴルフ友達の笑顔を思い浮かべながら、今でも芦屋カンツリー倶楽部の思い出にひたることが出来る。

私は今年104歳を迎えるが、これからも命ある限り懐かしい故郷芦屋カンツリー倶楽部の行く末を、ずっと見守っていたいと思っている。

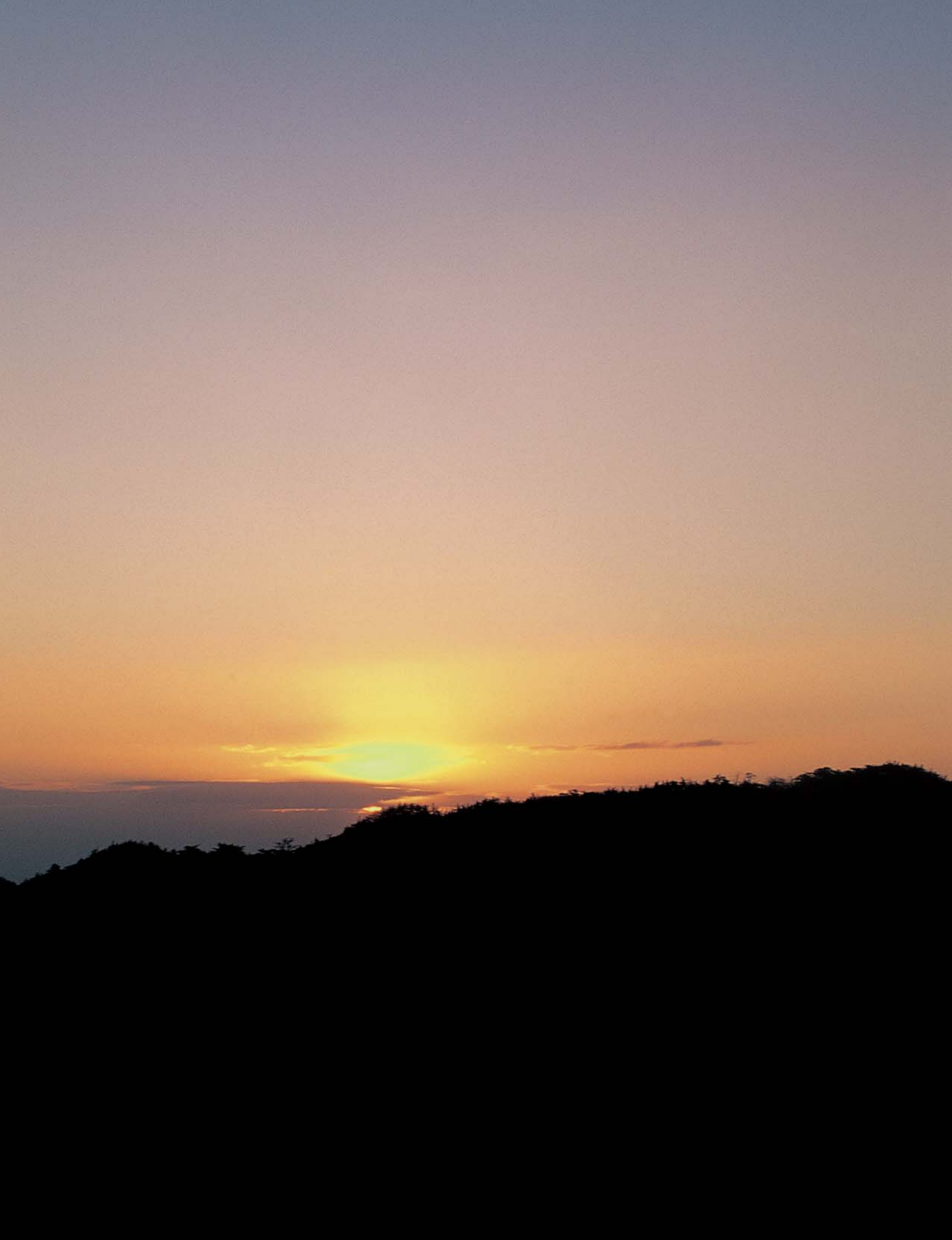


カナダカップ ウェントワースG.C.にて1956年6月26日、中央が渡邊忠雄さん、その右側石井勉夫プロ、左は林由郎プロ

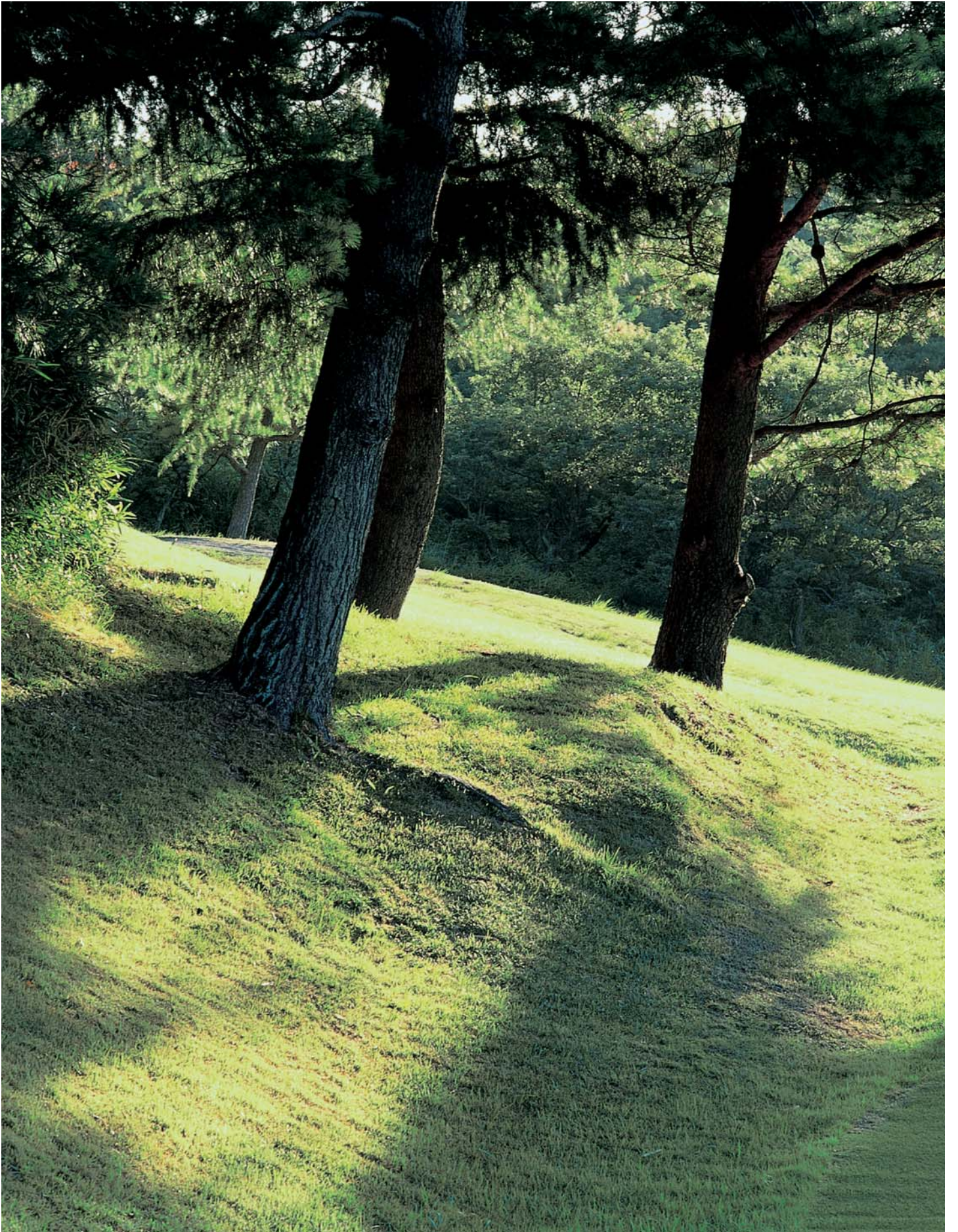
●目次●

序	1
理事長 挨拶	2
芦屋市長 祝辞	4
渡邊忠雄名誉社員 祝辞	6
六甲の自然に抱かれた倶楽部の四季	9
輝ける50年の軌跡	25
現在の倶楽部風景	115
18ホールズ	126
[座談会]変革の時代にカンツリークラブの形と心を問う	145
クラブハウス建設50年の思い出	155
芦屋CC所属プロの活躍	158
倶楽部の植樹・植栽について	164
ゴルフ俳壇	165
競技編	181
資料編	225
50年の時を超えて	250
結び	252

野山花
语笑









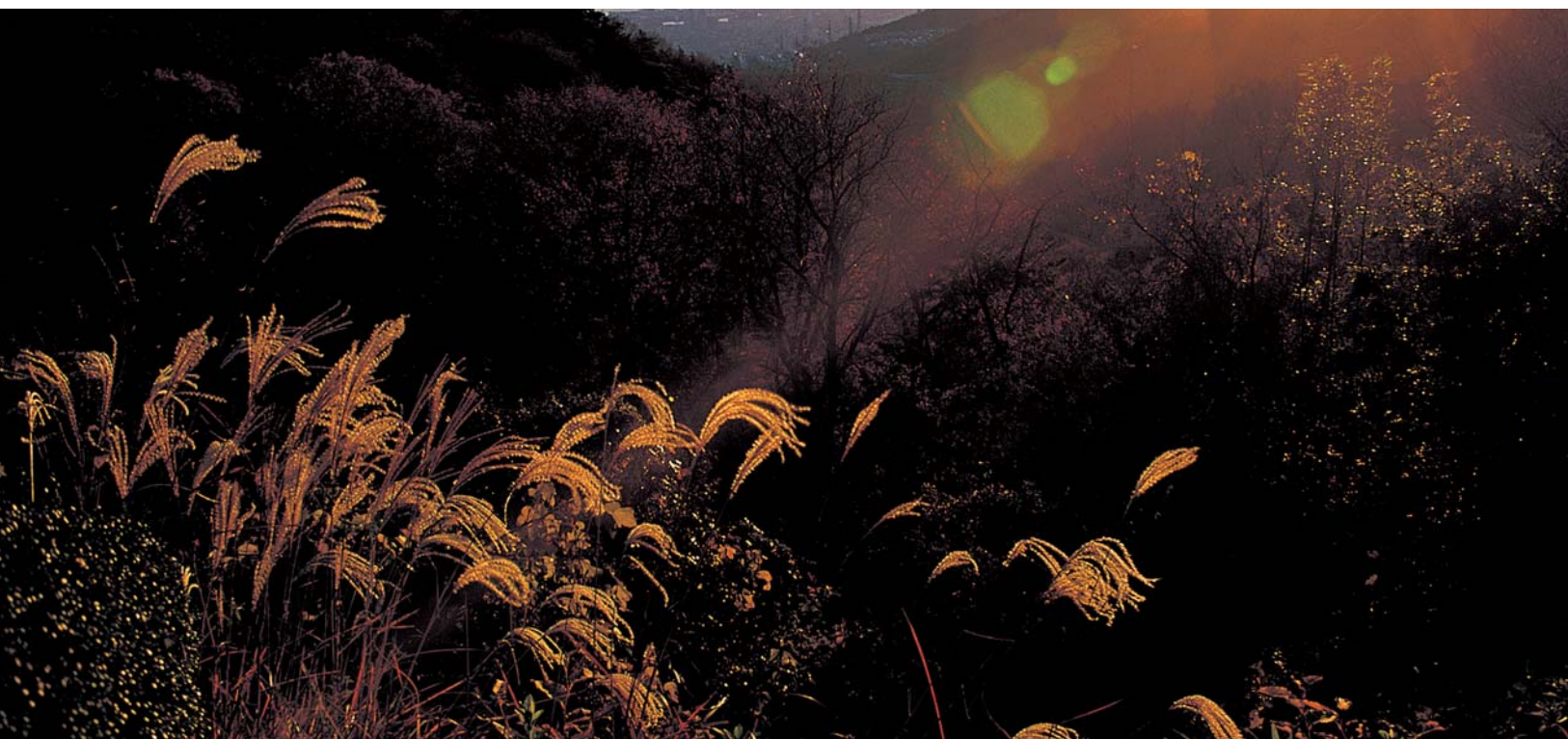






















社団法人
芦屋カンツリー倶楽部
輝ける50年の軌跡

はじめに

この開場50周年記念史(年史)を手にとられたメンバーの殆どの方々は、我が芦屋カンツリー倶楽部創設に至る歴史を、またその後も50年に亘って年毎に積み重ねられてきた改善の努力の跡を、ご存知ないだろうと拝察いたします。その理由は、年平均100名程の社員が名義書き換えをされ、この10年間だけを考えても1,000名近い方々が、言い換えれば実に全社員の2/3位の方々が入れ替わっておられる事実に鑑み、この記念すべき節目に、今一度開場に至る創設期の歴史を繙き、過去50年間に亘る先輩諸兄の並々ならぬ苦勞を偲び、我々もまた自己の半生と重ね合せつつ、新たな想いを後代に語り伝えたいとの願いを込め、ここに輝ける50年の軌跡を記す次第であります。

開場に至るまで —— (1950年~1951年)

揺籃の時代 **10**年 (1952年~1961年)

成長の時代 **20**年 (1962年~1971年)

安定の時代 **30**年 (1972年~1981年)

発展の時代 **40**年 (1982年~1991年)

試練の時代 **50**年 (1992年~2002年)



1950年～1951年 開場に至るまで

- 芦屋カンツリー倶楽部開場に至る道
- 天神山案断念、花原の土地発見
- 花原の土地買収に成功
- 苦勞のコース造営
- 山小屋「柴福庵」
- 関連道路の建設
- クラブハウスの建設
- 開発の功勞者 松岡潤吉氏死去
大西耕三氏 初代理事長に就任
- 昭和26年12月 KGU に加盟（15番目）
- 昭和27年8月17日、遂に開場！

●倶楽部の歴史●

芦屋カンツリー倶楽部開場に至る道

芦屋にゴルフ場を造ろうと発案された昭和23年は、ヨーロッパに於いてソ連がベルリンの壁を構築、冷戦の幕開けとなり、一方に於いて戦後初のオリンピックがロンドンで開催、アジアではインド独立の父、マハトマ・ガンジーが暗殺された。又、我が国では極東軍事裁判で戦犯25名の被告に有罪判決が出た年だった。当時は未だ第2次世界大戦敗北の影響を脱し切れず、日本全体が打ちひしがれていた。その戦争の深刻さは、人々の服装や食べ物にも暗い影を落としていたが、その中であって芦屋市では、時の市長・猿丸吉左衛門氏を先頭に、いち早く国際文化都市建設の構想をたて、山地開発に重点を置いて、ここにゴルフ場、テニスコート、ホテルを造り、文化観光都市として「西の軽井沢」と言われるような開発計画が立案された。もっともこれには「スポーツの宮様」と言われた秩父宮さまがこの構想に賛成して激励されたこと、更には病氣療養のため芦屋に来ておられた代議士・増田甲子七氏が、お多福山麓、花原の雄大なスロープを見て「ここをゴルフ場にしたら素晴らしいコースが出来るぞ!」といわれたことにも、示唆されるところがあった。

この構想にもとづき、市の所有地1万4千坪を提供するというので、猿丸市長から体協会長・松岡潤吉氏に協力を求めたので、彼は体協副会長・西川道男氏と打ち合わせ、早速実行することになった。昭和24年秋から暮れに、第1候補地の天神山の調査が始まり、翌昭和25年1月7日に松岡氏宅でゴルフ場建設の初会合を開き、ここでクラブ名を芦屋カンツリー倶楽部とすることを決めている。2月18日には、西川道男氏宅で第一回発起人実行委員会を開き、天神山を目標に、各委員の分担を定めて、積極的に踏み出すこととなった。初顔合わせの実行委員は松岡潤吉（慶応卒／松岡汽船社長／広野GC

役員／当時60歳）、渡辺忠雄（三和銀行頭取／当時50歳）、高畑誠一（日商社長／広野GC役員／当時62歳）、宇田耕一（淀川製鋼社長／当時45歳）、西川道夫（西川産業社長／当時40歳）、柴田喜代治（大阪銑鉄商会役員／当時54歳）、西村熊市（朝日ビル専務／当時48歳）、竹村忠男（琴浦紡績役員／当時50歳）、玉井 丞（日本スポーツ支社長）、中井栄三郎（日華油脂社長／当時65歳）、原田立之祐（日綿花社長）、三村和義（大日本紡重役／茨木CC役員／当時64歳）、川島通弘（オールスター社長）、一市側より猿丸芦屋市長（三光汽船重役／昭和23年芦屋市長／当時45歳）、魚谷芦屋市企画部長の諸氏であった。尚、出席しなかったが大西耕三（弁護士、後に日弁連会長）、H・クレーン、J・クレーン（鳴尾ゴルフ倶楽部役員）が名を連ねていた。

天神山案断念、花原の土地発見

この時の芦屋カンツリー倶楽部設立趣意書を読むと「クラブハウスには、ホテルを建設し、外来客、観光客の誘致、そして社交場として利用のほか、将来、レディースコースの設備も予定中であります」とあって、当時の新しい町づくりの雄大な構想をうかがわせるものがある。

こうして発足した委員会は、現地調査に乗り出し、J・クレーン氏も加わって視察した結果、岩石が多いこと、土地がせまくて、7ホールか、9ホールよりとれないということで、ついに天神山を断念することになった。

しかしながらたまたまその頃、芦有道路開発の話が持ち上がり、下調査のため有馬街道の山中に入った川島通弘、魚谷芦屋市企画部長、県の技術員の一行が、道を間違えてお多福山の頂上に出てしまったところ、眼下に広がる花原一帯の雄大なスロープを発見して、これはゴルフ場によからうというので、川島通弘氏が松岡潤吉氏に知らせて来た。これが俱

楽部開発のきっかけとなった。

花原の土地買収に成功

天神山案がお流れになった直後であり、芦屋川からも近いというので、早速調査に乗り出した。弁天橋の川底を歩き、熊笹をかきわけ石伝いに歩くうち高畑誠一氏が、川に転げ落ちるなど、苦心を重ねた。

一行は大西耕三、西川道男、柴田喜代治、西村熊市、川島通弘の諸氏であった。ここならと決断し、早速交渉に入った。本山村村長・林勇次郎氏も協力を約束したので、土地買収にかかった。土地は本山村8カ部落と9共有林で、林村長、本山村土木課長・岸本友道氏も仲介していただいた。結局、第4回目の交渉で、坪10円で契約が成立した。ついで芦屋の方の5万坪も譲りうけたいと申し出て共有林管理委員と折衝して、本山村と同様、坪10円で契約が結ばれ、土地25万坪をここに確保した。

土地買収に、倶楽部側が支払ったのは240万円であった。又、こんなエピソードもあった。本山村と最初に契約がまとまった時に、まず40万円の保証小切手を差し出すと「こんな紙きれではいかん」という村民もいた位、素朴な世の中だったと記されている。

コース造営の苦勞

土地の確保に成功した倶楽部では、いよいよコースの建設に着手することとなったが、当時は大手の業者でもゴルフコース建設の経験がなく、竹中工務店も断わって来た。大成建設が造った経験があるというので、同社の保田与天氏が建設に当たることになり、昭和25年7月10日、保田与天、福井八十八両氏が現場を測量し、青写真も完成して、12月からコースの建設にかかった。しかし、労務者が集まらないので、誰の名案(?)か囚人を使うことになり、毎日、大久保刑務所の模範囚300人余が5人の看守

に連れられて工事に当たった。現場は背丈以上の蔦かつら等に被われ、足をとられて50メートルを歩くにも半日もかかる土地であった。花札は持ったことはあっても、鋸や鎌は持ったことのない囚人達だったので苦難の連続だった。

スリの名人はいても、伐採の名人はなく、当時は物資不足も甚だしかったので、飴玉やたばこで囚人をなだめては、仕事をせき立てせき立てしたが、工事は遅々として進まなかった。

山小屋「柴福庵」の思い出

芦屋と本山の境界線のあたり、元の9番ホールの南側に小屋を作り「柴福庵」と名づけた。福井八十八氏と保田与天氏が、電灯もない、暖房もない山小屋の中で、囲炉裏に薪を焚いて食事を作り、暖をとるといふ仙人のような生活をつづけ、柴田喜代治氏が、毎日、リュックを背負って、この小屋を訪ねては保田氏を激励していた。ゴルフコース建設の情熱に燃える柴田氏が、時には娘さんに作らせたトンカツ等を持って来てくれて、互いに建設の夢を語りあった。「柴田喜代治氏は芦屋のコース建設の正に人柱であった」と保田与天氏は、開場10周年の記念史に書いている。この保田氏は昭和25年末に、福岡ゴルフクラブ和白コース建設のため柴福庵を去った。(保田氏はのち三重カントリークラブ常任理事、支配人となり、昭和45年死去。)

関連道路建設についての苦勞

コースの建設と並行して計画された道路も、悩みの種であった。松岡潤吉氏も常に「コースが出来ても、道路が造れなければ、陸の孤島になる」と心配していたが、彼はその完成を見ることかなわず、8月に病床に臥されてしまったので、大西耕三氏を発起人代表臨時代理とした。

コースへの生命線確保のため、西川道男氏と昭

和25年7月就任した中江喬三支配人とが、幾たびか兵庫県庁に足を運び折衝の末、幸い岸田幸雄知事が、県の観光コースの一端として援助することを約束してくれた。昭和25年10月には芦山荘(当時の料亭)から弁天橋までの1,068メートルの起工式をあげるまでにこぎつけた。当時この道路は市道芦屋・有馬線と呼ばれ、1メートル広げるのに450万円を投じたが、道幅はせいぜいハイカーが歩く程度のもので、自動車を走らせることなどは到底不可能なものだった。昭和27年に4.5メートルに上げられるに至って、ようやく芦屋からゴルフ橋まで5キロ間を車が走れるようになった。

次いで昭和34年に市道は県道に移管され、奥山精道線と改称され、芦有道路の進行に並行して本格的に改修され、幅員8メートルのドライブコースとなったのである。

一方芦屋カンツリー倶楽部では、ゴルフ橋架橋に385万円、これからハウスまでの1,000メートルに、1,300万円を投じて、この私道を完成させた。

クラブハウスの建設

クラブハウスは、コースに相当の経費を割かれるので簡素なものにしようと思った。日本建設株式会社から売り出されていた進駐軍放出の組立家屋でハウスを造ることとし、6棟(1棟約275,000円、運賃・組立費共契約金1棟80,000円)を購入した。春になると、入口前は桜の花に彩られる、つつましい小屋だったが、いまはなつかしい旧クラブハウスで、昭和26年8月上棟式を行った。

開発の功労者・松岡潤吉氏死去、大西耕三氏初代理事長に就任

昭和26年7月20日には待望の社団法人設立の許可があり、8月8日に登記完了し、10月21日開場を目標に、着々と準備を進めた。ところが当時、発起人

代表として、花原の土地の買収、道路建設などに懸命の努力と情熱を傾け、誰よりも開場の日を待ち望んでおられた松岡潤吉氏が、9月7日その喜びの日を見ることなく逝去された。

10月15日には初の社員総会を朝日ビル、アラスカで開き、評議員25名を選任し引きつづき評議員会、理事会を開いて、次の通り理事監事と初代役員を選任し、初代理事長に大西耕三氏が選任された。

◆理事(10名)

三村和義、西川道男、西村熊市、大西耕三、野田誠三、柴田喜代治、高畑誠一、宇田耕一、和田 薫、渡辺忠雄

◆監事(3名)

茶谷順次、中井栄三郎、竹村忠男

昭和27年8月17日 遂に開場!

昭和26年7月、関西地方を襲ったケイト台風により、折角植えたばかりの芝の3割余りが流失するという致命的な被害により、昭和26年10月に予定していた開場を、一年延期せざるを得なくなった。そして昭和27年8月17日、遂に待望の日を迎えることになった。

初めての開場記念競技会は、9ホールメダブルレーで行われ、45組180名の方々が、午前8時から6分間隔でスタートし、最終組は12時24分であったと記録されている。又、その案内文には、「海拔500メートル、風光絶景、お多福山麓花原地区に位置す。コースは18ホール、全長7,000ヤード、本邦有数のチャンピオンシップコース、他に練習場あり。最高の社交機関を目指し、洗練された会員のみにて倶楽部を組織す。」と印されてあった。その文面からは、当日のメンバーの高揚した喜びがひしひしと感じられ、想像するだに楽しく、創立メンバーの長年に亘った苦労も、この一瞬に消え去り、開場の歓喜に満ち溢れた一日だったに違いない。

1950 (昭和25年)

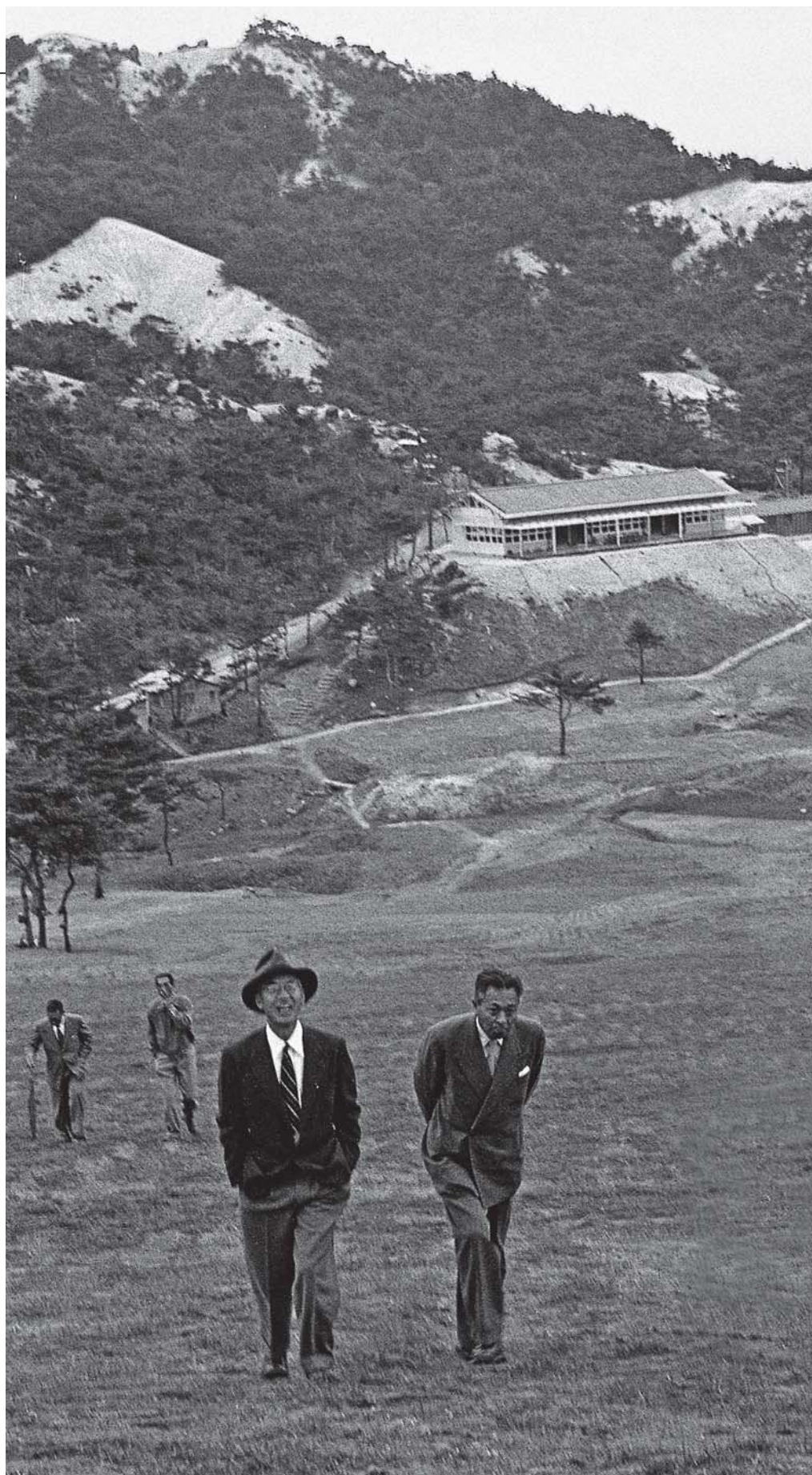
- 1月 ゴルフ場建設の初会合を松岡潤吉氏邸で開き、天神山コースの発起人会発足。
- 2月 天神山計画流れ・第2候補地・お多福山花原に決定。また会員数は正会員250名、団体会員30名、家族会員50名、合計330名とし、コース建設費2,000万円を予定し、大成建設と契約する。
- 6月 用地買収成立し、第2回発起人会で、芦屋カンツリー倶楽部と命名発起人代表に松岡潤吉氏を推す。
- 7月 中辻喬三支配人就任。
- 7月 建設事務所開設 第2事務所を芦屋の松岡潤吉氏邸に、第1事務所を朝日ビルに設け、会員の募集事務を始める。
- 8月 松岡代表発病のため、大西耕三氏を発起人代表臨時代理とする。
- 10月 市道芦屋・有馬線工事起工式と同時に花原の敷地開墾始まる。芦屋コースのクワ入れ。
- 11月 コースの建設を大成建設と契約。
- 12月 本山村と土地売買契約結ぶ。

1951 (昭和26年)

- 2月 芦屋市との土地売買契約完了。
- 7月 文部省より社団法人の許可おける。
- 9月 松岡潤吉発起人代表逝去。氏は発起人代表として用地買収、道路建設に努力を傾注したが、一度も現地を見ることが出来なかった。

当時、日本を代表する名プレイヤーだった石井勉夫氏(26才)は、静岡県伊東市、川奈ホテルゴルフコースから宇田耕一氏の懇請を受けて、移籍してきた。以来33年間、名門芦屋カンツリー倶楽部の基を造り、コースの改良に務め多大な功績を残した。
- 10月 第1回社員総会で初の役員陣容決まる。初代理事長大西耕三氏、キャプテン西村熊市氏、名誉書記西川道夫氏、名誉会計宇田耕一氏、チェアマン・オブ・ハウスコンミッチャー柴田喜代治氏。
- 11月 クラブハウス落成。
- 12月 KGU15番目のクラブとして加盟承認。





談笑しながら1番ホールを視察する発起人達



初期の駐車場風景 向こうに1番横にあった練習場が見える

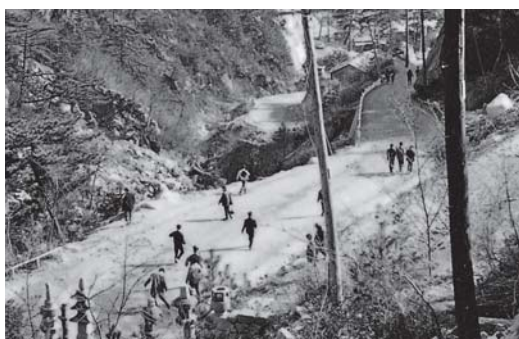


▼現在の1番、昔の9番ホールを眺める





1番スタートの準備をするプレイヤー達



ゴルフ橋上のヘアピンカーブを歩く人達



新ゴルフ橋と旧ゴルフ橋



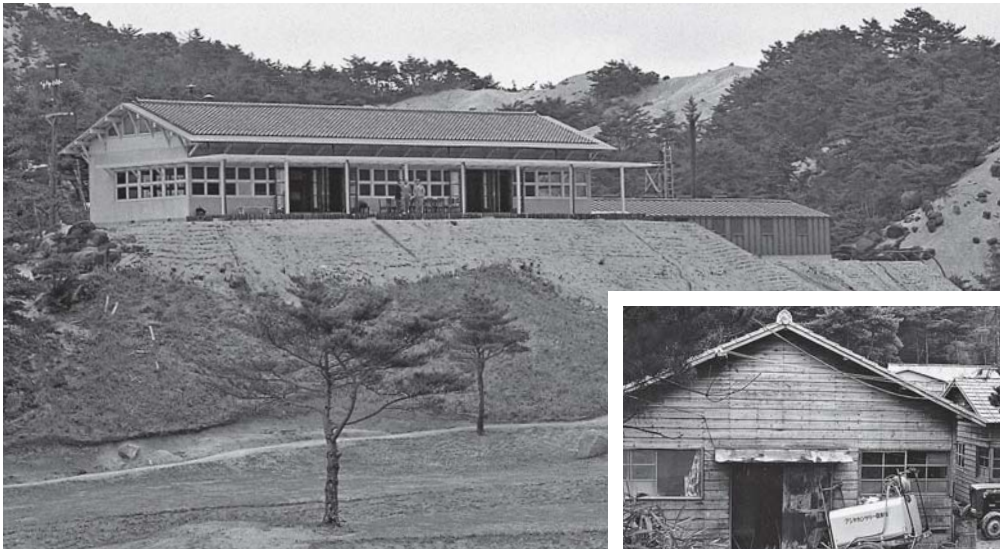
初期クラブハウス内の食堂風景



茶谷順次 柴田喜代治 大西耕三 西川道男 渡辺忠雄 野田誠三 西村熊市



クラブハウスで談笑する発起人の面々



当初のクラブハウス

現練習場の谷間にあった作業小屋▶



現在の練習場辺にあった旧待合所

1952年～1961年 揺籃の10年

- 松岡潤吉代表逝去、初代理事長に大西耕三氏
- 社員権譲渡制度実施
- 開場4周年記念日に高松宮ご来場
- 初代理事長大西耕三氏逝去
二代理事長に野田誠三氏
- 新コースレイアウト完成 逆回りになる
- 新クラブハウス完成
- 石井勉夫プロ、川奈から芦屋へ移籍
- 昭和33年、阪神土地所有の山林約54万坪の
買収なる
- 石井プロ、昭和31年英国ウェントワースのカナダ
カップで団体第4位、個人7位

1952年～1961年 揺籃の10年

情熱と見識とダンディズム —————

昭和25年当時、我が国は戦中受難の時代（昭和16～22年）を経て復興建設の時代（昭和25～31年）に入り、経済面でも次第に安定拡大の道を辿り始め、ゴルフの世界にも再興の兆しが見えはじめた頃だった。即ち、昭和25年6月JGAは戦後正式に復活、石井光次郎が会長に就任した。

このような時期、大手建設会社も未だゴルフ場造成の経験も少なく、機械力もなかった時に、人力を中心によくぞ難関を克服し、この魅力溢れる山岳コースを造られた、先人達の情熱と見識に、ただ頭の下がる想いがするのみである。時は流れ、昭和32年1月、初代理事長大西耕三氏が逝去され、昭和23年の初会合以来、苦楽を共にされた野田誠三氏が、その遺志を継がれることになった。

野田氏は十年史の冒頭において、次のように述懐しておられる。「わが芦屋カンツリー倶楽部は時代の動きに魁けて昭和25年6月24日に創立され、昭和27年8月17日いち早く全18ホールズを開場したのである。以来年ごとに堅実な発展を続けここに10年の星霜を送った。ご承知の通りわが芦屋カンツリー倶楽部は国際文化住宅都市として文化の香り高い芦屋市の背後の山に位置し、後に六甲の秀峰を仰ぎ、前には阪神地方はもとより、遠く海を隔て淡路島を望む景勝の地であって、冬は暖く夏は特に涼しい気候に恵まれ、四季を通じて快適なプレイを楽しむことができる誠に理想的なコースである。10年前はほとんど人跡未踏であったこの山間の土地が、今日この環境に恵まれ、理想的に整備された全国有数のコースに生れ変わるには、誰が想像し得たであろうか…」と。その言葉には困難な開拓に携わった者のみが知る万感の想いが籠もっている。

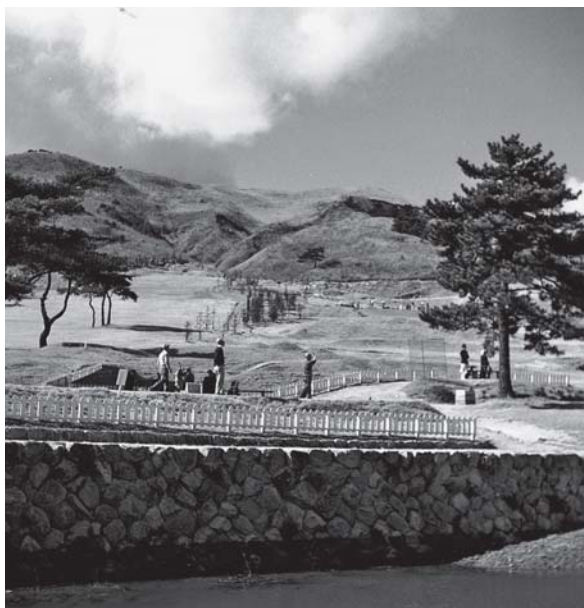
更に昭和34年、当時アマチュアゴルファーとして著名だった佐藤儀一氏の助言の下、コースレイアウトを、逆廻りにするという大胆な発想で、画期的な改造が断行された。その結果きつい登り坂が多く不評だったコースは見事に改良され、今日我々が眺めるコースの原形が出来上がった。そして10周年を翌年に控えた昭和36年には、週日社員を20名程募集し、記念事業の一環として、簡素にして清廉なあの白亜のクラブハウスが完成するに至った。

開場して10年、2回目のコース大改造を経て、コース、道路、クラブハウスと三拍子が揃い、10周年の記念日には500余名が参加して賑やかに祭典が繰りひろげられ、ここに名実ともに関西有数の倶楽部が誕生することになった。

●倶楽部の歴史●

1952 (昭和27年)

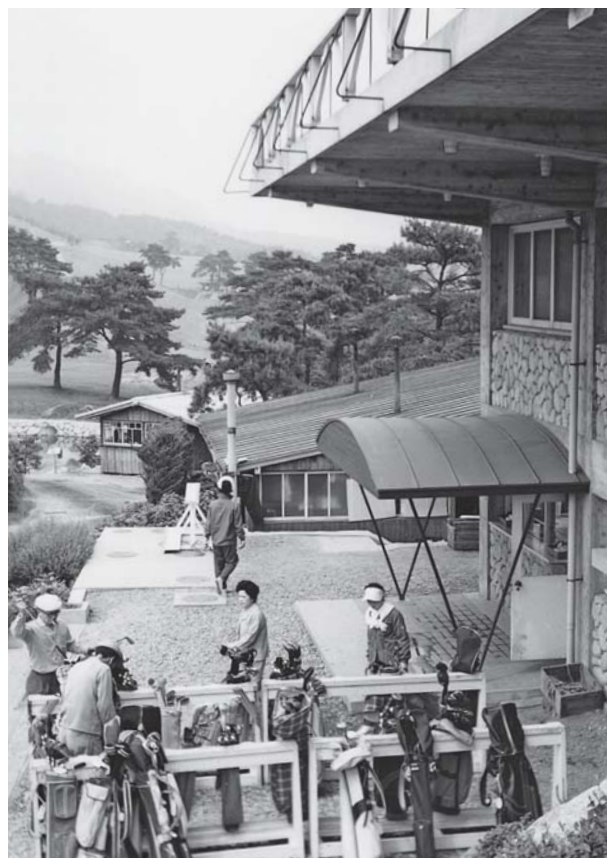
- 1月 電灯架設・ランプ生活にさよなら。ただし電話は開場後の昭和27年10月であった。
- 8月 JGAは戦後初めてプロの海外遠征を行った意義深い年だった。アメリカ、シカゴのタム・オシャンタ、コースで行われた「オール・アメリカン、ゴルフトーナメント」と「世界選手権」に芦屋CCの主任プロ石井勉夫と林由郎、中村寅吉、島村祐正の4名を日本代表として初めて選出派遣した。
- 8月17日 待望の9ホール開場。イン未完成のためハーフを利用して、45組180名が記念競技に参加した。
- 8月 第2回社員総会でクラブ所在地を「芦屋奥山1の25」に置くことになった。インコース排水工事費2,000万円の中の不足額1,000万円に充当するため新会員、法人20口（入会金50万円）正会員30名（入会金15万円）で募集する。
- 9月23日 ハウス食堂出火、調理室9坪半焼失。秋分の日午後3時過ぎ、メンバー職員80名余りがバケツリレーで活躍。
- 10月 第1月曜日から以後毎週月曜日を定休日する。
- 11月 18ホール使用開始、初の競技、毎日杯。18Hストロークプレー、参加41名。



1番へ向う池の横

1953 (昭和28年)

- 6月25日~27日の台風のため弁天橋流失、市道途絶、インコース大被害を受け、その復旧工事費55万円のうち25万円倶楽部負担。
- 6月 役員改選。理事長・大西耕三氏再選。
- 6月 石井勉夫プロ、関西オープン優勝。
- 7月8日 弁天岩付近、大岩石落下、交通途絶。
- 9月 台風2号と14号さらに15号のため大被害を被る。
- 12月 住友の土地購入の件成立。12日インコース改修工事のため社債1,500万円募集を理事会で決定。



旧別館1階にあったキャディマスター室前 向こうに1番の茶店が見える

芦屋カンツリー倶楽部
九ホール旗争記念競技大会番組

昭和二十七年八月十七日

オープン当日の競技には約二百名の多数の参加を得まして大変盛況を予想されることは御同様にたえませぬ。スタートの時間が九時一十時の御希望があつたため委員においで協議の結果、別表のように組合せ、スタートの時刻が、繰返されましたが、競技を出来るだけスムーズに運びたいために組合せや時間に若干の御期待にせざるを得ないかと多分おぼやかしうと思ひますがどうぞ御諒察願ひ下さい。

競技は九ホール・メダルプレー、一組のハンデは百以内、ハンデ二十五まではAクラス、26からBクラスと二組に分れて、それぞれ優勝盃を贈與、その他賞品多岐

交通委員からのお願い
 ◎俱楽部の連絡車を御利用の方に——連絡車には前ウィンドーに「芦屋カンツリー倶楽部」の紙張がしてあります。阪神・阪急電停前に駐車をつけ係員が御案内申上げます。
 ◎自家用者御利用の方に——コースへ早の混雑を防ぐため阪急芦屋川上争交番前には係員に必ず御指図おうけ下さるようお願いいたします。
 ◎運転手の方に——山道の道路標識に従うよう御注意。い原則としてより車に優先権がありますので、車を認めたまは設置待避所でお待たす。

選手名	名	選手名	名	選手名	名	選手名	名
849	相澤 正	22	海川 繁次	30	岡室 功	28	客越 一
904	藤井 竹次郎	24	丸尾 重雄	29	池本 敏男	34	安野 卯三郎
908	橋本 喜次郎	25	村上 芳春	28	小室 寛		松本 幸市
906	津津 隆三	19	白井 輝	23	バネッパ		龍野 正吉
912	藤岡 忠行	18	渡辺 源蔵	24	滝本 幸二	36	伊藤 信三
919	野野 実夫	12	唯井 進	29	藤 宇野	30	年田 達雄
924	長沢 信義	21	森田 忠太郎	26	藤村 武	30	佐川 幸次郎
930	佐言 田郎	20	松村 松太郎	25	船仁 寛	35	野野口 一三
936	豊行 誠	15	佐木 長光	23	八木 忠良	36	岡田 善彦
942	福田 忠行	17	森上 一夫	28	高井 清	31	伊村 重三
948	川路 駿吉	17	勝田 進	28	泉田 五郎	29	柴川 常吉
954	田中 武八	24	川田 俊蔵	24	山根 善徳	31	赤田 忠門
1000	松田 謙	13	岩尾 健一	19	伊藤 善三郎	28	佐藤 太郎
1006	木村 生三	16	越後 正之	25	高橋 健助	35	浦上 隆美
1012	鎌谷 善吉	18	中沢 六郎	27	中山 俊人	30	石田 正実
1018	坪倉 群	19	篠原 好雄	21	八谷 達郎	30	原見 正行
1024	中村 天	17	御村 敏夫	22	上野 健助		中安 隆
1030	木本 敏司	16	菅谷 三郎	24	中川 政次郎	36	村田 裕雄
1034	丸田 正夫	20	小村 義夫	22	伊藤 大一郎		森山 知一
1042	相原 一郎	18	伊				長島 隆
1048	藤上 忠太郎	16	高				山崎 忠治
1054	上田 忠太郎	16	高				山崎 忠治

十月一日よりインの御試用に就いた。秋冷の好季となつてまゐりました。御先日報を御覧下さい。御試用に就いた。御先日報を御覧下さい。御試用に就いた。御先日報を御覧下さい。

競技日程御通知
 十一月、十二月の日程はつきつきの通になつてお楽しみを御覧下さい。十一月三日の月曜日は休みとさせていただきます。十一月三日の月曜日は休みとさせていただきます。

ローカル・ルールズ
 1. コースの指定は自国で競走得勝者又はアマチュアクラブに譲渡する。
 2. 競走得勝者の所有するコースは競走得勝者の所有するものである。競走得勝者の所有するコースは競走得勝者の所有するものである。

HANDICAPS IN MATCH PLAY

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

社員各位
 開場始末の秋を御慶び申上げます。御通知申上げます。奮つて御参加の程をお願ひ致します。九月七日、九月十四日、九月二十一日、九月二十八日、十月五日、十月十二日、十月十九日、十月二十六日、十一月二日、十一月九日、十一月十六日、十一月二十三日、十一月三十日、十二月六日、十二月十三日、十二月二十日、十二月二十七日。

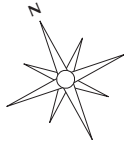
PLAYER	RESULT	COMPETITION	W+, L-, H, O	ROUND
1	7	460	5	
2	15	410	4	
3	1	445	4	
4	5	450	5	
5	11	425	4	
6	3	460	4	
7	17	440	3	
8	13	485	4	
9	9	455	5	
Out	C	3380	32	
	R	3320	24	
10	8	430	3	
11	16	495	5	
12	6	430	4	
13	2	480	3	
14	14	415	4	
15	4	460	4	
16	18	410	5	
17	12	435	4	
18	10	430	4	
In	C	3150	36	
	R	2750	24	
	F.Y.	650	12	
	R	5750	12	
Handicap				
Net Score				

ATTORNEY
 DATE 195
 C. (FIGURES IN GOTHIC)—CHAMPIONSHIP COURSE; R. (FIGURES IN ITALIC)—REGULAR COURSE

Handicap

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

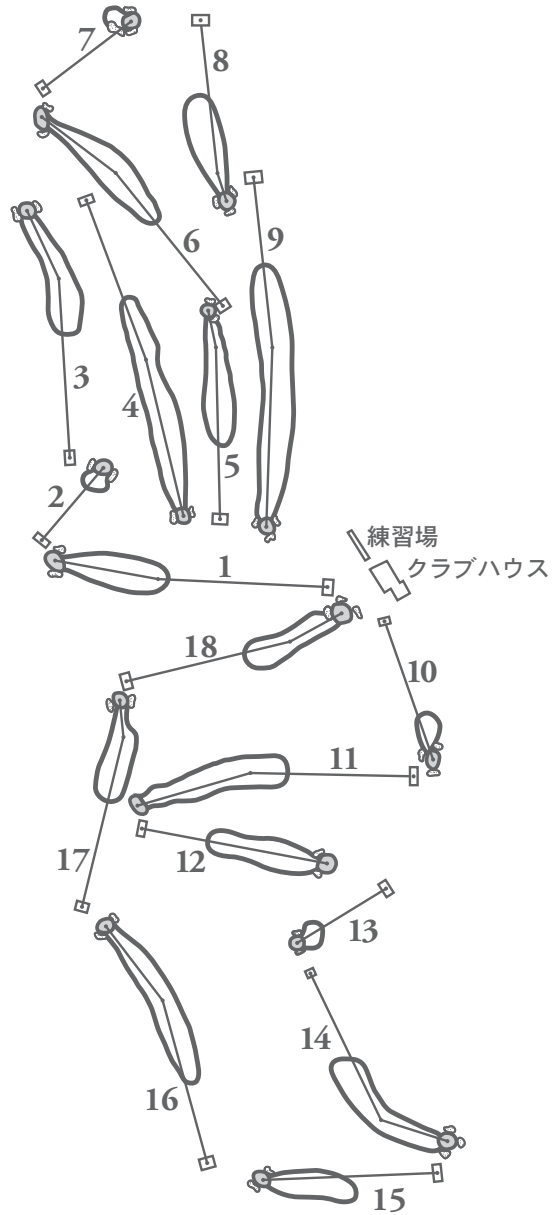
昭和27年8月
オープン当時のコースレイアウト



K. G. U. Course Rating
White Tee-74

HOLE NO	CHMP TEE	RGL TEE	PAR
1	460	415	5/4
2	170	130	3
3	445	410	4
4	530	455	5
5	325	290	4
6	450	380	4
7	160	155	3
8	285	285	4
9	555	510	5
OUT	3380	3030	37/36

10	460	415	5/4
11	170	130	3
12	445	410	4
13	530	455	5
14	325	290	4
15	450	380	4
16	160	155	3
17	285	285	4
18	555	510	5
IN	3380	3030	37/36
TOTAL	6760	6060	74/72



●倶楽部の歴史●

1954 (昭和29年)

- 4月 年中無休とする。
- 5月 KGUゴールドメダル—現在のインタークラブ競技(於宝塚)に芦屋9位。
- 6月 (月曜)雨で来場者1人もなし。
- 7月 石井勉夫プロ、第2回カナダカップにJGA日本代表としてカナダのケベックで行われた「世界選手権」に中村寅吉と出場。石井38位、中村14位、団体戦14位。
- 9月 高松宮妃殿下ご来場。
- 9月 台風15号の暴風下に桔梗プライス競技開催。

1955 (昭和30年)

- 4月 コース改良協力費として臨時会費毎月500円徴収(1カ年間)。
- 6月 石井勉夫プロ、関西オープンに優勝(於広野)。
- 7月 ビジターフィーを平日620円、土曜1,500円、日曜2,000円に変更。
- 10月30日 この日開場以来の来場者最高220人を記録。
- 12月31日 大晦日に臨時開場、来場者は80名を超えた。



弁天岩横を走るクラブバス



ご来場の高松宮妃(中央)昭和29年9月

1956 (昭和31年)

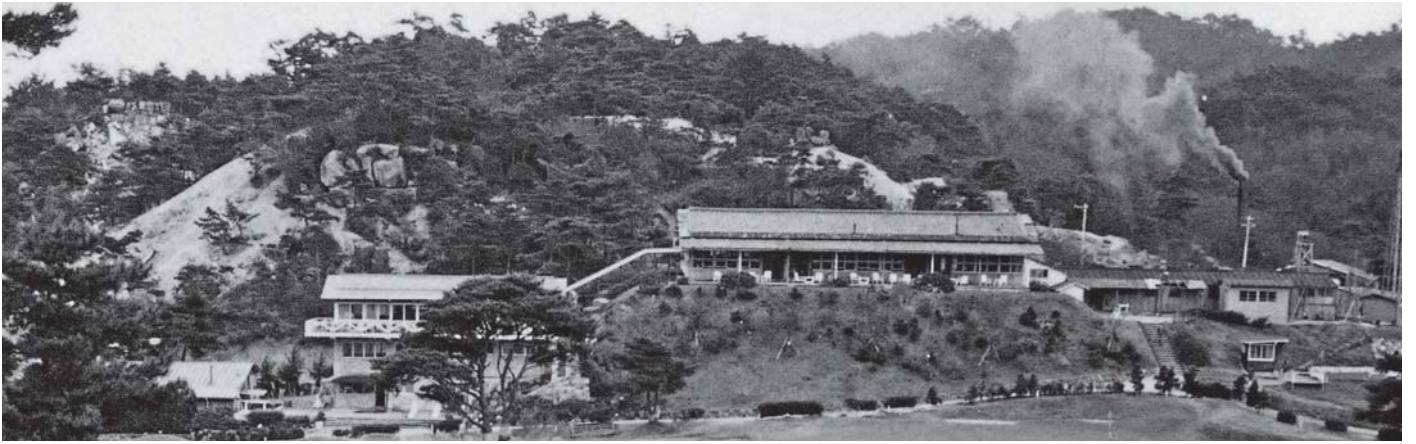
- 1月 弁天岩で大岩石の落石、臨時休場。
- 2月 豪雪のため12、13、27日につづいて3月12日も休場。
- 4月 大雪で弁天橋工事のため交通途断。
- 6月 石井勉夫プロは林由郎プロと共に英国のウエントワースで行われた第4回カナダカップにJGA日本代表として出場、引き続いて全英オープンに戦後初出場し石井は36位だった。カナダカップは団体4位。個人7位。
- 5月 総会にてコース整備と財政基盤安定のため社員権譲渡制を実施。新制度の社員権により下記の追加金を納入する。普通社員10万円、婦人社員10万円、週日社員10万円、法人2人制20万円、同3人制30万円。新制度は即刻実施するとともに旧制度の入社金受付は廃止、従来行なっていた入社金分割払の新受付も中止。
- 8月 開場4周年記念競技。
- 9月 ビジターフィー改正、土曜2,500円、日曜・祝日3,000円に改定する。
- 9月 高松宮ご来場。
- 9月 開場記念プロ招待競技。
- 10月 社費未納の社員除名を決定。

1957 (昭和32年)

- 1月3日 初代理事長・大西耕三氏逝去。
- 1月 野田誠三氏を第2代理事長に推す。
- 2月 アウト逆コース改造工事に着手。
- 2月26日 中井栄三郎理事逝去。
- 4月 入場税の改正により来場者1人当たり一様に300円徴収。
- 8月 名誉書記、柴田喜代治氏病気のため退任、名誉社員に推す。役員の一部異動を行なう。名誉書記・和仁宝寿、ハウスコンミッター・小川芳光、グリーン委員長・川廷善一郎、エチケット委員長・桜井武夫の諸氏。
- 9月 ハウス新館一元の別館増築完成。
- 10月 第5回カナダカップが日本の東京霞ヶ関CCで開催、小野光一、中村寅吉で団体優勝。中村は個人でもサム・スニードをおさえて優勝。日本中がニュースに沸きその後のゴルフブーム、大衆化の一因となった。
- 12月30日 初代名誉会計・宇田耕一氏逝去。



昭和31年（1956）2月の大雪に見舞われたコース



開場当時のクラブ全景



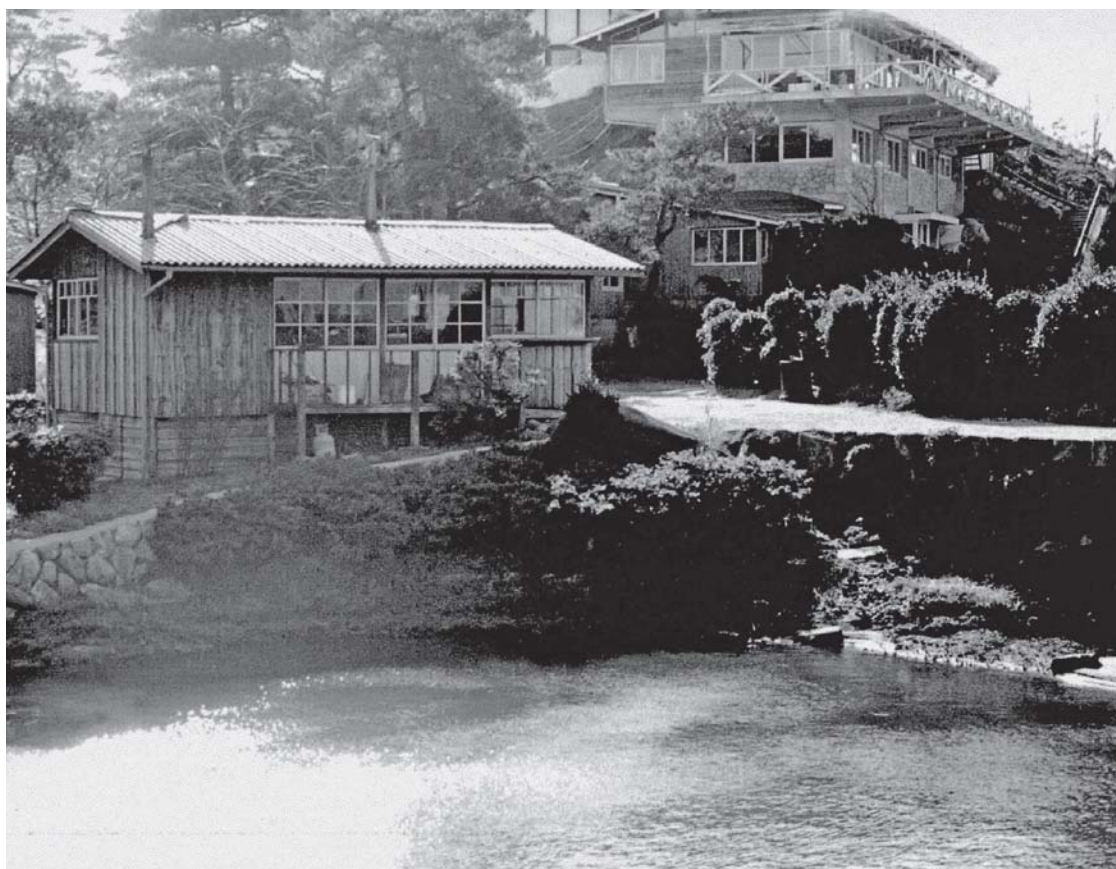
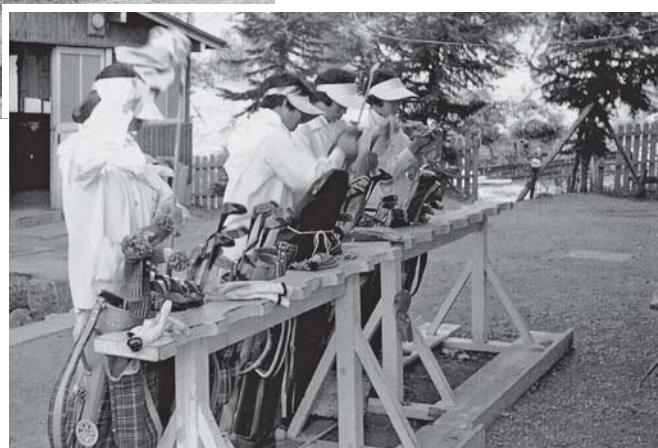
昭和31年9月
ご来場の高松宮（後列中央）
左 野田理事長
右 猿丸吉左衛門氏
その前 西村キャプテン



開場当時のクラブ玄関前



ワンバック キャディーの時代



池の横にあった1番スタートの茶店、昭和41年に廃止され旧別館の1階に移る

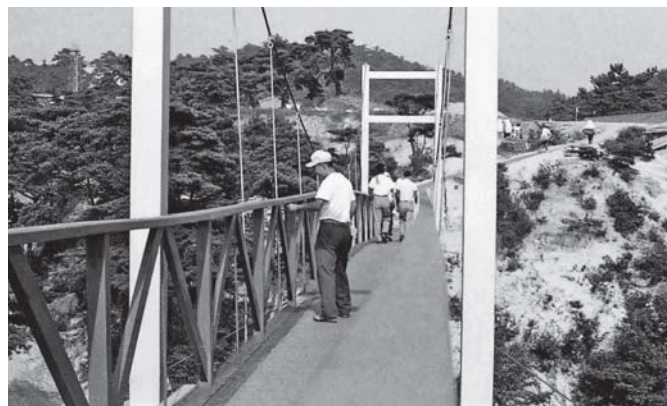
●倶楽部の歴史●

1958 (昭和33年)

- 4月 朝香杯を制定、3大競技に準じて行なう。
- 5月 譲渡性なき社員280名に対し譲渡性を付与するため特別会費20万円を徴収することに決定。
- 6月 西川道男氏を名誉社員に推す。
- 8月 第1回対西宮懇親競技(於芦屋)、芦屋勝ち。
- 10月 佐藤儀一氏のレイアウトによるコース改造案を特別委員会にかける。イン3,360ヤード、アウト3,160ヤード、概算3,500万円。クラブハウス増築決定。予算1,000万円。
- 12月 第2回対西宮懇親競技会(於芦屋)、芦屋勝ち。
- 12月 ゴルフ場に隣接する阪神土地会社所有の山林53万7,790坪を坪単価約26円、約1,400万円で買収決定。

1959 (昭和34年)

- 5月 定款第13条の、役員任期を2カ年に変更。
- 6月 第3回対西宮懇親競技会(於西宮)、西宮勝ち。
- 6月 石井プロ、関西オープン優勝、コースレコード66を記録。
- 8月 イン改造新コース使用開始。
- 8月 うぐいす橋完成し渡り初め。予算160万円。
- 8月 開場7周年記念競技会。
- 10月 第4回対西宮懇親競技会(於芦屋)、芦屋勝ち。
- 11月 アウト改造工事に着手。工費2,800万円



うぐいす橋から17番へ▶



17番グリーンからうぐいす橋を、遠方に13番ティ、15番茶店を望む

1960 (昭和35年)

- 1月 打放し練習場着工、道路付替工事とともに工事予算1,500万円。
- 4月 第5回対西宮懇親競技会(於西宮)、西宮勝ち。
- 7月 アウト新コース使用開始。
- 7月20日 初代名誉書記・柴田喜代治氏逝去。
- 7月 関西シニア選手権競技を挙行、コース改造の佐藤儀一氏(城陽)優勝。
- 9月 中江喬三支配人辞任、久保三郎副支配人が支配人就任。
- 9月 打放し練習場完成。
- 9月 来場者急増のため現有ロッカー782個では収容出来ず、さらに75個のロッカーを増設。
- 10月 第6回対西宮懇親競技会(於芦屋)、芦屋勝ち。
- 11月 ハウス建設小委員会組織される。(委員・和仁宝寿、小川芳光、木村伊太郎)

1961 (昭和36年)

- 5月1日 よりメンバー、ビジターの区別なく、全入場者より厚生費として50円を徴収、また新ハウス建設費用調達の意味でビジターフィーを5月より10月までの6ヵ月間、週日は2,500円、土曜、日曜、祝日は3,000円とする。
- 5月 新ハウス建設資金取得のため新入社員を募集する。法人15口(140万円)、個人30口(65万円)、週日30口(35万円)。なお、KGU加盟倶楽部の一つ以上の会員であることを入社条件に設定した。
- 7月 第7回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 9月 社員総会にて10周年記念事業として新クラブハウス建設を決定。(予算1億5,000万円)
- 9月 第2室戸台風による被害を受ける。最大風速84.5mを記録。
- 10月 第8回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。



事務をとる久保三郎支配人、左側は山本弥三郎副支配人



フロント風景 女性左は中川節子さん、右は山田 岸さん



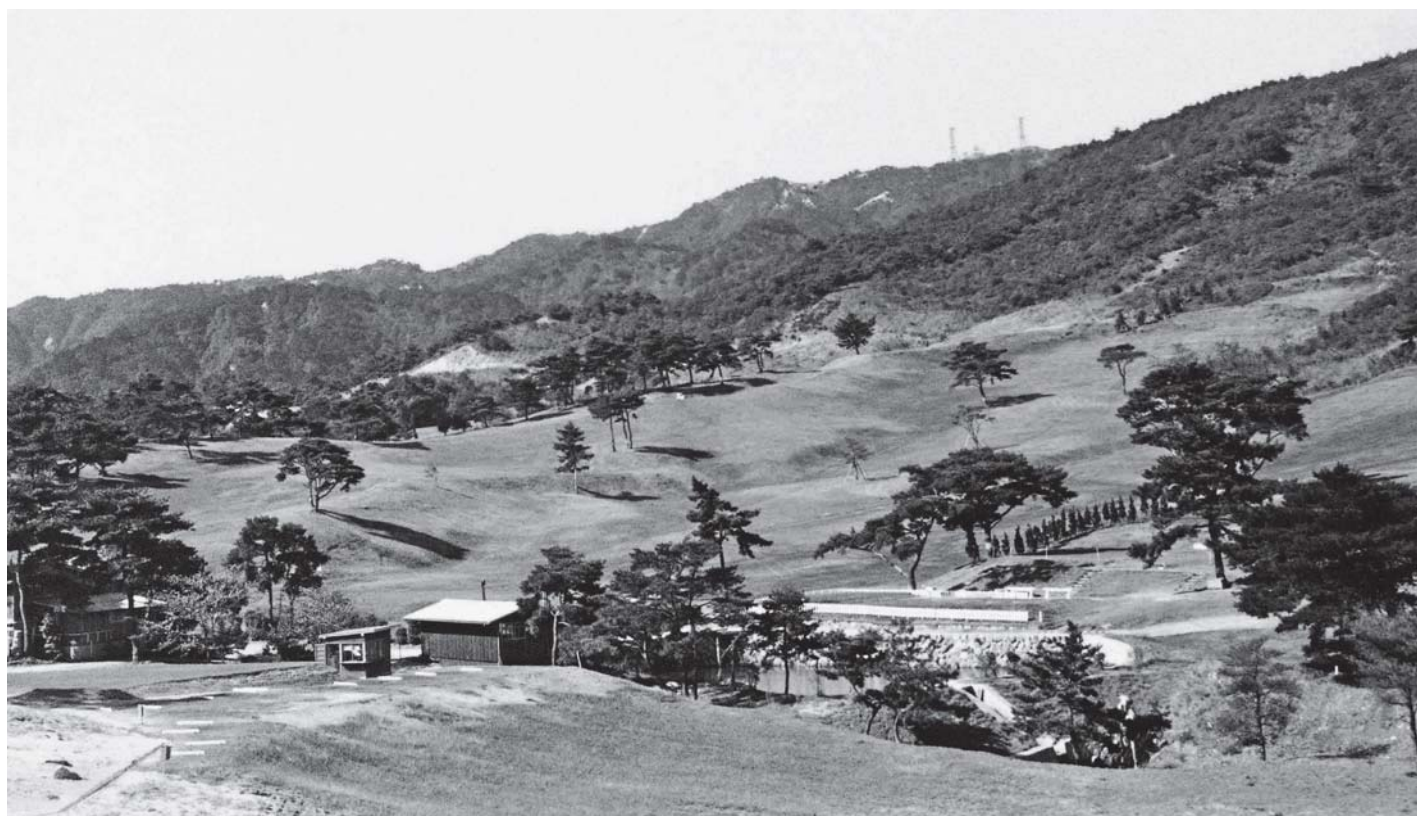
進入路工事



改造前の11番ホール

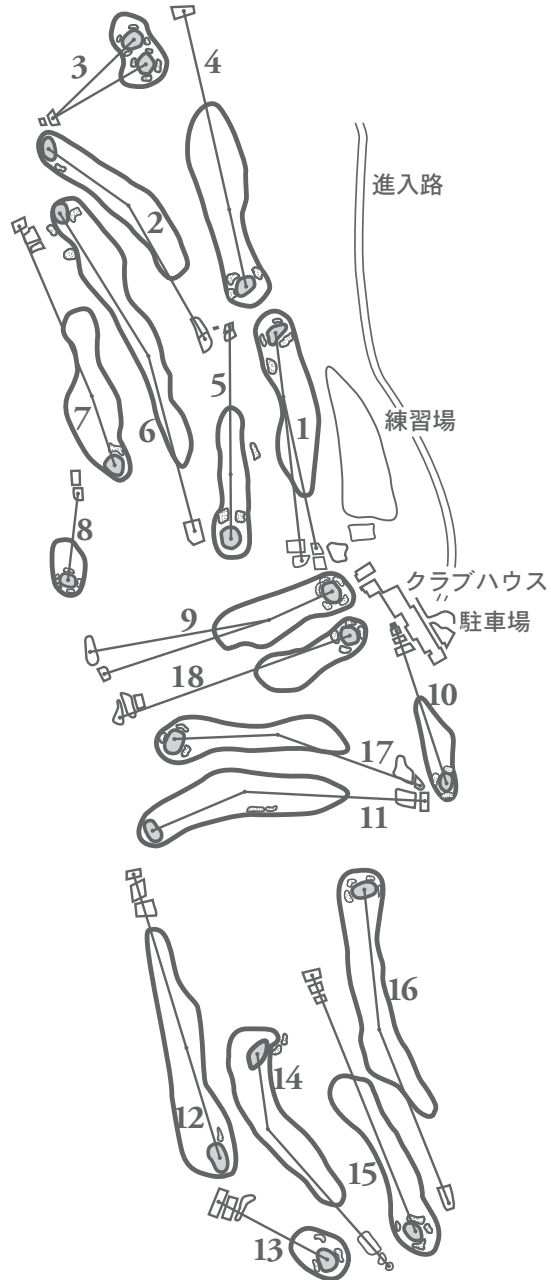
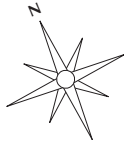


1番ホール横にあった旧練習場



昔の18番、1番ホールの風景

昭和37年8月頃の
コースレイアウト (改造後逆回りに現在の形になった)



K. G. U. Course Rating
White Tee-72

HOLE NO	CHMP TEE	RGL TEE	PAR
1	345	340	4
2	430	400	4
3	155	155	3
4	500	440	5/4
5	300	290	4
6	530	510	5
7	400	370	4
8	150	140	3
9	350	350	4
OUT	3160	2995	36/35

10	230	220	3
11	450	430	5/4
12	420	390	4
13	185	170	3
14	375	360	4
15	420	400	4
16	510	500	5
17	420	410	4
18	350	340	4
IN	3360	3220	36/35
TOTAL	6520	6245	72/70



昭和37年（1962）新クラブハウス完成

1962年～1971年 成長の20年

- 昭和40年、第3代理事長に和仁宝寿氏就任
- 昭和41年、和仁宝寿氏、関西ゴルフ連盟(KGU)理事長に選任される
- コースの整備、ハウスの新築そして倶楽部への道路完成
- 昭和44年、芦屋市の所有地6万坪買収実現
- 昭和42年豪雨被害、43年2月豪雪に悩まされる
- 山陽新幹線の「ずり」で11番ホールの谷を埋め、新練習場も造成する
- 昭和45年、新入社員100名募集とアウト・インのアンバランス是正を計画
- ツーグリーン化と3、4番ホールの大改造実施、昭和47年完成 アウト3,312ヤード、パー37、イン3,116ヤード、パー35、計72となる

1962年～1971年 成長の20年

格調高く、名門として自他共に認知 ―――

開場以来、昭和37年迄の10年間は揺籃の時代とすれば、次の10年(昭和46年迄)は、名門芦屋カンツリー倶楽部としての青年期を迎えたと言えよう。我が国も山陽新幹線の建設や、東京オリンピックの成功により、希望に満ちた経済発展の最中にあり、ゴルフ界も第一次ゴルフブーム(昭和32～45年)の時を迎えていた。当倶楽部も昭和43年4月山陽新幹線建設に伴うトンネル工事のずりを投棄する場所として、11番ホール谷を提供し併せて、1番と新練習場の造成にも活用された。

その一方において、昭和40年6月に第2代理事長・野田誠三氏が勇退され、その跡を和仁宝寿氏が受け継がれ「コースを更に改良し社員の家族にも楽しんで頂ける倶楽部にしたい」と抱負を述べられた。そして翌年2月には関西ゴルフ連盟(KGU)理事長に選出された。それ迄は広野、茨木、鳴尾、宝塚の4倶楽部のみから選ばれていた椅子に、それ以外からの理事長として初めて和仁氏が選出されたのである。それは開場以来14年目にして名門芦屋の名が、広く世間に認められた喜びの瞬間であった。

またこの10年間には昭和42年の豪雨被害や翌年の豪雪等数々の試練もあった。それらの試練を乗り越えて、開場20周年を翌年に控えた昭和46年には、新たな設備改善のため新入社員約100名を募集し、アウト・インのバランスを計って、3、4番ホールの拡張改造と共に各ホールのツー・グリーン化が行われた。即ち、コース全体を見れば、その折々に部分的な改造は実施してきたが、来場者が年毎に増加し、それに加えて春の訪れがおそく、秋は早いと云う立地条件の中で、グリーンが一つではコース管理が困難になってきた。そこで、昭和44年から各ホールにサブグリーンを造るべく、約5年をかけて難交渉の末に買収できた約6万坪の土地を使って、3番、4番ホールの大改造が行われた。その結果昭和47年10月の開場20周年記念日には、2番のサブグリーンを残して全て新しい装いとなった。このように山岳コース造成の困難を克服しながら、3回目の大改造を経て、漸く現在吾々が眺めるコースの原形が完成し、当時のメンバーが待ち望んでいた夢が実現した。 ▼クラブハウスの工事風景



●倶楽部の歴史●

1962 (昭和37年)

- 1月 大雪のため交通途絶プレイ不能。11日間休場。
- 4月 クラブハウス建設地鎮祭。
- 5月 第9回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 5月 婦人社員の希望により石井勉夫プロによる「婦人ゴルフ教室」が毎月1回開催されることになった。
- 8月 芦屋市大榎町の所有地201坪24合を21,276,880円で売却。
- 10月 芦屋川畔のキャディ寮(汐見寮)土地(281坪3合5勺)買収登記完了。(価格1,267万円)
- 10月 38年1月1日より週休制実施、毎週火曜日を休場とすることを理事会で決定。
- 11月 クラブハウス竣工式。
- 11月 (2、3、4の3日間)10周年記念競技開催。
- 11月 キャディ寮(汐見寮)建設地鎮祭。
- 11月 10周年KGU招待競技。
- 11月 第10回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 11月 開場10周年記念関西プロ招待競技。

1963 (昭和38年)

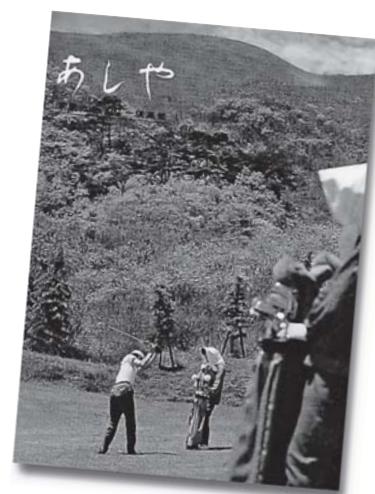
- 4月 1、2、3月の豪雪のため40日余りの休場によるキャディの減収に生活費を貸付。
- 4月 キャディ寮「汐見寮」鉄筋3階建て総建坪283坪竣工。キャディ募集入寮者11名。
- 5月 交通委員会解散、ハウス副委員長・交通担当。
- 5月 会誌「あしや」第1号創刊。委員長に永沢義信氏就任。
- 5月 労務委員会新設、委員長に和仁宝寿氏就任。
- 6月 第11回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 6月 役員改選、理事長に野田誠三氏就任。
- 7月 週日社員140名程度に増員、入社金60万円。
- 8月 法人の名義書換料を40万円に改定。
- 9月 コースヤード改定。バックティ6,255ヤード、レギュラーティ6,055ヤード、フロントティ5,840ヤードとなる。
- 10月 第12回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。
- 10月 高橋庸次氏コースレコード72を記録、当時3番ショートホールのため、パー 71。



汐見寮 (キャディ宿舎)



キャディ出勤風景



▲会誌 創刊号



開場10周年の日、晴れの大アーチ



新クラブハウス完成時の姿



記念式典で挨拶される野田誠三理事長▶

●倶楽部の歴史●

1964 (昭和39年)

- 3月 阪急芦屋川駅北側、芦屋川東岸山手幼稚園南隣に倶楽部専用待合所を設置。(臨時)
- 3月 社員権譲渡の際の名義変更料を増額改定。法人1名25万円、個人15万円となる。
- 6月 第13回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 7月 東京オリンピックの基金協力打切る。
- 7月 芦屋市との土地買収交渉はじまり、ゴルフ橋北側約6万坪の分譲を申請。
- 9月 カラー映画「あしやものがたり」「わたしはキャディ」の2巻完成。制作費120万円。
- 10月 第14回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。

1965 (昭和40年)

- 2月 関電との「菅沼」売買登記完了。
- 3月22日 特別社員林勇次郎氏死去。
- 5月 娯楽施設利用税率改正、1人当り500円(従来400円)。
- 6月 役員改選、3代目理事長に和仁宝寿氏就任。キャプテン・西村熊市氏辞任。黒田宗次郎就任。
- 6月 野田誠三前理事長を相談役に、西村熊市氏を名誉社員に推薦。
- 6月 ビジターフィー改定500円値上げ、平日3,500円、土日4,000円となる。
- 7月 第15回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 8月 開場記念日にあわせて、第1回家族会開く。
- 12月 第16回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。



「わたしはキャディ」と「あしや・ものがたり」の映画撮影風景

1966 (昭和41年)

- 1月 阪急芦屋川駅南、ABC喫茶店との賃貸契約成立し、アラスカに営業を委託して倶楽部の連絡、待合所として活用。
- 2月 和仁理事長、KGU理事長に就任。
- 3月 婦人社員の入社金50万円に改定(現行40万円)。
- 6月 倶楽部のハンディキャップをA、Bの2クラスに変更。
- 6月 第17回対西宮役員懇親競技(於西宮) 芦屋勝ち。
- 7月 婦人委員会新設。初代委員長に小川芳光理事就任。婦人競技会は年10回開催と決定。
- 8月14日 開場記念日に第2回家族会。メンバー 227名、家族267名参加。
- 11月 第18回対西宮役員懇親競技(於芦屋) 芦屋勝ち。
- 12月 旧1番茶店(池の端)廃止、別館1階へ移転。
- 12月 従業員宿舎(ガレージ、従業員休憩室、独身寮、社宅等)を「三方の出合」東側に建設。(奥山寮)



阪急芦屋川駅の待合所 喫茶店ABC(昭和48年廃止)

1967 (昭和42年)

- 1月 ビジターフィー冬季値下げ(3,000円を2,000円に)。
- 2月 新幹線トンネル工事のずり問題で委員会設置。
- 5月 高畑誠一氏と野田誠三氏を名誉社員に推薦。
- 6月 役員改選。和仁宝寿氏、理事長に再選。
- 6月 第19回対西宮役員懇親競技(於西宮) 芦屋勝ち。
- 7月 集中豪雨芦屋を襲う。道路崩壊。
- 8月 開場15周年記念競技に508名参加。
- 8月 開場15周年第3回家族会にメンバー 233名、家族 885名参加。
- 11月 第20回対西宮役員懇親競技(於芦屋) 芦屋勝ち。



開場記念日 家族会の賑わい

1968 (昭和43年)

- 2月 和田薫理事(阪急電鉄会長)逝去。70歳。
- 2月 豪雪のため交通途絶、2週間クローズとなる。
- 4月 山陽新幹線の「ずり」の捨て場所で4年間契約を結ぶ。
- 5月 小磯良平画伯、コース・スケッチのために来場。絵は20周年記念誌の扉を飾った。(5番と9番ティグラウンド回り)
- 5月 コース標高計測。最高504m(8番グリーン)、最低412m(16番ティ)。
- 6月 第21回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 8月 ずりを利用し新練習場の計画進む。
- 11月 第22回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

1969 (昭和44年)

- 4月 芦屋市の土地6万坪買収に調印。1億2,380万円。
 - 5月 久保支配人勇退。池田斎夫支配人就任。
 - 5月 高畑杯第1回競技。
 - 5月 第23回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
 - 5月 役員改選、和仁理事長3選。
 - 5月 全ホール改善計画着手のため、「コース整備委員会」設置。コース改善資金として三和銀行より1億4,000万円借入れ、担保差入れと共に4役が個人保証した。
- コース整備の主目的
- ①3番、4番ティ新設とコース一部の改造
 - ②全ホールサブグリーン造成
 - ③ずりを利用し1番、11番を改造
 - ④カート、ジープ道の整備
 - ⑤植樹と移植
- 11月 第24回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。
 - 12月 ゴルファー保険賠償額1,000万円に増額。



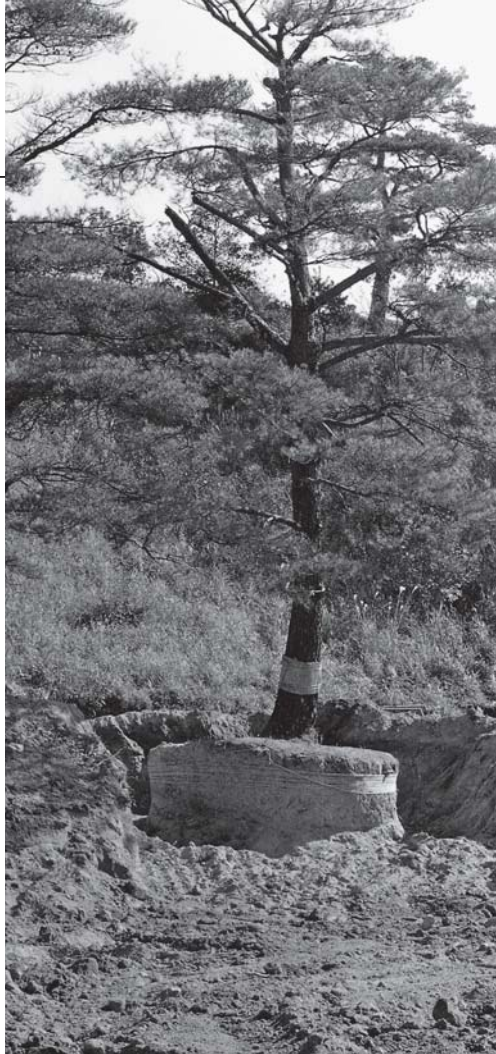
▲家族の日



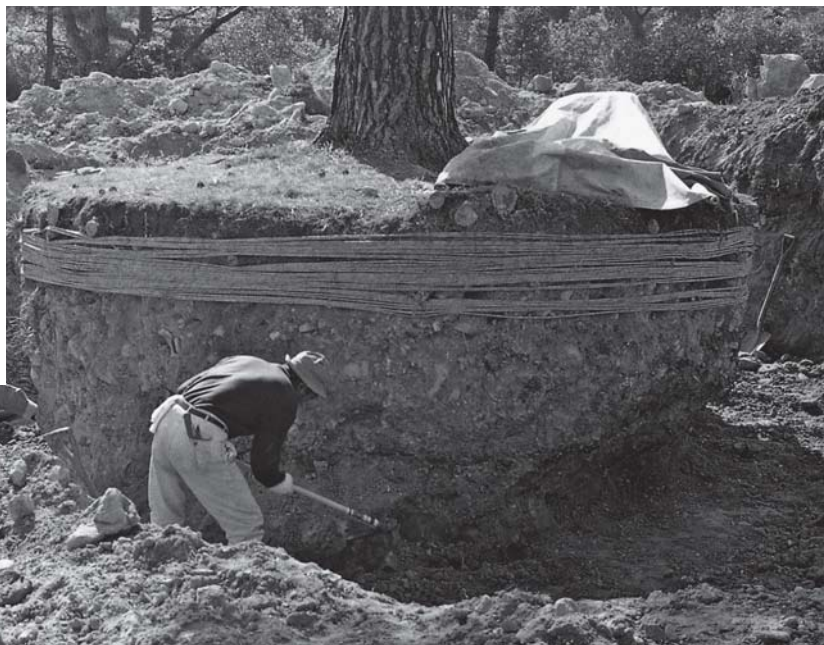
小磯良平画伯、スケッチ風景 右は岩井登門理事

1970 (昭和45年)

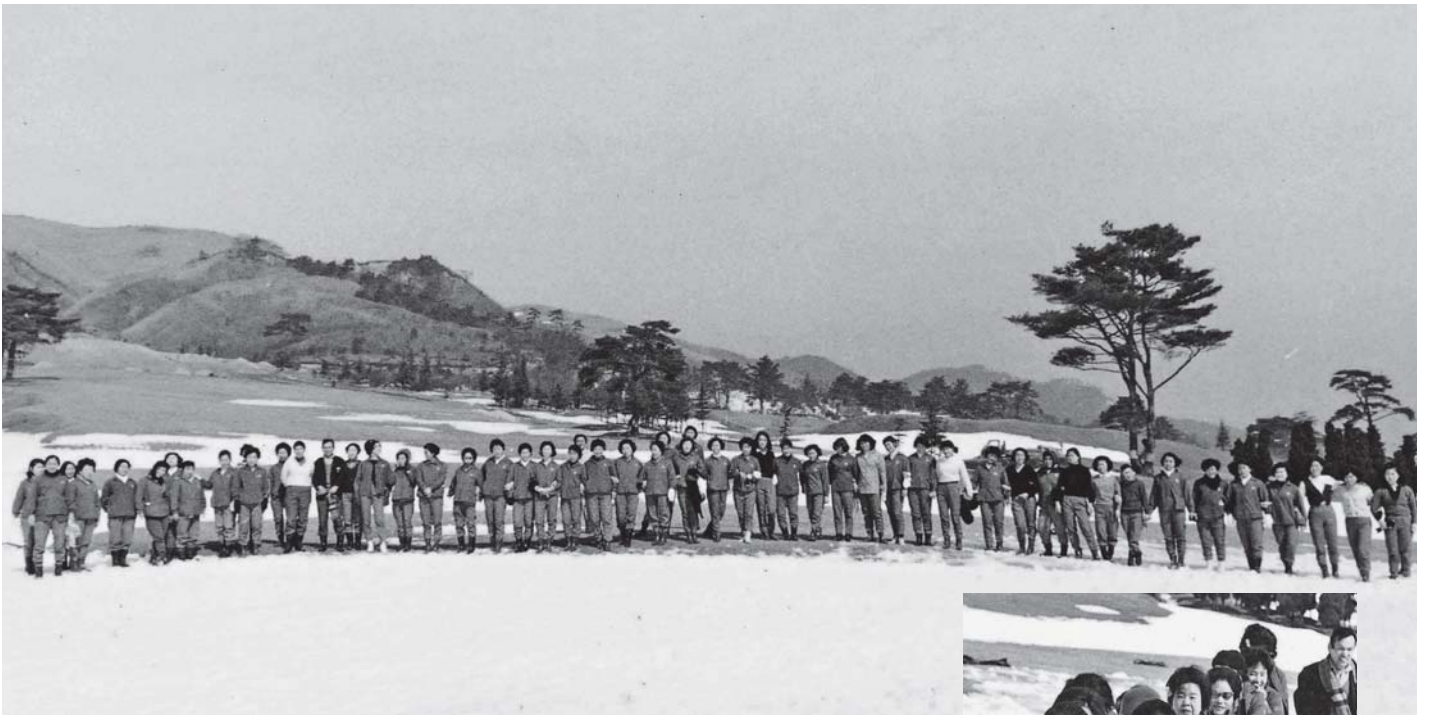
- 2月 アストロ・ターフ (米国製人工芝) を試験的にNo. 10ティーグラウンドに使用。
- 5月 故岸本一郎監事の後任に脇村悌吉氏就任。
- 6月 キャディフィーなど料金改定。
- 6月 第25回対西宮役員懇親競技 (於西宮) 西宮勝ち。
- 9月 第1回JGPオープンゴルフ競技会に、婦人社員の北国加津子氏出場・アマチュア2位。
- 10月 開場20周年記念事業のコース改造資金として新入社員を募集。入会金180万円、100名。
- 10月 11番ホール松の大木の植え替えを行う。
- 10月 第26回対西宮役員懇親競技 (於芦屋) 芦屋勝ち。
- 11月 名誉会計・伊丹久吉氏逝去。
- 12月 故伊丹久吉氏名誉会計の後任に前田義里氏就任。



11番ティショットの目標として親しまれた一本松を、17番右斜面に移植された時の模様。
老松の引越は大変な作業となった。



大木の根元と人を比較してみてください！



昭和46年（1971）1月の豪雪、5日から12日までクローズとなりキャディ達で雪踏みを試みた



ネットに入って草むしりをするキャディ達

1971 (昭和46年)

- 1月 3月31日までメンバーの家族優遇(週日に限る)。
- 1月 大雪・5日(火)の定期休場につづいて12日までクローズ。
- 2月 兵庫県六甲山事務所より保安林内作業を許可され、3番ホールと4番ティの新設工事始まる。
- 2月 お多福山火事。
- 2月 和仁理事長、近畿ゴルフ連盟理事長に就任。
- 2月 20年史編纂特別委員会を設定、委員長に北村匡弘氏。
- 3月 20周年記念特別委員会を設定、委員長に和仁理事長(7月より委員長木村伊太郎氏)。
- 3月 新練習場開場式。
- 3月 新入社員募集締切り。
- 4月 兵庫県知事より農林省告示で倶楽部東側保安林解除の通知。
- 5月 第21回定時社員総会。役員改選、理事長に和仁宝寿氏4選。
- 6月 5番売店などに避雷針設備を決定。
- 6月 第27回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 7月 国鉄ずり捨てにつき覚書交換。
- 7月 (9ホールの増設計画) 倶楽部南側の保安林解除を取下げ、新たに15万坪の保安林解除の申請をすることを決定。

- 7月 第1次植樹計画として4,341本の木を植える予定。
- 8月 名誉書記・小川芳光氏を名誉社員に推薦。
- 8月 名誉社員・小川芳光氏逝去。名誉書記に大原武氏、ハウス委員長の脇村悌吉氏がバー・メス委員長を兼務。
- 10月 ハウス内外の塗装を決定、クラブ章を変更。
- 10月 第28回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

倶楽部マークを改定

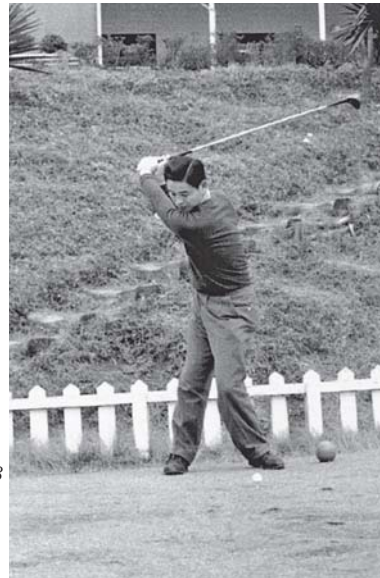
倶楽部のマークは開場当時から1回改定されているが、現在使っているマークはAGCとなっていて、カンツリー倶楽部を表徴するに相応しくないのでACCの形に改めることとし、10月の理事会で決定、尚美堂に発注した。



マークの変遷



開場10周年記念、(昭和37.11.29) 関西プロ選手招待競技のとき、橘田規プロのティーショット



◀石井勉夫プロのティーショット



初夏、こぼれんばかりに藤の花が咲いた旧15番茶店

1972年～1981年 安定の30年

- 昭和53年3月28日、第2代理事長野田誠三氏逝去
- ティーグランドの拡張とオーバーシードの実施
- フェアウェイの改造整備とコースセパレートのための第一次植樹計画を実施
- 水資源の確保と汚水処理問題等に取り組む
- ハウス周辺整備と浄化装置対策委員会を併せて、環境整備委員会が新設された。
(後の環境公益委員会)
- 猪の防護柵5.3kmに拡張する

1972年～1981年 安定の30年

植林緑化の時代

昭和27年8月手造りで誕生したコースは、開場以来20年の歳月の中で改造に次ぐ改造を重ね、当時のメンバーの情熱と苦勞が実って現在我々が見るコースの形がほぼ出来上がったが、更にコース設計の面からまたクオリティーの面からどう整備して行くかが、20周年後に残された課題だった。当時の記録を繙くと、20周年を翌年に控えた昭和46年、理事会はコースの風格を高め、各ホール間をセパレートするため、松706本、松の苗木2,000本、モミ120本、メタセコイア17本、他9種類約4,400本の植樹を計画し実施することを決めた。

それ以外にも、ゴルフ場内25万坪のコース全域に亘って、春咲きの吉野桜100本、山桜80本、さつき200本、つつじ100本、平戸100本、あじさい100本、山茶花、椿、雪柳(5ヶ所)その他ヒマラヤシダ300本、黄揚100本、アカシア2,500本、紅葉100本、榎^{まさ}200本、^{ひいらぎ}柀、南天10本、ポプラ15本、とべら50本、ばべ50本、貝塚伊吹150本等の他、天然の百合、藤、あせび、萩といった野生の草木も随所に配置されていった。

それは、「緑の芦屋コース」をスローガンに掲げた、20周年記念事業の第一次計画の一環であり、更に二次、三次に跨る壮大な長期計画だった。これが発表されると社員全員が賛同し、個人、法人メンバーはもとよりプライベートコンベの会からも続々と寄付が集まり、またたく間に530万円余りの浄財が寄せられた。その結果、現在我々の心を和ませてくれる緑豊かな、そして静寂に包まれた素晴らしいコースとなった。

今、フェアウェイをセパレートしている樹々は、この時に植えられた若き木の成長した姿であり、我々が何気無く見過ごしている芦屋の四季折々の風景こそ、この時代の先人達の努力の賜であり、現在我々が見ることのできるような、六甲の自然の中に融和した美しいコースに育ってきたのである。

昭和50年12月3日第3代和仁理事長が死去。10日後第4代理事長に村野辰雄氏が直ちに就任した。時代は第1次高度成長期が終わりを告げ、昭和48年から始まったオイル・ショックを転機とする低成長時代に入り、日本は戦後初めて大きな転換点を迎えようとしていた。当時のゴルフ界では、ジャンボ尾崎というニューヒーローが誕生し、第2次ゴルフブームの時代(昭和46～57年)が始まった。昭和50年にはゴルフ場の数も全国で1,000ヶ所を超え、所謂ゴルフの大衆化が急速に進んだ。このような潮流の中で当倶楽部も経営の健全性を保ちつつ、コースやクラブ周辺の整備、組織の改正が着々と実施された。

●倶楽部の歴史●

1972 (昭和47年)

2月 雪のため12日までクローズ。

2月28日 雪のためクローズ。

4月 10番待合所修祓式。12番茶店を閉鎖、休憩所とする。

6月 第29回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。

7月 No.3ホール初使用、No.4の新ティーグラウンド使用、9番拡張新グリーン使用。

8月5、6日 開場20周年記念競技。

9月17日 20周年記念式典・家族会。

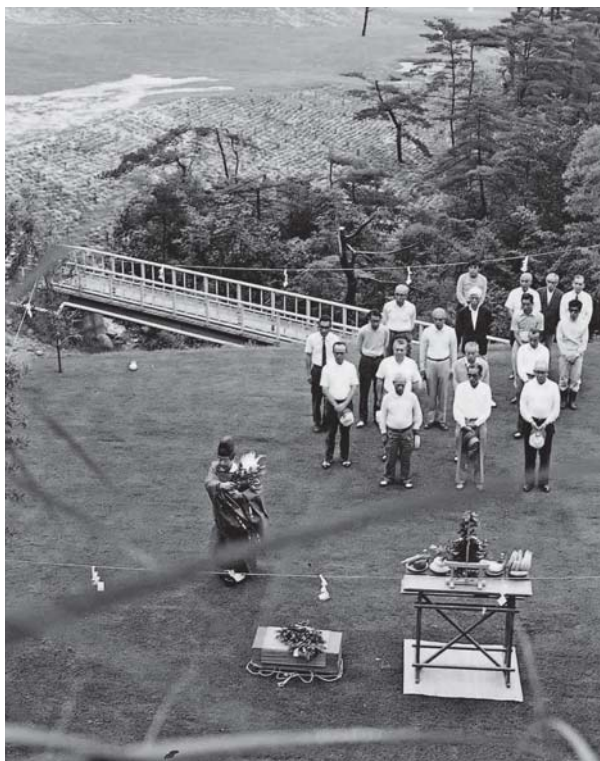
9月 10番ホール、ティー前の湿地を利用して池を造成。

9月21、22日 20周年記念招待競技。

10月 猪防止コース外囲い完成。

10月 第30回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。芦屋14勝・16敗。

12月19日 茶谷順次氏死去。特別社員、前監事。



3番上のティーグラウンド 初使用開始の日

1973 (昭和48年)

1月 2月までビジターフィー冬季割引、メンバーの家族優遇。

1月30日 竹村忠夫氏死去。元監事。

新カート道(2,500メートル)工事始める。

2月 新入社員選考基準、選考委員会新設、委員長に、山中隆文氏。

2月 石井利栄プロ退職。(石井勉夫プロの弟)

4月 1番グリーン改造。

4月 阪急芦屋川駅前の連絡所(ACCアラスカ)廃止。

5月 定時社員総会、役員改選、理事長に和仁宝寿氏5選。

5月 会誌寄稿者懇親競技会。

6月 第31回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。娯楽施設利用税込定。

7月 3番ホール、左山側の出っ張りを削る。

8月 2番、5番、グリーン改造完成。

8月 4、5、6の3日間、開場記念競技。

9月 キャプテン杯予選決勝36Hを27Hに改める。

9月 17番グリーン上に300トンの水槽修祓式。

9月 長期コース整備計画立案。

10月 第32回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

11月 冬季家族優待券はビジターが多いので中止と決定。

12月 ハウス周辺整備計画特別委員会設置。委員長に、大原武名誉書記。

1974 (昭和49年)

- 1月 ティーグラウンド、休憩所、待避所以外での禁煙実施。
- 3月 メンバーのロッカー保管物賠償責任保険に加入。
- 3月 夜半、ハウスに数名の泥棒侵入、金品被害なし。
- 4月 13番、16番に避雷小屋設置を決定。
- 4月 新競技規則、理事長杯、キャプテン杯の年齢別区分変更、ABクラス別変更。
- 5月 石井勉夫プロ、日本プロシニア選手権優勝。
- 6月 定款、細則、入社申込手続改正案、実施。
- 6月 改造の2番、5番のグリーン使用。
- 6月 第33回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 8月 石井勉夫プロ、関西プロシニア選手権優勝。
- 10月 第34回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 11月 プレー終了時刻を制限、実施。
- 11月 排水の浄化処理委員会設置、委員長に大原武名誉書記。
- 11月 関西、中部、中四国、九州の4連盟役員懇親競技会。
- 12月 5番、13番にティーグラウンド増設を決定。

1975 (昭和50年)

- 1月 16番カート道完成。
- 2月 15番右法面を削る。
- 4月 グリーンファイ改訂。
- 4月 KGU委員 来場、コースレート、バックは70.2、レギュラー 69.0と決定。
- 4月 10番ホール南側に汚水処理水槽及び排水管工事完了。
- 5月 第35回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 5月 定時社員総会、役員改選、理事長に和仁宝寿氏6選。
- 5月 環境整備委員会を新設、委員長に山中隆文氏。
- 7月 豪雨により4番、16番に被害。
- 8月 石井勉夫プロ、関西プロシニア選手権に2連勝。
- 9月 猪の防護柵2,500メートルに涉りかさ上げ。
- 10月 倶楽部選手権にグランドシニアを加える。第1回優勝・島田健吾氏。
- 11月 第36回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 11月 理事長和仁宝寿氏逝去。臨時理事会、理事長に村野辰雄氏を互選。
- 11月 理事長代行に大原武氏。
- 11月 防雷対策として、感知器設置について議論多発す。



17番上の貯水槽 (散水用)

1976 (昭和51年)

- 1月 スコアカード、ティーマーカー等にメートル法表示。
- 1月 1番、7番グリーン改造着工。
- 3月 和仁前理事長追悼競技、和仁好未亡人を特別社員に推挙。
- 4月 インタークラブ競技兵庫D地区予選、翌日関西アマチュア選手権兵庫D地区予選を当倶楽部で開催。
- 4月 女子プロ関西地区月例競技。
- 4月 競技規則改正、婦人競技等の成立(参加者について)。
- 4月 メートル法表示を実施する。
- 5月 第37回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 5月 故和仁理事長ご遺族より絵画2点の寄贈を受ける。
- 5月 猪の防護柵5,300メートルにかさ上げ承認。
- 6月 キャディファイ改訂。
- 6月 黒五谷堰堤沈砂敷地を建設省に売却承認。
- 10月 7番、11番サブグリーン完成。
- 10月 25周年記念事業小委員会設置、委員長・大原武名誉書記。
- 11月 第38回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。

1977 (昭和52年)

- 1月 25周年記念行事小委員会結成。倶楽部標石設置、別館設備を改善する。
- 1月 競技規則改正(ABクラス別)。
- 2月 3番～4番通路と17番ティーに危険物防止の金網を造る。
- 3月 11番本グリーン改造。
- 4月 キャディフィー値上げ。
- 4月 お多福山火事。
- 5月 定時社員総会、役員改選、理事長に村野辰雄氏再選。
- 5月 第39回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 6月 石井勉夫プロ、関西プロシニア選手権に3度目の優勝。
- 7月 細則の一部改訂(入社年令33歳以上に)。
- 8月 25周年記念標石除幕式。
- 8月 永年勤続者、インタークラブ競技20回連続出場の張清霖氏表彰。
- 8月 開場25周年記念競技(6日、7日)。
- 10月 第40回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。尚、40回連続出場の大原武氏に表彰状。
- 10月 副支配人石井正巳氏逝去。南部敏通氏就任。
- 11月 阪神タイガース4選手(田淵幸一、江本孟紀、上田次郎、中村勝広)を招く。プレー後座談会を開き会誌「あしや」に掲載。



25周年記念の石碑



大原名誉書記による除幕式

1978 (昭和53年)

- 1月 4番谷越え左にレディスティグランド新設。
- 3月 元理事長野田誠三氏逝去。
- 3月 4月にかけて猪、アウト2番、5番、イン16番、17番その他に侵入。
- 5月 第41回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 6月 キャディフィ改訂。
- 6月 モノール研究委員会設置、委員長谷路順三氏。
- 6月 避雷小屋(4番途中)と6番ティー上に避雷小屋新設、17番ティー小屋に避雷針取付け。
- 6月 練習グリーン拡張。
- 8月 大浴場南側に駐車場増設。
- 9月 支配人池田斎夫氏退任。
- 9月 キャディ寮汐見寮生の奥山寮への移転完了。
- 9月 名誉社員・高畑誠一氏逝去。
- 10月 支配人・井上一郎氏就任。
- 10月 猪の被害多くコース男子全員終バスまで警戒。
- 10月 第42回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 11月 関西プロ西近畿月例競技。
- 12月 3番、4番の猪防護柵に電流を流す。

1979 (昭和54年)

- 1月 ハンディキャップ改訂委員会設置、委員長・木村伊太郎キャプテン。
- 2月 1番ティーグラウンド横の池に滝を造る。
- 3月 名義書換料改訂。
- 4月 JGAハンディキャップ方式採用決定、コントロールカード受付開始。
- 5月 バッグ超過料廃止、カート使用料新設。
- 5月 11番～12番、17番～18番にマン・コンベア完成。
- 6月 定時社員総会、理事長に村野辰雄氏3選。
- 7月 第43回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 7月 3番左の斜面工事完成、これでティーグラウンドから左グリーンが見透せるようになる。
- 7月 元キャプテン黒田宗次郎氏逝去。
- 7月 3番左斜面改修工事5月に終り7月より使用。
- 9月 全ホールのティーグラウンドのオーバーシード。
- 9月 元名誉会計・永沢信義氏逝去。
- 10月 第44回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 11月 17番マン・コンベア上の避雷小屋完成。
- 11月 5番にカラス追い機ラゾーミサイル設置。
- 11月 8番水源池上に兵庫県により堰堤構築着工。



昭和40年頃の婦人メンバーの皆さん、中央は久保支配人

1980 (昭和55年)

- 1月 冬季ビジターフィー 5,000円に。
- 1月 競技規則変更(A、Bクラス区分)。
- 1月 ビジターフィー改訂。
- 1月 ゴルフミュージアム募金開始。
- 1月 メンバーも日・祝日はエントリー制とする。
- 2月 10番本グリーン拡張工事着工。
- 2月 宿直制を廃し警備保障会社に委託。
- 2月 お多福山中腹でハイカーの火の不始末により、山火発生。その消火活動への協力に対し神戸市東灘消防署より感謝状を受ける。
- 2月 15番ティー前方に池を新造成。
- 5月 第45回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 6月 名義書換料改訂。
- 7月 10番ホール横のアプローチ、練習グリーン使用開始。8番ホール、水源池拡張を承認。(生活用水として)
- 11月 第46回対西宮役員懇親競技(於西宮)芦屋勝ち。

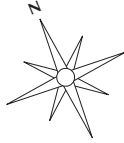
1981 (昭和56年)

- 1月 従来、火曜日だった倶楽部定休日を月曜日に改訂。月曜日が祝日の場合は繰下げとする。
- 4月 会誌寄稿者懇親競技会。
- 4月 名誉社員・朝香鳩彦氏逝去。
- 5月 第47回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 5月 定時社員総会、役員改選、理事長に村野辰雄氏4選。30周年特別委員会編成、委員長に村野辰雄理事長。30周年実行委員会編成、委員長に曾我野秀雄キャプテン。30周年記念誌編纂委員会編成、委員長に中村敏郎編集委員長。
- 8月 30周年実行委員会発足。
- 8月 1、2両日開場記念競技(参加485名)。
中近シニア懇親競技、当倶楽部で開催、グランドシニアは大橋鉄太郎(枚方)、シニアは三角恒雄氏(芦屋)優勝。
- 9月 本年から70歳以上は無料招待として、敬老の日優待競技。
- 10月 第48回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 11月 第1回新入社員歓迎競技会。
- 11月 8番ホール、水源池完成。(コース散水用として)



8番ホール横 水源池完成(散水用)

昭和47年12月頃の コースレイアウト

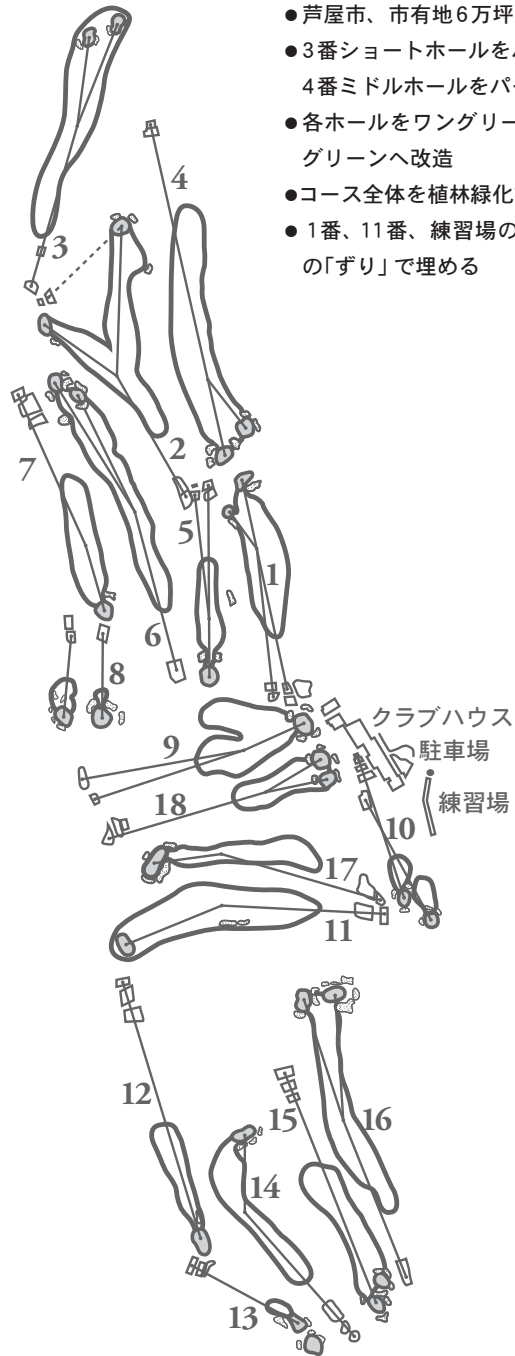


- 芦屋市、市有地6万坪買収
- 3番ショートホールをパー4に
4番ミドルホールをパー5に拡張
- 各ホールをワングリーンからツー
グリーンへ改造
- コース全体を植林緑化計画始まる
- 1番、11番、練習場の谷を新幹線
の「ずり」で埋める

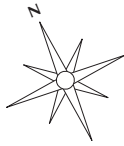
K. G. U. Course Rating White Tee-72

HOLE NO	CHMP TEE	RGL TEE	PAR
1	336	322	4
2	357	343	4
3	430	430	4
4	545	532	5
5	285	276	4
6	490	470	5
7	385	360	4
8	142	132	3
9	342	340	4
OUT	3312	3205	37

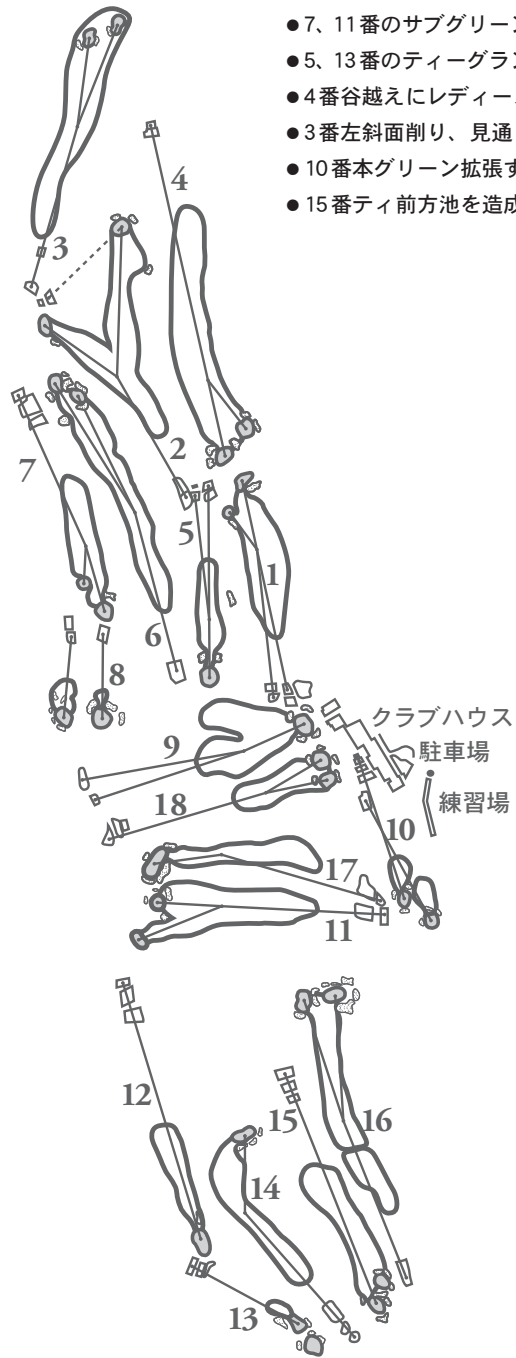
10	215	210	3
11	386	372	4
12	410	385	4
13	175	165	3
14	385	375	4
15	380	370	4
16	470	450	5
17	355	340	4
18	340	330	4
IN	3116	2997	35
TOTAL	6428	6202	72



昭和56年12月頃の コースレイアウト



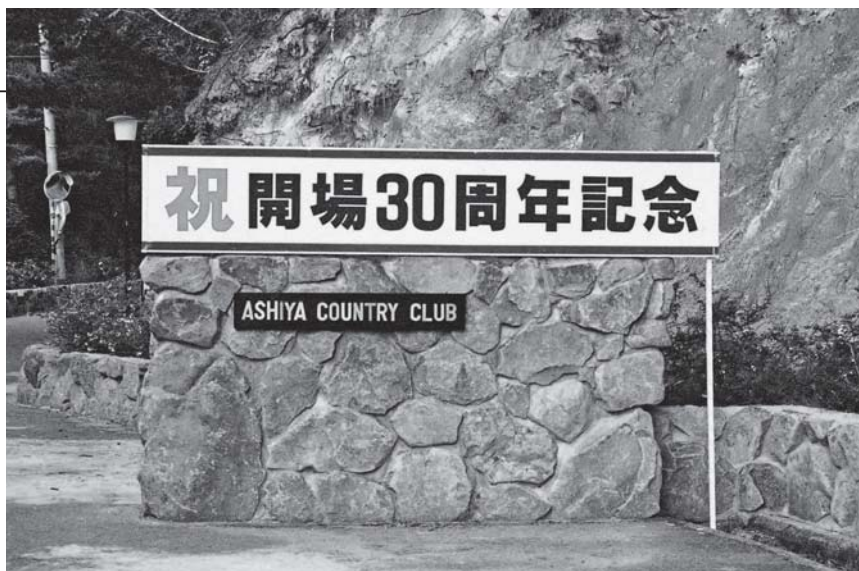
- 7、11番のサブグリーン完成
- 5、13番のティーランド増設
- 4番谷越えにレディースティ新設
- 3番左斜面削り、見通し良くする
- 10番本グリーン拡張する
- 15番ティ前方池を造成する



K. G. U. Course Rating
White Tee-72

HOLE NO	CHMP TEE	RGL TEE	PAR
1	336	322	4
2	357	343	4
3	430	430	4
4	545	532	5
5	285	276	4
6	490	470	5
7	385	360	4
8	142	132	3
9	342	340	4
OUT	3312	3205	37

10	215	210	3
11	386	372	4
12	410	385	4
13	175	165	3
14	385	375	4
15	380	370	4
16	470	450	5
17	355	340	4
18	340	330	4
IN	3116	2997	35
TOTAL	6428	6202	72



木村伊太郎理事 大原 武名誉書記 村野辰雄理事長 乾KGU理事長





11番 改造風景

1982年～1991年 発展の40年

- 平石武則研修生がプロテスト合格
- 環境公益委員会設置
- 石井勉夫プロ退職(昭和26年より33年間在職)
- 会誌あしや100号記念誌発刊、俳句欄設ける
- 35周年記念事業(2番ホール他、スプリンクラー工事、15番茶店)完成
- 11番ホール大改造そして12、16番ティーフランドの増改良なる
- 名義書換料変更 100万～150万へ
- 35周年記念事業(10番茶店 スタートハウス、オートカート導入)
- 消費税施行
- 昭和天皇崩御 元号は平成と改まる
- 伊丹社宅7,800万で売却
- 中期計画特別委員会設置
- 第5代理事長吉村清三氏退任、第6代に平田豊氏就任
- 平石プロ、サッポロビール千葉オープン優勝
- 40周年記念行事開催
- ロッカールームの改修
- 公益活動(幼稚園児へのコース開放、市民ゴルフ大会)の充実を計る

1982年～1991年 発展の40年

倶楽部ライフの充実

昭和58年6月、第4代村野理事長に替わり、第5代理事長に吉村清三氏が就任した。「老若男女を問わず、誰でもが無理なく楽しくプレイすることが出来て、プレイ後も快適なクラブライフを味わっていただけるような環境作りを」と言う理念に基づき、美しい六甲の山並みの天与の景観を生かしながら、35周年記念事業計画に沿って着々と計画をすすめた。即ち、11番ホールの大改造と、12番、16番ティーグラウンドの改造を行うと共に、スプリングラーの設置、ベルトコンベアの増設、オートカートの導入等を計り、かねてからの懸案事項だったロッカー室や婦人浴室の改造、食堂・玄関ホールの冷房化等、数々の整備が行われた。また同時に社会問題化しつつあった環境公益についても、排水処理施設を新設し、更に芦屋市に対しての寄付行為や、昭和63年からは、市民ゴルフ大会を計画する等、地域社会との共存公益の奉仕にも努めた。また同じ昭和63年には、中期計画特別委員会が発足し、40周年記念事業への対応もなされた。

昭和64年1月には昭和天皇が崩御され、長かった昭和の御代が終わりを告げ、戦中戦後を通じて世代を同じくする者にとっては、特別の感慨を禁じ得ない日となった。

また、この10年間はバブル経済の真っ只中にあり、国民全体が同じエレベーターに乗っている状態だった。ゴルフ場の景気もブームに沸き、所謂第3次のゴルフブーム(昭和58年以降)を迎えた。ゴルフ会員権は投機の対象として高騰し、来場者数も増加、当倶楽部にとって最も良き時代だった。特に昭和63年頃から右肩上がりに好景気が続き、平成3年には来場者数が46,521名に達した。

その一方において、平成2年東ドイツが、平成3年にはソ連邦が崩壊し、70年に亘る社会主義体制はまことにあっけなく失敗に終わり、全世界の人々に大きな衝撃を与えた。そして平成4年、土地神話に彩られた我が国のバブル景気にも、やがてその終末を迎える時がしのび寄っていた。

●倶楽部の歴史●

1982 (昭和57年)

- 3月 No.12, No.17, No.18グリーン改造終る。
- 3月 定款、細則改正委員会設置、委員長に曾我野キャプテン。
- 5月 ビジターフイー、キャディフイー、娯楽施設利用税改訂。
- 5月 第49回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 5月 クラブ門柱、石碑完成。
- 8月6、7、8日 開場30周年記念競技(第1日142名、第2日224名、第3日200名)。
- 10月7、8日 開場30周年記念招待競技、第1日HKGU役員、加盟クラブ理事長等。第2日各クラブ支配人、報道関係者。
- 11月 第50回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。



1983 (昭和58年)

- 4月 30周年記念誌「あしやの30年史」刊行。
- 5月 昭和58年度KGUインタークラブ競技B地区予選が当倶楽部で開催される。
- 6月 村野理事長退任、吉村清三理事長就任。
- 6月 執行役員に木村伊太郎氏(キャプテン)、高橋幸吉氏(名誉書記)、板持吉雄氏(名誉会計)。
- 6月 大原武氏を名誉社員に。
- 7月 第51回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 8月 ユニバーシアード神戸大会に協賛。
- 6月10日 平石武則研修生プロテストに合格。
- 8月 環境公益委員会設置される。公益事業担当委員会の設置については環境整備委員会がこれを兼ねることとなった。そして同委員会の名称を『環境公益委員会』と改称し、倶楽部細則の一部を変更した。
- 11月 関西プロ西近畿地区11月例会が当倶楽部で開催された。優勝は渡名喜均プロ(宝塚)。
- 11月 第52回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。



KGUインタークラブ競技B地区予選の日

1984 (昭和59年)

1月 競技規則の改正と運営の変更。

1月 未曾有の豪雪で40日間クローズ。この時は県下多数のゴルフ場で被害続出し、クローズによる損害を補填するため、定休日にセルフ営業を行った。

1月 事務用コンピュータを導入。

1月 上着着用のキャンペーン始まる。

2月 汐見寮、処分について臨時総会開催。売却を承認する。

4月1日 料金改訂

ビジターフィ	週日10,000円 → 11,000円
土・日・祝日	15,000円 → 17,000円
キャディフィ	2,600円 → 2,800円

4月 汐見寮売却へ。利用していない汐見寮を売却して設備等有効利用のため、1億5,000万円以上で売却する。

4月 公益事業計画に300万円を計上。

4月 芦屋市教育委員会に100万円寄贈。

4月 スプリンクラー設置特別委員会編成される(汐見寮売却代金の用途に関連して)。

委員長	キャプテン	木村伊太郎
委員	グリーン委員長	東 功
〃	競技委員長	田邊朔郎
〃	環境公益委員長	鈴木重孝
環境公益委員		阿河俊夫
支配人		井上一郎

5月 第53回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。

5月 練習場に集球機登場。

6月 高齢社員にグリーンフィを免除。80歳以上の社員の方にグリーンフィ(1,500円)を免除する。

6月 エチケット小冊子の発行。

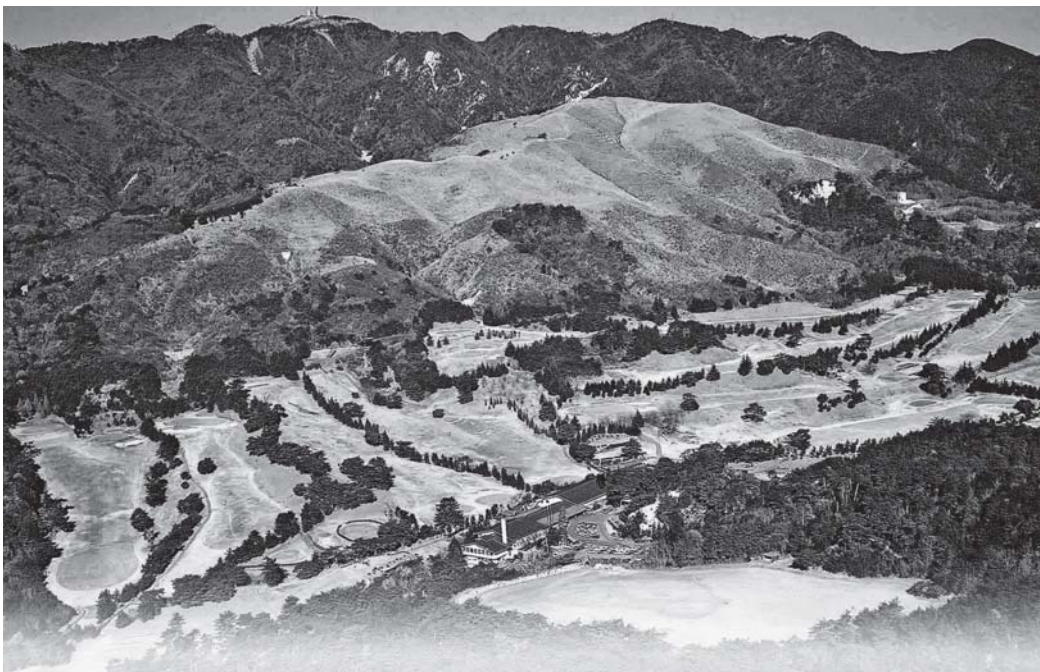
6月 猪対策に電柵を設置。その長さは約4,500m、既存のものを加えるとコース全外周は約6,500mになる。

9月 散水設備特別委員会発足する。スプリンクラー設置の具体化を計る。

10月 第54回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

11月 石井勉夫プロ退職。当倶楽部の名誉プロに推挙。

▼空撮による倶楽部全景 (昭和59年12月)



1985 (昭和60年)

2月 男子大浴場改修。

2月 キャディフィ割増料金の整理検討。料金及びキャディ給与体系の整備合理化を計るため、キャディフィ2,800円を3,000円に改訂した。

4月 コースの距離表示をメートルからヤード表示に変更する。

4月 第55回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

5月 吉村清三理事長再選。

5月 昭和60年度役員・分科委員決まる。

理事	理事長	吉村清三
理事	キャプテン	木村伊太郎
理事	名誉書記	高橋孝吉

5月 元キャプテン曾我野秀雄氏逝去。79歳。

5月 アイアン型カーボンヘッドクラブの使用禁止。

7月 防犯対策協議会を結成。

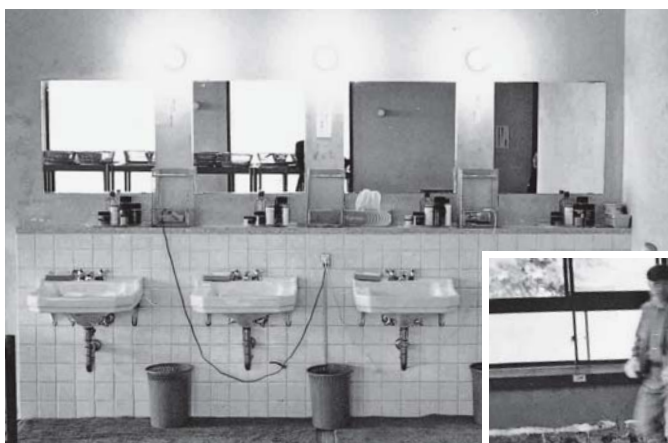
7月 2番から3番への全自動ベルトコンベア完成。電力設備を含む総費用1,500万円で完成。

10月 会誌「あしや」に俳句欄登場。編集委員春田長三郎氏が世話役。

11月10日 岡本高佳(拓)氏死去。元理事。

11月 第56回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。

12月 100万円を芦屋市に寄付。



男子大浴場の改修工事

1986 (昭和61年)

1月 練習場利用税を新設。利用者に球代の他に保険料を含め200円を徴求することになった。

1月 木村伊太郎キャプテン、KGUのグリーン委員長に。

2月 名義書換料金改訂。

個人正社員、週日社員、 婦人社員(1名につき)	100万円(70万円)
法人登録社員(1名につき)	80万円(70万円)
法人が法人へ譲渡する場合	
登録指名2人制	200万円(140万円)
登録指名3人制	300万円(210万円)

2月 2番ホール前池造り始まる。スプリンクラー設置に関連して、水源確保のため2番ホールティグラウンド前方の会所に池を新造することになった。

2月 スプリンクラー完成。お多福山から流れてくる自然流水を8番ティーグラウンド横の貯水池(約800トン)に貯め、この水を利用してスプリンクラーにより各グリーン、ティーグラウンドに散水するという新兵器。

2月 2番ティーグラウンド前の池出来る。

2月 「日本の松を緑にする会」に入会。

2月 堰堤用用地売却。建設省六甲砂防事務所へ、平方米当たり2,700円、総額12,409,432円で売却した。

3月 元の婦人ロッカー室拡張・改修。

5月30日 元理事原吉平氏死去。

6月 第57回対西宮役員懇親競技(於西宮)芦屋勝ち。

6月 社費、ロッカー料改定。

区分	改定
個人正社員	36,000円(24,000円)
法人社員 (定員2名又は3名1口)	(1名につき) 36,000円(24,000円)
週日社員	21,600円(14,400円)
婦人社員	21,600円(14,400円)
不在社員	一般社員の半額
ノンゴルファーメンバー	一般社員の半額
ロッカー料	6,000円に改定

6月 20年連続インタークラブ選手として活躍した立石寛自、平井忠夫両氏表彰される

6月 中期事業計画できる。35周年記念事業をふまえて中期的事業計画について検討。

- ① ハウス屋根の全面葺きかえ工事
- ② 第11番ホールの改造
- ③ オートカートの設置
- ④ 駐車場の拡張
- ⑤ 男子ロッカー室の改善
- ⑥ 厨房の改善

6月 ハイキング道水飲み場所新設。12番への設置。

10月 第58回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

11月 木村キャプテンKGUから表彰される。



2番ティグラウンド前池工事



旧婦人用浴場



スプリンクラー完成



ハウス屋根の全面葺きかえ工事

1987 (昭和62年)

1月 35周年記念事業スタート。12月の臨時総会にて実施承認される。

1月 24日 名誉書記高橋幸吉氏逝去。

1月 木村キャプテンKGU常務理事に。

1月 11番ホール改造へ。急坂による肉体的疲労の軽減を計るため、11番ホールの改造が始まった。ティーより前方120～130ヤード付近の最低地を中心として土盛りをし、傾斜を緩やかにする。

5月 芦屋市に100万円寄付。

5月 35周年記念事業として、11番ホール改造工事完成。山岳コースとしてある意味では名物ホールであった11番ホールを、傾斜を出来るだけ緩やかにし、歩行を楽にすることによって“しんどい芦屋”のイメージを払拭した。6月2日全面ティーアップにてオープン。

5月 第59回対西宮役員懇親競技(於西宮)芦屋勝ち。

6月 10番スタートハウスの改築。

7月 オートカート導入。

7月 公益活動の主なもの。

- ① 今まで年数回芦屋市の幼稚園児に倶楽部の休場日を利用し、1日楽しく遊んで貰っている。(継続事業)
- ② 芦屋市には体育器具の購入費の一部として100万円を寄付した。(継続事業)
- ③ お多福山への通路にハイカーのための飲料用水道を完成。
- ④ 「六甲山を美しくする会」に入会している。

7月 新しい駐車場増設。練習場打席改修工事の結果生じた跡地を利用して、約40台収容可能な新駐車場が完成した。

10月4日 倶楽部選手権にて大川耕明氏コースレコードを更新。アウト34、イン38、計72。

11月 ゴールドマーク作成。グランド・シニア用のティー・マーカー(金色)を新しく作ることに決まる。

11月 第60回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

12月 ハウスキャディの研修会(第1回)

12月 木村伊太郎キャプテンJ. G. A評議員に

12月 競技規則一部変更

- ① 倶楽部選手権競技はハンディキャップ15までを12まで。
- ② セニア選手権競技は年齢満60歳以上、ハンディキャップ24までを19まで。
- ③ グランドシニア選手権競技は年齢70歳以上、ハンディキャップ40までを24まで。
- ④ 競技規則第8条2項ハンディキャップ8掛を実施…を削除。

12月 芦屋市へ体育備品等を寄付。



新10番スタートハウス



旧10番スタートハウス



11番ホールの改造風景
傾斜をゆるやかにして、ワングリーンになる



オートカート導入

1988 (昭和63年)

- 3月 避雷針不要の防雷小屋 (シェルター) を7番ティと練習場に設置。今度の建物はFY式避雷舎といって、1棟85万円。
- 4月 平成2年4月開催の「国際花と緑の博覧会」に対して、花博に協賛ゴルフ募金。
- 4月 ハンディキャップ・オーダー変わる。11番ホールのハンディキャップは6番に。14番のハンディキャップは2番となった。
- 4月 第61回対西宮役員懇親競技 (於西宮) 芦屋勝ち。
- 5月 園児たち1日950人も来場。
- 5月 インタークラブ予選競技が5月2日当倶楽部で行われた。11クラブから各8名の選手が参加、芦屋でインタークラブ予選が行われるのは昭和58年以来5年振り。
- 5月 関西グリーン研究所に100万円を寄付。
- 5月 バッグ預かり所新設。
- 8月 高校総体に歓迎塔で応援。ヨット競技を芦屋市が開催するため。
- 9月 ペタンク大会に一役果たす。9月18日 (日) 開催された国際交流ペタンク大会で当倶楽部が公益事業の一環として行なっているスポーツ振興への寄付物品が一役を果たした。
- 11月 第1回芦屋市民ゴルフ大会開かれる。かねて幼稚園児にコース開放、学校への体育器具寄贈等、地域社会の体育向上に協力して社団法人クラブとしての使命を尽くしてきた当倶楽部では、ここに初めて第1回芦屋市民ゴルフ大会開催に力添えることになった。

9月 新コース管理棟完成する。旧管理棟はアルバイトキャディの控室として改装し活用。

9月 中期計画特別委員会設置される。40周年記念をふまえて、快適な状態でプレーが出来るよう倶楽部の中期計画を建てるについて、中期計画特別委員会が設けられ、そのための委員がそれぞれ委嘱された。

委員長	木村伊太郎
委員	井上浩三郎
〃	安田 博
〃	鈴木重孝
〃	長岡 修
〃	田邊朔郎
〃	井上一郎

12月 厨房の全面改修工事始まる。

12月18日 張清霖氏死去。評議員、インター代表選手として20年連続出場。

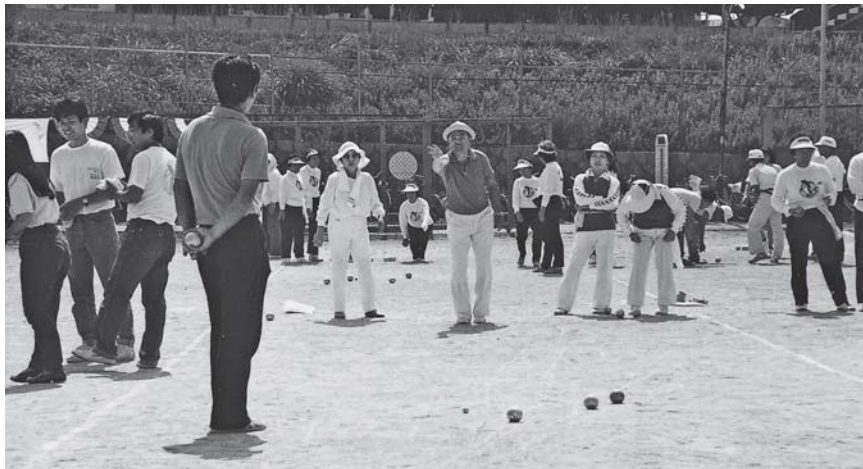
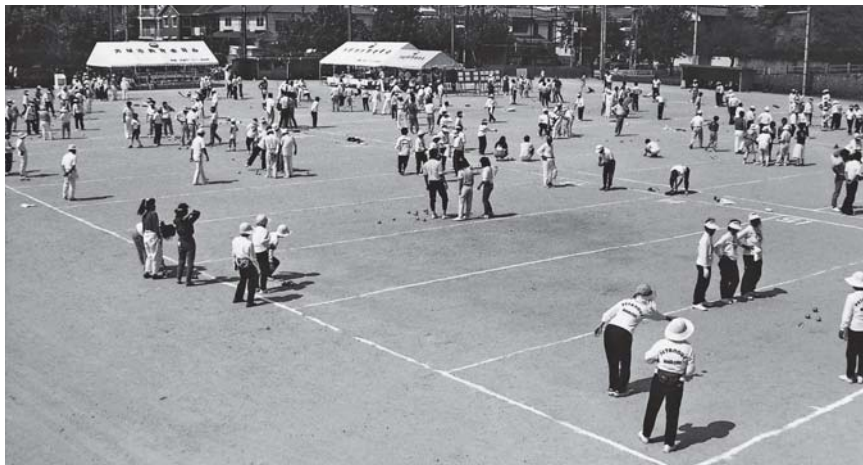
10月 第62回対西宮役員懇親競技 (於芦屋) 芦屋勝ち。



高校総体 ヨット競技へ協賛



● 倶楽部の歴史 ●



ペタンク大会に公益事業の一環として協賛する



山村康六前市長の挨拶



昭和63年9月 公益事業として第1回芦屋市民ゴルフ大会開催

1989 (平成元年)

- 1月 社会体育向上に300万円芦屋市へ贈る。
- 1月 大喪の礼当日は休場。1月7日、崩御された昭和天皇の大喪の礼は、2月24日行われ、同日を臨時休業にした。
- 4月 「みどりの日杯」新設。昭和天皇の崩御によって4月29日を「みどりの日杯」とし、「天皇誕生日杯」を12月23日に変更。
- 4月 厨房改修工事完成。
- 4月 消費税導入。倶楽部は外税方式を採用。
- 4月 コースの排水について水質検査義務づけられる。
- 5月 1日 柴崎俊男氏死去。監事、労務委員長。

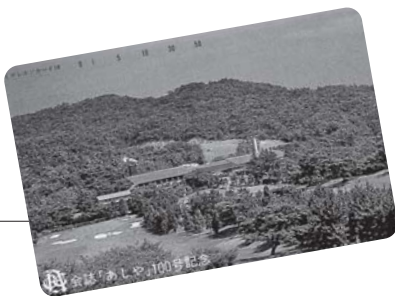
- 5月 第63回対西宮役員懇親競技(於西宮)芦屋勝ち。
- 5月 会誌「あしや」100号記念号発刊。昭和38年6月に「あしや」第1号が創刊されてから26年の歳月が経った。又、100号発刊を記念して倶楽部全景写真(木村光利編集委員撮影)入りのテレホンカード発売。(限定)
- 5月 幼稚園児コースで楽しむ(3日間で1,700名)。
- 6月 食堂・ロビーに冷房完備。
- 8月 第2回芦屋市民ゴルフ大会。「緑と健康の街」を目指す芦屋市に於いて、第2回芦屋市民ゴルフ大会は8月7日開かれた。
- 8月 汚水処理施設工事がコース管理棟北側で始まる。予算5,300万円。
- 8月 大雨で進入道路決壊。
- 9月 関西シニア選手権予選行われる。9月7日当倶楽部に満60歳以上、ハンディキャップ15までの選手185人が参加して18H.S.で行われた。
- 11月 第64回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。



大雨で進入路決壊



関西シニア選手権競技予選の日



▲会誌100号記念テレホンカード

1990 (平成2年)

- 3月 昭和34年8月に架けられた「うぐいす橋」を撤去し、新ベルト・コンベア、全長63m、有効ベルト90cmの当クラブ最大のベルト・コンベアが3月10日完成。
- 3月 16番ホール改造される。ティーグラウンドを従来の倍以上拡大した。
- 3月 伊丹社宅7,800万円で売却。
- 3月 時短による就業規則変更へ。
- 3月 厚生年金基金へ加盟。関西ゴルフ連盟は今回ゴルフ場従業員のために企業年金基金制度を創設した。
- 5月 第65回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 5月 園児800人、コースで楽しむ。
- 5月 クリーン作戦に参加。
- 5月 15番ホール茶店建て替えへ。
- 5月 食堂の一部に禁煙席を設置。
- 5月 『むぎ茶サービス』始まる。
- 5月 第3回芦屋市民ゴルフ大会。
- 5月 芦屋市制50周年に100万円を寄付。
- 6月 芦屋水道部、衛生部主導による芦屋川上流のクリーン作戦に参加する。
- 7月22日 元理事岩井登門氏逝去。氏は長年産業医として倶楽部の従業員や社員達の健康管理に大いに貢献された。
- 9月 大型台風で30数本の樹木倒壊。和歌山に上陸後、列島を縦断、死者、行方不明者39名、新幹線はじめあらゆる交通網をずたずたにして三陸沖に抜けた。
- 9月 週日杯は毎月開催となったので、グランド週日杯を設けることとなった。
- 11月 第66回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。



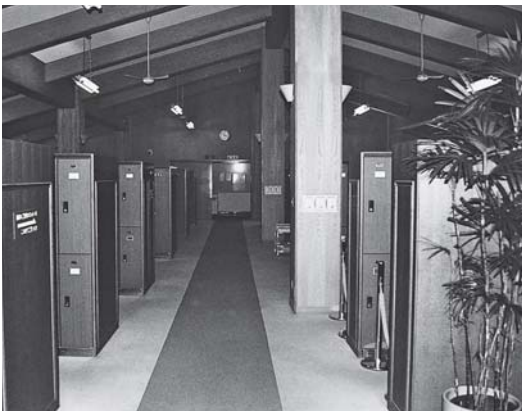
▲16番から17番へのマン・ベルトコンベア完成



大型台風 和歌山上陸、当倶楽部の被害多し

1991 (平成3年)

- 1月 公益事業として芦屋の学校クラブ活動に400万円。
- 1月 新型送迎バス登場。車両、運行共に阪急観光バスに委託
- 1月 ロッカー室改善特別委員会設置。
- 3月 15番茶店建て替え成る。(14番グリーンオーバーに新築)
- 5月 第67回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 6月 芦屋川クリーン作戦に参加、協力する。
- 6月 吉村理事長引退、新理事長に平田豊氏が就任。
- 6月 40周年記念準備特別委員会発足。
- 6月 12番ホール改造なる。12番ホールの急坂は、漸く、その抜本的な改修が終った。
- 7月 雲仙普賢岳災害に100万円寄付。
- 8月 第4回芦屋市民ゴルフ大会開催。
- 8月 ロッカー室での靴みがき廃止。
- 8月 社会保険庁より政府管掌健康保険及び厚生年金保険事業について受彰。
- 8月 新旧理事長より植木寄贈。1番ホール右のもくれんの木。
- 8月 別館屋根葺きかえ。総工費300万円。
- 10月 芦屋市制50周年祝賀に金500万円を寄付。
- 10月 第68回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。



男子用 新ロッカールーム



新装なったフロント



コンピューター化、更に進む

美しく整備された現在の練習場風景
打席数26打席、奥行き約230ヤード





平成4年10月、開場40周年記念 招待競技の日に挨拶する平田理事長



来賓を玄関で出迎える役員達



食堂担当のアラスカが当日用意した見事な氷柱



阪神大震災により、12番左に大地滑り発生

1992年～2002年 試練の50年

- 第4代理事長 村野辰雄氏逝去
- フロント、事務所改修
- 名誉社員西川道男氏逝去
- 新駐車場完成
- 阪神淡路大震災発生 コース・ハウス被災
大原武元名誉書記逝去
- 倶楽部は1月17日～3月末迄クローズ
- 2万人を超える被災者に浴場・食堂を開放
- 第一次経営強化委員会発足
- 井上支配人急逝、菊池新支配人就任
- 市民チャリティゴルフ大会始まる
- 幼稚園児1,000人来場
- 平田理事長、KGU 理事長に選出される
- 関西ジュニア選手権開催される
- 井戸掘削成功 日/100tの水資源確保
- 新婦人メンバー募集 62名新入社
- 乗用カート施設完成、別館の新築落成
- 平石プロ 久光製薬 KBC オーガスタ優勝
- 石井名誉プロ スポーツ功労者表彰

1992年～2002年 試練の50年

痛哭の阪神淡路大震災



平成3年6月、第5代吉村理事長が退任し、第6代理事長に平田豊氏が選任され「楽しくプレーの出来るコース、そして戦略性に富んだコース作り」という理念を継承された。

翌年の平成4年から始まったこの10年間は、戦後日本経済の大きな変革期に入り、大手金融機関の破綻や年功序列、終身雇用制度の崩壊といった時代背景を受けて、ゴルフ界もいよいよゴルフブーム崩壊の時代へ入っていった。そして当倶楽部の長い歴史の中でも、とりわけ困難なまた忘れ得ぬ出来事の多かった歳月となった。

その中にあっても、前半の3年間は、バブル経済崩壊の余波が打ち続く中、比較的経営は安定し懸案であった新駐車場が完成、フロント事務関係施設が改善される等、順調に推移していった。

しかしながら、平成7年1月17日、6,400名余りの尊い犠牲者を出した阪神淡路大震災発生以後、被災したコースやハウスの修復に多額の出費を余儀なくされ、財政面にも陰りを生じてきた。又、来場者数も長びく日本経済の低迷や人口の構造的変化の影響を受けて年々減少し、平成12年には総来場者数26,253名となり、昭和63年度のビジター来場者の26,656名にも及ばなかった。倶楽部としてもその回復に向けて懸命の努力を傾注してきたが、阪神淡路大震災以降の7年間は、財政の立て直しのため収支の縮小均衡を計りながら、その一方において21世紀という大きな節目を迎え、加えて少子高齢化の時代に適合した新たな設備投資も同時に行うという、困難な課題に取り組んでいかねばならなかった。

平成7年3月には、いち早く経営全般の見直しを計るべく、第一次経営強化特別委員会が発足し、その答申を受けて更に引き続き、平成11年5月迄第二次経営強化特別委員会が、第一次委員会の提言に基づいてより具体的な解決策を模索した。担当委員は毎月会合を開いて、真剣に討議を重ねた末に、新規に婦人社員を若干名募集し、その資金をもって財政の健全化と、平成14年8月に迎える開場50周年記念事業として最小限必要な設備の充実改善を計ることになった。

そして新たな旅立ち

平成11年、50周年記念事業としての諸計画が遂に実行に移され、将来のグリーンベント化に必要な、水資源確保のための井戸掘削に成功し、平成13年春には待望の乗用カートが導入され、高齢化したメンバーからそのゴルフプレイヤーとしての寿命が延びたことを喜ばれた。同年6月、平田理事長は6期目の就任を決意され、JGA副会長、KGU理事長の職責と併せて、日本ゴルフ界のトップリーダーの一人となられ、我が芦屋カンツリー倶楽部の名声を全国に高める一因となった。そして平成13年暮れの12月15日には老朽化した別館が、21世紀にふさわしい美しさを取り戻し、より機能的で快適な倶楽部ライフが約束されるようになった。

それは文字通り、多くのメンバーの叡知と努力の賜であり、開場以来50周年を迎えた名門芦屋カンツリー倶楽部の伝統が見事に開花し結実した証でもあった。

しかしながら、視点を転ずるとき、日本のゴルフが六甲の地に産声を上げて以来100年、21世紀を迎えた今日、社会の変化と共にゴルフ界においてもバブル崩壊の影響が顕在化し、我々を取り巻く環境は、大きくその体質の転換を迫られる状況になった。

即ち当倶楽部もまた、行政改革に伴う社団法人としての在り方について、地域社会との共存、その公益性の充実、言い換えれば社会的貢献度が厳しく問われるようになった。

顧みるとバブル景気に日本国中が酔い痴れていた頃、「接待ゴルフ」という言葉が生まれ、純粋なスポーツとしてのゴルフのイメージが、「仕事の一部、営業の延長」というイメージに置き換えられてしまった。戦後間もなく我々の先輩達が夢を描いて、芦屋の山にゴルフ場をとブルドーザーもダンプカーもなしに、全てを手造りされた時代とは異なり、この時期には大手ゼネコンによる数百億円規模の大プロジェクトとして、ゴルフ場は格好の投資対象へと変貌していった。しかしバブル崩壊後は多くのゴルフ場が打撃を受け倒産へと追いやられた。

2001年、不況の最中で、日本ゴルフ界は神戸に産声を上げて以来100周年を迎えたが、我々は今一度当倶楽部創設に携わった諸先輩の、あの純粋な情熱と行動の原点に立ち返り、今後は瀬戸内海国立公園に立地する名門倶楽部として、家庭的で温かいメンバーシップの特色ある伝統を守りつつ、地域社会との共栄を計り、六甲の豊かな自然環境と如何に調和し共生していくのか、新たな旅立ちへの決意と努力を怠ってはならない。

1992 (平成4年)

1月 ハウス前、小山取崩し申請。

1月 男子ロッカー室新しくオープン。

1月 公益事業の寄付500万円に。平成3年度の公益事業のメインとなる芦屋市への学校体育及び社会体育振興に寄与するための寄付は、前年度より総額で約100万円の増額で、5,152,503円となった。

1月 社員の生前贈与について、死亡后相続手続きと同じとする。

4月28日 元理事安田 博氏死去67歳。ハンディキャップ委員長、インター代表選手。

5月 婦人ロッカー、浴室完工。総工費1億2,000万円。

5月 暴力排除センターへ寄付。

5月 第69回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。

8月 開場40周年記念競技開催。8月7、8、9の3日間で約500名参加。

8月 第5回芦屋市民ゴルフ大会。

8月 平石プロ、サッポロビール千葉オープンで優勝。

8月 ジュニア・ゴルフスクール開かれる。シングルプレーヤーを目指す、8月24日39名の若者が参加した。

8月 40周年記念行事に合わせるように次の様な改善、改修を行った。

①男子ロッカー室の改造と小物入れの新設

②女子ロッカー室、浴室の大改造

③ボイラー炉過装置の改修、煙突の修理

④マスター室前の男子トイレの全面的改造

⑤ゴルフ橋より門までの道路補修、側溝修理、舗装、ガードレール交換

⑥別館の屋根葺替

⑦食堂横の男子・女子トイレの改善

⑧歩経路のチップ舗装修理、窓枠のペンキ塗り替え

⑨カーテンの交換、ジュウタンの修理、食堂椅子の張替え

⑩男子浴室の簾の張替え、脱衣棚の改善

9月 40周年記念推進委員会発足。

9月 樋口昌弘氏、コースレコード。9月6日キャプテン杯予選競技に於いて、アウト36、イン35、計71の新コースレコードを達成。

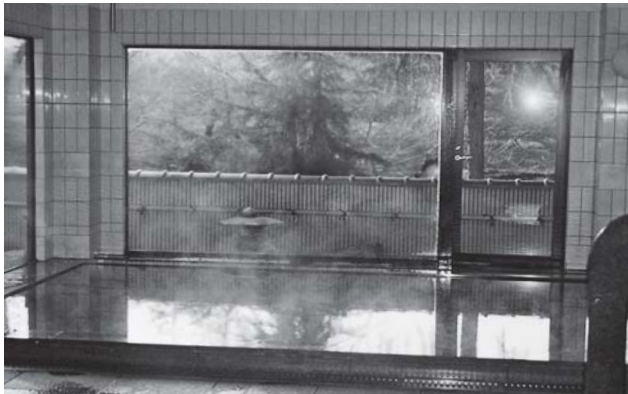
9月6日 西村熊市名誉社員、死去。元発起人、キャプテン、倶楽部チャンピオン、92歳。

10月 第70回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。

10月 開場40周年記念招待競技開催。役員・報道の部。

10月 関西グランドシニア選手権。10月2日、138人が参加した。

12月16日 村野辰男第4代理事長死去85歳。



改装なった新婦人浴室と化粧室



1993 (平成5年)

- 1月 芦屋市体育振興への寄付は10年となる。今年は体育振興のため700万円贈る。
- 5月 900名の市立幼稚園児来場。
- 5月 フロント事務所廻り改修工事完成。
- 5月 92年12月下旬より閑散な時期に4ヶ月をかけて改造計画が完了。
- ①フロント、事務所周辺、キャディバッグ預り所が一新された。
 - ②玄関のスペースを従来より大きく取っていたことが幸いし、むしろ今までよずっと広く使えるようになった。
 - ③また、事務室の拡張・改善を図ることもできた。
 - ④費用総額84,197千円 施工者は、(株)くろがねでハウス委員会で推進した。
- 6月 名誉社員西川道男氏死去。
- 6月9日 久保三郎氏死去。特別社員、元支配人(2代目)
- 6月 第71回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 6月 インター代表選手D地区予選で健闘(平成5年度)於宝塚。
- 6月 平成5年~6年度 役員改選。平田 豊氏再選、キャプテン井上浩三郎、名誉書記板持吉雄、名誉会計鈴木重孝の各氏に決まる。
- 6月 吉村清三・第5代理事長名誉社員に推挙。
- 8月 市民ゴルフ大会、台風による悪天候のためハーフで打切。なお今年から夏冬の2回開催となる。
- 10月 新駐車場2年越しの懸案、着工。
- ①92年7月この工事は、環境公益委員会で永年の重要テーマであった岩石の崩落の危険性の大きいハウス前山を取崩し、そのあとを駐車場として利用し倶楽部施設の充実をめざし、2年余に渉る開発許可申請期間を経て工事に着手された。
 - ②93年4月予想をはるかに越えた岩石の出現により難工事を余儀なくされが、整地工事の終了間近にハウス委員会が新駐車場完成へ参画する。
 - ③駐車場区画割りは、変形な地形の中で、出来るだけ駐車台数を多く設けたいとの考えからスタートし、メイン道路で8メートル、その他の通路で6メートルの幅員を確保した。
 - ④当初は、200台位を目処としての計画ではあったが、無理のない程度で、そして将来不足を生まない範囲として186台の駐車台数とする。
 - ⑤一番大事な車の流れ、動線の決定は一方通行を基本とする合意が既にされていたので、それに添った案を採用し、安全を第一に考えた上でいかに便利に利用が出来るかが最大の考慮点であった。
 - ⑥なお、周辺から駐車場が顕わに見えて環境面或いはコースから見た美観上からも種々問題が有ることは十分承知しており、法面の芝張り、芝種子の吹き付け、生け垣風の植樹(主にアベリヤ)或いは、杉などの背の高くなる樹木の植樹など既に実施済みであり、今後も実態に応じて対処して行く。
 - ⑦最後に、本駐車場建設の必要性を早くから提案し、実状をよく把握のうえ、監督官庁への許可申請をいち早く実施し、本工事着工の礎を確立するなどのご努力を続けてこられた歴代の環境公益委員会のご卓見に心より敬意を表したい。
- 10月 第72回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。



旧駐車場風景（左上の小山を取り崩す）予想外に岩石多く難工事となった



新駐車場工事開始



完成した玄関前



フロント廻りの改装なる



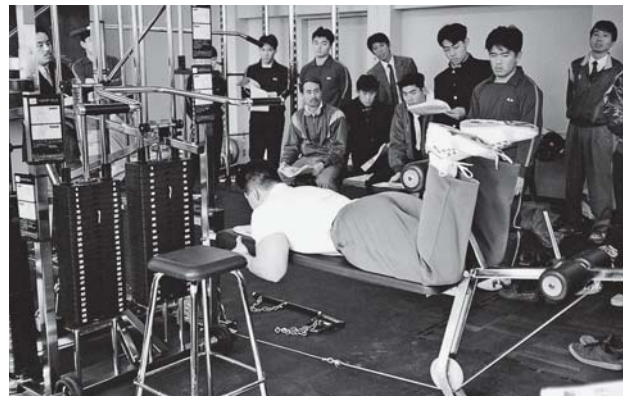
新駐車場



表千家に伝わった400年前の石灯籠

1994 (平成6年)

- 1月 2回目の芦屋市民ゴルフ大会行う。
- 1月 小国武彦氏より石灯籠の寄贈があり、南玄関前に設置。
- 3月 体育振興のため700万円の体育器具備品を芦屋市に寄贈。
- 4月 この頃から新駐車場建設に関連した、4番土置場への残土処理方法について、市民環境団体、市議会方面の批判が相次ぎ、監督官庁より改善指導を受ける。
- 5月 第73回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 7月 日本女子シニア選手権、西日本予選。JGA主催のこの大会は参加207名で熱戦がくりひろげられた。
- 7月 平成6年度 インタークラブ代表活躍。
- 8月5、6、7日 第42回開場記念競技大会開催。
- 9月 平石プロ、山口オープン優勝。於宇部。
- 9月 記録破りの猛暑つづく。6月(109mm)、7月(26mm)の降水量。地球規模の異常現象により、121年に1度の異常渇水となった。
- 11月 第74回対西宮役員懇親競技(於芦屋)西宮勝ち。
- 12月 関西高校、中学選手権大会。



市立芦屋高校への体育器具の寄贈



日本女子シニアゴルフ選手権西日本地区予選の日



関西高校、中学選手権大会

1995 (平成 7 年)

1月 阪神淡路大震災発生。

1月17日未明、午前5時46分、兵庫県南部に起こったマグニチュード7の大地震の衝撃で、五月橋断層に連なる当倶楽部のコースは、亀裂、土砂崩れの被害を受けた。

就中、12番フェアウェイ左側は、カート道諸共14番フェアウェイに崩れ落ち又13番ティ前右横と手前グリーン右側も崩壊した。

早速、修復に入ったが、12番フェアウェイの円弧崩れの箇所の中に500m³の大粘土層が発見され、除去に4トン車170台を必要とする予想外の工事になったがフロン籠を設置し、以前よりはフェアウェイを拡げて2月中に工事は完了した。

完全に土留めを行い、再発防止するためには、H型鋼やパイプパイルの杭打ちとか、串刺しの方法があるが、地形上、大型機械の持ち込みが不可能であり、豪雨や、大きな余震で、新しく円弧すべりが起ることも可能性があった。

尚、ホール別の被害状況、処置等略図を以て掲載する予定であったが、紙面の都合上割愛した。

14番のカート道左廻りを右廻りにする工事も、この際実行した。

その他撒水栓、電柵の点検、防虫、施肥等のコース養生についても遺漏なきを期し、再開の準備を完了。コース閉鎖が芝生に好結果を及ぼすことを祈念した。

コース修復の全容をつかむ

阪神淡路大震災

コースクローズの間、委員長、副委員長は夫々、単独に全コースを廻ってコース修復の全貌を把握。4月2日の委員会でも十分な説明を行う。

一致した意見は、あれだけの激震で並々ならぬ被害を蒙ったにも拘らず、よく此処迄回復したものである。

グリーンを初めとした随所にある亀裂、段差の補修、崩壊の敷力所の復旧、粘土層の除去等、その成果は素晴らしいものがあった。

ハウス委員会の報告

- 1) 婦人浴場壁亀裂、タイル剥落等あり、壁亀裂箇所が旧建物との縫目部分であって、防水損傷の恐れがあり、その場合は大掛りな補修が必要となる。
- 2) 事務所、小会議室等壁亀裂。先年の改造工事部分であり亀裂が外部壁面に及んでおり補強工事を要す。
- 3) マスター室～小会議室雨漏り。屋根基盤に亀裂ができ、防水の断絶も起きているので早急な補修が必要。
- 4) 玄関南側の灯籠が倒壊し、修復については検討中。北側の分は倒れたが修復済み。
- 6) キャディ浴室は壁亀裂、タイル剥落、給水漏水等あり修理工事必要。
- 7) ガラス破損は、玄関東側1枚、浴場脱衣室 西側2枚で修理済み。
- 8) 浴場の提供について
1月25日より、1月は休みなしで2、3月は月曜は設備の整備等名目で休みとし、3月15日頃で終了するとの

予定であったが、市内のライフラインの回復遅く、3月末までの浴場提供となった。

利用者数は、合計58日間で、21,262名(うち女性が12,677 約60%)でピーク時700人近い利用者数(土、日曜日)となったが、利用者の半数近くは社員及びそのご家族の方であった。又、女性利用者が多いとの予想から、男子用浴場を女性用に、婦人浴場を男性用にと、通常の逆の使用とし成功した。

9) 送迎バスについて

4月1日の再開と同時に運行を始めたが、被災地(者)感情を推量し又、交通渋滞による時間遅れが予想できるので、当分の間は阪神芦屋川までの往運行のみとする。

10) その他

- ①浴場洗い場の間仕切り設置を先に決定していたが経費節減が急務な折から、当分延期とする。
- ②男子ロッカー・ルームの冷房化について現状では必要ないものと認める。
- ③女子アルバイトキャディ室の移転については、キャディ委員会よりの具体的な話があってから検討することとする。
- ④事務局より要請のあった西側(10番コース横)汚水浄化槽の補修工事(見積320万円)については監督官庁の指示事項でもあり適当な時期を見て実施を検討。

1月～3月末まで震災のためクローズ。

4月1日より再開と決定。

1月17日 大原武名誉社員、死去100才。

3月17日 井上一郎支配人、急逝71才。

3月 第一次経営強化特別委員会設置。

(詳細はP236～237参照)

4月 菊池満昭氏、新支配人として就任。

5月 北村芦屋市長より、震災時の支援協力に対する礼状を頂く。

5月 平成7年～8年度役員改選。平田豊、理事長3選。
キャプテン・井上浩三郎、名誉書記・板持吉雄、名誉会計・鈴木重孝。

6月18日 元理事、元名誉会計・山中隆文氏逝去。

7月 関西ゴルフ連盟の呼び掛けで大震災への義援金募集始まる。

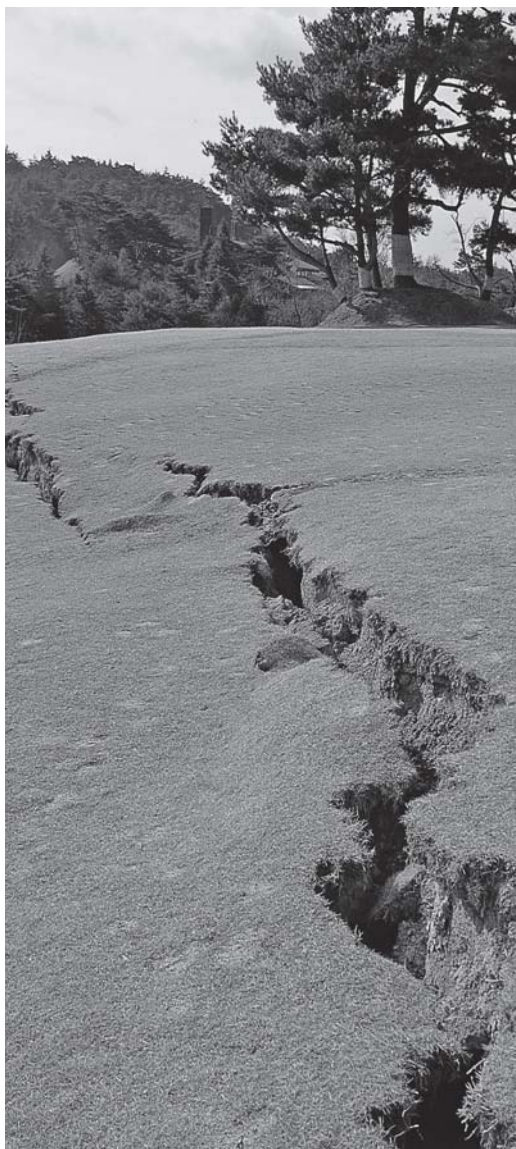
7月 第75回対西宮役員懇親競技(於西宮)芦屋勝ち。

8月4、5、6日 第43回開場記念競技会開く。

10月 第76回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。

10月 平石プロABCフィリップモーリス杯で7位。

10月 平石プロ近畿オープンで優勝。



被災者に開放された大浴場と食堂風景、2万人以上の人々が利用された



玄関フロアに男子ロッカールームの長椅子を並べ入浴者を労り、延2万人の被災者のために奉仕活動を行った日々



1月17日当日の昼、大震災直後の芦有道路の状況、辛うじて車一台分の隙間を通して倶楽部迄辿りついた



アウトコースを北東方面に走った大震災の跡（上から7番・7番・6番フェアウェイ）



12番ホール左側、地滑り修復工事が急ピッチで進む

1996 (平成8年)

5月 第77回対西宮役員懇親競技(於西宮) 芦屋勝ち。

6月 契約社員制度の導入。(6月1日より11名と契約)

7月 平成8年度インタークラブ代表活躍。

7月 関西ジュニアゴルフ選手権へ会場提供。

8月 44回開場記念競技会開催。

8月21日 平石プロ、関西オープン初優勝

9月 六甲山の眺望図、食堂に設置す。

10月 第78回対西宮役員懇親競技(於芦屋) 西宮勝ち。

11月19日 猪侵入。4、12番フェアウェイ被害受ける。



猪侵入、狩友会の人々によって捕らえられる

第22回関西ジュニアゴルフ選手権競



1997 (平成9年)

- 1月 JGAの新Hcp認定作業、終了。
- 3月2日 木村光利氏、死去。編集委員。10数年に亘り
会誌表紙への写真提供で貢献。
- 3月 芦屋市へ卓球台を10台寄贈。
- 3月 安全運転管理の業績に対して、警察本部長表彰
受ける。
- 3月 キャディ・コース管理用に無線機を配備。
- 4月 みどりの日にメンバー全員に鉢植え配る。
- 4月 携帯無線機設置(キャディ・コース用)。
- 5月 貸勘定の自動引き落とし制度実施。
- 5月 第79回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 5月 第2回芦屋市民チャリティーゴルフ大会開催。
- 6月 平成9年~10年度役員改選。平田理事長4選。
キャプテン・米田実、名誉書記・星島三平、名誉会
計・平野一雄。
- 8月1、2、3日 第45回開場記念競技大会開催。
- 8月 新送迎バス2台購入。運行は業者委託。
- 9月 4番北側のストックヤードに9月11日、焼却炉が完
成。焼却炉の火入れ式。
 - ①この焼却炉は、自然に配慮して倶楽部から排出
される刈芝それに剪定した木の枝や松食虫に
よって枯れた松の木などの焼却に利用される。
 - ②稼働するにあたっては、大気汚染、環境等の配

慮、消防法等について、関係方面の許認可は
すべてクリアーした。

- 9月 夏の会誌からルール解説欄を設ける。
- 9月 インタークラブ代表(樋口、脇、山口、野田、板垣、
横山、平野、平井)
- 10月 平井忠夫氏はインタークラブ兵庫東地区予選でメ
ダリストに。
- 10月 井戸堀削500mに成功
(井戸堀削工事に関する経過報告)
 - ①第1滞留ゾーン(300m)から第3滞留ゾーン
(480m)によって使用できる水量は異なるが、
第3滞留ゾーンまで掘削すれば半永久的に活用
可能である。
 - ②コースに使用するには問題はないが生活用水と
しては濾過を要する。
 - ③水温は、約20℃。
 - ④揚水設備費用は約500万円必要。
 - ⑤掘削工事は10月中旬完了。
 - ⑥一日100トンの汲み出し量が見込める井戸掘削
工事が成功した。水質検査の結果は良好でフッ
素を除去することによって飲料可能。
- 10月 第3回市民チャリティーゴルフ大会、100万円寄贈。
- 10月 第80回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 10月 第100回中近シニア記念大会 於西宮。
- 11月 国際ソロプチミスト芦屋チャリティーコンサート開催。
- 11月 第2次経営強化特別委員会発足。

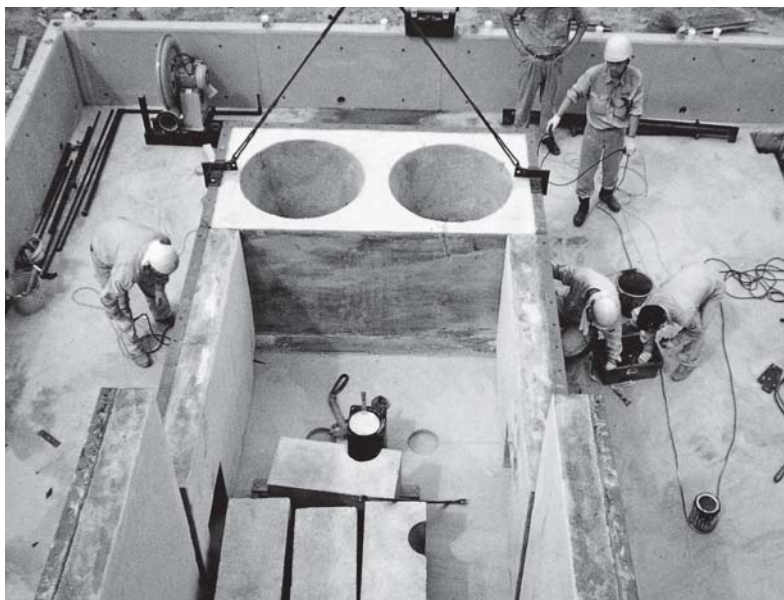
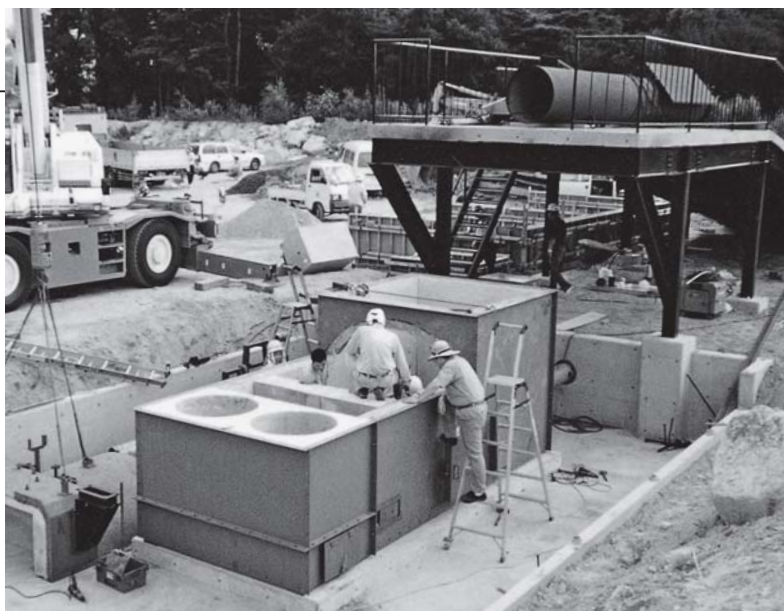
(詳細はP238~239参照)



▲携帯無線設置

新クラブバス登場▶





焼却炉の建設工事（4番ホール北のストックヤードにて）

●倶楽部の歴史●



井戸掘削工事 深度500m 日/100t成功
(8番右グリーン上)

1998(平成10年)

- 3月 芦屋市へ固定式自転車6台寄贈。
- 4月 最新のゴルフ場トータルシステムに切替え、競技部門を中心に合理化。経理財務部門でも新システムにより一段と効率化進む。
- 5月 衣類乾燥機、食堂出入口の横に設置。
- 5月 第81回対西宮役員懇親競技(於西宮)芦屋勝ち。
- 5月 平成10年度第4回市民チャリティゴルフ大会開かれる。
- 5月 ロッカーフィー、社費自動引落とし始まる。
- 6月 堀口正彦氏、KGUアンダーハンディキャップ競技会で優勝。
- 8月7、8、9日 第46回開場記念競技会、開催。
- 8月 芦屋市民ゴルフ大会、参加133名。
- 9月11日 藤本一郎氏死去。元理事。
- 10月 第82回対西宮役員懇親競技(於芦屋)芦屋勝ち。
- 10月 今年2回目の第5回市民チャリティゴルフ大会に金一封寄贈。
- 11月 インタークラブ兵庫県地区予選、於猪名川国際。
- 11月 市内9幼稚園の園児に開放。
- 11月 第2次経営強化委員会報告書提出。

(詳細はP238～239参照)



チャリティゴルフ大会

1999 (平成11年)

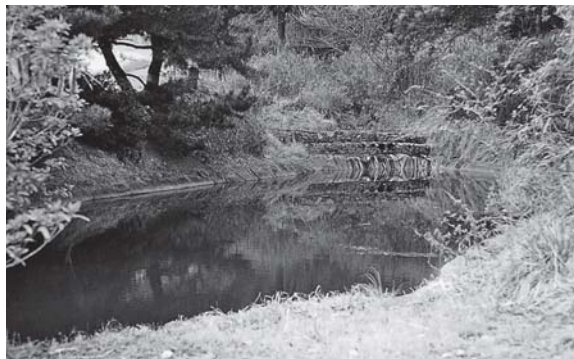
- 1月8日 種田憲次氏、死去。元理事。
- 1月28日 杉浦廣吉氏、死去。元理事。
- 2月15日 平田豊氏、KGU理事長に選出される。同時に日本ゴルフ協会副理事長にも選出される。
- 3月23日 芦屋市にニュースポーツ用器具贈る。
- 4月1日 社費及び名義書換え料改定する。
- 4月15日 水野健次郎氏、死去。元理事。
- 5月26日 平成11～12年度役員改選行われる。
- 5月17日 芦屋の幼稚園児来場。
- 5月28日 第6回芦屋市民チャリティーゴルフ大会開催。
- 5月20日 第83回対西宮役員懇親競技(於西宮) 芦屋勝ち。
- 6月9日 平成11年～12年度役員改選、平田豊理事長5選、キャプテン・米田実、名誉書記・星島三平、名誉会計・平野一雄。
- 7月10日 新規婦人社員募集一週間で確定、62名。
- 7月21日 倶楽部細則第4条の暫定的取扱い。
(詳細はP240～242参照)
- 8月6日 第47回開場記念競技会開催。
- 8月27日 芦屋市民ゴルフ大会。参加者136名。
- 8月25日 兵庫県主催、ジュニアゴルフスクール開かれる。
- 9月 「ゴルフ俳句」を5番、10番、15番の茶店と浴場に掲額。
- 9月 松沢勉レッスンプロに対し練習場一部の使用を許可する。
- 9月 台湾、トルコ大地震に従業員ら義援金を贈る。
- 9月5日 平石プロ、KGU主催最後の第65回関西オープンに優勝、平田理事長より優勝カップ受ける。
- 9月10日 関西グランドシニアゴルフ選手権開催する。
- 9月22日 高橋庸次氏、死去。初代クラブチャンピオン、元理事、競技・グリーン委員長、インター代表選手。
- 9月 50周年記念事業推進委員会発足。総務、カート、別館の3委員会編成となる。
(詳細はP240～242参照)
- 10月18日 芦屋業平ライオンズクラブと西宮甲子園ライオンズクラブは、11月18日、ラオスの学校に資金を寄贈のため、チャリティーゴルフ大会開く。
- 10月29日 第7回市民チャリティーゴルフ大会開催。
- 11月5日 第84回対西宮役員懇親競技(於芦屋) 芦屋勝ち。
- 11月5日 恒例のレクリエーション幼稚園児来場。



平田KGU理事長からトロフィーを受ける平石プロ

2000 (平成12年)

- 3月4日 東お多福山、山頂付近で火事。
- 3月29日 芦屋市へ300万円相当の体育機器贈る。今年で18年目となる。
- 4月12日 評議員懇親競技会が初めて開催された。
- 4月 国内ゴルフ場数が2,300を突破。ゴルフ場にも民事再生法による倒産が増える。
- 4月26日 新たに芦屋市民ゴルフデーが企画され、年間9回とすることになった。
- 5月15日 幼稚園と保育所の子供達のため、恒例のレクリエーションが行われ、10園の児童とみどり学級の生徒、合計900人が来場した。
- 5月26日 第8回芦屋市民チャリティーゴルフ大会が開催され、81名参加。当倶楽部から8月6日の夏祭に金一封を贈った。
- 6月10日 第85回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮が優勝。
- 8月4、5、6日 第48回開場記念競技開催。
- 8月18日 芦屋市民ゴルフ大会が市の教育委員会、体育協会主催で行われ、74名の市民が参加した。
- 9月19日 ビジター料金冬期優遇措置決まる。(5,000円引き) (詳細はP241～242参照)
- 9月13日 六甲を美しくする会に11名の従業員が参加し、国立公園の美化に協力。
- 10月25日 第96回対西宮役員懇親競技(於芦屋)雨、濃霧のため引き分け。
- 10月27日 第9回芦屋市民チャリティーゴルフ大会開催。
- 12月20日 平成13年度より理事長杯に、グランドシニア競技を新たに設けることに決定。



▲15番の貯水池拡充 (500t)



◀市内幼稚園児900人来場

2001 (平成13年)

- 2月24日 第一回委員会対抗懇親競技開催。
- 3月10日 カート庫・カート道路の竣工式と別館改築の地鎮祭が執行される。
- 3月17日 電磁誘導式乗用カート初稼働。セルフ・プレーも導入。
- 3月27日 芦屋市へ250万円の体育機器を贈る。
- 3月 11番、17番ホールの上に防球ネット設置。
- 4月21日 業務委員会設定し、経営基盤の強化を計る。(詳細はP243参照)
- 5月14日 芦屋市内幼稚園児、10園、約980名来場。第1回グランドゴルフ大会練習場で開催。
- 5月23日 第87回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 5月29日 第10回芦屋市民チャリティーゴルフ大会。
- 5月30日 第49回総会開催。平田豊氏6選される。キャプテン・米田実、名誉書記・星島三平、名誉会計・山本信孝の各氏に決まる。
- 6月28日 芦屋市の水道水源保全作戦に13名参加。
- 6月 16番特設ティ東側、13番グリーン西側の砂防工事完了。
- 7月30日 ダンロップジュニアゴルフスクール開催。
- 8月3、4、5日 第49回開場記念競技開催。
- 8月22日 芦屋市民ゴルフ大会開催。86名参加。
- 8月26日 久光製薬KBCオーガスタに於いて平石がプレーオフを制し、メジャー初優勝。
- 9月1日 社員誕生日同伴ゲスト優待制度発足。
- 9月17日 芦屋市の幼稚園児来場。併せて第2回グランドゴルフ大会開催。於練習場。
- 10月23日 第11回芦屋市民チャリティーゴルフ開催。
- 10月24日 第88回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 12月1日 時間外エントリー自動予約システム開始。



17番防球ネット



13番西側の砂防工事▶



電磁誘導式乗用カート初稼働の日



▲仮カート庫を出発する乗用カート

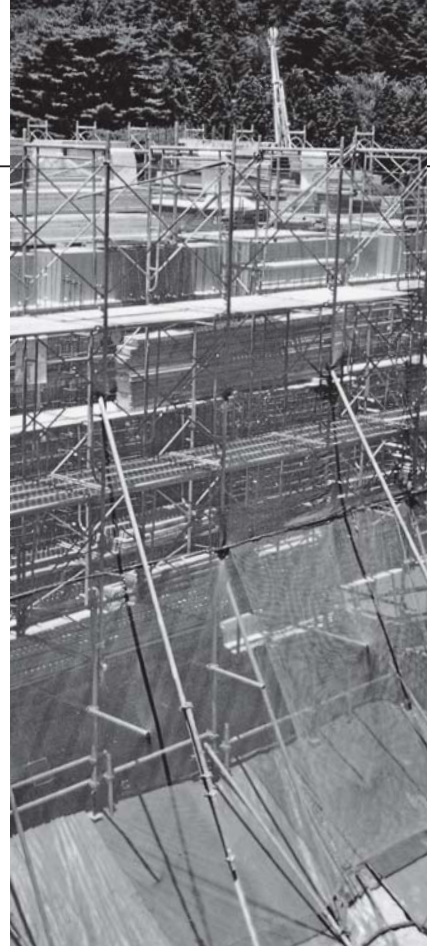
◀13番左の新カート道路



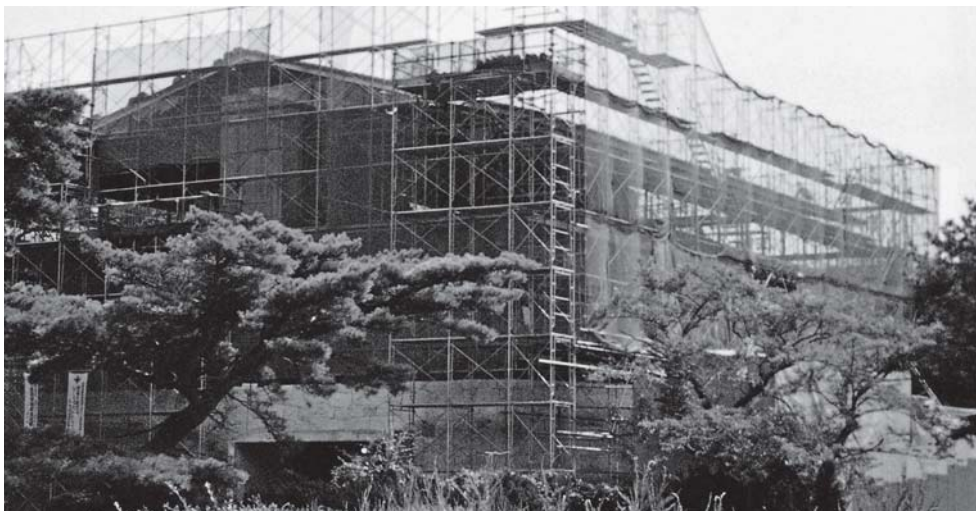
高齢者やご婦人に好評の乗用カート



長い間皆に親しまれてきた旧別館（解体前）



▲旧別館のわたりにあったマーク入りの堀



新別館の工事風景

●倶楽部の歴史●

2002 (平成14年)

- 1月4日 新別館落成式並びに追悼式典挙行される。予算額328,020千円、実績額317,954千円。その他工事関係14,237千円。
- 1月29日 石井勉夫名誉プロは、文部科学省より長嶋茂雄ら5名と共に、東京国技館で開かれた第34回日本プロスポーツ大賞授賞式の席上において、プロスポーツ界の発展に貢献したスポーツ功労者として顕彰された。
- 3月 9番ティ横、婦人用休憩室完成。
- 4月1日 PHSメッセージ通知サービス開始される。
- 5月13日 市内幼稚園児とグランドゴルフ大会にコース、練習場を開放した。
- 5月22日 第97回対西宮役員懇親競技(於西宮)西宮勝ち。
- 6月4日 西宮カントリー倶楽部と姉妹コース提携する。
- 8月2、3、4日 第50回開場記念競技開催される。



9番ティ横、婦人用休憩室

50年記念植樹実施場所

植樹場所	種目
NO.1ティ左前方	さくすべり 百日紅(5本)
NO.3ランダムに3地点	紅葉(9本)
NO.5ティ前方ラフ中央	枝垂れ桜(1本)
NO.6ティ階段横	あじさい 紫陽花(50本)、松(5本)
NO.10ティ左側前方	花みずき(10本)
NO.16ランダムに3地点	こぶし紅白(50本)
新別館横(50周年記念樹)	モチの大木(1本)
NO.11前方左	松の大木(1本)
NO.12ティ右前方	梅、桃(50本)



新別館完成



新別館
竣工式を迎えた清々しい朝
(平成14年1月4日)



新別館1階のカーポートに設けられた式場



物故社員を偲んで営まれた
追悼式
(新別館南の間に於て)



追悼の辞に聞き入る出席者一同



献花する平田理事長



記念樹に土入れの儀を行う平田理事長



米田キャプテン



星島名誉書記



記念植樹としてモチの木を



新別館オープンのテープカットを行う 平田理事長
左は竹中工務店 和田貞男常務
右は食堂担当のアラスカ 望月 豊社長

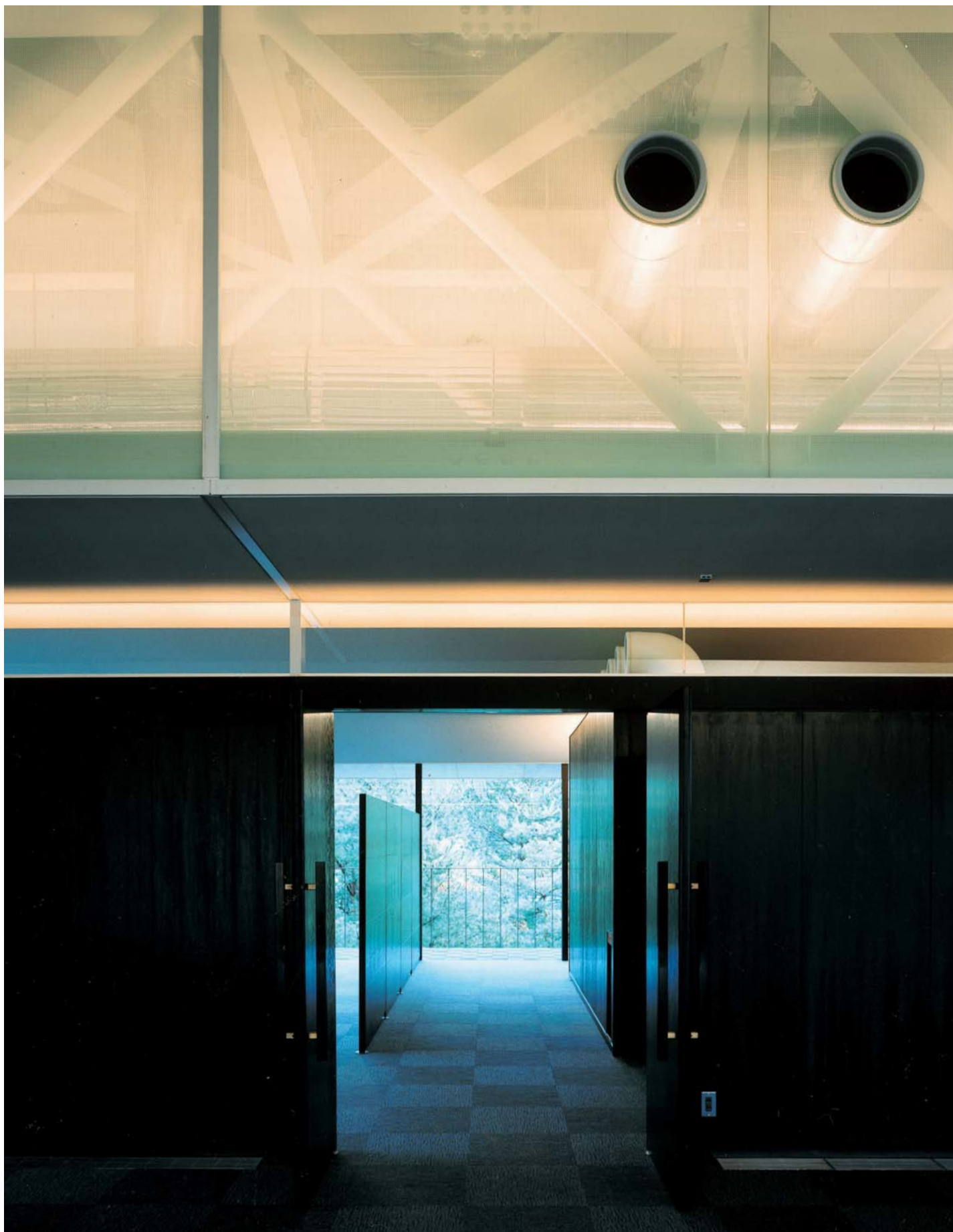


祝辞を述べる平田 豊理事長



乾杯の音頭をとる星島名誉書記





キールトラス。ガラス箱内の鋼管トラスや、エアコンの吹出口がよく見える。内部は照明が施してある。



▲コンペルームの一室で木造の壁や衝立は、本館食堂と同じ松のベニヤ板を利用し、黒褐色で統一してある。写真右上がガラス箱内のキールトラス。

新別館の概要

115頁はコース側から見た外観。最上階のバルコニーのある部分が、本館の食堂と同じ床レベルで結ばれていて、ラウンジ、コンペルームその他パントリー、トイレ等より成り立っている。外部は総ガラス張りで、内部からの眺望は素晴らしく、コースは勿論、六甲連山や瀬戸内海を遠望出来る。

この敷地は岩盤の傾斜地で、下部の二層は今回のカートシステム採用によるカート約50台の収容庫となっている。

この建物は外観写真の左側に見える巨大なコンクリート柱と、右端にある同型のコンクリート柱を上部で結ぶ、21.6米の鋼管で組み立てられたキールトラスによって支えられている。このことが外部の全面ガラス張りを可能とし、内部の無柱空間が得られた。この方型のキールトラスはガラスで包み、エアコンダクト、吹出口などを露出で見せ、照明器具をともっているのが興味深い。



本館食堂より新別館コンペルームへの通路部分。



食堂からコンペルームへの通路脇に飾られた彫刻、
富長敦也氏制作(大阪生れ)。



コンペルームのロビー。正面の壁面にはピエール・ボンコンバン(仏)の絵が寄贈された。



コンペルールの内部。18人程度の部屋。36人用の部屋もあり、パーティションを移動させれば100人のパーティも可能である。バルコニーを通してコースが見える。



コンペルール階下のカート庫を出発する乗用カート。



ロビー横にあるラウンジ。プレイのあとの寛ぎの場所である。





クラブハウス全景





コース全景・東お多福山上空より南東方向、西宮大阪を望む。



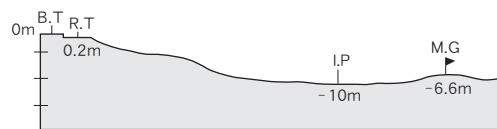
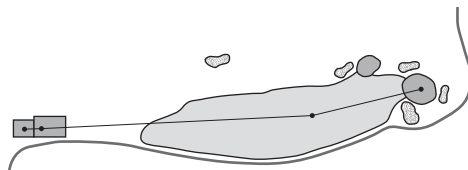


コース全景・東お多福山上空より南西方向、神戸淡路を望む(右上隅の橋は明石大橋)。



1 HOLE PAR4 (BT · M335 S304 RT · M319 S297)

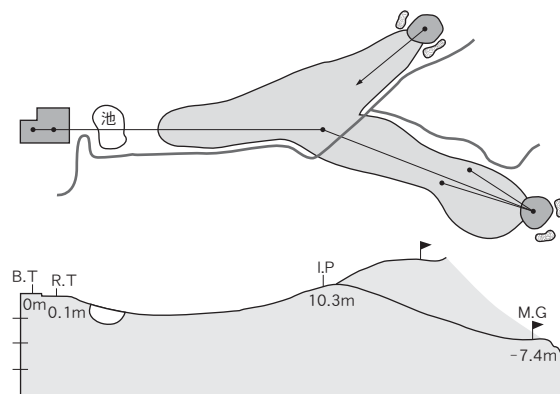
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





2 HOLE PAR4 (BT · M445 S353 RT · M430 S333)

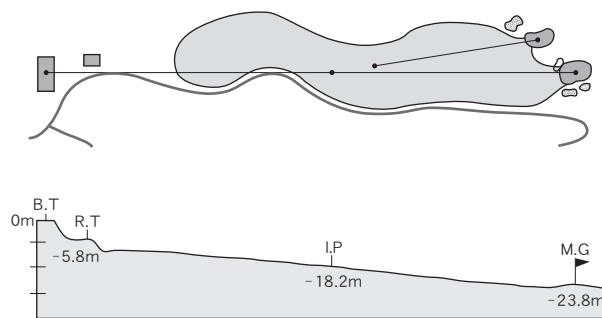
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





3 HOLE PAR4 (BT · M413 S365 RT · M374 S326)

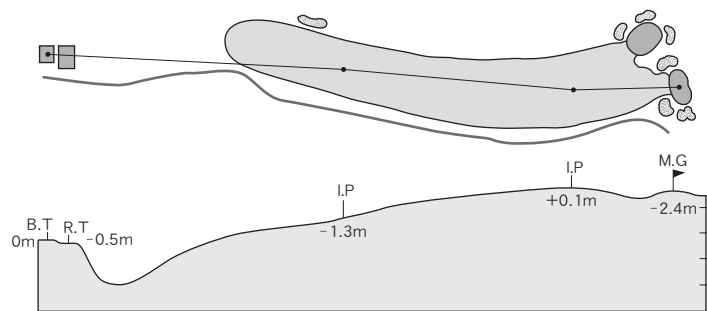
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





4 HOLE PAR5 (BT · M539 S516 RT · M533 S510)

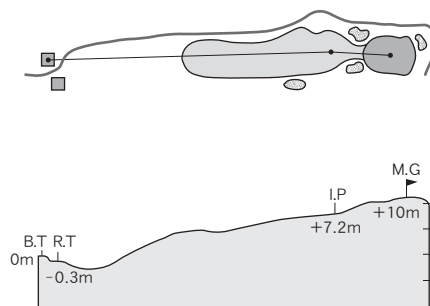
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





5 HOLE PAR4 (BT · M284 RT · M276)

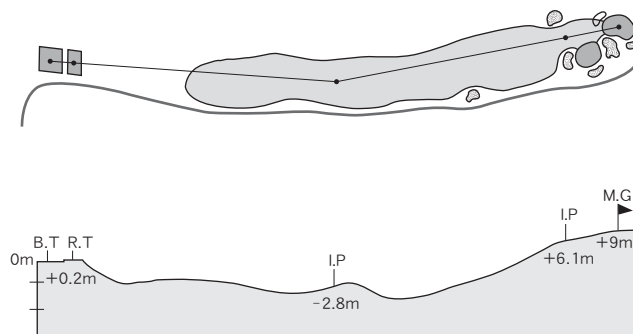
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





6 HOLE PAR5 (BT · M486 S455 RT · M477 S445)

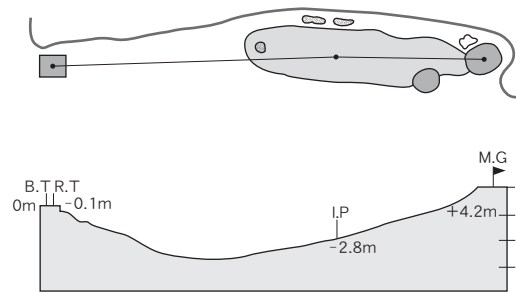
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





7 HOLE PAR4 (BT · M346 S299 RT · M337 S291)

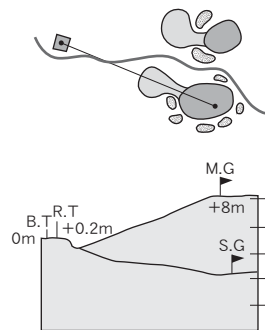
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





8 HOLE PAR3 (BT • M136 S129 RT • M124 S120)

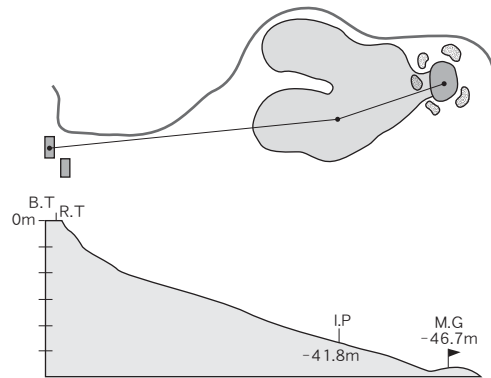
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





9 HOLE PAR4 (BT339 RT339)

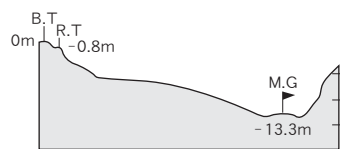
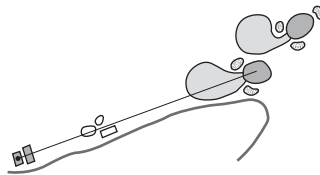
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





10 HOLE PAR3 (BT • M213 S205 RT • M202 S187)

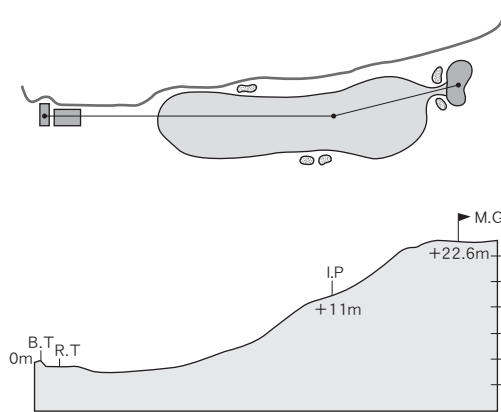
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





11 HOLE PAR4 (BT339 RT325)

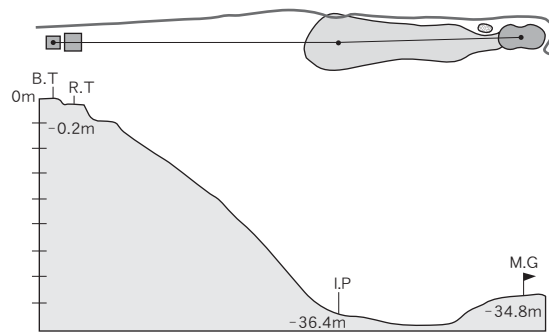
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





12 HOLE PAR4 (BT378 RT372)

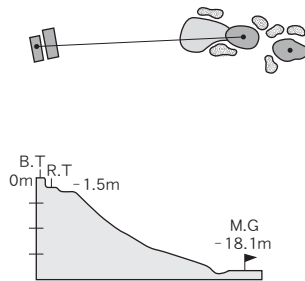
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





13 HOLE PAR3 (BT · M173 S143 RT · M162 S132)

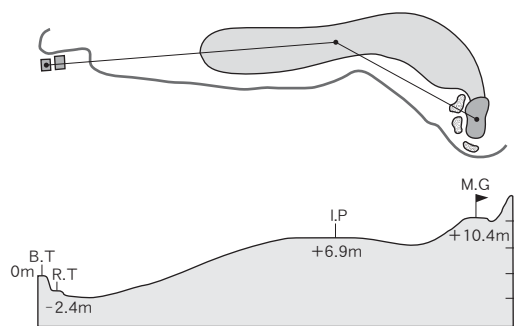
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





14 HOLE PAR4 (BT370 RT358)

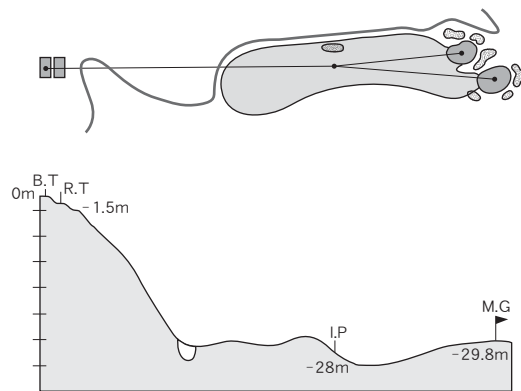
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





15 HOLE PAR4 (BT • M380 S350 RT • M365 S336)

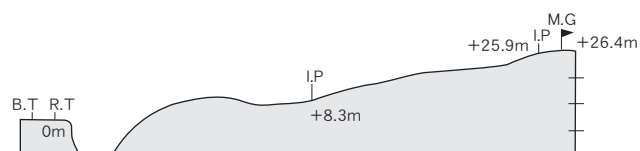
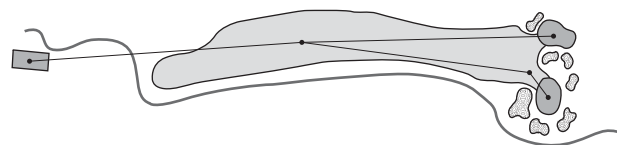
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee





16 HOLE PAR5 (BT • M460 S455 RT • M447 S444)

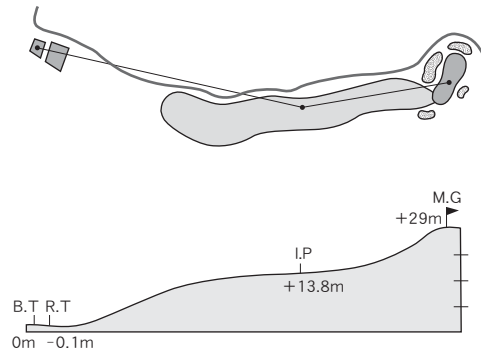
BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





17 HOLE PAR4 (BT351 RT339)

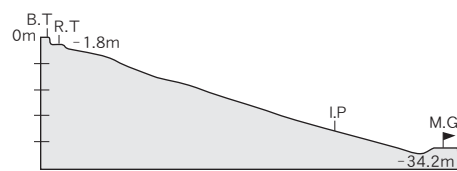
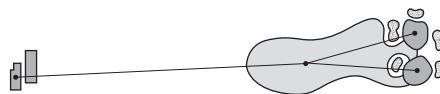
BT: Back Tee M: Main-Green S: Sub-Green RT: Regular Tee

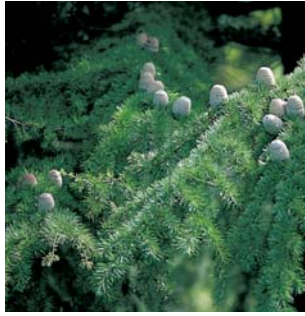




18 HOLE PAR4 (BT • M335 S332 RT • M323 S320)

BT : Back Tee M : Main-Green S : Sub-Green RT : Regular Tee





変革の時代にカンツリークラブの形と心を問う

座談会

久保 今日座談会は50年史を作る上で、これから倶楽部の中心になってゆかれる方たちに、未来を語っていただいたら、面白いんじゃないかということで企画されました。

新別館ができましたときに、理事長が挨拶の中で、司馬遼太郎の「この国のかたち」という本をひきあいに出されまして、この10年間を締めくくり、芦屋カンツリーの形がこれで整った、という意味の喜びを述べておられました。

そこで、皆様方にこれからの10年20年先のこの芦屋カンツリー倶楽部の形について、忌憚なく話し合っていたきたい。今だったら夢でありまして、5年10年先にはそれが希望となり、その先には現実のものとなるのではないのでしょうか。そういうことを、自由にご歓談いただきたいと思います。

今日は山本さんに司会をしていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山本 僭越ですけれども、司会をさせていただきます。まず、本日は競技で大変お疲れのところ、また、お正月で何やかやとお忙しいのに、時間を割いていただいて本当にありがとうございます。

どこの倶楽部でも、50年と言いますといろんな記念行事なんかがあるわけですが、過去を振り返って、先人の残した苦勞を記録として残しながら、それに感謝を申し上げるということを、まず一番に考えないといかんですが、それとともに、この節目をきっかけとしまして、未来に向かってどうあるべきかということの話も出てきてこそ、50周年記念の値打ちがあるんじゃないかと思えます。

今回、各委員会から60歳未満の方ということで、各委員長にお願いしまして、失礼ですけれども、ご案内を出させていただきました。この芦屋カンツリーの将来を背負っていただくお方ということで、自由なご発言をよろしくお願ひしく思っております。テーマはここに5つ

ほどあげておりますが、これにこだわることなく、何なりとご自由にご発言いただきたいと思います。今年50年を迎えまして、次の50年は百年史ですが、おそらく一番若い三崎さんぐらいはまだお元気で、90歳くらいで私はむかしロングホールをツアーしたよとか言っておられるかもしれません。ほかの人はちょっと危ないなと思いますが。(笑)

せっかくの機会ですから、ご提案なりご希望、何でもけっこうですからお話をさせていただきたいと思います。

山本 それでは、最初のテーマで「親しさの中に品格がある伝統のクラブライフをさらに発展するための運営姿勢及び社員モラルの向上を図る」。現在芦屋カンツリーは親しさがあるということで評判がいいと思っております。しかし、年配の方もずいぶんおられるので、60歳未満の方としては、もっとこうあるべきであるというお考えもあると思います。この機会に、先輩がおられませので、気兼ねなくご発言を願ひたいと思います。

サービスの向上を計らう

脇 第一番目に関しましては、芦屋は一応名門と言われてますが、名門であるかどうかは関係なく、ゴルフ場というのはサービス業であるという認識を、運営にあたる方々、従業員がしっかり持って、徹底的に意識改革をすることが必要ではないかと思えます。日本で名門ゴルフ場と言われる所は、だいたいゴルフ場の従業員の方々が威張ってるように見られますけれども、一方名門のホテルと言われている所はサービスが徹底していると思えます。それには理事会や事務局、食堂担当のアラスカが三者一体となって、運営向上について協力する姿勢を強化することが必要ではないかと思えます。

プライベート会の功罪

二番目にプライベート会に関してですが、芦屋は歴史のあるプライベート会がたくさんあると思えます。これはメンバーの絆が強いという芦屋の特徴でもあると思う



野田 穰三
57歳 (婦人)



加村 憲造
55歳 (グリーン)

んですが、だんだんそれが固定化してきてるので、せめて月例の日ぐらいは、いろんな人と交流を図ることも必要ではないかと思います。すなわち新旧メンバーがお互いの権利や希望を守ること大切だと思いますが、ずっとプライベート会に出席されている方の中には、20～30年ぐらいの間、同じプライベートの方だけとプレーをされている方もいらっしゃるんじゃないかと思います。

情報の提供と収集にもっと工夫を

3番目ですが、クラブ運営に携わる方は、理事者の方とか事務局とか各委員会の方だと思うんですが、そういう方々は今以上に一般社員の方との交流を深めて、運営方針なんかの広報とか、幅広い意見の収集をして、モラルの向上に向かって活動をされたならば、より良いのではないかと思います。ボランティアで引き受けて大変なんですけど、そのためには、責務を全うする気概というか、そういう気持ちを持って、一生懸命やっていただいたら、そのご本人にとってもクラブにとってもいい方向にいくのではないかと、非常に僭越な意見なんですけど、そういうふうに思います。

山本 ありがとうございます。いまのご意見につけ加えるなり、逆にこういう考え方もあるよとかいうご発言があると思いますが、是非お願いいたします。

カンツリー設立の意義を考えよう

樋口 芦屋カンツリー倶楽部は、先人の方々が作られてから、はや50年の歴史を誇り、倶楽部ライフを優先している事では関西でトップグループだと思われます。芦屋の地に最初ゴルフ場を作ろうと思った時に、ゴルフ場、テニスコート、ホテルなどの施設があり、皆が集まれる憩いの場所を作る事が目的でカンツリー倶楽部が設立されたと聞いております。第一に、ゴルフ倶楽部、と言う名前ではなく、カンツリー倶楽部、で開場された理由、この言葉の違いは、家族がいたり仲間がいたりして、営利だけを目的に運営しているゴルフ場ではなく、何か共通目的の会や、同郷の会があって、その会のメンバー間の親睦を深める為に集まれる、憩いの場所を作ることが目的だったと思います。今後カンツリー倶楽部

をさらに充実して、皆が楽しめて集まれるようにする為に、例えば一部のアメリカのカンツリークラブに導入されている制度で、夫がメンバーの場合その婦人はファミリーメンバーとなり、子供はジュニアメンバーとなる。プレー費の優遇だけではなく、こうしたカンツリークラブでは、ジュニアメンバーの為に夏休みにゴルフスクールが開催されています。家族全員で芦屋カンツリー倶楽部へ来場し友人達とプレーの後、全員で夕食を取りゴルフ談義に花を咲かして、カンツリーライフを充実する事が、次の50年につながると思われま。もちろん現状の経済状態では、なかなか前向きには検討しづらい部分もあるとは思いますが、踏み込んでやって頂きたいと思ひます。

プロショップを作ってみては

第二に、倶楽部の施設はこのところ飛躍的に良くなって来ており先輩の方々に感謝しております。さらなる施設の改善を計るとすればプロショップの充実だと思います。メンバーの方々が現在使用中のクラブ診断、相談、プレーヤーに適したクラブの販売。又、近年海外を含めて色々のゴルフ場でプレーされているお客様が多数来場されておられます。良質で記念に残るゴルフグッズを買い求め、数年後に使用したり見るのもゴルフの楽しみであります。芦屋に来場されるお客様やメンバーの皆さんが「オリジナルウェアを買って良かったね」とか「芦屋カンツリーで30枚限定のベストがありました」とかそういう事も含めて、プロショップの充実を計るべきだと思います。

アドバイザープロの必要性

第三に、トーナメントプロとクラブプロの違い。昨年劇的な優勝を遂げ2年間のシード権を取得した我が芦屋カンツリー倶楽部の平石プロ、彼はトーナメントプロだと思うんです。一方でクラブプロというのは日々のコースコンディションを見極め、天気や気温を配りながらティーマークの位置、ピンポジションを決めるなど総合的にコースを管理する事と、各コミティーの皆様と協議を重ね、より質の高い倶楽部運営を出来るクラブプロを



脇 勉
53歳 (バーメス)



金本 鶴三
52歳 (エチケツト)

意味し、そのようなプロに常勤してもらうべきだと思います。

山 本 いいご意見をありがとうございました。

フレンドリーな社風を生かそう

阪 口 こういふ席になると時として夢を追すぎて荒唐無稽な話になりがちですが……。たとえば芦屋のこのコースをチャンピオン・コースにしてワールドカップを当地で開催したいとか。(笑)しかしこのコースはどちらかと言えば、リゾートコースではないかと思えます。そういう考えの中で各ホールの、又全体のコースのグレードアップを計るべきだとは思いますが、やはりなんと言っても芦屋の最高のホールは19番ホールだと思います。先輩達が培ってこられた、フレンドリーな社風は数あるゴルフクラブの中でもトップクラスだと思っています。加えて立地条件にも利便性という点では大変恵まれていますし、先程から皆さん方誰もが言ってこられましたように、これからは新しく出来た美しいクラブハウスを使つての結婚式や披露宴、又同窓会などをするのも芦屋ならではの夢ではないでしょうか。今でもこれ程メンバーの家族の方がこられるクラブは、本当に珍しく数少ないと思います。それもゴルフはしないで、夕方から食事だけにとか……。

一度お客様を芦屋へお連れした時、食堂にハイチェア(幼児用の腰掛椅子)があるのを見ておどろいておられた事があります。たしかにゴルフ場にこういうものがあるのはとても珍しいと思います。いかに芦屋CCが家族的なゴルフ場かということを表していると思いますね。

六甲・瀬戸内海国立公園の特性を

加 村 国立公園の中にゴルフ場があるのは特殊なケースだと思うんです。また社団法人ということも、希少価値があります。国立公園の中だから自然を守らないといけないということは当然のことですし、今回カート導入にさいして、電動カートにされたこともいいことだったと思うんです。とにかく国立公園の中のゴルフ場なんだということを十分意識して、また、社団法人という立場でどういふ特徴を出していくか、常々考えていただいている

と思います。そういうところが一番大切な点じゃないでしょうか。今後はすべてに対して、公益性を重視していかなければならないと思います。

婦人社員のクラブライフの充実

野 田 今回、施設の充実を計り、その資金確保のために婦人社員が入会されました。そのご協力に報いるためにも、婦人社員に対する競技面の充実を是非図っていただきたい。これは婦人の委員の方々からの強い要望でして、一ぺんにクラブ選手権とか、そこまでは飛躍できないかとは思いますが。しかし婦人がこれだけ入られますと、見逃せない存在になるかと思しますので、是非その辺の充実を図っていただきたいと思えます。

山 本 新入会の婦人社員62名のおかげで、いろいろ良くなったと思しますので、これは大いに考えないかんとだと思えます。

上品で社交性に優れたクラブ

皆 見 私、公益・環境委員会に、入らせていただいて間がありませんで、まだ委員会として何をやるべきかということも十分わかってないんですけど、こちらのクラブに入らせていただいてずっと15年になるんです。合同事務所で、どこかのクラブに入ろうよということで、そのときの選択基準になりましたのは、皆がゴルフは下手だったので、プレーとかについては、全然どこがとはなく、しかしやっぱり名門としていくつか検討したんです。その中で上品さというか、そういう社交性を持っているのがここじゃないかということで入ったわけです。

家庭的な雰囲気感激

その当時、会員権の一番高い時期で、そのことを考えれば、私は一生絶対手放せないわけで、(笑)これから何十年にわたって、死ぬまでずっと楽しませていただきたい。そのためにはまだまだ何百分の1も、やらせていただいてないと思うんです。そういうことで入って、間違いじゃなかったなということは非常に思えます。すごくゴルフは下手なんですけれども、全く初めての方と何度も回らせていただいたときに、いやな気分になったこ



工藤 雅和
52歳 (編集)



皆見 一夫
52歳 (環境公益)

とって一度もごさいません。ほんとに楽しく過ごさせて
いただきまして、こういうクラブはあまりないと思いま
す。名門と言われる所でも、それ程でもないゴルフ場は
ずいぶんあります。ゴルフ場としての広さとかの向上よ
りは、人間と人間とのつながり、そういう社交性を、ど
んどん伸ばしていくことに力を入れていきたいと思う
んです。それがまた、社会性といいますか、市民への開放
とか、そういったことにも、つながっていくんじゃないか
なと思うんです。

山本 続いてちょっと角度を変えてのお話で、長所を
生かす、家族を大切に作る、また、今のように人間のつ
きあいの特徴というような、いろいろ貴重なご意見がご
ざいます。それ以外にもありましたら。

メンバーの高資質に感銘した

金本 お話を聞いてまして全く同感です。私はビジ
ターとしていろいろなゴルフ場へ行きますが、数の上では
芦屋よりたくさん行ってるゴルフ場もあります。この芦
屋以外では体験できない家族的な雰囲気は、ポツと1人
で来ても非常にあたたかく迎えていただけて、ゴルフだけ
じゃなく、1日いい日を過ごせたなあという思いをさせ
ていただきます。引き続きこの雰囲気が壊れることのない
ようにしていただけたら、ありがたいことだと思ってい
ます。

高齢化に伴って入社条件を40歳からにしては

澤田 今後も社団法人のゴルフ場だけ特別視する時
代が続いていくのか疑問なのですが、このような組織のゴ
ルフ場はクラブライフが大変素晴らしいと聞いておりま
す。当芦屋カンツリー倶楽部はその中でもアットホーム
な雰囲気が一番と思います。そして六甲山を背景にし
た素晴らしい景観と、手強い高麗グリーンが好きです。
私が入会させていただきましたのは35歳でしたけれど、
キャディさんに継承ですかと尋ねられまして、そうじゃ
ないですと答えましたら、珍しいですねという事でした。
なかなか芦屋の良さは友人達にはわかってもらえませ
んが、40歳も過ぎますとこのコースの味わいも、だんだ
ん解ってきました。平均年齢も65歳と聞いておりますし

……。時代に逆らいますが入会年齢を40歳に引き上げ
る事で、よりアットホームな関係が保たれるのではない
かと考えます。

山本 平均寿命も延びてますから。(笑) じゃあ、33
歳から入られた三崎さんに。

都心に近い最高の立地条件を大切に

三崎 私は一番この芦屋カンツリーがいいなと思うの
は、まず、都心から近い。これが何よりかな。いくら名
門と言われても、住んでる所から1時間も2時間もかか
るようでしたら、逆にクラブライフという運営ができない
と思うんですが、私も家から10分ぐらいで来れるんです。
そうやって考えると、関西ではこの芦屋以外なら、西宮、
宝塚、鳴尾と茨木ぐらいですか。これが先ず一つ非常に
すばらしい点だなあと、先人の方に感謝しています。

新別館の新しい活用を

実はブラジルの取引先が、息子が結婚式をするから来
いというので、ブラジルまで結婚式に行ったんですが、そ
のとき、彼が入っているメンバーコースのクラブハウス
を貸し切って結婚式の披露宴をやったんですが、それは
向こうではある意味では当たり前なんです。ロケーショ
ンもいいし、クラブハウスでは宴会ができるし、車で来
てもガレージがあるし、ホテルのかわりができるんです。
そういう形で向こうでは自然にやってる。そのときはブ
ラジル時間で8時から始めて終わったのが朝の5時で
したが、そこまで同じことは日本では無理にしても、私
は今ハウス委員会に入ってますが、非常に立派な別館も
できまして、ここからのロケーションなんて最高やと思
うんです。だから、収益だけ考えると、メンバーの子女
に限ってはたとえば結婚披露宴に使うとか、そういうこ
とも今後は1つの案として考えていってもらったらどう
かなとは思いますが、これは非常に問題があるんです。
というのは、結婚する者は若いし、酒飲んでむちゃく
ちゃしますし、時間帯とかいろいろ問題ありますけれど
も、こと海外に関してはそういうことが当然のように行
われてるので、今後ハウスのメンバーとしましては、収益
だけを考えると、そういうことも夢の一つかなと思いま



阪口 善雄
50歳（キャディ）



樋口 昌弘
49歳（ハンディキャップ）

す。新館をよりエンジョイするために、暗くなったら回りの木立にライトアップをしたらどうでしょう。遠近をつけてすると、ムードは最高になると思います。

高麗をベントにする悩み

もう一つはグリーンに関しての話なんですが、関西のゴルファーの間では「広野のラフ、茨木のキャディー、鳴尾のバンカーはむずかしい」という言い方があるらしい。「それに芦屋のグリーン、というのが入る」なんて言われました。(笑) 高麗かベントかについて賛否両論あって、たとえば今ベントを研究中ですが、高麗を残せという人もすごく多い。距離が短いから、それをベントにしたら非常にコースの難易度が下がるというので、それを残せという意見もあります。しかしお客さんを呼んでくるのだったらベントにしろという意見も、両方あるというのを聞きまして、これはどっちがいいかというのは別問題として、ただ、個人的にはお客さんを連れて来たときはベントのほうがありがたいので、根本的なグリーンの改良問題も踏まえて、これから将来的にはグリーンへのベント化は、していったほうがいいんじゃないかなと感じます。

早朝プレイも提案したい

三 崎 それから薄暮って非常にありがたいんですけども、夏の薄暮って4時からやっても非常に暑いんです。たとえばアメリカだったら早朝にやってくれるんです。7月8月9月だけは、日の出とともにハーフだけやって会社へ行ける。そういうメリットがあるのは唯一芦屋なんです。私もハーフだけやったら、8月には6時に回って、そこから会社に行けるので、もうちょっとうまくなるかなと思ってます。薄暮はありがたいんですが、どっちが涼しいかといったら、早朝のほうがいいので、そういうのも今後は考えてもらえればとちょっと思いました。

澤 田 従来、お年寄りのお客さんも多いですから、まず聞くのは「カートがあるのか」って。今はカートはありますから、それはクリアなんですけど、次に言われるのが「ベントか」と言うんです。「うちは高麗なんです」「そ

したらベントの所へ行こうや」とか、こうなるんですけど、ぼくは個人的には、ここはこのまゝいってほしいというのが意見でございます。

エチケットマナーについて

工 藤 いま世間で若い人が非常に荒れている。そこでゴルフの思いやりということを若い人に教えてあげたい。思いやりということは、たとえばOB打って残念でしたねということではなくて、ロストボールになったときに皆さんで探してあげる。よく4人でプレーしたときに、1人は探してあとの2人は知らん顔してる。これは非常にまずい。それは打った人に対するマナーと、それから後続の方が遅くなる。やはりいつも前を見てプレーするということが一つあります。そうすると、皆さんでボールを探してあげて、「ここにありましたよ」と、それで楽しくプレーする。今の風潮では、自分さえよければいいということが非常に多いと思うんです。そうじゃなくて、助け合う精神を持っていただいて、楽しく、早く、プレーをやりたい。こういうふうと思うんです。

もう一つ、ここにいらっしゃる方は、多分そうやっておられると思うんですけども、ボールを動かすから、いろんなルール上の問題が起こるんです。完全にノータッチでいいと思うんです。極端に言うたらカート道の上でもノータッチでやったらいいんじゃないか。競技委員の方もいらっしゃると思うんですが、一度検討していただきたいと思います。

山 本 言われるとおり、この百年を日本はどう歩んできたのか、OBなどの時「前進4打」や、ライの良い所にボールを動かす「6インチプレイス」といった日本に多いローカル・ルールを作り、それが常態化してきましたね。

さて、ひとわり第一のテーマからご発言願ったんですが、だいぶほかのほうにも移っておりますので、ここで2番の「コース全体のレイアウト、グリーン及びハウス等の改善、保全、危険防止」、3番の「競技ハンディキャップ変更等の運営についての要望」、4番の「健全なるゴルフ場運営をするために必要不可欠である社員及びビジターのプレーエントリー推進策」、こういったも



山本 陽三
司 会

のをまとめまして、どれをお話し願ってもいいということで、お願いしたいと思います。

モラルの向上について

澤田 練習グリーンには「アプローチ禁止」と札があるわけですが、私が行きましたのが、日曜日ですからたぶんメンバーの方だと思うんです。新しい方だと思います。私も面識がないんですが、そこで一生懸命アプローチをやっておられるんです。これ、なかなか「あきませんよ」とは言いにくい。しばらく考えたんですが、やっぱりこれは言わないかならうと思ったんです。この頃芦屋の方は紳士が多くなって、お互いにそういうことを注意しあうことがなくなったんですね。見ても知らんふりをしてる方が多くなったように思うんですが、そのときに考えたのは、私、たまたま競技委員だったものですから、「私は競技委員の何々です」と、まず名乗ったわけです。こちらが何者だということを言わずに、ここは「アプローチ禁止と書いてあるやないか」と言うと、感情的になるので、皆さんもそういうときに気がつかれたら、たとえば「私は編集委員の何々ですが、ここは禁止ということですが、どうですか」と、そういう形で言えば柔らかくなるんじゃないかと、気がついたことがありましたので、一言だけ。

山本 「競技委員です」なんて名乗る以前に、模範にならないかな方がなさってたというようなこともございますので、その場合にも恐れずに言うべきだなと私も思います。

コースについての提言、パー70にしては

脇 コース、グリーンについてですが、ぼく自身は、コースはゴルフクラブの命やと思ってます。さっき阪口さんが芦屋はリゾートコースであるべきとおっしゃいました。それは同感なんですけど、一言で言えば、いつも芦屋は「優雅で美しいコース」であって欲しいというのが基本です。ただ、今のボールとかクラブのイノベーションということから考えると、6300ヤードでパー72というのは、どう考えてもちょっとアンバランスな感じで、パー70ぐらいがいいのと違うかと思っております。お金

をかけず簡単にしようと思ったら、5番をパー3にする。バックティーは220～230ヤードになると思います。6番もちょっと前からにしてバックティーから450ヤードぐらいのパー4にする。アウト、イン35、35でパー70となります。またぼくの個人的な意見なんですけど、平石プロはトーナメントに出て、日本中のコースを20年間ぐらいにわたってずっとプレーしてる。彼の意見なんかもそういうところで聞いていくべきではないか。コースレイアウトに関して、平石プロもトーナメントプロとして、現時点での平均値をいやというほど知ってると思うんです。そういう点でも、クラブのコース設定に関して、彼の意見を有効に取り入れていくべきではないかと思えます。

山本 芦屋のコースは過去50年間、先輩達が地道に努力を積み重ねて改良、改善してこられた賜ですから、我々も是非継承しましょう。

バンカーの土質、量の改善

阪口 芦屋のバンカーについてはまだまだ改善の余地があると思います。土質・量が一定してないのでは？

ベント化についての問題

脇 そう、私も坂口さんの想いと同じですよ。次に、ベント化に関してですが、一般的にはベントグリーンというのは傷み易いし、今のままのグリーンをベント化するには、面積が絶対的に小さいと思います。もうちょっと大きくする必要があると思います。すりきれ現象とかいうのも聞きますし。そうするとますます今のヤーデージで、ちょっと大きめのグリーンになると、パー72がアンバランスになってくると思うんです。そこで、平石プロも含めて、コースデザインの専門家に依頼して、きちりとした形でパー70ぐらいにコースを再設計してはどうかと思います。

それに加えて、「優雅で美しいコース」という観点から今の芦屋の現状を見ると、美的感覚という面でちょっと欠けてると違うでしょうか。もちろん六甲国立公園の中というロケーションをうまく利用されてるとは思うんですけども。コース自体を美しくということになると、



澤田 雄幸
41歳（競技）



三崎 龍哉
39歳（ハウス）

口で言うのは難しいんですが、例えば六甲山はアジサイの花で有名ですね。アジサイの花がみごとに咲いてる状態を実現するとか、ほかにもいろんな方法があると思うんです。それにも植栽の専門家がいると思いますし、そういうことを考えてはいかがかなと思うんです。

山本 20年史を読みますと、当時の社員の皆様が松など四千本からの樹木と共に、草花もたくさん植えておられますし、特に感銘を受けたのは、すすきなどの野草迄も計画的に植えられたんですね。

ルール不明のときの処理のしかたを教える

脇 それからルール、エチケットに関してですが、ルール、エチケットマナー、スロープレー、これは永遠のテーマです。いつも言われてますし、なかなか難しいと思うんですけれども、何度も何度も繰り返し説明することが大切だと思います。ルール上で不明なことが発生したときの最終的な処理をどうすれば良いかを、徹底すべきではないかと思います。

山本 いまのご発言のなかで競技委員の話が出ましたが、澤田さん、現在では当番制はとってられますか。たとえば今日の月例競技でそういう問題が起こったら、どなたかが責任を持っておられるのですか。

澤田 そこまで徹底してないですね。

山本 当番制をとってられる所がありますよね。だれが責任をとるかって。

澤田 委員長は習慣的に必ず出てくるものと思っていますから。でも、出てこないときには、たぶんだれか副委員長とかに頼んでおられるとは思いますが。

アメリカのクラブライフは

樋口 皆さん現実的な話ばかりされてますので、私の意見が非現実的で恐縮なんですけど、先ほどの話とつながる部分なんです。芦屋カンツリーを運営していくなかで、アメリカに少しあるような制度ですが、たとえば年間に皆さんが30万ずつ払ってプレーをしていく。それでカウントをどんどん下げていく。食事をする。そこでもカウントされる。売店で何か買う。それもカウントされていく。30万円使い切ったら、足りない分はそのときそ

のときに払う。プレーされない方が30万払ったら、家族で食事に来られる。友達と来られる。売店で物を買う。そのようなあまりにも難しい話なんですけど、それがカントリークラブで、みんなのクラブじゃないかな、そのように考えます。日本では難しいと思うんですが、そういうことができれば楽しい嬉しい。

スロープレー対策について

スロープレーの対策として、今後沢山の方が来場されたり、テレビの影響でプレーに掛かる時間が長くなったり、スロープレーに対する対応が必要になると思います。きわめて少ない例として現在日本の数箇所の倶楽部では、エチケット委員もしくは競技委員の方々が、その日はプレーされないでコースを廻っておられる倶楽部があります。倶楽部側のマーシャルが巡回して、プレイヤーに注意を促して「前を空けないで下さい」といったら、もしかして腹の立つ人、又、注意をしても聞かない人がいるかもしれません。しかし同じメンバーの方が、プレーもせずに廻られて「遅いよ」と注意されたら「ああそうか」と感じられるのではないのでしょうか。一日ボランティアで気の毒に思いますが、そういう運営のしかたも、今後は必要だと思います。

工藤 スロープレーに関してなんですが、今日、平成14年1月13日はたまたまポイントターニーだったんですが、もう一つアゲインストパーがありますよね。なぜしてるかという、スロープレーのためだと思うんです。たまたま2つOBが出た場合、グリーンに上がった時、ピックアップしてええと思うんですよ。それで全体の流れが非常に早くなると思うんです。せっかくポイントターニーとかアゲインストパーを取り入れてるのに、そのメリットを生かしてない。そういう気がします。

競技にショットガン方式を取り入れては

脇 いまのスロープレーに関係すると思うんですが、今日ではカートが整備されてますから、ショットガン方式のスタートというのも考えていいのと違うでしょうか。競技方法としても、今迄にない新鮮さと共にスロープレー防止の対策として、案外皆さんに喜ばれると

思いますね。

婦人社員の地位向上について

野田 現在婦人社員の方々は、理事会及び評議員会へは参加出来ないシステムになっております。ですから委員長、副委員長が婦人委員のご意見ご要望を、理事会並びに評議員会へ伝えるという事になります。

現在婦人社員の人数も以前に比較して格段に多くなっておりますので、社員資格の問題等色々な障害があるかと思いますが、婦人の意見を間接的に上にあげるのではなく、委員会そのものを婦人社員の方々にゆだね、理事会なり評議員会なりに、直接参加していただくシステム作りは出来ないものかと考えます。一度にはなかなかむずかしいでしょうが、婦人社員権の継承問題は必ず出てまいります。婦人社員権が婦人の方へ移るかという、今後100%そうであるという事はいえないと思います。現在婦人社員の方は週日扱いですけれど、近い将来正社員になれる機会は必ずおこってきます。そういう意味でも、ご婦人による婦人委員会も遠からず実現するのではないのでしょうか。

コースのインフラにもっと関心を

樋口 冒頭からビジョン的な部分を申し上げたと思うんですけど、コースメンテナンスというか、コースレイアウト等については、芦屋カンツリーはヤーデージが短い。そのなかでクラブの道具の進歩とボールの進歩は非常に著しいと思うんです。PGAでもクラブはこうしましょうとか、ボールも今年から更に厳しい制約が設けられると思うんです。ですから、どなたが打たれても、グリーンまで30ヤードとか、20ヤードという所まで飛んでくる。そこでじゃあ高麗からベントに変えて、どういことが起きるんだということを考えるべきじゃないか。お客さんが来られるからベントにしよう、それだけで単純に変えていいものかどうか。やはりそこから先のことを、少し考えるべきじゃないかなと思います。それが一つ。

それと、学生時代からゴルフやってるなかで、ずっとあちこちのゴルフ場を回ってて、毎年思うんですけど、コースメンテナンスのなかでいくと、もちろんクラブハウ

スも大事なんです。でも、コースのメンテナンスといったら、フェアウェイにはスプリンクラーがあって、あそこに行ったらいつも緑の見事な芝生があり、きれいなターフをとれるよ、というようなゴルフ場にしたいというのが、だれでもゴルファーの願いだと思うんです。はげてるよ、ティフトンがあるよ、そんな所では、いくらいいハウスがあっても、お客さんは多分来ないと思うんです。そこはもう少し考えていただきたいと思います。

フェアプレーは社会人としての基本

工藤 先ほど脇さんがおっしゃったようにスポーツである限りルールを守る。フェアプレーということがゴルフの一番基本なんです。これは私の意見じゃなくて、朝日新聞に書いてあったことなんです。フェアプレーには2つあるんです。1つは、知ってルールを犯さない。たとえば審判が見てないから、相手にわからんから違反してもいい。これはフェアプレーじゃないですね。もう1つは、相手がアンフェアなプレーをしたからといって仕返しをしない。これがフェアプレーの精神なんです。これを若い人に守ってほしい。これは社会の基本的なルールだと思うんです。ゴルフだけじゃなくて、社会におけるフェアプレー、これを若い人に本当に守ってほしい。そうすると世の中が非常によくなると思う。

我々は単にスポーツの中だけでルールを守っても意味がない。スポーツをする上でマナーはいいけど、19番ホールとかでのマナーが悪い人なんて意味ないんですよ。スポーツの中で学んだことを、日常生活で実行しな



いとそこのところが非常に重要で、やっぱりゴルフをするという部分では、ルールを守って魅力のあるクラブにしていけないといけないし、人の集まりとしての魅力を感じさせる場所であればいけない。

カンツリーのクラブライフを大切に

三 崎 この芦屋カンツリーに関しては、一人で来て初めての方と回っても、本当に気分を悪くして帰ったことないんです。これがここの財産かなと思います。今後どういうメンバーを入れていくかというのは、非常に大事なところかな。地位とか立場じゃなくて、人間重視で、この人やったらいというメンバーを入れ、一人で行っても楽しいゴルフができるというカントリークラブに私はしていきたいなと思います。

皆 見 私がリタイアしたら、クラブライフとしては、この芦屋カンツリーしかございません。15年から20年先、女性が正会員として沢山おられると思います。ひょっとしたら芦屋カンツリーで初めての女性理事長ということが起こっているかもしれませんね。その時のためには、我々が過去先輩たちから50年ずっと受け継いでやってきたことを、教育と言ったらおかしいですけど、これからの女性や新しい会員に伝えていくのは、ものすごく大事なことなんだろう、その責任たるや大変だと思います。

芦屋の高麗グリーンは貴重な存在

皆 見 そして、グリーンにつきましては、自分の腕については私はめちゃくちゃ下手ですが、ここは名物グ



リーンというんですか、本当に魔女が住んでいる。友人を連れてくると、高麗としては難しいグリーンやなど言われてます。これは本当の名物グリーンとしてずっと残していったらと、そんな気がしますので、ここはその貴重さを考えてくださればと思うんです。

ジュニア世代の育成

加 村 日本の現代のゴルフ人口構成は、逆ピラミッド型で10代の層が非常に低く、50代後半の方々が半分以上を占めているそうです。その原因は様々なんですけど、男女を問わず若い世代を育てることは、ゴルフ界全体の課題だと思います。当倶楽部でも担当委員会が出来ましたが、単に技術を教えるのではなく、人間教育の場として考えていただきたい。そこで提案なんですけど、平日にシニアの方々が2、3ホール一緒に廻られて、礼儀作法を厳しく教えるとか、人生の大先輩としての経験を生かされてはどうでしょうか。

山 本 それは面白いけど、そんな立派な人がおられまじかな(笑)。

加 村 それに関連するんですが、練習場の開放も、特に昼からはヒマなんだから、ジュニアに使ってもらうことですね。もう一つ奥山寮の活用も考えたらどうでしょうか。うちは場所とハコを提供して改修費や運営費は自治体とかゴルフ協会にもっていただくというのは。又、社団法人として地域スポーツに貢献するという見地から、ハイカーにトイレ提供(イン12番)するのは結構と思いますが、ハイカーがゴルフプレーの事故に巻き込まれぬよう、表示看板等十分注意する必要があると思います。

20歳以下と65歳以上のゴルフ利用税の廃止を

金 本 若い世代を育てることは、当クラブの公益の目的にもかなうし、先程から脇さんや樋口さん達が言われた、優雅さやカンツリーライフの心意気とも合致すると思うんです。バブルの中で全てが華美に流れ、道具やクラブハウスは世界一流になった半面、スポーツとしての「ゴルフの精神」はどこかに置き忘れ、若者達にとって魅力を感じさせなくなっていると思います。それから税金

のことで、消費税の上にゴルフ利用税をとるとは悪税の最たるもので、撤廃運動を継続するべきですし、ゴルフ人口を増やすためにも、20歳以下と65歳以上の方には免税を考えるべきでしょう。

若いお母さん方や女性のために

野 田 ゴルフ場に託児所というか、半日位子供が遊べる施設を作ってはどうか。その理由は、20歳～30歳代のお母さんに育児とゴルフを両立させてもらうためなんです。現在の婦人ゴルファーといえば、40歳～50歳代の子育てを終わった方が多いし、男どもは土日になると奥方を家に残して、仲間同士で楽しく遊んでいる(笑)。若い女性にも機会を与えてあげるのは、ジュニア育成と同様、大事だと思います。

山 本 そうですね。ゴルフの歴史そのものが、男性のみの社交場として発展してきた訳ですが、これからは変わるでしょうね。

スループレーで半日ゴルフを

加 村 プレー時間が半日で済めば、若いお母さんでもゴルフをする機会が作れるんじゃないですか。特定の日を決めてスループレーを考えては如何でしょうか。その点、芦屋は立地条件が最適だと思いますし、その日だけは、半日お嫁さんのために、じいちゃんばあちゃんが練習場の片隅でお孫さんの相手をするというのは(笑)。

山 本 地域への貢献、ゴルフ人口の裾野を拡げる、カンツリーライフの充実、これからの芦屋のために大いに考えていきましょう。

編集の皆さんへ期待する

阪 口 最後に是非申し上げたいのは、我が芦屋 CC が自慢できるものの一つに、会誌の“あしや”があるとします。その時代その時代の編集委員の皆さんのチームワークの良さと、ご努力のお陰で脈々と続いており、先般150号を出されたところです。この良き伝統が続いかに時代が変わろうとも、カンツリークラブの形と心を、いついつまでも克明に残していただきたいと思います。そして、この座談会の初めに脇さんが言われたように、

単に歴史の語り部としてだけでなく、今後はもっと広く情報の収集、管理、言いかえればデータの一元化に対する役割を担って頂ければと思います。(拍手)

山 本 最後に当委員会へのおほめと励ましの言葉を頂いたところで、お開きとさせていただきます。皆様、本当にご協力有り難うございました。

●座談会収録のデータ

第1回目	平成14年1月13日	新別館にて
第2回目	平成14年3月3日	10番茶店にて

司 会	山本陽三 (編集委員会)
助 手	松本 昭 (/)
	岩本和夫 (/)
	村上健司 (/)

各委員会出席者

野田穰三 (婦人委員会)
加村憲造 (グリーン委員会)
脇 勉 (バーメス委員会)
金本鶴三 (エチケット委員会)
工藤雅和 (編集委員会)
皆見一夫 (環境公益委員会)
阪口善雄 (キャディ委員会)
樋口昌弘 (ハンディキャップ委員会)
澤田雄幸 (競技委員会)
三崎龍哉 (ハウス委員会)

クラブハウス建設50年の思い出

「芦屋の50年」の記念事業の1つとして企画された、別館新築工事が昨年12月半ばに立派に完成し、2002年1月4日にその竣工式が行われたことは、私ども担当委員にとっては大きな喜びであった。特に私個人にとっては格別の思いがあった。その訳は1962年に完成した現在のクラブハウスの建築工事を行ったのが今度の別館と同じ竹中工務店であり、当時の設計担当者が私自身であったことである。

当時初めて芦屋カンツリー倶楽部のクラブハウス新築の話聞かされ、上司の設計部長と同道して現地を訪れたのは、1960年の事であった。倶楽部の創立は1950年であり、1952年に全18ホールズが完成して開場されていた。従ってそこに在ったクラブハウスは、創業当時の物資不足の時代に建てられたものであり、6棟のロッカールームはアメリカ進駐軍の組立鉄骨家屋を購入したものであることも解った。今、芦屋の10年史を読んで見ると当時のコース、ハウスの建設を担当された、大成建設の方々の大変な苦勞があったことを知ることが出来た。

7、8年を経てハウスの腐朽部分の発生、会員増大による狭隘化等により、新ハウスの新築が要望されていたのである。

正式に新クラブハウスの設計と施工が、竹中工務店に特命されたのは、1960年の年末のことであった。そして完成は1962年の10月末と決まった。新クラブハウスの完成が10周年記念事業の目玉とされていたからである。この工程は決して楽なものではない。クラブ側には建設委員会が設置され、当時のハウス委員長の小川芳光氏がとりしきりをされていたが、私どもが計画図をもとに提案説明をする際には、必ずと云ってよい程、野田誠三理事長、西村熊市キャプテン、和仁宝寿名誉書記が同席されていた様に記憶している。基本計画となる平面図が決定するのは随分時間がかかった。最終案はC案と名付けられた。その前に作られたA案・B案は何れも1階に玄関、ロビー、事務所、ロッカールーム、浴場を設け、2階に食堂部分を置くものであったが、色々と委員の間で意見が食い違い、結局現在のハウスの様なC案、即

ち地形に沿って東から玄関・ロビー・事務所棟、ロッカー、浴室棟と西へ延びる案が採用された。

私はこの案を持って、野田理事長を尋ね阪神電鉄社長室を訪問したことを明瞭に記憶している。実質的にはここで決定して貰った様なことであった。それ程スケジュールは切迫していたのである。

当時のゴルフ場のクラブハウスの建築工事には1つの目安の様なものがあった。ロッカー1ケについて延面積は10坪（3.3平方米）、工事費1坪10万円というものである。芦屋の場合、想定ロッカー数は1000個と指示を受けた。従って延面積は1,000坪（3,300平方米）、工費は1億円程度と予想出来た。

最終的には、延面積1,123坪（3,706平方米）、工事費は造成工事、解体工事、別途工事を含めて1億4000万円となり、クラブの希望金額内に納まった。

委員長はじめ担当委員の方々には、本当に熱心でとことん迄私に説明を求められることが多かったが、説明すれば納得して貰えることが多かった。しかし平面計画以外の立面図、内部姿図等はいわゆるデザインの問題で、感性によることが多かっただけに説明は困難であった。例えば何故屋根に瓦を使うのか、ロッカー棟の窓は小さ過ぎないか等々である。

私は設計の冒頭でクラブ側から指示された基本的な前提として、「芦屋はどこ迄もカンツリークラブである。容姿もその様なものであって欲しい。」という言葉に凄く共感を持った。その本意は華美なものでは無く、田園風で暖か味があり、親しみのもてる素朴なスタイルのものである。そして国立公園内という素晴らしい環境の中で、



開場当時のクラブハウス▶



1962年新築のクラブハウス

黒灰色の日本瓦の屋根、白い壁、開口部や内部の木部は濃褐色というイメージが、最初から私の中に出来上がっていた。

この様な経過をたどって、4月初旬に地鎮祭が行われ、10月末の完成を目指しスタートした。即ち7ヶ月の工期でいわゆる突貫工事に近いものとなった。

実施設計の面で未決定の部分がいくつか在ったので決定が急がれた。たとえば浴室の浴槽の形が決まるのに10日間を要した。円形、方形と色々な案が出たが、結局現在の様な小判形と決まったことも懐かしい思い出の1つである。

既存の食堂部分は残し、現ハウスのロッカー棟から西にかけての部分から着工された。設計図の200倍の大きさのものが現実に建上ってくると、各委員の方達も1層の興味と責任の双方を感じられる様な雰囲気が出てきた様に思う。

ところで、昨年2001年の初頭まであった旧別館は、1957年に建てられたもので、1階がキャディマスター室、2階が会議室、3階が宴会室として使用されていたが、本館の解体された時期に1時食堂として使用され、その利用価値が大きく認められたものである。

1962年夏、玄関・ロビー・事務所棟・食堂棟の工事が開始された。この2棟のコンクリートの姿が立上ると漸くクラブハウス全体の姿が会員達の目にもはっきりとわかる様になった。

9月初旬にロッカー室棟、浴室棟は完成し、1部使用が開始された。工事は順調に進み、予定通り10月末に無事故・無災害で完成したことは関係者一同にとって無上の喜びであった。

そして現存のクラブハウス完成から40年が経過したわけであるが、その間外観の姿は何ら変わっていない様に見える。しかし実際は、その時代の変化に対応して内容的には幾多の改修が行われている。今、振り返ってその主だったものを挙げて見たい。

1985年、大浴場の改修、1988年、クラブバッグの預かり、搬送システムの変更に併う事務所・フロント・ロビーの改修、1988年～89年にかけての厨房の改修、1989年、ロビー・食堂部分に冷房器具の導入、1992年、男子ロッ

カー室、婦人ロッカー室、婦人浴室の改修等々である。

そして忘れられないのは1995年の阪神大震災である。これによるクラブハウスの受けた影響は大きかったが、他の著名なゴルフ場の被害に比べ、著しく少なかったのは不幸中の幸いであったと思う。この被害に対する改修は現在も行われている状況である。

この様なクラブ発展の経過の中で、冒頭に述べた様に新しい別館が2002年の“芦屋の50周年”を期して完成したことは極めて有意義なことであった。

別館新築計画が初めて進み出したのは、1998年の初頭のことである。1999年の6月には、ゼネコン大手3社から提出された案を検討の結果竹中工務店に決定し、最初の計画案が提案されていた。以後しばらくハウス委員会で金沢委員長のもとで竹中工務店側と折衝することになった。

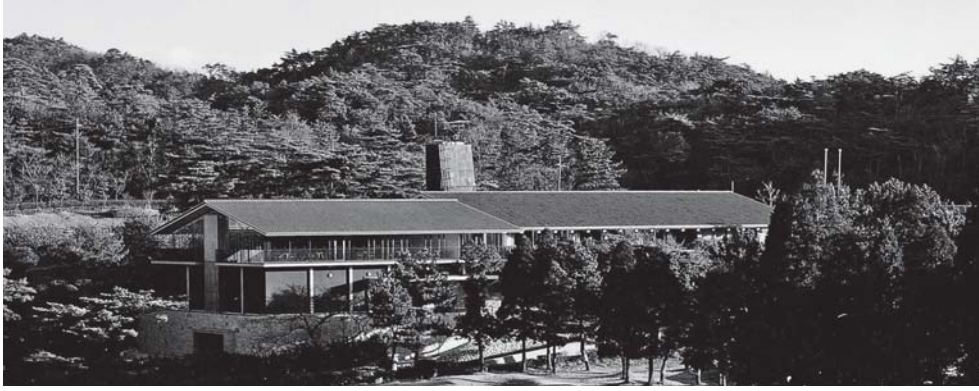
これも何かの縁であろう。設計担当者も施工担当者もかつて同じ企業で働いた同僚の筈であったが、私にとっては子供の様な年令であり、40年前の現在の本館の設計当時の私の姿とダブって仕方が無かった。

設計が進展するにつれて、ハウス委員会とパー・メス委員会が、正副委員長を出し合って小委員会をつくり、ハード・ソフト両面から進めることになり、2000年初めに、星島名誉書記を委員長とする別館委員会が発足し、年内の工事契約を目標として竹中工務店側との定期的な打合せが行われた。

この会議は順調に進んで行く様に見えたが、なかなかそうでも無かった。発注者側の要求事項も設計が進むにつれ、変化することもあるし、委員相互の意見の食い違いもあったからである。しかし何と云ってもぎりぎりの予算内で納めなければならない。

それに芦屋ゴルフ場の敷地は、瀬戸内海国立公園に属しており、建物配置に関する或いは建物仕様に関する制約が厳しかったことである。40年前に私が体験した当時は、建設省（現在の国土交通省）が認可権を持っていたが、現在はこれに環境庁が加わっていることを初めて知ったようなわけであった。

月2回の定期的な打合せ会で、問題点は次々と解決され処理されていった。この間、私は初めて発注者側で会



2002年完成の新クラブハウス

議に出席すると云う、かって体験したことのない新鮮な立場を楽しんでいたようである。

しかし最終的な工事費の折衝段階ではそうも行かなかった。工事費の決定は発注者にとっても受注者にとっても最重要課題であり、双方が最も厳しく対応を迫られる事項であるからである。

結果は双方の協力的な姿勢により、数回の折衝を経て円満に話がまとまり、2000年ぎりぎりまで工事契約が締結された時はほっとしたものである。

2001年は工事着工と完成の年であった。年初より造成工事は進められ、3月10日地鎮祭が厳粛に滞り無く行われ、愈々本格的に工事が進められた。幸い私は週に1度は芦屋でのゴルフを楽しんできたので、その際に作業所を見ることが出来た。シートの中で行われている作業状況を見せて貰うことが出来るのも役得であったが、これも任務の1つだと意識した。

新別館は延床面1064.9平方メートル、3階建てで最上階(2階と呼ぶ)が本館の食堂部分と床が同じレベルとなる様にされた。これは旧別館の床が食堂床と段差があり、料理等の運搬に支障を来していたことへの対応である。2階はラウンジとコンペルームより成り、コンペルームも使用人数によって、16名単位の部屋、24名、32名用と移動パーティションによって仕切られる様になっており、パーティションを1ヶ所に移動させれば、100名以上のパーティが可能となる。

1階、地下1階の下層階はカート(プレイヤーとクラブバッグの搬送車)の車庫であり、50台が収容出来る。このカートシステムの採用も、50周年記念事業の1つであった。

この別館新築計画が始動し、今日迄4年の歳月が経過したことになる。この間における担当理事、ハウス委員会、バー・メス委員会及び事務局の人達の終始熱心な積極姿勢には頭の下がる思いがあった。

1952年にオープンされてから50年、その間におけるクラブハウスの新設と発展的変遷をかえりみ、深い感動を覚えると共に芦屋カンツリー倶楽部の益々の発展を祈りたいと思う。

田村真二/現ハウス委員会副委員長/元竹中工務店副社長





芦屋CC所属プロの活躍

石井勉夫プロ

大正13年11月27日生(1924)
PGA入会 戦前

昭和26年7月、日本のトッププロとして川奈ゴルフ倶楽部に所属していた若冠26歳の石井勉夫プロをわが芦屋CCに迎えることができたことは幸運である。芦屋CCはまだ建設中にあり、出来上がれば「東洋一のコースになるに違いない」という誘いもあって関西に来たものの、川奈ゴルフコースに比べても不完全なコースと評された芦屋CCの現実との落差はあまりにも大きかったために相当悩んだが、芦屋CCの発起人メンバーの宇田耕一氏からの懇請を受け入れ、3年程お勤めしてみようと決断されたのである。

生来、真面目で誠実な人間である石井勉夫プロは、出来上がったばかりの不完全なゴルフ場を見捨てておけず、コースの維持、管理、改造その他すべてにわたって生まれたばかりの幼児期の芦屋CCを立派に育て上げようと情熱を傾けることとなった。

石井勉夫プロは川奈ゴルフ場に所属していた時よりもはるかに不利な条件の下でも、トーナメントプロとしての自覚を持って、技量に磨きをかける一方、レッスンプロとしてメンバーに対する懇切丁寧なレッスン指導に尽力した。

特筆すべきは、1956年「第4回カナダ・カップ」(英国)に日本代表として林由郎プロとペアで参加したところ、石井勉夫プロは個人7位、団体4位に入賞した。その最終ラウンドでは、世界のゴルフ界でゴルフの神様といわれたベン・ホーガン、サム・スニードと同じ「68」という驚異的スコアを出して注目された。

日本選手の快挙を讃えた毎日新聞の次の記事が残されている。「強気、勝負師の林と弱気で勝負にもろい石井、対照的なこのコンビが、ともに初めてのイギリスのコースで夢にも考えられなかった好成績をあげた。……石井は、性格から顔つきまで林と正反対の優男だ。しかし、その技術は早くから日本一の定評があり、弱気と芦屋という不完全なコースのプロであることが彼の成績のボトルネック(隘

路)となっていた。……日本ゴルフ協会が彼を推薦したのは、その技術があまりにも優秀だったからにはほかならない。大いに自信をつけたに違いない。これから日本で最も期待されるプロゴルファーである」。

カナダカップと一緒に参加した林由郎プロもその著書の中で、石井勉夫プロを評して次のように絶賛している。「勉ちゃんと仲のよかった人間として一つだけいいたいのは、勉ちゃんは決して弱気な男ではなかったということだ。弱気でプロゴルファーなどやっていたらダメ。勉ちゃんのショット、パットの技術は私も舌を巻くぐらいだった。言葉をかえれば、“慎重”だったということだろう。弱気と慎重は、まったく違う。……勉ちゃんは冷静沈着、ここぞというときはすばらしい技術を見せてくれた。……いぶし銀のようなその技は、ゴルフ発祥の地イギリスでも、十分に適用したのである」。

正に日本一の技術をもった世界に通用する石井勉夫プロのいるクラブとして、芦屋CCも一躍有名になった。芦屋CCは宝と誇れる人を得たのである。石井勉夫プロはその卓越した技術を誇らず、誠実で常に控えめな人柄が好感を呼んで、芦屋CCの多くのメンバーに愛された人である。石井勉夫プロから懇切的確な技術指導を受けたメンバーは多い。単なる個人的指導だけではなく、マイノリティであった若いメンバーの将来を見据えて、若いメンバー達の親睦、交流をはかるだけでなく、人格ならびに技術の両面にわたる切磋琢磨の必要性について示唆、指導をされたことも忘れられない。

さらに、プロの育成にも力を注いで数多くのプロを生み出したが、なかでも後継者を目した平石武則プロは、現在トーナメントプロとして第一線で活躍中である。

3年程のお勤めのつもりだったのが、実に33年もの永きにわたってプロとして芦屋CCに骨を埋めることになった理由として「芦屋CCのメンバーの人柄にひかれて来たんでしょ」と述懐されている。

石井勉夫プロは芦屋CCを



こよなく愛した人である。我々もまた、戦後日本の代表的名選手だった石井勉夫プロを誇りとして、いつ迄もその功績を忘れずに語り伝えたいと思う。

文部科学省は、平成14年1月29日国技館において石井勉夫プロを、プロゴルフ界の発展に貢献した功績を高く評価して、スポーツ功労者として顕彰した。本当におめでとう。そして最後に、心からありがとうといたい。

主な参加公式競技〈海外〉

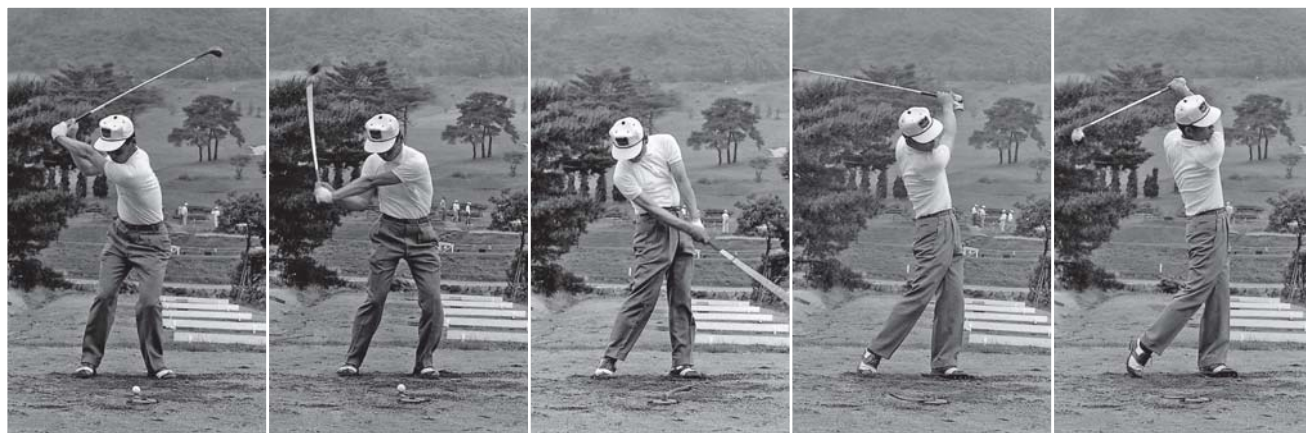
- 1952年「オール・アメリカンゴルフトーナメント」と「世界選手権」(開催地米国)に日本代表の1人として参加。
- 1954年「第2回カナダ・カップ」(開催地カナダ)に、日本代表として中村寅吉プロと共に参加し団体戦14位となる。
- 1956年「第4回カナダ・カップ」(開催地英国)に、日本代表として林由郎プロと共に参加し、個人7位、団体戦4位に入賞。
- 1956年「全英オープン」に林由郎と共に出場、戦後日本人プロ初参加。石井個人36位。

日本オープン選手権の戦績(国内)

1951年(S26)	鳴尾	参加	79名	6位
1952年(S27)	川奈	々	96名	6位
1953年(S28)	宝塚	々	91名	3位
1954年(S29)	東京	々	79名	3位
1955年(S30)	広野	々	89名	4位
1956年(S31)	霞ヶ関	々	111名	4位
1957年(S32)	相模原	々	137名	11位
1958年(S33)	広野	々	104名	8位
1959年(S34)	千葉	々	97名	6位

主な公式競技の戦績〈国内〉

1953年 関西オープン(茨木)	優勝
1955年 関西オープン(広野)	優勝
1959年 関西オープン(愛知)	優勝
	コースレコード66
1974年 日本プロシニア(江戸崎)	優勝
1974年 関西プロシニア(岐阜関)	優勝
1975年 関西プロシニア(ジャパンエース)	優勝
1977年 関西プロシニア(中部国際)	優勝

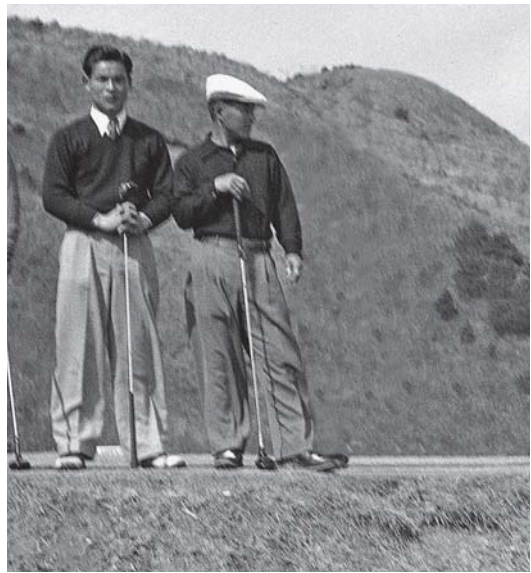


石井勉夫プロの旧練習場に於ける華麗なスウィング(1番ホール横)

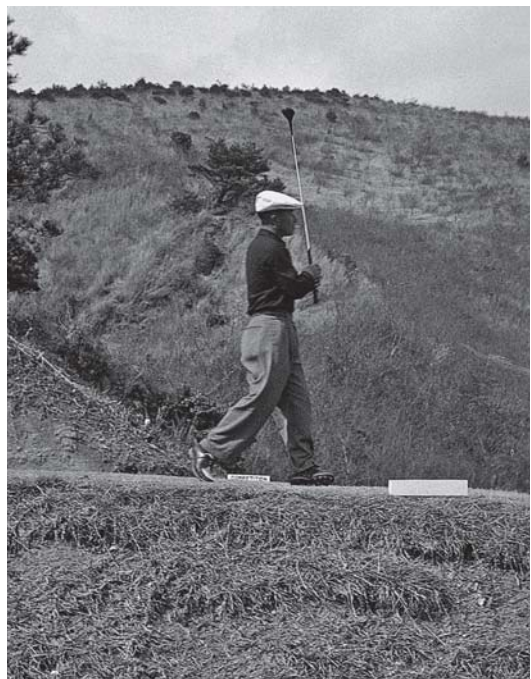


写真上より
 ・石井迪夫
 ・島村祐正
 ・林 由郎
 ・中村寅吉

1952年 戦後最初に渡米の中村寅吉 石井迪夫プロ他
 日本ゴルフ協会提供



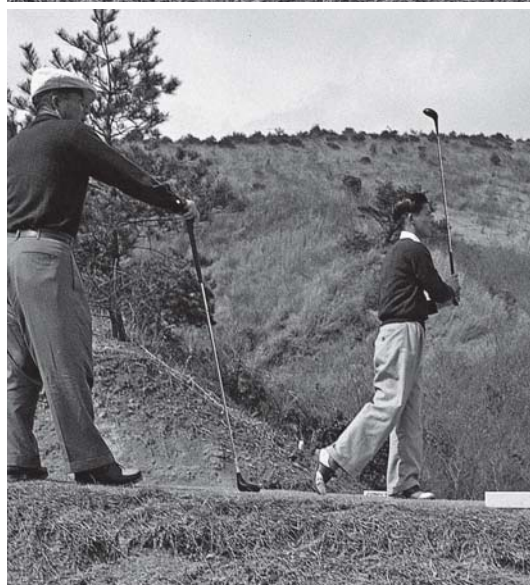
左足下りのスウィングフォーム



1962年
 10年勤続者表彰の日



石井プロ56才 平石研修生20才のとき (1980)



1953年 関東の雄、そして友人の中村寅吉氏来場・石井プロと
 プレイ・翌年2人は第2回カナダカップに日本代表として参加



ロンドンのカナダカップ・石井プロの見事なバンカーショット

第4回カナダカップ（1956年）

前後3回にわたって海外に遠征したわが芦屋カンツリー倶楽部の石井勉夫プロがもっとも華やかな戦績を残したのは昭和31年6月24日英国のウェントワース・クラブで行われた第4回カナダカップ争奪戦であった。当時石井プロは林プロ（我孫子）と組んで出場、世界の強豪 29カ国を向こうに回して堂々第4位に入賞し、個人では第7位の栄冠をかち得て絶賛を拍したのである。前年の第3回大会で小野、栗原組が出場して第13位だった日本が第4位に進出したことは各国評論家が口を揃えて讃辞を惜しなかつた。

当時のゴルフマガジン8月号（31年発行の社説）にはこんな論評がのっていた。

ゴルフ界には国際的催しは少なくないが、真の意味でのインターナショナルなものはこのカナダカップにおいて他にない。これが本カップの創設された理由でもある。各国持ち回りの原則により本年は6月24日から英国のウェントワース・クラブで20数カ国がこれに参加するという国際色豊かなものであった。日本はこれに海外試合に経験深い石井、林両プロを送ったのである。

正直な話、過去におけるカナダカップの成績からみてこれほどの成績は望めないのではないかと考えていたが、26日付英国よりの電報はラストラウンドの両君は共にアンダーバーの68でプレーし日本は一躍上位に進出し、英国とよく4位を分ち、さらに石井選手は個人戦に第7位という活躍ぶりである — と伝えた。

われわれは過去1年間英国が国際試合での成績を上げようと、どれほど努力したかをよく知っている。しかも今回の試合は彼らにとってはホームコースでの勝負でもあり、その英国とタイにしたというだけでも一番遠い国からの2人の選手は賞賛されて然るべきである。（下略）

日本選手の善戦を賞して AP 記者は次のように評した。

アジアからの参加国では日本が1番傑出していた。まったく石井、林両選手の善戦は予想外であった。もしも彼らが大会中に最終日で示したようなフォームをみせていたらアメリカを破って優勝できたかもしれない。

両選手が出した68はアメリカのホーガン、スニード組しか出していないすばらしいものだ。両選手の中でも石井が4ラウンドを通じて優秀なゴルフをみせたと絶賛した。



芦屋CC所属プロの活躍

平石武則プロ

昭和35年2月26日生(1960)
PGA入会 昭和58年12月1日

平成13年8月27日朝、全国紙とスポーツ紙のゴルフ欄には、全て大見出しに、苦節19年、平石涙の優勝という文字が躍り、優勝カップを抱いてにっこりと微笑む平石プロの顔写真が飾られていた。それは21世紀の初頭を飾る名勝負と評され、讃えられた久光製薬 KBC オーガスタでの、初優勝の記事だった。メジャー競技で初めて主役を演じる平石の晴れ姿、歌舞伎ならば「ヨオッ、成駒屋！」と声を懸けているところだった。また、芥屋CCの高麗芝を読み切った神がかり的なアプローチやパッティングの数々、見事と言う他はなく久しぶりにテレビの前で興奮させてもらった。本当におめでとう！

平石武則、本年41才…。亜細亜大入学が内定していたが、19才のとき肘の故障のため進学をあきらめた。そして、自から倶楽部へ電話を掛け、当時の井上支配人にゴルフを学びプロになりたいので、研修生として雇って欲しいと申し入れてきたという。誰の紹介もなく、いきなり電話してきた彼に何となく心ひかれ支配人が会ってみると、身長179cm 東洋大附属姫路高校の野球選手で、昭和52年夏の全国高校野球大会優勝チームの左翼手であることがわかった。その人柄も良く、石井勉夫プロと相談の上、すんなりと入社が決まった。

石井プロにとってもゴルフのゴの字も知らない平石は、真白な汚れのない紙面の様なもので、その上に思い切り自分の希望を託し、夢を描いてみたいと思われたに違いない。石井勉夫プロは平石に9番アイアン1本だけを握らせ、それ以外のクラブを持つことも、振ることも禁じた。そして基本の第一歩から手取り足取り教え、平石自身も師の熱い想いにひたすら素直に応えた。

練習場の片隅で命じられるままに、9番アイアン1本で20ヤードのアプローチから140ヤード位のミドルショット迄、いつの間にか器用に打ち分けられるようになってきた。そして剃刀のようにすり減ったアイアンのヘッドが猛練習の成果を物語っていた。それだけではなく、当時平石は奥山寮で独り自炊していたが、早朝5時に起き、ランニングに取り組み、足腰と何よりも自分の心を強靱なものに鍛え上げていった。毎朝、山道を駆け下り開森橋の辺りから再びクラブハウスまで駆け登り、更にコースを一周してから来場者のバッグの準備等の

雑用を済ませた後、練習に打ち込むのが日課だった。

そんな厳しい練習でさえ、平石にとっては高校時代の訓練と比べ、「ゴルフの練習はなんと楽しんだらう」と思ったそう。そして石井プロが初めて平石にドライバーを持たせ1番ホールからティーショットさせたところ、見事な弾道を描いてボールが飛んだ。それを見た石井プロは、自分の教え方はやはり間違っていなかったとその喜びを述懐していた。研修生平石は1983年念願のプロテストに合格し、芦屋CCと専属契約を結んでプロとしての第1歩を踏み出した。その後も平石プロはアプローチやバンカーそしてバターの練習場で独り黙々と練習に励み、その姿勢は19年間変わることなく続いた。

その間、マイナーの競技会には7回優勝したが、メジャー優勝のチャンスはなかなか訪れなかった。勝利の女神は本当に意地悪く平石プロに試練を与え続け、先の8月26日久光製薬 KBC オーガスタでもプレイオフ4ホール目でやっと女神は平石に微笑んでくれた。松垣繁正プロが8番アイアンで3打目をグリーンオーバーしたあと、平石は9番アイアンをゆったりと振り抜いてピン横にピタリとつけ、優勝を決定づけた。

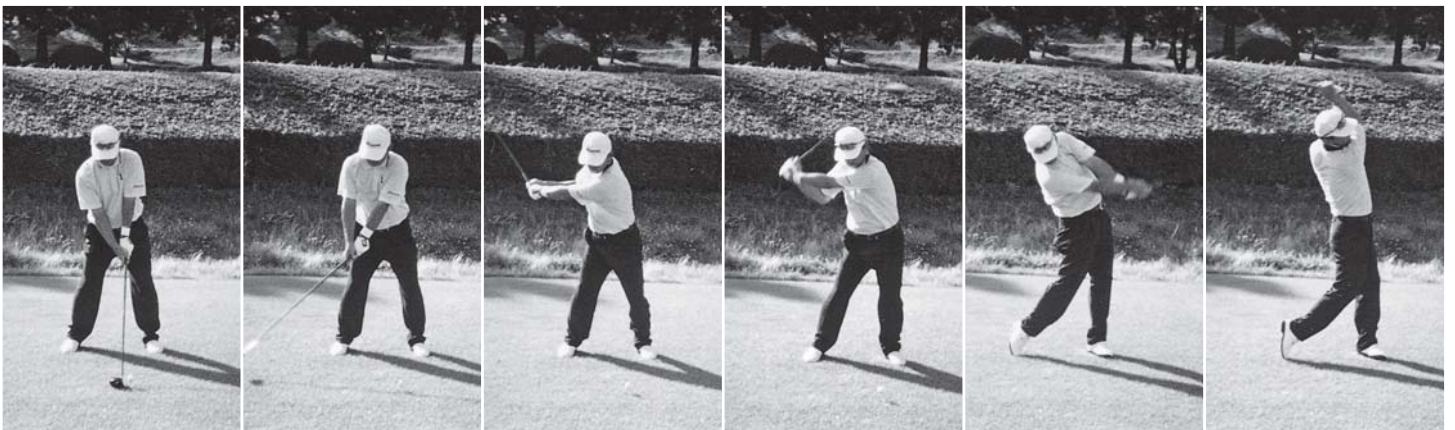
そのショットこそ、19年前師匠石井勉夫プロから学び、磨き抜いてきた9番アイアン1本の練習の成果に外ならなかった。教えは間違っていなかった。平石プロの19年振りのツアー初制覇は、本人はもとより芦屋CCの関係者、内外の友人知人に計り知れない希望と勇気そして幸せを分け与えてくれた。大器晩成型である平石プロは、これを機に必ずや大輪の花を咲かせるであろう。これからの活躍が大いに期待されるところである。

主な公式競技の戦績

1992年	サッポロビール千葉オープン	優勝
1993年	山口オープン	優勝
1994年	近畿オープン	優勝
1995年	千葉オープン	優勝
1996年	関西オープン	優勝
1996年	クレインカップ真庭オープン	優勝
1999年	関西オープン	優勝
2001年	久光製薬 KBC オーガスタ	優勝



▲平成13年8月26日久光KBCオーガスタにて
ツアー初優勝の瞬間（九州朝日放送提供）



平石武則プロの1番ティーグラウンドからの豪快なドライバーショット

倶楽部の植樹・植栽について

当倶楽部は創設以来、六甲瀬戸内海国立公園内にあるゴルフ場として自然の尊厳を護り、その環境に調和したコース管理を行ってきました。かつて20年史の中にもその理念の一端が記述されていますが、昭和46年1月植樹計画が発表されると、全メンバー、プライベート会の方々が賛同され、募金活動が行われた結果、たちまち600万円余の寄附が集まり、第1次、2次、3次と3年に亘る植樹の結果、約4,314本の植樹の計画が達成されたと書かれています。

————— 四季の花・20周年記念植樹の思い出 —————

ゴルフ場25万坪のコース全域にわたって四季とりどりの野生の花も多いが、これら自然の樹木を生かしてさらに精彩を添えているのが植樹計画であった。すでに200万円近い経費を投じて植樹したものに、春咲きの吉野さくら100本、山桜80本、さつき200本、つつじ100本、平戸100本、あじさい100本、さざんか、椿、雪柳(5ヶ所)など色とりどりの美観を呈し、その他ヒマラヤシダ300本、黄楊100本、あかしや2,500本、紅葉100本、柎(かこい用)200本、ひいらぎ・南天10本、ポプラ15本、とべら50本、バベ50本、貝塚伊吹150本などのほか天然の百合、藤、あせび、松、萩といった野生ものが随所に配置されてあるのも花原の特長で、ゴルファー憩いの景物として20周年の記念植樹の果たした役割は大きかった。

“自然を大切に、緑豊かなコースを”という理念は後輩達によって引き継がれ、最近の10年間を振り返っても、約6,200本の植樹植栽が行われました。我々が日頃慣れ親しんでいる美しい風景は、この50年間絶え間ない地道な努力を積み重ね、無償の汗を流された方々の伝統の賜であります。

平成4年～平成14年 年度別 植樹・植栽 総計6,154本

平成4年	榎1本、黒松5本、メタセコイヤ2本	(計8本)
平成5年	山茶花5本、イヌツゲ1本、キリシマ50本、紅葉1本、サツキ210本、アベリヤ537本、大名竹300本、コノテガシワ25本	(計1,139本)
平成6年	カイズカ30本、黒松苗2,000本、山茶花60本、サツキ230本、平戸220本、金木犀40本、キリシマ220本、アベリヤ10本、榎の木1本、榿2本、楠の木8本、ボックスウッド112本	(計2,933本)
平成7年	榿19本、ニセアカシヤ230本、櫟280本、アカマツ280本、クリの木280本(各苗木)、豆ツゲ18本	(計1,157本)
平成8年	桧46本、平戸60本、紅葉6本、黒松13本、桜6本	(計131本)
平成9年	桜6本、松16本、金木犀21本、カイズカ10本、桧2本	(計55本)
平成10年	ロビン50本、桜7本、紅葉3本、梅15本、松6本、エメラルド24本	(計105本)
平成11年	梅10本、桜、松、楠、山茶花、紫陽花等を200本	(計210本)
平成12年	紅葉10本、松3本、桧2本、梅15本、桃15本	(計45本)
平成13年	桜5本、紫陽花150本、山茶花9本、梅5本、松5本、カイズカ60本	(計234本)
平成14年	百日紅5本、紅葉9本、枝垂れ桜1本、紫陽花50本、松5本、花みづき10本、こぶし紅白50本、モチの大木1本、松の大木1本、梅、桃50本	(計182本)

ゴルフ俳壇

1985年～2001年抜粋



歌川杜之助（杜岳）

初ゴルフ老松遙か歴史見る

百ヤード花を散らせて打ちおろす

菖蒲の湯今日のゴルフを温める

華なるや薄暮ゴルフの赤トンボ（蜻蛉）

スリーサム声まで日焼けゴルフ径

「ネパールに遊ぶ」
ゴルフ場も雪のヒマラヤ借景す

「祝 平石プロ初優勝」
菊大輪 芦屋に勝利満を上げ

春田長三郎（ひろ史）

二日はやゴルフの虫の動き出す
ミスショット雲雀殺しのジョーク飛ぶ
長閑けさや松に止りしゴルフ球
炎帝に仕えん今日の第一打
秋天下われに球友ありゴルフあり
秋天へ不覚の一打敗れたり
球弾ぜぬグリーンの凍て思ふべし

若井 常清

と見こう見春の芝目は読み難く

夏木立シヤンクのボール吸い込めり

炎昼やショートパットもままならず

鶴鴿のごとしワッグルながきかな

待ち待ちて遂にクローズ霧襖

赤とんぼロングホールを連れもちて

長尺のクラブ効なし天高し

高木 芳治（健之）

初詣ゴルフ仲間と出会ひけり
凍空やピンハイの球そつと撫ぜ
バンカーにすがれ紅葉と足跡と
若やぐやリンクスに風光る頃
打ち切れぬショートパットに汗流れ
フォアサムの思いそれぞれ秋の蟬
秋高し平石プロの初勝利

中村 操（花心）

六甲を見上げて一打初ゴルフ
下萌えてゴルフコースの踏み心地
更衣して打ち易きティショット
ティショット一打の行方夏霞
汗しとどロングホールの登り坂
次ホールへ続く路筋萩の花
ラフに入りボール探しに虫の声

高木杜萌子（桃子）

新雪の掃きよせられていたりけり
冬枯や底柔かき靴はいて
色鯉の花とひらきし睦月かな
野遊びの空を忘れていたるかな
春一番君は猫背で振り切るか
万緑やベテランの首細きこと
松手入終りし松の齢かな

筋師 清（らしく）

屠蘇の酔少しはありてゴルフ打つ
ゴルフの友七草粥を喜びぬ
ゴルファーに寄り来る鯉や水温む
汗涼し老にもまれによきショット
赤シャツの老ゴルファーや天高し
寒卵一つをすすりゴルフ行
風花の唇に来るゴルフかな

幸原 久（ひさし）

淑氣満ちキャデイの影も初々し
鶯よけの猫の札つけし若櫻
五月雨に芝目が読めぬ地震のあと
かけこみし宇治金時にテイかすむ
鹿垣に当る音せりテイシヨット
台風の朝空港見ゆる九番テイ
雪搔きの終るを待てずテイに立つ

安田 忠壽（ただし）

初打ちや迷ひは惜きて振り抜かむ
悴むを言訳としてテイシヨット
スタートをすれば悴む手も忘れ
かの花の盛りのラウンド約せしに
天道虫クラブヘッドにふいと来て
朝露にパットの曲り明らけく
最終はあまたあきつの浮くグリーン

中嶋儀一郎（義邦）

靴クラブ真新しきや初ゴルフ
春霞む港都遙かや一撃す
梅雨晴れの輝やく球をティに置く
雷鳴に打球も見ずに遁走す
打ち上げし球消え入るや翳雲
芒越え打球を追ふや昼の月
百日紅プレーヤー迎へ花散らし

アイアンを二の腕に抱き冬の朝
寒風に負けじと打つや十二番
ミスショット見送る彼方枯木立
草いきれ驟雨去りたるフェアウェイ
秋空の気紛れキャンセル悔まれぬ
逸れ球のそば竜胆を見つけたり
秋晴れの淡路めがけてティショット

黒川 和子

黒川 実

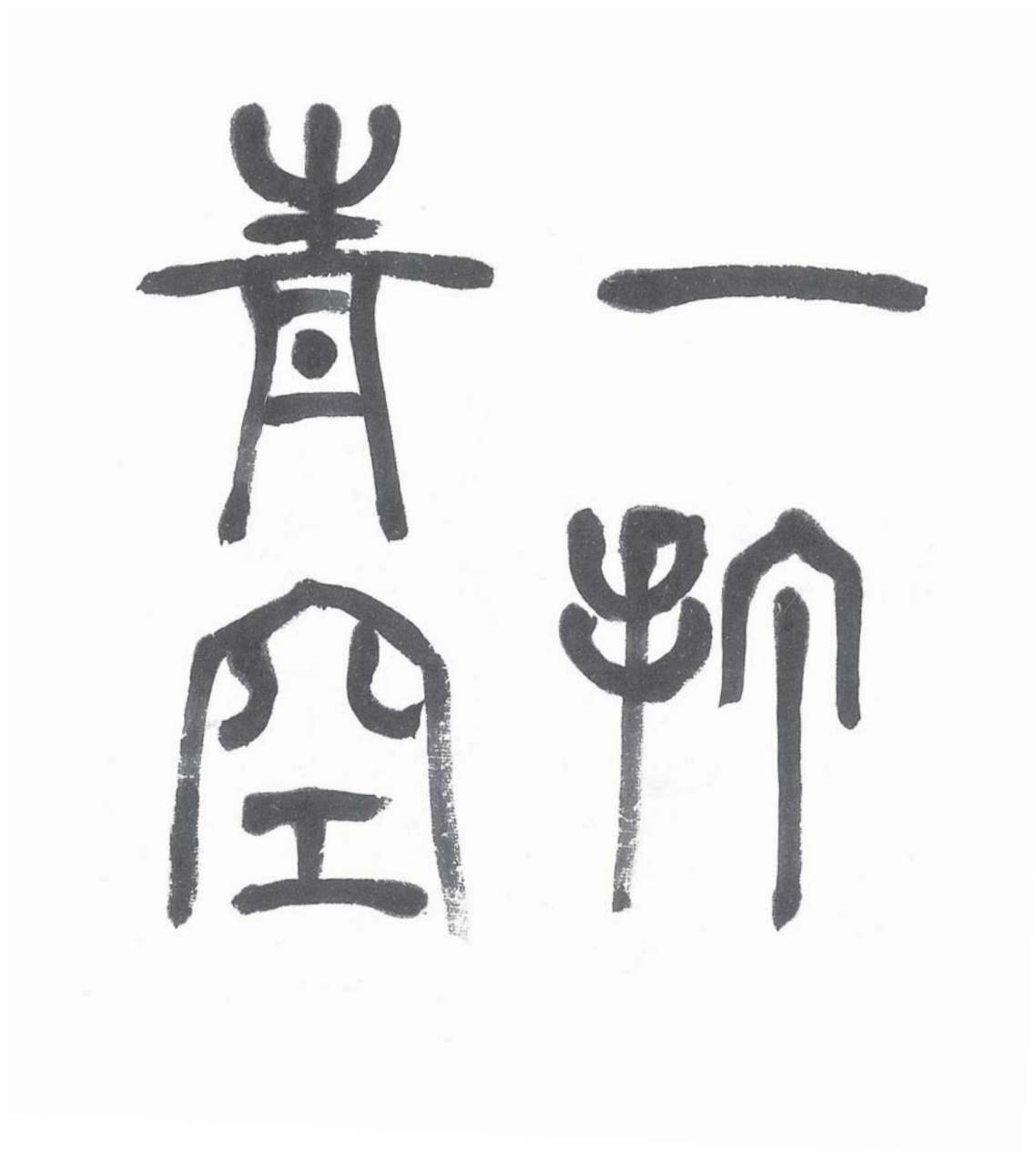
幾度もテイさし直す朝の凍て
啓蟄の土くれ避けて球を置く
シヨット待つゴルフアーツつむ蟬しぐれ
敬老日金マークよりのゴルフよし
はたおりをつまみ下ろしてボール打つ
飛行雲一引くゴルフ空は秋
野分晴れ飛びし帽子を追ひかける

初打ちの幸せ思ひ球を追ふ
年明けて子に教わりしゴルフかな
初春に願ひ事ありクラブ振る
笹鳴きの深山のゴルフ楽しみて
打ち上げのロングホールの暑きかな
構えたるパターにまたも赤蜻蛉
荒梅雨の今日グリーンは水浸し

石井 利枝

村上 良子

テイショットカんで空振り初笑
初時雨ボールもかたく縮こまり
花吹雪まさに栄誉のオナーかな
ショットしてようやく耳に蝉時雨
山粧ひグリーンの姿浮き出でて
振り切れどボールの戻り来し野分
満月にようやく手にす優勝杯



● 競技編 ●

三大競技	183
ホールインワン	194
公式競技記録	195
インタークラブ	215
ハンディキャップ一覧	221



コース全景・撮影高度2,550m H14.6.9

倶楽部選手権

Club Championship



1955	西村熊市	1971	張清霖	1987	平井忠夫
1956	西村熊市	1972	高橋庸次	1988	大川耕明
1957	西村熊市	1973	高橋庸次	1989	大川耕明
1958	高橋庸次	1974	高橋庸次	1990	大川耕明
1959	児玉勇	1975	岡本貞三	1991	藤井勇二郎
1960	児玉勇	1976	高橋庸次	1992	大野崇司
1961	児玉勇	1977	高橋庸次	1993	藤井勇二郎
1962	高橋庸次	1978	安田博	1994	大野崇司
1963	高橋庸次	1979	石田和弘	1995	脇勉
1964	高橋庸次	1980	石田和弘	1996	藤井勇二郎
1965	高橋庸次	1981	平野洋治	1997	脇勉
1966	高橋庸次	1982	平野洋治	1998	神戸哲治
1967	高橋庸次	1983	張清霖	1999	野田穰三
1968	児玉勇	1984	石田和弘	2000	平野一齊
1969	高橋庸次	1985	石田和弘	2001	藤井勇二郎
1970	児玉勇	1986	藤井勇二郎		

シニア選手権 Senior Championship



1956	岡島美行	1972	渡辺厚	1988	宇田耕也
1957	岡島美行	1973	有馬瑞樹	1989	立石寛自
1958	阪上忠次郎	1974	糀谷重郎	1990	藤原廣明
1959	阪上忠次郎	1975	糀谷重郎	1991	竹内昭
1960	西村熊市	1976	糀谷重郎	1992	竹内昭
1961	西村熊市	1977	糀谷重郎	1993	大竹俊夫
1962	西村熊市	1978	小島正	1994	竹内昭
1963	西村熊市	1979	小島正	1995	大竹俊夫
1964	辻修平	1980	矢野定雄	1996	田中徹雄
1965	島田健吾	1981	永安秀男	1997	田中徹雄
1966	西村熊市	1982	岡本貞三	1998	田中徹雄
1967	黒田宗次郎	1983	木村雅信	1999	田中徹雄
1968	辻修平	1984	藤井暢二	2000	大野崇司
1969	黒田宗次郎	1985	安田博郎	2001	田中徹
1970	重村武	1986	安田博		
1971	黒田宗次郎	1987	黒田三郎		

グランドシニア選手権

Grand Senior Championship



1975	島田健吾	1991	横山治
1976	辻修平	1992	刺賀信雄
1977	黒田宗次郎	1993	岡本貞三
1978	黒田宗次郎	1994	中村敏郎
1979	平木徳男	1995	平田豊
1980	白井正實	1996	横山治
1981	白井正實	1997	平田豊
1982	平木徳男	1998	竹内昭
1983	松田房夫	1999	大竹俊夫
1984	平木徳男	2000	黒田三郎
1985	三角恒雄	2001	竹内昭
1986	三角恒雄		
1987	三角恒雄		
1988	横山治		
1989	横山治		
1990	横山治		

理事長杯

President's Cup



1952 上田睦渡
1953 川廷誠治郎
1954 中村敏郎
1955 中村敏郎
1956 守屋建造
1957 児玉勇
1958 周木松
1959 張清霖
1960 高橋庸次
1961 安田博
1962 高橋庸次
1963 真木秀明
1964 宮川敬一
1965 高橋庸次
1966 高橋庸次
1967 平井忠夫

1968 A 藤原廣明
B 諸徳寺省三
1969 A 高橋庸次
B 有馬瑞樹
1970 A 横山宏史
B 松田房夫
1971 A 竹内昭
B 松田太郎
1972 A 稲鍵雄康
B 諸徳寺省三
1973 A 横山宏史
B 糝谷重郎
1974 A 黒川辰蔵
B 北村匡弘
1975 A 横山宏史
B 青江守衛

1976 A 平野洋治
B 奥田勝三郎
1977 A 石田和弘
B 石垣富士夫
1978 A 横山宏史
B 伊藤良平
1979 A 新原一世
B 脇村悌吉
1980 A 平野洋治
B 横山治
1981 A 藤井勇二郎
B 伊藤良平
1982 A 酒井瑛
B 松田房夫
1983 A 張清霖
B 春本栄一

1984 A 守石恵三
B 中村敏郎
1985 A 阪口善雄
B 谷路順三
1986 A 井田充彦
B 達谷喜信
1987 A 大川耕明
B 星島三平
1988 A 大川耕明
B 武田竜一
1989 A 脇 勉
B 横山 治
1990 A 樋口昌弘
B 高橋庸次
1991 A 樋口昌弘
B 高木純一

1992 A 山本 澄
B 星島三平
1993 A 樋口昌弘
B 中村敏郎
1994 A 中島 清
B 大井真操
1995 A 脇 勉
B 大井真操
1996 A 森川匡弘
B 大野崇司
1997 A 樋口昌弘
B 新保良一
1998 A 樋口昌弘
B 大野崇司
1999 A 平野一齊
B 高木純一

2000 A 脇 勉
B 高木芳治
2001 A 中島 清
B 高木芳治
C 宮本幸雄

A:レギュラー
B:シニア
C:グラントシニア

キャプテン杯

Captain's Cup



1952 望月 豊
 1953 岩井 登門
 1954 新井 鎌二
 1955 川越 輝盛
 1956 川畑 信義
 1957 奥山 勉
 1958 今村 猛虎
 1959 河本 道雄
 1960 児玉 勇
 1961 真木 秀明
 1962 安田 博
 1963 高橋 庸次
 1964 中村 敏郎
 1965 高橋 庸次
 1966 高橋 庸次
 1967 立石 寛自

1968 A 田野 孝次郎
 B 松田 房夫
 1969 A 長岡 修
 B 有馬 瑞樹
 1970 A 羽間 平安
 B 松田 太郎
 1971 A 上山 英介
 B 原 吉彦
 1972 A 高木 純一
 B 松田 太郎
 1973 A 石田 和弘
 B 長岡 修
 1974 A 平野 洋治
 B 岩住 平治郎
 1975 A 竹本 謙蔵
 B 糀谷 重郎

1976 A 高井 桂治
 B 糀谷 重郎
 1977 A 中川 理
 B 横山 治
 1978 A 藤井 勇二郎
 B 瀧川 一三
 1979 A 平野 洋治
 B 瀧川 一三
 1980 A 平野 洋治
 B 伊藤 良平
 1981 A 深田 俊雄
 B 岡崎 一博
 1982 A 黒川 辰藏
 B 長岡 修
 1983 A 木村 哲也
 B 黒川 実

1984 A 高澤嘉昭
B 渡辺富夫
1985 A 兼松暹
B 小菅啓靖
1986 A 野村健
B 廣瀬正巳
1987 A 高澤嘉昭
B 藤田隆良
1988 A 中島清信
B 達谷喜信
1989 A 藤井勇二郎
B 竹内昭
1990 A 平井博
B 久保富男
1991 A 高木芳治
B 森本二郎

1992 A 矢野和之
B 小菅啓靖
1993 A 山村隆俊
B 竹本謙蔵
1994 A 川崎亨
B 有末清
1995 A 伊藤真也
B 竹内昭
1996 A 山口稔彦
B 森本二郎
1997 A 山口稔彦
B 黒田三郎
1998 A 藤井勇二郎
B 大竹俊夫
1999 A 池田吉孝
B 林義雄

2000 A 大月宏治
B 猪坂秀次
2001 A 平井信太郎
B 野村健

A:レギュラー
B:シニア

グランドマンズリー杯

Grand Monthly Cup



1955 A 江見 祐吉
B 津田 隆造
1956 A 重村 武
B 井上 勲
1957 A 金子 茂郎
B 樋口 邦三
1958 A 中村 敏郎
B 横山 治
C 歌川 杜之助
1960 A 児玉 勇
B 岩住 平治郎
C 鎌田 茂
1961 A 高橋 庸次
B 北村 匡弘
C 馬場 敬
1962 A 小島 正

B 竹内 昭
C 石津 幸三郎
1963 A 高橋 庸次
B 中塚 俊郎
C 藤井 操
1964 A 佐藤 稔己
B 松本 久雄
C 上島 康男
1965 A 福田 忠重
B 周 森
C 佐々木 四郎
1966 A 竹内 昭
B 吉田 重夫
C 佐々木 四郎
1967 A 高橋 庸次
B 中井 清

1968 A 宮川 敬一
B 小泉 美朋
1969 A 藤原 廣明
B 大野 平
1970 A 糀谷 重郎
B 村上 博保
1971 A 糀谷 重郎
B 山井 幸藏
1972 A 平野 一齊
B 耕三 寺宏山
1973 A 平野 洋治
B 深田 俊雄
1974 A 石田 和弘
B 深田 俊雄
1975 A 岡本 貞三
B 秦 壯一

1976 A 石田和弘
B 秦壯一
1977 A 平野一齊
B 種田憲次
1978 A 平井忠夫
B 嘉納洋二
1979 A 平井忠夫
B 藤井真一郎
1980 A 大竹俊夫
B 島田文六
1981 A 高木芳治
B 木村哲也
1982 A 三浦康生
B 木本慶三
1983 A 玉置剛道
B 岩本昭
1984 A 平野洋治
B 杉山信

1985 A 星島三平
B 日野隆司
1986 A 大野崇司
B 谷口正雄
1987 A 中村敏郎
B 野辺正三郎
1988 A 大竹俊夫
B 阿部憲之助
1989 A 脇勉
B 中川理
1990 A 中村敏郎
B 片岡徹也
1991 A 廣田傳左衛門
B 西川建次
1992 A 平野一齊
B 木村康
1993 A 野田穰三
B 山内是人

1994 A 大野崇司
B 矢持盛男
1995 A 野田穰三
B 小久保勲
1996 A 寺内正巳
B 坂井眞一
1997 A 平野一齊
B 工藤雅和
1998 A 小原四郎
B 和田達也
1999 A 山本公平
B 皆見一夫
2000 A 山本茂
B 野口武彦
2001 A 平井忠夫
B 阪本弘二

Aクラス
Bクラス

婦人グランドマンズリー杯

Ladies Grand Monthly Cup



1968	宇田敏子	1984	高瀬マキ子	2000	加護野葉子
1969	今井美智子	1985	久保圭子	2001	静 恵美子
1970	宇田敏子	1986	小国ちづ子		
1971	高瀬マキ子	1987	瀧川智子		
1972	岡嶋富佐子	1988	瀧川智子		
1973	岡嶋富佐子	1989	長岡文子		
1974	田野紀子	1990	高瀬マキ子		
1975	岡嶋富佐子	1991	川田みさ子		
1976	安田和世	1992	田野紀子		
1977	渡辺浩美	1993	西岡美栄子		
1978	久保潤壽美	1994	久保圭子		
1979	宇田敏子	1995	林光子		
1980	岡本尚子	1996	長岡文子		
1981	宇田敏子	1997	宇田敏子		
1982	川田みさ子	1998	田野紀子		
1983	高瀬マキ子	1999	宇田敏子		

週日グランドマンズリー杯

Weekly Grand Monthly Cup



1992	芳村公義
1993	芳村公義
1994	杉林徳太郎
1995	辻本孝藏
1996	中谷文夫
1997	村尾徹
1998	島田忠男
1999	島田忠男
2000	芳村公義
2001	芳村公義

ホール・イン・ワン

公式競技 ●1957~2002

年	月	日	氏名	ホール	年	月	日	氏名	ホール
1957.	7.	14	伊藤豊四郎	3	1979.	10.	14	平井忠夫	10
1957.	12.	8	河本道雄	10	1979.	11.	4	坂東義明	8
1958.	6.	8	山本作松	3	1983.	4.	3	上原主行	8
1958.	11.	3	大木公治	3	1983.	8.	6	有村喬	8
1959.	5.	24	岡本貞三	3	1984.	5.	3	藤田隆良	8
1959.	7.	5	梶浦新二	3	1984.	5.	6	中川博二	13
1960.	6.	19	岡本貞三	3	1984.	8.	4	佐々木宗一郎	8
1961.	5.	21	福田昌	8 (臨時)	1984.	9.	15	田宮鉄四郎	13
1962.	2.	4	安田博	3	1985.	2.	3	谷路順三	8
1963.	7.	14	芦田芳治	13	1987.	5.	17	横山治	13
1963.	7.	28	浅野弓夫	3	1987.	6.	28	岸本三郎	8
1963.	11.	23	黒川実	3	1987.	9.	6	野村健	13
1964.	1.	3	新保良一	8	1988.	6.	26	竹内正	13
1964.	4.	12	周森	3	1988.	8.	7	平井忠夫	13
1965.	6.	13	川廷誠治郎	8	1989.	3.	7	久保淵壽美	8
1968.	3.	3	近藤勝義	8	1989.	4.	29	大月宏治	10
1968.	8.	25	岩田坦	8	1991.	10.	6	新原一世	13
1969.	6.	1	小管啓靖	8	1992.	1.	5	立石寛自	13
1969.	7.	27	岡本貞三	8	1992.	1.	5	中村正太	13
1969.	10.	10	村上保男	3	1992.	3.	20	横山宏史	8
1970.	1.	2	黒田宗次郎	8	1992.	9.	27	木村哲也	13
1971.	7.	4	吉岡宏	3	1993.	2.	14	奥信夫	10
1971.	7.	11	竹内昭	8	1993.	5.	9	木村哲也	8
1972.	2.	2	宮本林泰	13	1993.	8.	7	二木直彦	10
1972.	4.	16	角田喜代四	13	1994.	4.	10	道場紀男	8
1972.	12.	3	坂井重男	13	1996.	3.	3	八田光祐	10
1973.	1.	2	石垣富士夫	8	1996.	11.	10	春田長三郎	10
1973.	7.	1	川廷誠治郎	5 (臨時)	1996.	12.	23	岩津道生	8
1974.	1.	2	須田二郎	5 (ノ)	1997.	6.	15	平井忠夫	10
1974.	2.	3	伊藤良平	5 (ノ)	1998.	10.	4	中島清	13
1974.	3.	3	糝谷重郎	13	1999.	11.	21	松本康三	8
1976.	8.	7	中根実	8	2000.	11.	19	板垣周三	13
1976.	9.	26	新保良一	13	2002.	1.	13	山本茂	8
1977.	5.	22	中村敏郎	13					
1978.	3.	5	豊島賢太郎	10					

●競技記録●
1993

平成5年 1月

振り初めプライス	1月2日/晴	
	A 62名	森川 匡弘
	B 55名	寺内 正巳
新年杯	1月3日/晴	
	A 75名	大井 真操
	B 57名	原 將仁
新春エクレチック競技		多田 英雄
七草杯	A 45名	野田 肇
	B 23名	五十嵐昭雄
週日杯	1月12日/晴/9名	
		葛原 守
マンスリー杯	1月17日/晴	
	A 83名	平野 一齊
	B 74名	徳島 孝雄
婦人マンスリー杯	1月19日/晴/12名	
		山梨 時江
グランドシニア杯	1月22日/晴/9名	
		笠森 千五郎

平成5年 2月

節分杯	2月7日/曇	
	A 47名	平野 洋治
	B 36名	阿部 桂三
建国記念日杯	2月11日/曇	
	A 75名	阪田 稔
	B 35名	二木 直彦
マンスリー杯	2月14日/曇	
	A 78名	野村 健
	B 62名	島田 忠男
婦人マンスリー杯	3月2日/晴/9名	
		外海 みつ子

平成5年 3月

マンスリー杯	3月7日/晴	
	A 77名	大野 崇司
	B 63名	細川 喜子雄
週日マンスリー杯	3月9日/晴/10名	
		辻本 孝藏
婦人マンスリー杯	3月16日/晴/12名	

春日の日杯

	宇田 敏子
	3月20日/曇
A 73名	中村 敏郎
B 59名	五十嵐 昭雄

グランドシニア杯

	3月26日/曇/23名
	笠森 千五郎

平成5年 4月

週日グランドマンスリー杯

	4月1日/曇5名
	芳村 公義

グランドマンスリー杯

	4月4日/曇
A 8名	野田 穰三
B 10名	山内 是人

婦人グランドマンスリー杯

	4月6日/晴/4名
	西岡 美栄子

芦屋市長杯

	4月11日/晴/137名
	酒井 瑛

婦人マンスリー杯

	4月13日/晴/9名
	三村 洽子

マンスリー杯

	4月18日/晴
A 102名	井上 重彌
B 77名	細川 喜子雄

みどりの日杯

	4月29日/雨
A 47名	横山 宏史
B 60名	橋本 吉弘

平成5年 5月

憲法発布記念日杯

	5月3日/晴
A 53名	岩住 欣一
B 51名	岩堀 嘉明

週日マンスリー杯

	5月11日/晴/12名
	芳村 公義

理事長杯

59歳以下	樋口 昌弘
60歳以上	中村 敏郎

マンスリー杯

	5月30日/曇
A 79名	財部 隆夫
B 74名	江原 省吾

平成5年 6月

婦人マンスリー杯

	6月1日/晴/13名
	久保 圭子

● 競技記録 ●
1993

マンスリー杯	6月6日/晴
A 82名	尾村 正行
B 92名	石原 一興
週日マンスリー杯	6月10日
	杉林 徳太郎
阪神電鉄杯	6月13日/雨/91名
	野田 穰三
神戸新聞杯	6月20日/晴/144名
	阪口 善雄
グランドセニ杯	6月27日/晴/50名
	春田 長三郎

平成5年 7月

マンスリー杯	7月4日/雨
A 89名	脇 勉
B 80名	久米 元
婦人マンスリー杯	7月6日/晴時々曇/12名
	岩本 紀世子
兵庫県知事杯	7月11日/晴/137名
	大竹 俊夫
週日マンスリー杯	7月13日/晴/9名
	上野 繁一

平成5年 8月

マンスリー杯	8月15日/雨
A 66名	遠近 芳紀
B 48名	菊池 康太郎
週日マンスリー杯	8月19日/曇/10名
	富田 幸三郎
婦人マンスリー杯	8月24日/晴/9名
	久保 淵壽美
開場記念競技	第1日/8月6日/晴/145名
	中村 敏郎
	第2日/8月7日/曇/172名
	茶谷 順一
	第3日/8月8日/曇/157名
	伊藤 俊一

平成5年 9月

キャプテン杯	9月12日
59歳以下	山村 隆俊

60歳以上	竹本 謙蔵
敬老の日プライズ	9月15日/晴/71名
	三村 昭夫
グランドシニア招待	9月17日/晴/80名
	久保 修吉
マンスリー杯	9月19日/曇
A 80名	新原 一世
B 121名	木村 光利
秋分の日杯	9月23日/曇
A 54名	阪口 善雄
B 44名	木村 洋
グランドシニア杯	9月24日/晴/22名
	安信 清孝

平成5年 10月

週日マンスリー杯	10月14日/曇/11名
	辻本 孝蔵
婦人マンスリー杯	10月19日/晴/16名
	岩本 紀世子
倶楽部選手権	藤井 勇二郎
シニア選手権	大竹 俊夫
グランド・シニア選手権	岡本 貞三
マンスリー杯	10月24日/曇
A 81名	野中 征夫
B 91名	金丸 清昭

平成5年 11月

文化の日杯	11月3日/晴
A 49名	秋田 勝幸
B 64名	奥 信夫
マンスリー杯	11月7日/晴
A 69名	平野 洋治
B 70名	矢持 盛男
婦人マンスリー杯	11月9日/晴/13名
	佐藤 範子
三和銀行杯	11月14日/晴/143名
	矢持 盛男
週日マンスリー杯	11月16日/晴/13名
	富田 幸三郎
勤労感謝の日プライズ	11月23日/晴 雨
54歳まで 29名	平田 敢三

●競技記録●
1994

55歳～64歳 45名 生田 芳章
65歳以上 31名 堀 弘之
帝人杯 11月28日/晴/124名
森川 匡弘

平成5年 12月

グランドシニア杯 12月3日/曇雨/27名
寺田 義弘
マンスリー杯 12月5日/晴
A 80名 平野 一 齊
B 75名 佐野 隆 昭
婦人マンスリー杯 12月7日/晴/13名
田野 紀子
週日マンスリー杯 12月9日/晴/13名
辻本 孝 藏
ラスト・コール・プライズ 12月26日
アウト組 山本孝三郎
イン組 中村 三 太

平成6年 1月

振り初めプライズ杯 1月2日/晴
A 65名 細川喜子雄
B 48名 上垣 一 興
新年杯 1月3日/晴
A 65名 野村 健
B 49名 五十嵐昭雄
七草杯 1月9日/晴
A 76名 野中 征 夫
B 60名 松本 昭
新春エクレチック競技
週日マンスリー杯 1月11日/晴/10名
野口 正 次
マンスリー杯 1月16日/晴
A 91名 平井 忠 夫
B 76名 皆見 一 夫
婦人マンスリー杯 1月18日/曇/14名
西岡美栄子

平成6年 2月

節分杯 2月6日/晴
A 52名 井上 重 彌

B 43名 東 功
建国記念日杯 2月11日/曇
A 49名 多田 英雄
B 44名 高山 幸三
マンスリー杯 2月27日/晴
A 47名 細川喜子雄
B 44名 久米 元

平成6年 3月

週日マンスリー杯 3月1日/晴/8名
上野 繁 一
マンスリー杯 3月6日/晴
A 85名 平野 一 齊
B 79名 笠森千五郎
婦人マンスリー杯 3月15日/晴/12名
田野 紀子
春分の日杯 A 63名 井田 充 彦
B 55名 山本孝三郎
グランドシニア杯 3月25日/晴/13名
寺田 義弘

平成6年 4月

グランド・マンスリー杯 4月3日/晴
A 8名 大野 崇 司
B 8名 矢持 盛 男
婦人グランド・マンスリー杯 4月5日/晴/7名
久保 圭子
芦屋市長杯 4月10日/晴/141名
大場 宏 一
週日グランド・マンスリー杯 4月13日/曇/4名
杉林徳太郎
マンスリー杯 4月17日/晴
A 89名 村上 恵 一
B 84名 山本孝三郎
婦人マンスリー杯 4月19日/晴
長岡 文子
週日マンスリー杯 4月21日/晴/11名
辻本 孝 藏
みどりの日杯 4月29日/晴
A 83名 高澤 嘉 昭
B 70名 積山 吉 興

● 競技記録 ●
1994

平成6年 5月

憲法記念日杯	5月3日/晴	
	A 76名	多田英雄
	B 76名	荒田宗翁
理事長杯	59歳以下	中島清
	60歳以上	大井眞操
週日マンスリー杯	5月10日/晴/11名	杉林徳太郎
婦人マンスリー杯	5月17日/晴/14名	片山和子
マンスリー杯	5月29日/晴	
	A 80名	津田謹爾
	B 90名	矢持盛男

平成6年 6月

マンスリー杯	6月5日/晴	
	A 81名	平野一齊
	B 106名	中田昌
婦人マンスリー杯	6月7日/晴/12名	田野紀子
週日マンスリー杯	6月9日/雨/8名	杉林徳太郎
阪神電鉄杯	6月12日/雨/99名	吉田正
グランド・シニア杯	6月26日/晴/47名	寺田義弘

平成6年 7月

マンスリー杯	7月3日/晴	
	A 87名	野田穰三
	B 80名	北山清
婦人マンスリー杯	7月5日/晴/9名	岩本紀世子
兵庫県知事杯	7月10日/晴/164名	山下幹夫
週日マンスリー杯	7月12日/晴/10名	芳村公義
神戸新聞杯	7月24日/晴/126名	杉田政二

平成6年 8月

開場記念競技 (3日間)		
	第1日/8月5日/晴/137名	中島紀美子
	第2日/8月6日/晴/175名	加藤宣利
	第3日/8月7日/晴/147名	白國高弘
マンスリー杯		8月14日/晴
	A 66名	羽間平安
	B 62名	藤原昇
婦人マンスリー杯		8月23日/晴/10名
		田野紀子
週日マンスリー杯		8月25日/晴/12名
		中谷文夫

平成6年 9月

婦人マンスリー杯		9月6日/晴/11名
		西岡美栄子
キャプテン杯	59歳以下	川崎亨
	60歳以上	有末清
週日マンスリー杯		9月13日/晴/11名
		宇津呂雄章
グランドシニア招待		9月15日/晴/96名
		久保修吉
敬老の日プライズ		9月15日/晴/41名
		岩本昭
マンスリー杯		9月18日/晴
	A 83名	新原一世
	B 93名	宮本幸雄
秋分の日杯		9月23日/晴
	A 60名	川崎亨
	B 56名	橋本吉弘
グランドシニア杯		9月30日/晴時々曇/31名
		中塚俊郎

平成6年 10月

週日マンスリー杯		10月13日/晴時々曇/9名
		宇津呂雄章
婦人マンスリー杯		10月18日/晴/8名
		外海みつ子
倶楽部選手権		大野崇司
シニア選手権		竹内昭

●競技記録●
1995

グランド・シニア選手権
マンスリー杯
中村 敏郎
10月23日/晴
A 79名 岡本 貞三
B 101名 藤原 宣

平成6年 11月

文化の日
11月3日/晴
A 59名 大場 宏一
B 66名 山下 幹夫
マンスリー杯
11月6日/雨
A 61名 小川 仁彦
B 59名 小久保 勲
婦人マンスリー杯
11月8日/晴/11名
山梨 時江
三和銀行杯
11月13日/晴/139名
松原 倉敏
週日マンスリー杯
11月15日/晴/13名
辻本 孝藏
勤労感謝の日プライズ
11月23日
59歳以下 54名 新原 一世
60歳～67歳迄 44名 木村 洋
68歳以上 34名 田邊 朔郎
帝人杯
11月27日/晴/128名
藤原 宣

平成6年 12月

グランドシニア杯
12月2日/曇/20名
三角 恒雄
マンスリー杯
12月4日/晴
A 77名 浜田 行正
B 85名 鈴木 富弥
婦人マンスリー杯
12月6日/8名
林 光子
週日マンスリー杯
12月8日/14名
芳村 公義
天皇誕生日杯
12月23日
A 59名 西 昭
B 45名 江原 英彦
ラスト・コール・プライズ
12月25日
アウト組 幸原 久
イン組 中川 洋一

平成7年 1月

振り初めプライズ
1月2日/晴
A 53名 木村 哲也
B 44名 藤原 昇
新年杯
1月3日/曇
A 56名 平野 一齊
B 55名 堀 弘之
七草杯
1月8日/晴
A 66名 稲鍵 雄康
B 71名 笠森 千五郎
新春エクレチック競技
平野 一齊

平成7年 4月

グランド・マンスリー杯
4月2日/晴曇
A 6名 野田 穰三
B 8名 小久保 勲
婦人グランド・マンスリー杯
4月4日/晴/7名
林 光子
週日グランド・マンスリー杯
4月6日/晴曇/6名
辻本 孝藏
婦人マンスリー杯
4月11日/晴曇/9名
西岡 美栄子
マンスリー杯
4月16日/雨
A 67名 北村 大一郎
B 63名 廣野 仁利
ゴールド・シニア競技
4月19日/曇/8名
家城 保
週日マンスリー杯
4月20日/晴/8名
中谷 文夫
みどりの日杯
4月29日/曇雨
A 53名 野田 穰三
B 46名 宮本 孝

平成7年 5月

憲法発布記念日プライズ
5月3日/曇
64歳以下 74名 生田 久夫
65歳以上 35名 星島 三平
週日マンスリー杯
5月9日/晴/8名
日下 嘉雄

● 競技記録 ●
1995

理事長杯 59歳以下 脇 勉
60歳以上 大井 眞 操
マンスリー杯 5月28日/晴
A 66名 寺内 正 巳
B 82名 坂井 眞 一

平成7年 6月

婦人マンスリー杯 6月6日/晴/10名
長岡 文子
週日マンスリー杯 6月8日/雨/12名
中谷 文 夫
マンスリー杯 6月11日/晴
A 78名 井上 隆 行
B 84名 岩津 道 生
グラント・シニア杯 6月23日/曇雨/29名
大村 満 雄
神戸新聞杯 6月25日/曇/107名
高島 秀 也

平成7年 7月

マンスリー杯 7月2日/曇雨
A 83名 多田 英 雄
B 59名 茂永 敏 彦
週日マンスリー杯 7月11日/晴/12名
福田 太 郎
芦屋杯 7月23日/晴/45名
大西 健 路

平成7年 8月

開場記念(3日間) 8月4日/晴
第1日目 123名 吉田 良
8月5日/晴
第2日目 151名 森本 二 郎
8月6日/晴
第3日目 146名 生田 芳 章
マンスリー杯 8月20日/晴
A 79名 森川 匡 弘
B 83名 山下 幹 夫
週日マンスリー杯 8月24日/晴/13名
日下 嘉 雄

平成7年 9月

婦人マンスリー杯 9月5日/晴/10名
田野 紀 子
キャプテン杯 59歳以下 伊藤 眞 也
60歳以上 竹内 昭
週日マンスリー杯 9月11日/晴/18名
芳村 公 義
敬老の日プライズ 9月15日/晴
60歳~69歳 27名 岡本 英 三
70歳以上 88名 田邊 朔 郎
マンスリー杯 9月17日/曇雨
A 70名 阪口 善 雄
B 66名 佐藤 守
秋分の日杯 9月23日/曇雨
A 49名 堀口 正 彦
B 45名 橋本 吉 弘
グラントシニア杯 9月29日/晴/31名
富田 幸 三 郎

平成7年 10月

週日マンスリー杯 10月12日/晴/15名
日下 嘉 雄
婦人マンスリー杯 10月17日/晴/12名
外海 みつ子
ゴールド・シニア競技 10月18日/晴/7名
椎尾 市 郎
倶楽部選手権 脇 勉
シニア選手権 大竹 俊 夫
グラント・シニア選手権 平田 豊
マンスリー杯 10月22日/晴
A 73名 山川 賢
B 92名 中川 理

平成7年 11月

文化の日杯 11月3日/晴
A 51名 岩本 洋 三
B 60名 吉田 正
マンスリー杯 11月5日/晴
A 74名 新保 良 一
B 64名 平井 一 男

●競技記録●
1996

婦人マンスリー杯	11月7日/晴雨/13名	山梨時江
三和銀行杯	11月12日/晴/126名	田上拓彌
勤労感謝の日プライズ	11月23日/雨曇	
	59歳以下 19名	吉田正
	60歳～69歳 18名	久保富男
	70歳以上 13名	横山治
週日マンスリー杯	11月24日/晴/11名	古河幸義
帝人杯	11月26日/晴/115名	寺内正巳

平成7年 12月

グラント・シニア杯	12月1日/曇時々晴/18名	村上惣一
マンスリー杯	12月3日/曇	
	Aクラス 75名	林義雄
	Bクラス 84名	小柴和夫
婦人マンスリー杯	12月5日/曇/10名	外海みつ子
週日マンスリー杯	12月7日/晴時々曇/17名	村尾徹
天皇誕生日杯	12月23日/晴	
	A 71名	西端文彦
	B 51名	茂永敏彦
ラスト・コール・プライズ	12月24日/晴/86名	
	アウト組	平野洋治
	イン組	羽間平安

平成8年 1月

振り初めプライズ	1月2日/晴	
	64歳まで 71名	菊池秀一
	65歳以上 39名	星島三平
新年杯	1月3日/晴	
	A 51名	中村正太
	B 49名	橋本吉弘
七草杯	1月7日/晴	
	A 67名	稲鍵雄康
	B 65名	中田昌
マンスリー杯	1月21日/晴	

	A 87名	村上恵一
	B 79名	三崎龍哉
週日マンスリー杯	1月30日/晴時々曇/10名	二木直彦

平成8年 2月

建国記念日プライズ	2月11日/晴	
	64歳以下 49名	西川建次
	65歳以上 41名	山本豊昭
週日マンスリー杯	2月22日/晴雪/15名	古河幸義
婦人マンスリー杯	2月27日/晴/11名	田野紀子

平成8年 3月

マンスリー杯	3月3日/晴	
	A 56名	八田光祐
	B 52名	宮本幸雄
マンスリー杯 (2月)	3月10日/晴	
	A 87名	平井忠夫
	B 85名	加村憲造
婦人マンスリー杯	3月12日/晴雪/10名	宇田敏子
春分の日杯	3月20日/晴	
	A 52名	玉置治夫
	B 58名	山本章善
週日マンスリー杯	3月28日/晴/4名	島田忠男

平成8年 4月

婦人クランド・マンスリー杯	4月2日/晴/3名	長岡文子
週日グラント・マンスリー杯	4月4日/晴/6名	中谷文夫
グラント・マンスリー杯	4月7日/霧晴	
	A 7名	寺内正巳
	B 4名	坂井眞一
婦人マンスリー杯	4月9日/晴/10名	岩本紀世子
芦屋市長杯	4月14日/晴/137名	黒川辰蔵

● 競技記録 ●
1996

ゴールド・シニア競技	4月17日/晴/10名	渡 辺 富 夫
週日マンスリー杯	4月18日/晴/15名	島 田 忠 男
マンスリー杯	4月21日/晴	高 木 芳 治
	A 74名	野 口 伸 一
	B 97名	
みどりの日杯	4月29日/晴	北 村 大 一 郎
	A 70名	西 川 建 次
	B 76名	

平成8年 5月

憲法記念日プライズ	5月3日/晴	三 浦 康 生
	64歳以下 65名	秦 壯 一
	65歳以上 49名	
週日マンスリー杯	5月14日/晴/20名	横 山 治
ゴールド・シニア競技	5月15日/晴/11名	田 中 善 一
婦人マンスリー杯	5月21日/晴/11名	白 江 伊 都 子
理事長杯		森 川 匡 弘
	59歳以下	大 野 崇 司
	60歳以上	
マンスリー杯	5月26日	脇 勉
	A 68名	高 澤 嘉 昭
	B 97名	

平成8年 6月

週日マンスリー杯	6月6日	村 尾 徹
阪神電鉄杯	6月9日/雨/42名	島 田 忠 男
マンスリー杯	6月16日/晴	山 口 稔 彦
	A 77名	石 末 哲 治
	B 109名	久 保 泰 造
神戸新聞杯		

平成8年 7月

婦人マンスリー杯	7月2日/晴/11名	藤 原 吉 公 子
----------	------------	-----------

マンスリー杯	7月7日/曇	平 野 一 齊
	A 81名	有 海 澈 明
	B 81名	
週日マンスリー杯	7月9日/晴曇/22名	古 河 幸 義
兵庫県知事杯	7月14日/晴/154名	藤 原 昇
芦屋杯	7月28日/晴/35名	黒 川 辰 蔵

平成8年 8月

マンスリー杯	8月18日/晴	梶 山 紘 嗣
	A 70名	仲 庭 裕 明
	B 96名	
婦人マンスリー杯	8月20日晴/8名	平 井 康 代
週日マンスリー杯	8月22日/晴/16名	二 木 直 彦
開場記念競技(3日間)		
	第1日目 129名	安 信 清 孝
	第2日目 159名	二 木 直 彦
	第3日目 141名	平 嶋 昭 一

平成8年 9月

婦人マンスリー杯	9月3日/晴/11名	藤 原 吉 公 子
週日マンスリー杯	9月10日/晴/18名	島 田 忠 男
敬老の日プライズ	9月15日/晴	茂 永 敏 彦
	69歳以下 46名	奥 信 夫
	70歳以上 94名	
秋分の日杯	9月23日/晴	熊 谷 克 己
	A 77名	耕 三 寺 宏 山
	B 65名	
グランドシニア杯	9月27日/晴/27名	原 將 仁
キャプテン杯	59歳以下	山 口 稔 彦
	60歳以上	森 本 二 郎
マンスリー杯	9月29日/曇	横 山 宏 史
	A 82名	工 藤 雅 和
	B 94名	

●競技記録●
1997

平成8年 10月

ゴールドシニア競技	10月16日/晴/8名	原 将仁
週日マンスリー杯	10月17日/晴/18名	辻本孝藏
倶楽部選手権		藤井勇二郎
シニア選手権		田中徹雄
グランド・シニア選手権		横山 治
マンスリー杯	10月27日/晴	
	A 80名	廣瀬吉彦
	B 51名	石原一興

平成8年 11月

文化の日杯	11月3日/晴	
	A 51名	肥原良樹
	B 67名	宮脇三郎
マンスリー杯	11月10日/曇	
	A 67名	横山宏史
	B 74名	富永周作
三和銀行杯	11月17日/曇/132名	
		広野浩由
週日マンスリー杯	11月19日/晴/19名	
		古河幸義
勤労感謝の日プライズ	11月23日/晴	
	64歳以下 70名	大西健路
	65歳以上 37名	中村敏郎

平成8年 12月

マンスリー杯	12月1日/曇	
	A 75名	平野一齊
	B 79名	野口伸一
婦人マンスリー杯	12月3日/晴/15名	
		林光子
グランドシニア杯	12月6日/曇/23名	
		酒井泰
帝人杯	12月8日/晴/128名	
		北山清
週日マンスリー杯	12月19日/晴/13名	
		古河幸義
天皇誕生日杯	12月23日/曇	

A 46名	加村憲造
B 47名	島田忠男
ラスト・コール・プライズ ツームストーン	12月29日
アウト組	三角恒雄
イン組	川上勉

平成9年 1月

振り初めプライズ	1月2日/曇	
64歳以下 40名		村上健司
65歳以上 28名		羽間平安
新年杯	1月3日/晴	
	A 41名	田中徹雄
	B 56名	山内敏弘
マンスリー杯	1月19日/晴	
	A 65名	野田肇
	B 103名	保井剛一
週日マンスリー杯	1月28日/晴/20名	
		仲矢研二

平成9年 2月

建国記念日プライズ	2月11日/雪	
64歳以下 20名		岩堀嘉明
65歳以上 12名		北山清
マンスリー杯	2月16日/晴	
	A 59名	寺山満春
	B 57名	星島三平
婦人マンスリー杯	2月18日/晴雪/7名	
		白江伊都子
週日マンスリー杯	2月20日/晴/21名	
		廣瀬洋三

平成9年 3月

週日マンスリー杯	3月4日/晴/20名	
		平松史朗
マンスリー杯	3月9日/晴	
	A 81名	浜田行正
	B 98名	村尾徹
春分の日杯	3月20日/晴	
	A 63名	大月宏治
	B 63名	村尾徹
グランドシニア杯	3月28日/晴/11名	

● 競技記録 ●
1997

藤田 隆 良

平成9年 4月

婦人グランドマンスリー杯		4月1日/晴/5名
		宇田 敏子
週日グランドマンスリー杯		4月3日/曇/5名
		村尾 徹
グランドマンスリー杯	A 8名	平野 一 齊
	B 8名	工藤 雅 和
婦人マンスリー杯		4月8日/晴/12名
		宇田 敏子
芦屋市長杯		4月13日/晴/143名
		石原 一 興
ゴールド・シニア競技		4月16日/晴/12名
		安信 清 孝
週日マンスリー杯		4月17日/晴/19名
		羽間 平 安
マンスリー杯		4月20日/晴
	A 75名	大西 健 路
	B 93名	川上 勉
みどりの日杯		4月29日/晴
	A 64名	篠 裕 美
	B 88名	川上 勉

平成9年 5月

憲法記念日プライズ		5月3日/晴
	64歳以下 35名	大月 宏 治
	65歳以上 56名	橋本 吉 弘
週日マンスリー杯		5月13日/雨/22名
		辻本 孝 藏
婦人マンスリー杯		5月20日/雨/11名
		川田 み さ 子
ゴールド・シニア競技		5月21日/曇雨/10名
		渡辺 富 夫
理事長杯	59歳以下	樋口 昌 弘
	60歳以上	新保 良 一
マンスリー杯		5月25日/晴
	A 69名	香西 正 雄
	B 90名	岡本 貞 三

平成9年 6月

婦人マンスリー杯		6月3日/曇/10名
		宇田 敏子
週日マンスリー杯		6月5日/晴/22名
		猪坂 秀 次
阪神電鉄杯		6月8日/晴/127名
		外賀 昭
マンスリー杯		6月15日/曇
	A 81名	新原 一 世
	B 120名	中村 健 輔
神戸新聞杯		6月22日/曇/124名
		和田 達 也
グランド・シニア杯		6月27日/晴/28名
		安信 清 孝

平成9年 7月

婦人マンスリー杯		7月1日/晴/11名
		藤原 吉 公 子
マンスリー杯		7月6日/晴
	A 77名	竹田 義 二
	B 105名	宮本 幸 雄
週日マンスリー杯		7月8日/雨/19名
		中谷 文 夫

平成9年 8月

婦人マンスリー杯		8月12日/晴/9名
		広瀬 泰 子
マンスリー杯		8月17日/晴
	A 85名	鈴木 啓 示
	B 104名	和田 達 也
週日マンスリー杯		8月21日/晴/23名
		井岡 俊 治
開場記念競技 (3日間)		
	第1日目 157名	笠森 千 五 郎
	第2日目 164名	大野 平
	第3日目 162名	長岡 修

平成9年 9月

婦人マンスリー杯		9月2日/晴/13名
		田野 紀 子

●競技記録●
1997

週日マンスリー杯	9月9日/晴/19名	古河幸義
敬老の日プライズ	9月15日/曇	矢持盛男
	60歳～69歳迄 30名	岩本昭
	70歳以上 88名	山口稔彦
キャプテン杯	59歳以下	黒田三郎
	60歳以上	9月23日/曇
秋分の日杯	A 69名	野村健
	B 78名	廣田傳左衛門
グランド・シニア杯	9月26日/雨/20名	富田幸三郎
マンスリー杯	9月28日/晴	大月宏治
	A 88名	皆見一夫
	B 105名	

平成9年 10月

婦人マンスリー杯	10月14日/晴/14名	川田みさ子
週日マンスリー杯	10月16日/晴/18名	鳥田忠男
倶楽部選手権		脇勉
シニア選手権		田中徹雄
クラブ・シニア選手権		平田豊
マンスリー杯	10月25日/晴	大月宏治
	A 83名	二木直彦
	B 93名	

平成9年 11月

文化の日杯	11月3日/晴	杉元昌夫
	A 59名	山本章善
	B 89名	
マンスリー杯	11月9日/晴	横山治
	A 81名	片桐大亮
	B 91名	
婦人マンスリー杯	11月11日/晴/11名	林光子
三和銀行杯	11月16日/晴/155名	金本鶴三
週日マンスリー杯	11月18日/晴/22名	三澤琇顕

勤労感謝の日プライズ	11月23日/晴	高木芳治
	64歳以下 82名	新保良一
	65歳以上 55名	

平成9年 12月

婦人マンスリー杯	12月2日/晴/11名	広瀬泰子
週日マンスリー杯	12月4日/晴/23名	村尾徹
グランドシニア杯	12月5日/晴/21名	由良泰造
マンスリー杯	12月7日/曇	小原四郎
	A 78名	森脇博
	B 85名	
帝人杯	12月14日/晴/164名	江原英彦
天皇誕生日杯	12月23日/晴	羽間平安
	A 63名	平尾明
	B 56名	
ラストコールプライズ	12月28日/晴/121名	松田陽三
	アウト組	神戸哲治
	イン組	

平成10年 1月

振り初めプライズ	1月2日/晴	高澤嘉昭
	64歳以下 54名	金澤嘉幸
	65歳以上 45名	
新年杯	1月3日/晴	西昭
	A 51名	豊田徳治郎
	B 51名	
七草杯	1月7日/晴	黒田三郎
	A 20名	宮本幸雄
	B 25名	
マンスリー杯	1月18日/雨	足立建夫
	A 57名	松田陽三
	B 50名	
婦人マンスリー杯	1月20日/晴/11名	久保淵壽美
週日マンスリー杯	1月27日/晴/22名	辻本孝藏

● 競技記録 ●
1998

平成10年 2月

婦人マンスリー杯	2月10日/晴/9名	林光子
建国記念日プライズ	2月11日/晴	足立博
	64歳以下 61名	宮本幸雄
	65歳以上 63名	
マンスリー杯	2月15日/晴	岡田勝治
	A 77名	皆見一夫
	B 82名	
週日マンスリー杯	2月19日/晴/20名	古河幸義

平成10年 3月

週日マンスリー杯	3月3日/晴/24名	仲矢研二
マンスリー杯	3月8日/晴	山本公平
	A 91名	松田陽三
	B 110名	
婦人マンスリー杯	3月10日/晴/10名	宇田敏子
春分の日杯	3月21日/晴	津田敬三
	A 64名	原田耕造
	B 75名	

平成10年 4月

週日グランド・マンスリー杯	4月2日/晴雨/12名	島田忠男
グランド・マンスリー杯	4月5日/晴	小原四郎
	A 7名	和田達也
	B 8名	
婦人グランド・マンスリー杯	4月7日/晴/6名	田野紀子
芦屋市長杯	4月12日/晴/164名	川崎亨
ゴールドシニア競技	4月15日/晴/13名	田中善一
週日マンスリー杯	4月16日/晴/19名	古家賢治
マンスリー杯	4月19日/晴	林義雄
	A 10名	

みどりの日杯	B 109名	野口伸一
		4月29日/晴
	A 83名	久保泰造
	B 94名	光島美輝

平成10年 5月

憲法記念日プライズ	64歳以下 56名	向井猛
	65歳以上 43名	岡本健
週日マンスリー杯	5月12日/雨/21名	島田忠男
婦人マンスリー杯	5月19日/晴/11名	川田みさ子
ゴールドシニア競技	5月20日/晴/8名	白崎龍男
理事長杯	59歳以下	樋口昌弘
	60歳以上	大野崇司
マンスリー杯	5月31日/晴	神戸哲治
	A 84名	佐藤潤
	B 96名	

平成10年 6月

婦人マンスリー杯	6月2日/雨/8名	川田みさ子
週日マンスリー杯	6月4日/晴/21名	堀口正彦
阪神電鉄杯	6月7日/晴/130名	高尾晴男
マンスリー杯	6月14日/雨	村上恵一
	A 77名	市川啓三
	B 84名	
神戸新聞杯	6月20日/雨/110名	石末哲治

平成10年 7月

マンスリー杯	7月5日/晴	黒川辰蔵
	A 93名	外賀昭
	B 88名	
婦人マンスリー杯	7月7日/晴/8名	佐藤範子
兵庫県知事杯	7月12日/晴/135名	富永周作

●競技記録●
1998

週日マンスリー杯 7月14日/晴/22名
三澤 琇 顕
芦屋杯 7月26日/曇り雨
A 68名 高澤 嘉 昭
B 67名 春田長三郎

平成10年 8月

マンスリー杯 8月16日/晴
A 88名 有海 澈 明
B 93名 中川 理
婦人マンスリー杯 8月18日/曇/8名
林 光子
週日マンスリー杯 8月20日/晴/17名
岩掘 嘉 明
開場記念競技(3日間)
1日目 134名 東 功
2日間 157名 有海 澈 明
3日目 122名 三島 一 幸

平成10年 9月

婦人マンスリー杯 9月1日/晴/13名
佐藤 範 子
週日マンスリー杯 9月8日/晴/24名
辻本 孝 藏
キャプテン杯 59歳以下 藤井 勇 二郎
60歳以上 大竹 俊 夫
敬老の日プライズ 9月15日/晴
60歳~69歳迄 51名 坂東 平
70歳以上 104名 藤田 隆 良
秋分の日杯 9月23日/曇
A 58名 篠 裕 美
B 67名 岩本 昭
グランド・シニア杯 9月25日/曇雨/17名
中村 敏 郎
マンスリー杯 9月27日/曇
A 85名 宮田 久 寛
B 92名 藤原 昇

平成10年 10月

ゴールド・シニア競技 10月14日/雨曇/8名
村上 惣 一

週日マンスリー杯 10月15日/雨/11名
大井 眞 操
倶楽部選手権 神戸 哲 治
シニア選手権 田中 徹 雄
グランドシニア選手権 竹内 昭
マンスリー杯 10月25日/晴
A 82名 高木 芳 治
B 83名 掘口 正 彦

平成10年 11月

文化の日杯 11月3日/晴
A 60名 金澤 嘉 幸
B 78名 塚尾 典 明
マンスリー杯 11月8日/晴
A 82名 乃 一 裕
B 91名 富永 周 作
婦人マンスリー杯 11月10日/晴/14名
久保 淵 壽 美
三和銀行杯 11月15日/晴/156名
松本 康 三
週日マンスリー杯 11月17日/晴/16名
三澤 琇 顕
勤労感謝の日プライズ 11月23日/晴
64歳以下 93名 山本 章 善
65歳以上 36名 富永 周 作

平成10年 12月

婦人マンスリー杯 12月1日/晴/8名
林 光子
週日マンスリー杯 12月3日/曇/30名
村尾 徹
グランドシニア杯 12月4日/晴/18名
川上 勉
マンスリー杯 12月6日/晴
A 77名 山本 澄
B 91名 橋本 惣 三郎
帝人杯 12月13日/晴/162名
掘口 正 彦
天皇誕生日杯 12月23日/晴
A 64名 小川 仁 彦
B 68名 西村 俊 雄

● 競技記録 ●
1999

ラストコールプライズ 12月27日/晴/80名
アウト組 田中昌利
イン組 耕三寺宏山

A 60名 熊谷克巳
B 48名 川上勉
3月26日/曇のち雨/14名
浅田幸吉

平成11年 1月

振り初めプライズ 1月2日/晴曇
64歳以下 51名 合阪欽司
65歳以上 49名 長岡修
新年杯 1月3日/晴
A 77名 井岡俊治
B 57名 外賀昭
七草杯 1月10日/晴
A 58名 西紀
B 46名 寺本剛
新春エクレチック競技
マンスリー杯 1月17日/晴
A 101名 北村大一郎
B 70名 二木直彦
婦人マンスリー杯 1月19日/雨/8名
外海みつ子
週日マンスリー杯 1月26日/晴/26名
松山正之

平成11年 2月

婦人マンスリー杯 2月9日/晴/15名
川田みさ子
マンスリー杯 2月14日/晴
A 72名 寺内正巳
B 62名 豊田徳治郎
週日マンスリー杯 2月18日/雨/12名
仲矢研二

平成11年 3月

週日マンスリー杯 3月2日/晴/22名
羽間平安
マンスリー杯 3月7日/雨
A 98名 脇勉
B 46名 宮本幸雄
婦人マンスリー杯 3月9日/雨/11名
川田みさ子
春分の日 3月21日/雨

グランドシニア杯

平成11年 4月

週日グランド・マンスリー 4月1日/晴/9名
島田忠男
グランド・マンスリー杯 4月4日/曇
A 11名 山本公平
B 9名 皆見一夫
婦人グランド・マンスリー杯 4月6日/雨/3名
宇田敏子
芦屋市長杯 4月11日/晴/178名
市川啓三
婦人マンスリー杯 4月13日/晴/14名
張光
ゴールド・シニア競技 4月14日/晴/10名
三角恒雄
週日マンスリー杯 4月15日/晴/21名
島田忠男
マンスリー杯 4月18日/雨
A 50名 新保良一
B 41名 岡田弘
みどりの日杯 4月29日/晴
A 84名 田上拓彌
B 78名 原田耕造

平成11年 5月

憲法記念日プライズ 5月3日/晴
64歳以下 72名 黒川辰蔵
65歳以上 42名 新保良一
週日マンスリー 5月11日/晴/19名
富田幸三郎
婦人マンスリー 5月18日/晴/12名
久保淵壽美
理事長杯 59歳以下 平野一齊
60歳以上 高木純一
マンスリー杯 5月30日/晴
A 100名 高木芳治
B 93名 川上勉

●競技記録●
1999

平成11年 6月

婦人マンスリー杯	6月1日/晴/9名	佐藤 範子
週日マンスリー杯	6月3日/雨のち曇/22名	日下 嘉雄
阪神電鉄杯	6月6日/晴/151名	大井 眞操
マンスリー杯	6月13日/曇	A 93名 川崎 亨
		B 93名 尾村 正包
神戸新聞杯	6月20日/曇/114名	割田 俊明

平成11年 7月

マンスリー杯	7月4日/晴	A 105名 脇 勉
		B 95名 岡本 満壽男
婦人マンスリー杯	7月6日/晴/13名	広瀬 泰子
兵庫県知事杯	7月11日/晴/169名	黒川 実
週日マンスリー杯	7月13日/曇時々雨/23名	芳村 公義
芦屋杯	7月25日/晴	A 89名 古家 賢治
		B 63名 和田 達也

平成11年 8月

マンスリー杯	8月15日/雨のち曇	A 78名 古家 賢治
		B 70名 尾村 正包
婦人マンスリー杯	8月17日/晴/9名	宇田 敏子
週日マンスリー杯	8月19日/曇のち雨/23名	大井 眞操
開場記念日 (3日間)		1日目 140名 三角 恒雄
		2日目 144名 木村 哲也
		3日目 138名 塩見 博昭

平成11年 9月

キャプテン杯	9月12日/晴	59歳以下 池田 吉孝
		60歳以上 林 義雄
週日マンスリー杯	9月14日/雨のち曇/16名	芳村 公義
敬老の日プライズ	9月17日/晴	70歳以上 寺田 義弘
秋分の日杯	9月23日/晴	A 81名 脇 勉
		B 75名 近藤 正
マンスリー杯	9月26日/晴	A 108名 大西 健路
		B 83名 竹之内 勲

平成11年 10月

婦人マンスリー杯	10月5日/晴/14名	山田 圭子
週日マンスリー杯	10月14日/晴/28名	古河 幸義
倶楽部選手権		野田 穰三
シニア選手権		田中 徹雄
グランドシニア選手権		大竹 俊夫
マンスリー杯	10月24日/晴	A 97名 塩見 博昭
		B 79名 中島 晋介

平成11年 11月

文化の日杯	11月3日/晴	A 79名 井岡 俊治
		B 77名 竹之内 勲
婦人マンスリー杯	11月9日/晴/16名	林 光子
マンスリー杯	11月14日/晴	A 102名 神戸 哲治
		B 79名 尾村 正包
週日マンスリー杯	11月16日/晴/19名	渋谷 憲明
三和銀行杯	11月21日/晴/139名	松本 康三

● 競技記録 ●
2000

勤労感謝の日プライズ 11月23日/曇
64歳以下 68名 耕三寺宏山
65歳以上 53名 川上勉

平成11年 12月

週日マンスリー杯 12月2日/雨のち曇/24名
岩堀嘉明
グラント・シニア杯 12月3日/晴/12名
椎尾市郎
マンスリー杯 12月5日/曇
A 91名 八木幸一
B 77名 竹内正
帝人杯 12月12日/晴/173名
三宅良孝
婦人マンスリー杯 12月21日/晴/14名
山梨時江
天皇誕生日杯 12月23日/晴
A 65名 篠裕美
B 61名 杉田政二

平成12年 1月

振り初めプライズ 1月2日/晴
64歳以下 74名 中川博二
65歳以上 59名 高澤嘉昭
新年杯 1月3日/晴
A 73名 樋口昌弘
B 65名 中田昌
七草杯 1月9日/曇
A 77名 藤井勇二郎
B 56名 上垣一興
新春エクレチック競技 晴/37名
藤井勇二郎
マンスリー杯 1月16日/晴のち曇
A 91名 鈴木啓示
B 87名 藤原宣
婦人マンスリー杯 1月18日/晴/16名
静恵美子
週日マンスリー杯 1月25日/曇/28名
渋谷憲明

平成12年 2月

建国記念日プライズ 2月11日/晴
64歳以下 44名 高尾晴男
65歳以上 41名 二木直彦
マンスリー杯 2月13日/晴
A 88名 江原英彦
B 61名 島田忠男
婦人マンスリー杯 2月15日/晴のち曇/10名
脇三映
週日マンスリー杯 2月17日/晴/23名
脇三映

平成12年 3月

マンスリー杯 3月5日/晴
A 95名 澤田雄幸
B 75名 藤原宣
週日マンスリー杯 3月7日/晴/29名
芳村公義
婦人マンスリー杯 3月14日/晴/18名
寺崎絢子
春分の日杯 3月20日/晴
A 71名 大西健路
B 46名 尾上浩平
グラント・シニア杯 3月24日/晴/16名
麦谷稔

平成12年 4月

グラント・マンスリー杯 4月2日/曇
A 10名 川崎亨
B 7名 竹之内勲
婦人グラント・マンスリー杯 4月4日/曇
張光
週日グラント・マンスリー杯 4月6日/晴
芳村公義
芦屋市長杯 4月9日/晴のち曇
169名 松原倉敏
婦人マンスリー杯 4月11日/晴/17名
山田圭子
週日マンスリー杯 4月13日/晴/29名
静恵美子

●競技記録●
2000

マンスリー杯 4月16日/晴
A 103名 横山宏史
B 76名 森輝彦
みどりの日杯 4月29日/晴
A 105名 西紀
B 83名 北山清

平成12年 5月

憲法記念日プライズ 5月3日/晴
64歳以下 58名 渡部慶一
週日マンスリー杯 5月16日/晴/27名
植田公郎
婦人マンスリー杯 5月23日/晴/16名
静恵美子
理事長杯 59歳以下 脇勉
60歳以上 高木芳治
マンスリー杯 5月28日/晴
A 88名 森脇博
B 63名 田中義久

平成12年 6月

週日マンスリー杯 6月1日/晴/33名
植田公郎
阪神電鉄杯 6月4日/晴/146名
池田吉孝
婦人マンスリー杯 6月6日/晴/13名
寺崎絢子
マンスリー杯 6月11日/小雨のち曇
A 89名 森脇博
B 65名 田中義久
神戸新聞杯 6月18日/曇時々晴/152名
藤原宣
グランド・シニア杯 6月23日/曇/13名
片桐大亮

平成12年 7月

マンスリー杯 7月2日/晴
A 107名 樋口昌弘
B 82名 仲矢研二
婦人マンスリー杯 7月4日/晴/10名
静恵美子

兵庫県知事杯 7月9日/晴/153名
森川照光
週日マンスリー杯 7月13日/曇/28名
芳村公義
芦屋杯 7月23日/晴
A 90名 森脇博
B 64名 中田昌

平成12年 8月

マンスリー杯 8月13日/晴
A 81名 樋口昌弘
B 68名 道場紀男
週日マンスリー杯 8月17日/曇/32名
渋谷憲明
開場記念競技(3日間)
第1日目 150名 種田明
第2日目 134名 岩上禎史
第3日目 137名 田中義久

平成12年 9月

婦人マンスリー杯 9月5日/晴/8名
加護野葉子
週日マンスリー杯 9月12日/雨/9名
三澤琇顕
キャプテン杯 59歳以下 大月宏治
60歳以上 猪坂秀次
敬老の日プライズ 9月15日/曇/76名
篠崎武
グランド・シニア杯 9月22日/曇/18名
笠森千五郎
秋分の日杯 9月23日/雨のち曇/16名/18HS
玉置治夫
マンスリー杯 9月24日/晴
A 95名 松山正之
B 85名 藤原宣

平成12年 10月

婦人マンスリー杯 10月3日/晴/10名
静恵美子
週日マンスリー杯 10月12日/晴/23名
三澤琇顕

● 競技記録 ●
2001

倶楽部選手権 平野一齊
シニア選手権 大野崇司
グランドシニア選手権 黒田三郎
マンスリー杯 10月22日/晴
A 90名 山本茂
B 78名 田村真二

平成12年 11月

文化の日杯 11月3日/曇
A 63名 山口稔彦
B 58名 高山幸三
婦人マンスリー杯 11月7日/晴/21名
静恵美子
マンスリー杯 11月12日/晴
A 96名 玉置治夫
B 73名 野口武彦
週日マンスリー杯 11月14日/曇/17名
古家賢治
三和銀行杯 11月19日/晴/150名
田上拓彌
勤労感謝の日プライズ 11月23日/晴
64歳以下 77名 竹之内勲
65歳以上 43名 大竹俊夫

平成12年 12月

グランド・シニア杯 12月1日/晴/17名
藤田隆良
マンスリー杯 12月3日/晴
A 89名 松本康三
B 80名 工藤雅和
婦人マンスリー杯 12月5日/晴/17名
高橋順子
週日マンスリー杯 12月7日/晴/20名
岩堀嘉明
帝人杯 12月10日/雨のち曇/114名
岡本健
天皇誕生日杯 12月23日/晴
A 71名 細川喜子雄
B 62名 三木武
ラストコールプライズ 12月26日/晴
アウト組 篠裕美

イン組 中島晋介

平成13年 1月

振り初めプライズ 1月2日/曇
64歳以下 71名 岩津道生
65歳以上 51名 羽間平安
新年杯 1月3日/晴
A 60名 大月宏治
B 62名 野口伸一
新春エクレチック競技 晴/44名
大月宏治
マンスリー杯 2月12日/曇
A 53名 脇勉
B 41名 野口伸一
婦人マンスリー杯 1月23日/曇/18名
静恵美子
週日マンスリー杯 1月30日/晴/31名
岩堀嘉明

平成13年 2月

建国記念日プライズ 2月11日/晴
64歳以下 47名 張哲彦
65歳以上 55名 宇田耕也
マンスリー杯 3月18日/晴
A 71名 松原倉敏
B 58名 阪本弘二
婦人マンスリー杯 2月20日/晴/16名
高橋順子
週日マンスリー杯 2月22日/晴/27名
辻本孝藏

平成13年 3月

マンスリー杯 3月4日/雨のち晴
A 57名 澤田雄幸
B 37名 坂本弘二
週日マンスリー杯 3月5日/57名
植田公郎
婦人マンスリー杯 3月13日/晴/10名
佐藤範子
グランド・シニア杯 3月23日/曇のち晴/11名
北山清

●競技記録●
2001

春分の日杯 3月20日/晴
A 68名 小 國 武 彦
B 46名 篠 崎 武

平成13年 4月

グランド・マンスリー杯 4月1日/晴
A 9名 山 本 茂
B 6名 野 口 武 彦
婦人グランド・マンスリー杯 4月3日/曇時々雨/6名
加護野葉子
週日グランド・マンスリー杯 4月5日/晴/7名
静 恵 美 子
芦屋市長杯 4月8日/晴/141名
杉 村 利 史
婦人マンスリー杯 4月10日/晴/21名
山 田 圭 子
週日マンスリー杯 4月12日/雨/25名
近 藤 正
マンスリー杯 4月15日/晴
A 96名 吉 田 清 治
B 80名 竹 花 正 美
みどりの日杯 4月29日/雨
A 94名 羽 田 正 晴
B 64名 春 田 長 三 郎

平成13年 5月

憲法記念日ブライズ 5月3日/曇
64歳以下 57名 山 本 澄
65歳以上 57名 尾 上 浩 平
週日マンスリー杯 5月15日/晴/32名
藤 井 忠 男
理事長杯 中 島 清
シニアクラス 高 木 芳 治
グランドシニアクラス 宮 本 幸 雄
マンスリー杯 5月27日/晴
A 88名 井 岡 俊 治
B 62名 廣 田 傳 左 衛 門

平成13年 6月

阪神電鉄杯 6月3日/晴/152名
黒 田 俊 一

婦人マンスリー杯 6月5日/曇のち雨/18名
加護野葉子
週日マンスリー杯 6月7日/曇/24名
竹 花 正 美
マンスリー杯 6月10日/晴
A 96名 板 垣 周 三
B 83名 岩 堀 嘉 明
神戸新聞杯 6月17日/晴/141名
清 水 和 正
グランド・シニア杯 6月22日/曇/19名
秋 田 勝 幸

平成13年 7月

マンスリー杯 7月1日/晴
A 98名 加 村 憲 造
B 95名 富 永 周 作
婦人マンスリー杯 7月3日/晴/19名
寺 崎 絢 子
兵庫県知事杯 7月8日/晴/164名
西 村 俊 雄
週日マンスリー杯 7月10日/晴/33名
富 田 幸 三 郎
芦屋杯 7月22日/晴
A 90名 新 原 一 世
B 60名 西 村 俊 雄

平成13年 8月

週日マンスリー杯 8月9日/曇/27名
富 田 幸 三 郎
マンスリー杯 8月12日/曇のち晴
A 85名 中 山 克 彦
B 64名 堀 昭
婦人マンスリー杯 8月31日/晴/10名
加護野葉子
開場記念競技(3日間)
第1日目 143名 尾 崎 宗 秀
第2日目 152名 相 原 洋 介
第3日目 129名 堀 口 正 彦

● 競技記録 ●
2001

平成13年 9月

グラウンド・シニア杯	9月2日/曇時々雨/13名	黒川 実
婦人マンスリー杯	9月4日/晴/18名	脇 三 映
キャプテン杯	59歳以下 平井信太郎 60歳以上 野村 健	
週日マンスリー杯	9月14日/曇/25名	芳村公義
敬老の日プライズ	9月15日/曇/71名	仲矢研二
秋分の日杯	9月23日/晴	A 67名 中山克彦 B 95名 渡部慶一
マンスリー杯	9月30日/曇時々雨	A 74名 平井忠夫 B 61名 三上文一郎

平成13年 10月

婦人マンスリー杯	9月2日/曇のち晴/21名	村上良子
週日マンスリー杯	10月11日/晴/38名	宇田耕也
倶楽部選手権		藤井勇二郎
シニア選手権		田中徹雄
グラウンドシニア選手権		竹内 昭
マンスリー杯	10月28日/曇時々雨	A 83名 小川説郎 B 59名 奥山公平

平成13年 11月

文化の杯	11月3日/曇時々雨	A 48名 竹内 昭 B 34名 竹花正美
マンスリー杯	11月11日/晴	A 95名 森脇 博 B 78名 小柴和夫
婦人マンスリー杯	11月13日/曇/20名	張 光

三和銀行杯	11月18日/晴/166名	宮田久寛
週日マンスリー杯	11月20日/晴/31名	島田忠男
勤労感謝の日プライズ	11月23日/晴	中島 清 雀部昌吾
	64歳以下 88名	
	65歳以上 67名	

平成13年 12月

マンスリー杯	12月2日/晴	A 97名 林 義雄 B 77名 橋本吉弘
婦人マンスリー杯	12月4日/曇のち晴/17名	鈴木恵子
週日マンスリー杯	12月6日/雨のち曇/25名	安田忠壽
グラウンドシニア杯	12月7日/晴/10名	北山 清
帝人杯	12月9日/曇時々晴/164名	北山 清
天皇誕生日杯	12月23日/曇のち晴	A 60名 塩見博昭 B 74名 北山 清
ラストコールプライズ	12月24日/晴	アウト組 乃一 裕 イン組 鈴木啓示

インタークラブ競技

インタークラブの歴史

関西ゴルフ連盟の主催するこのインタークラブ競技は、当初「ゴールドメダル競技」と呼ばれ、1960年（昭和35年）まで各クラブの懇親を目的として企画された。その第一回ゴールドメダル競技は、1932年（昭和7年）茨木カンツリー倶楽部で開かれた。そのとき参加したのは、茨木、鳴尾、宝塚の三倶楽部だった。その後、広野をはじめ愛知県以西の各クラブがぞくぞくと参加して、年ごとに盛大となり、権威のある催しへと育っていった。

しかし1942年（昭和17年）から1949年（昭和24年）までは、戦中と戦後の混乱期であったため、この競技は中断されたが、幸いにも1950年（昭和25年）から再開されることとなった。それ以来、参加クラブ数が多くなったため、1967年（昭和42年）からは地区予選が行われるようになり、さらにその予選に二次予選が登場するなど、厳しいものになっていった。現在、加盟クラブ数は190余、予選は12地区に増えた。更にスコアにこだわって、懇親という本来の意味がうすれるのを防ぐため、各クラブの選手8名のうち、55歳以上の選手を必ず3名入れて、年齢差への配慮もすることになってきた。

当倶楽部もこのインタークラブ競技に1954年（昭和29年）から参加し、初めて西川道夫氏ら8名が出場した。その後、現在に至るまで一度も欠かすことなく出場している。そして昭和51年、昭和58年と昭和63年の3回、当倶楽部に於いて地区予選競技が行われた。

選ばれることの名誉とは

インタークラブ競技に出場するという事は、その選手にとっては非常に名誉なことである。即ち、ゴルフが上手というだけでは決して選ばれない。マナーやルールなどあらゆる面からチェックされ、文字通りゴルファーのお手本になれる人格者として、倶楽部の推薦を受けた人が選ばれるもので、これは正に、ハンディを超えた名誉だと認識しても差しかえない。一般にも、「あの人は、インタークラブの選手…」と言われるだけで、ハンディに関係なく高い評価を受け、尊敬されている。

インタークラブ競技の選手たち

芦屋カンツリー倶楽部からクラブの代表選手に選ばれたと告知を受けると、試合日の約3ヶ月前にクラブで理事長以下三役臨席のもとに厳粛に結団式が行われ、正式に選手は初顔合わせをする。理事長のごあいさつでは、オリンピックと同様に参加することに意義があるのだと、従って名門芦屋のメンバーに相応しく、勝負よりも先ずエチケットを守り、品位のある態度で、しかも仲良く競技に臨んでほしい旨の激励を受ける。

選手にとっては「参加」と言う言葉よりも、オリンピックと言う言葉が脳裏に残り、オリンピックは勝負を競う場であることはいままでのない。

この頃から選手の肩には言い知れぬ緊張と誇りがじわじわと重圧となってかぶさってくる。それから試合当日までの約三ヶ月間、日曜、祝日毎に選手が集合して、選手同士でプレーをして切磋琢磨する。

試合日の一月位前になると試合本番のコースでの練習日（ウィークデイ）が指定される。本番コースには2回は練習に出向くが、競技委員長に引率され、石井勉夫プロや平石武則プロの直接指導を受ける。時にはキャプテンも同行され、選手たちの気持ちも引き締まる。

そして芦屋CCのマークの入ったユニフォームシャツを受け取ると、あとは試合に向けてプレッシャーと戦いながら猛進するしかない。

そこで、ウィークデイの夜に練習場に通ってひたすらボールを打ち、或いは、本番コースの友人を誘って練習ラウンドしたりして、少しでも不安の解消につとめる。そのため、練習し過ぎて腰を痛め、試合当日、朝一番にメンバーのドクターにかけ込んで、尻に痛み止めの注射を受け、痛みをこらえながら本番に出場したとか、試合日早朝に急患に飛び込まれて断われず、やっとのことで試合のスタート時間に間に合ったとか、それぞれ選手には言い尽くせない苦勞がつきまとう。

いよいよ試合当日。いつも晴れて好日とは限らない。強烈な雨と風、まるで台風もどきの悪天候でも試合は必ず行われる。グリーンが水浸しになっても、カップの近くにくるとゴルフ場の人が、バンカーならしで水をはねのけ、2、3人の女性が沢山用意したバスタオルで水を吸い取ると同時に、直ぐ打つように指示される。しかし篠突く雨に、またすぐグリーンは水浸しになり、ボールは急ブレーキがかかって進まない。本当に泣きたくなるような目に合った経験もする。

こんな苦勞があるからこそ、試合が無事に終わった後はホットした開放感に包まれ、お互いの苦勞をねぎらってさらに友情を深めていく。

インタークラブ競技 年度別代表選手

●1954～2001

1962年以前は予選なし、1963年～1970年は旧KGU（中部以西）、1970年のみ1次2次予選実施

1954年（昭和29年度）

宝塚ゴルフ倶楽部

西川道夫
西村熊市
柴田喜代治
竹村忠男
木下高明
川延善一郎
川延誠治郎
江見祐吉

1955年（昭和30年度）

名古屋ゴルフ倶楽部

西村熊市
浅野弓夫
川延善一郎
竹村忠男
江見祐吉
中村敏郎
高石勝男
網谷福造

1956年（昭和31年度）

広野ゴルフ倶楽部

西村熊市
中村敏郎
川延善一郎
塩見泰治
江見祐吉
野田誠三
戸来誠
高橋庸次

1957年（昭和32年度）

宝塚ゴルフ倶楽部

西村熊市
中村敏郎

川延善一郎
奥山勉
高橋庸次
児玉勇

1958年（昭和33年度）

茨木カントリー倶楽部

西村熊市
児玉勇
中村敏郎
奥山勉

張清霖
戸来誠
江見祐吉
高橋庸次

1959年（昭和34年度）

鳴尾ゴルフ倶楽部

児玉勇
西村熊市
中村敏郎
奥山勉
江見祐吉
平井達三
高橋庸次
張清霖
川延善一郎

1960年（昭和35年度）

広島カントリー倶楽部

児玉勇
高橋庸次
平井達三
中村敏郎
江見祐吉
奥山勉
西村熊市

張清霖

1961年（昭和36年度）

宝塚ゴルフ倶楽部

児玉勇
高橋庸次
張清霖
西村熊市
岡本貞三
平井達三
奥山勉
佐藤稔己

1962年（昭和37年度）

城陽カントリー倶楽部

児玉勇
高橋庸次
張清霖
西村熊市
岡本貞三
平井達三
佐藤稔己
安田博

1963年（昭和38年度）

広野ゴルフ倶楽部

高橋庸次
児玉勇
中村敏郎
安田博
佐藤稔己
張清霖
宇田耕也
岡本貞三

1964年（昭和39年度）

広野ゴルフ倶楽部

張清霖

高橋庸次
佐藤稔己
宇田耕也
岡本貞三
中村敏郎

1965年（昭和40年度）

小野ゴルフ倶楽部

高橋庸次
張清霖
安田博
立石寛
佐藤稔己
岡本貞三
宇田耕也

1966年（昭和41年度）

加古川ゴルフ倶楽部

高橋庸次
張清霖
立石寛
中村敏郎
平井忠夫
安田博
宮川敬一

1967年（昭和42年度）

広野ゴルフ倶楽部

高橋庸次
児玉勇
張清霖
安田博
李義敦
立石寛
平井忠夫

1968年 (昭和43年度)
西宮高原ゴルフ倶楽部

高橋 庸次
安田 博
張 清 霖
岡本 貞三
立石 寛自
平井 忠夫
藤原 広明

1969年 (昭和44年度)
広野ゴルフ倶楽部

立石 寛自
張 清 霖
藤原 広明
平井 忠夫
宮川 敬一
安田 博郎
糀谷 重郎

1970年 (昭和45年度)
西宮高原ゴルフ倶楽部

高橋 庸次
平井 忠夫
張 清 霖
藤原 広明
安田 博
立石 寛自
宮川 敬一

1971年 (昭和46年度)
有馬カンツリー倶楽部

高橋 庸次
平井 忠夫
張 清 霖
藤原 広明
安田 博
立石 寛自
糀谷 重郎

1972年 (昭和47年度)
よみうりカンツリー倶楽部

張 清 霖
平井 忠夫
宮川 敬一
高橋 庸次
藤原 広明
渡辺 正二
糀谷 重郎

1973年 (昭和48年度)
三田ゴルフクラブ

張 清 霖
立石 寛自
藤原 広明
平井 忠夫
宮川 敬一
長谷部 隆三
糀谷 重郎

1974年 (昭和49年度)
宝塚ゴルフ倶楽部

張 清 霖
藤原 広明
平井 忠夫
立石 寛自
樋川 健一
長谷部 隆三
平野 一齊
石田 和弘
平野 洋治

1975年 (昭和50年度)
有馬ロイヤル
ゴルフクラブ

張 清 霖
藤原 広明
平井 忠夫
立石 寛自

樋川 健一
平野 一齊
平野 洋治
石田 和弘
柴谷 昭治

1976年 (昭和51年度)
芦屋カンツリー倶楽部

張 清 霖
藤原 広明
平井 忠夫
立石 寛自
平野 一齊
石田 和弘
平野 洋治
柴谷 昭治

1977年 (昭和52年度)
三木ゴルフ倶楽部

張 清 霖
平井 忠夫
平野 一齊
平野 洋治
新原 一世
立石 寛自
糀谷 重郎
兎玉 勇
石田 和弘

1978年 (昭和53年度)
有馬ロイヤル
ゴルフクラブ

張 清 霖
平井 忠夫
立石 寛自
平野 一齊
石田 和弘
平野 洋治
安田 博

新原 一世
横山 宏史
兎玉 勇

1979年 (昭和54年度)
西宮高原ゴルフ倶楽部

平井 忠夫
石田 和弘
平野 洋治
高木 芳治
新原 一世
張 清 霖
立石 寛自
安田 博
宮川 敬一
桜井 正文

1980年 (昭和55年度)
旭国際カンツリー倶楽部

石田 和弘
平野 洋治
平井 忠夫
新原 一世
高木 芳治
安田 博
張 清 霖
宮川 敬一
立石 寛自
永安 秀男

1981年 (昭和56年度)
広野ゴルフ倶楽部

石田 和弘
平野 洋治
平井 忠夫
新原 一世
高木 芳治
安田 博
張 清 霖

宮川敬一
立石寛自
永安秀男

1982年(昭和57年度)
垂水ゴルフ倶楽部

平井忠夫
立石寛自
新原一世
高木芳治
宮川敬一
三村昭夫
安田博
張清霖
平野洋治
石田和弘

1983年(昭和58年度)
芦屋カンツリー倶楽部

平野洋治
石田和弘
平井忠夫
高木芳治
張清霖
立石寛自
安田博
板東義明

1984年(昭和59年度)
グリーンエース
カントリークラブ

平井忠夫
石田和弘
張哲彦
平野洋治
安田博
立石寛自
張清霖
板東義明

1985年(昭和60年度)
兵庫カンツリー倶楽部

平井忠夫
石田和弘
張哲彦
大野崇司
安田博
高木芳治
張清霖
広田傳左衛門

1986年(昭和61年度)
小野国際カンツリー倶楽部

新原一世
横山宏史
張哲彦
平野洋治
安田博
高木芳治
平井忠夫
石田和弘

1987年(昭和62年度)
六甲国際ゴルフ倶楽部

張哲彦
大月宏治
平野洋治
藤井勇二郎
安田博
高木芳治
平井忠夫
石田和弘

1988年(昭和63年度)
芦屋カンツリー倶楽部

平野洋治
藤井勇二郎
脇勉
大川耕明

高木芳治
平井忠夫
石田和弘
新原一世

1989年(平成元年度)
大宝塚ゴルフクラブ

藤井勇二郎
平野洋治
脇勉
大川耕明
石田和弘
新原一世
平井忠夫
安田博

1990年(平成2年度)
西宮高原ゴルフ倶楽部

大川耕明
脇勉
藤井勇二郎
樋口昌弘
平井忠夫
新原一世
大野崇司
高木芳治

1991年(平成3年度)
スポーツニッポン
カントリー倶楽部

平井忠夫
大野崇司
新原一世
横山宏史
藤井勇二郎
脇勉
樋口昌弘
大川耕明

1992年(平成4年度)

西宮カンツリー倶楽部

高木芳治
平井忠夫
大野崇司
平野一齊
新原一世
稲鍵雄康
平野洋治
脇勉
樋口昌弘
大川耕明

1993年(平成5年度)
宝塚ゴルフ倶楽部

平井忠夫
平野一齊
平野洋治
横山宏史
脇勉
樋口昌弘
大川耕明
山口稔彦

1994年(平成6年度)
千刈カンツリー倶楽部

平井忠夫
平野洋治
大竹俊夫
脇勉
樋口昌弘
大川耕明
竹内昭
平野一齊

1995年(平成7年度)
能勢カンツリー倶楽部

平井忠夫
竹内昭
大野崇司

平野一齊
脇勉
樋口昌弘
藤井勇二郎

1996年(平成8年度)
新宝塚カントリークラブ

平井忠夫
大野崇司
平野一齊
野田穰三
山口稔彦
樋口昌弘
板垣周三

1997年(平成9年度)
大宝塚ゴルフクラブ

平井忠夫

平野一齊
横山宏史
野田穰三
板垣周三
山口稔彦
脇勉
樋口昌弘

1998年(平成10年度)

猪名川

国際カントリー倶楽部

平井忠夫
大野崇司
平野一齊
横山宏史
樋口昌弘
野田穰三

山口稔彦
脇勉

1999年(平成11年度)
宝塚高原ゴルフクラブ

平井忠夫
平野一齊
野田穰三
山本澄彦
脇勉
樋口昌弘
山口稔彦

2000年(平成12年度)
旭国際

宝塚カントリー倶楽部

平野一齊
野田穰三

山本澄彦
山口稔彦
脇勉
樋口昌弘
神戸哲治

2001年(平成13年度)
西宮高原ゴルフ倶楽部

平野一齊
平井忠夫
山本澄彦
野田穰三
鈴木啓示
脇勉
樋口昌弘

コースレコード

(アマチュアゴルファー)

1992 **樋口昌弘** **out 36** **in 35** **71**

1992年(平成4年)9月6日、三大競技の一つであるキャプテン杯予選において記録された。

(プロフェッショナルゴルファー)

1963 **松田司郎** **out 33** **in 31** **64**

1963年(昭和38年)、当時のコースはOUT35、IN35、計70でプロの公式競技で記録された。

ハンディキャップ一覧

平成14年1月1日現在

氏名	Hdcp	JGA・暫定
平野 一 齊	5	JGA
藤井 勇 二郎	6	JGA
川上 千 太郎	6	暫定
脇 雄 勉	7	JGA
澤田 雄 幸	7	JGA
野田 穰 三	7	JGA
池田 吉 孝	8	JGA
樋口 昌 弘彦	8	JGA
山口 口 稔	8	JGA
鈴木 啓 示	8	JGA
戸田 和 孝	9	JGA
山本 澄 澄	9	JGA
高木 芳 治	9	JGA
田中 徹 雄	9	JGA
平井 忠 夫	9	JGA
金本 鶴 三	9	JGA
加村 憲 造	9	JGA
神戸 哲 治	9	JGA
大野 崇 司	9	JGA
玉置 治 夫	10	JGA
山村 隆 俊	10	JGA
山本 茂 茂	10	JGA
横山 宏 史	10	JGA
中島 清 清	10	JGA
矢野 和 之	10	暫定
中庄 谷 康 弘	10	暫定
北村 大 一	11	JGA
國澤 俊 彦	11	JGA
板垣 周 三	11	JGA
一瀬 尊 志	11	JGA
竹内 昭 昭	11	JGA
田中 康 隆	11	JGA
古河 幸 義	11	JGA
阪口 善 雄	11	JGA
篠 裕 美	11	JGA
大竹 俊 夫	11	JGA
大月 宏 治	11	JGA
小川 仁 彦	11	JGA
中村 正 太	11	暫定
三澤 瑋 顕	12	JGA
香西 正 雄	12	JGA
今泉 洋 一	12	JGA
武部 恭 一	12	JGA
平井 信 太 郎	12	JGA
森川 匡 弘	12	JGA
西 野 紀 紀	12	JGA
大原 重 和	12	JGA
小川 説 郎	12	JGA
寺崎 武 彦	12	暫定
井岡 俊 治	13	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
稲鍵 雄 康	13	JGA
井上 隆 行	13	JGA
米田 芳 弘	13	JGA
田上 拓 彌	13	JGA
田中 正 一	13	JGA
平野 洋 治	13	JGA
算 靖 夫	13	JGA
中山 克 彦	13	JGA
川崎 亮 亨	13	暫定
宮脇 亮 亘	13	暫定
松本 康 三	14	JGA
古家 賢 治	14	JGA
張 哲 彦	14	JGA
津田 敬 三	14	JGA
瀧川 秀 司	14	JGA
廣田 元 孝	14	JGA
藤田 隆 良	14	JGA
細川 喜 子 雄	14	JGA
河盛 幸 造	14	JGA
杉元 昌 夫	14	JGA
新原 一 世	14	JGA
大井 眞 操	14	JGA
大西 健 路	14	JGA
岡田 勝 治	14	JGA
藤原 資 史	14	暫定
杉村 和 俊	14	暫定
千秋 謙 介	14	暫定
上杉 佳 郎	14	暫定
太田 悠 悠	14	暫定
小原 四 郎	14	暫定
三浦 康 生	14	暫定
野田 隆 司	14	暫定
宮田 久 寛	15	JGA
河野 實 春	15	JGA
寺山 満 春	15	JGA
伊藤 眞 也	15	JGA
山本 孝 三 郎	15	JGA
山本 公 平	15	JGA
高橋 清 清	15	JGA
川村 隆 男	15	JGA
神原 太 郎	15	JGA
毛利 良 一	15	JGA
藤本 俊 勝	15	暫定
高石 勝 三	15	暫定
徳井 啓 三	15	暫定
山川 隆 隆	15	暫定
山中 史 雄	15	暫定
吉田 政 弘	15	暫定
吉永 深 深	15	暫定
和氣 島 尚 彦	15	暫定

氏名	Hdcp	JGA・暫定
井上 範 之	15	暫定
西山 清 隆	15	暫定
三谷 鐵 男	16	JGA
木村 哲 也	16	JGA
黒田 三 郎	16	JGA
小谷 道 彦	16	JGA
内藤 喬 皓	16	JGA
足立 建 夫	16	JGA
栗村 洋 洋	16	JGA
市川 邦 彦	16	JGA
宇都宮 正 博	16	JGA
山本 登 登	16	JGA
田中 義 久	16	JGA
橋本 泰 郎	16	JGA
羽田 正 晴	16	JGA
土方 良 良	16	JGA
鹿島 朝 弘	16	JGA
村上 健 司	16	JGA
乃一 裕 裕	16	JGA
野村 健 健	16	JGA
四柳 繁 繁	16	暫定
名井 繁 繁	16	暫定
小島 清 雄	16	暫定
三崎 龍 哉	17	JGA
久保 富 男	17	JGA
小國 武 彦	17	JGA
足立 博 博	17	JGA
有海 澈 明	17	JGA
生田 久 夫	17	JGA
岩本 洋 三	17	JGA
高澤 嘉 昭	17	JGA
竹本 謙 蔵	17	JGA
林 義 雄	17	JGA
肥原 良 樹	17	JGA
平田 豊 豊	17	JGA
鈴木 正 彦	17	JGA
羽間 平 安	17	JGA
江原 英 彦	17	JGA
大野 平 平	17	JGA
平井 正 晴	17	暫定
神木 宣 夫	17	暫定
菊池 秀 一	17	暫定
田中 茂 樹	17	暫定
戸川 忠 雄	17	暫定
宮本 孝 孝	17	暫定
村上 惠 一	17	暫定
中尾 眞 治	17	暫定
前田 良 平	18	JGA
町田 宏 宏	18	JGA
三宅 亮 太	18	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
後藤 順一	18	JGA
近藤 樹俊	18	JGA
敏森 廣光	18	JGA
石田 信行	18	JGA
牛山 淳一郎	18	JGA
宇田 耕也	18	JGA
山本 陽三	18	JGA
横山 治	18	JGA
吉田 清治	18	JGA
竹内 俊一	18	JGA
日野 隆司	18	JGA
平野 薫	18	JGA
柿本 俊夫	18	JGA
片岡 徹也	18	JGA
山田 晃稔	18	JGA
静 恵美子	18	JGA
中川 博二	18	JGA
河村 榮三	18	暫定
竹村 直臣	18	暫定
岩上 禎史	18	暫定
宮腰 久司	18	暫定
村上 勝哉	18	暫定
久保 卓雄	18	暫定
黒田 錦吾	18	暫定
西岡 正登	18	暫定
阿河 俊夫	18	暫定
木村 洋	19	JGA
久保 泰造	19	JGA
外賀 昭	19	JGA
井上 重彌	19	JGA
竹政 順三	19	JGA
古川 裕	19	JGA
加護 野葉子	19	JGA
塩見 博昭	19	JGA
洪谷 憲明	19	JGA
島田 忠男	19	JGA
清水 和正	19	JGA
新保 良一	19	JGA
中村 敏郎	19	JGA
岡本 貞三	19	JGA
岡本 満壽男	19	JGA
高橋 邦紀	19	暫定
竹中 幸雄	19	暫定
三上 文一郎	19	暫定
南 昇	19	暫定
三村 昭夫	19	暫定
森本 二郎	19	暫定
近藤 安紀	19	暫定
長岡 宏和	19	暫定
安西 敬夫	19	暫定
松原 倉敏	20	JGA
松山 正之	20	JGA
日下 嘉雄	20	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
黒川 辰蔵	20	JGA
山本 章善	20	JGA
横田 璋平	20	JGA
高尾 晴男	20	JGA
高田 和明	20	JGA
高田 東平	20	JGA
廣田 傳左衛門	20	JGA
堀 昭	20	JGA
川上 勉	20	JGA
山田 正也	20	JGA
西田 和正	20	JGA
橋尾 美好	20	JGA
尾上 浩平	20	JGA
脇田 寛男	20	暫定
茶野 英樹	20	暫定
篠田 勝郎	20	暫定
鈴木 富弥夫	20	暫定
鈴宗 像國	20	暫定
西村 隆治	20	暫定
西村 隆武	21	JGA
溝口 亮治	21	JGA
三宅 孝敬	21	JGA
小湊 錦收	21	JGA
寺内 正巳	21	JGA
秋田 勝幸	21	JGA
井上 慶一	21	JGA
岩堀 嘉明	21	JGA
八田 光祐	21	JGA
廣瀬 吉彦	21	JGA
堀口 正彦	21	JGA
室谷 誠	21	JGA
山岸 宏	21	JGA
杉村 利史	21	JGA
袴田 貞夫	21	JGA
藤野 伸行	21	暫定
賀来 伸光	21	暫定
金森 徹	21	暫定
高木 純一	21	暫定
田中 嘉彦	21	暫定
榊原 脩	21	暫定
鈴木 憲清	21	暫定
濱 賢一	21	暫定
戎谷 豊樹	21	暫定
向井 猛	22	JGA
道場 紀男	22	JGA
入江 恒夫	22	JGA
竹之内 勲	22	JGA
竹花 正美	22	JGA
谷川 照夫	22	JGA
上垣 一興	22	JGA
八木 幸一	22	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
澁川 清雄	22	JGA
副田 英治	22	JGA
野口 伸一	22	JGA
奥田 俊昭	22	JGA
藤田 新之	22	暫定
金澤 嘉幸	22	暫定
岸 勝彦	22	暫定
田宮 進	22	暫定
吉清 一郎	22	暫定
松村 孝雄	22	暫定
石井 英二	22	暫定
松井 稔	23	JGA
宮本 幸雄	23	JGA
辻本 孝藏	23	JGA
寺崎 絢子	23	JGA
石末 哲治	23	JGA
和田 達也	23	JGA
渡部 慶一	23	JGA
藤井 暢二	23	JGA
酒井 瑛	23	JGA
阪本 弘二	23	JGA
篠崎 武	23	JGA
岡田 哲二	23	JGA
尾村 正包	23	JGA
林 信幸	23	暫定
平井 國彦	23	暫定
藤森 修	23	暫定
櫻根 敬太郎	23	暫定
八代 吉弘	23	暫定
山邑 耕三	23	暫定
刺賀 信雄	23	暫定
白江 伊都子	23	暫定
公受 秀明	23	暫定
皆見 一夫	23	暫定
野田 治徳	23	暫定
黒田 俊一	24	JGA
天木 明	24	JGA
植田 公郎	24	JGA
宇田 敏子	24	JGA
行俊 智司	24	JGA
脇 三映	24	JGA
渡邊 健一	24	JGA
橋本 吉弘	24	JGA
平井 博	24	JGA
廣瀬 泰子	24	JGA
村上 将夫	24	JGA
仲矢 研二	24	JGA
二木 直彦	24	JGA
大村 満雄	24	JGA
平木 三喜男	24	暫定
福岡 昭吉	24	暫定
片山 修二	24	暫定
山下 日	24	暫定

氏名	Hdcp	JGA・暫定
横山 瞭一	24	暫定
坂井 眞一	24	暫定
汐見 孝	24	暫定
菅井 敏文	24	暫定
大隅省 二郎	24	暫定
岡本 英三	24	暫定
松田 陽三	24	暫定
衣川 公尊	24	暫定
前田 茂	25	JGA
工藤 雅和	25	JGA
今中 利昭	25	JGA
宇津呂 雄章	25	JGA
矢持 盛男	25	JGA
吉川 宏	25	JGA
高山 幸三	25	JGA
武田 和雄	25	JGA
橋本 惣三郎	25	JGA
肥原 恵美	25	JGA
藤本 博史	25	JGA
藤原 宣	25	JGA
星島 三平	25	JGA
八木 秀夫	25	JGA
中田 昌	25	JGA
西村 俊雄	25	JGA
小川 貞徳	25	JGA
藤井 忠男	25	暫定
加々尾 一弘	25	暫定
春日 和夫	25	暫定
河村 英之	25	暫定
谷 正實	25	暫定
富永 幸治	25	暫定
脇村 春夫	25	暫定
久保 潤壽美	25	暫定
中村 隆夫	25	暫定
西澤 眞八郎	25	暫定
野口 武彦	25	暫定
野瀬 宰	25	暫定
伊藤 博	25	暫定
前島 雅博	26	JGA
木村 克美	26	JGA
富田 宏	26	JGA
富永 周作	26	JGA
岩本 昭	26	JGA
吉田 豊次	26	JGA
高石 克巳	26	JGA
藤原 昇	26	JGA
森 輝彦	26	JGA
川 照光	26	JGA
森 茂夫	26	JGA
八木 圭子	26	JGA
山田 直	26	JGA
山藤 正文	26	JGA
中谷 文夫	26	JGA
江原 省吾	26	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
岡田 圭功	26	JGA
葛西 得男	26	暫定
北出 忠則	26	暫定
谷本 健治	26	暫定
八木 宗治	26	暫定
佐藤 元美	26	暫定
伊藤 安代	26	暫定
越前谷 平八郎	26	暫定
大河原 順	26	暫定
中野 敏則	26	暫定
小柴 和夫	27	JGA
寺内 設昭	27	JGA
合阪 欽司	27	JGA
浅川 泰一	27	JGA
石原 一興	27	JGA
原田 哲也	27	JGA
春田 長三郎	27	JGA
平井 一男	27	JGA
山下 幹夫	27	JGA
佐々木 宗一郎	27	JGA
佐藤 範子	27	JGA
杉田 政二	27	JGA
角辻 豊	27	JGA
中村 健輔	27	JGA
西川 建次	27	JGA
西村 勢至朗	27	JGA
大原 英津子	27	JGA
岡田 弘	27	JGA
岡本 健	27	JGA
奥 信夫	27	JGA
巽 知子	27	暫定
谷本 博幸	27	暫定
吉村 清宏	27	暫定
杉 純夫	27	暫定
大橋 秀一	27	暫定
村井 正輔	27	暫定
森尾 泰三	27	暫定
久保 高章	27	暫定
三村 洽子	28	JGA
宮崎 高嶺	28	JGA
古結 久晴	28	JGA
長岡 修	28	JGA
村尾 徹	28	JGA
山下 英世	28	JGA
中宮 時男	28	JGA
占部 嘉英	28	JGA
種田 明	28	JGA
福田 正夫	28	暫定
藤中 民夫	28	暫定
寺山 慶子	28	暫定
戸塚 博喜	28	暫定
秦 壯一	28	暫定
村居 哲	28	暫定

氏名	Hdcp	JGA・暫定
宮原 薫	29	JGA
麦谷 稔	29	JGA
耕三寺 宏山	29	JGA
小國 ちづ子	29	JGA
張 光	29	JGA
塚尾 典明	29	JGA
積山 吉興	29	JGA
寺本 剛	29	JGA
外島 昭二郎	29	JGA
岩津 道生	29	JGA
山本 信孝	29	JGA
横田 圓設	29	JGA
武久 貞良	29	JGA
平松 史朗	29	JGA
八代 圭造	29	JGA
中川 理	29	JGA
額田 統治	29	JGA
能宗 舜一	29	JGA
大栗 由彦	29	JGA
上東 宏一郎	29	暫定
田中 丸善厚	29	暫定
田村 友彦	29	暫定
佐賀 俊彦	29	暫定
榊原 修	29	暫定
大塚 忠重	29	暫定
野辺 正三郎	29	暫定
石原 理子	29	暫定
三島 一幸	30	JGA
北山 清	30	JGA
田村 真二	30	JGA
茶谷 順一	30	JGA
赤田 実	30	JGA
市川 啓三	30	JGA
山田 嘉男	30	JGA
樋口 隆三	30	JGA
藤本 完二	30	JGA
古渡 正人	30	JGA
堀内 公高	30	JGA
笠森 千五郎	30	JGA
堀切 民喜	30	暫定
本庄 治	30	暫定
懸山 弘	30	暫定
田野 紀子	30	暫定
吉川 治	30	暫定
陣出 政己	30	暫定
大滝 雅之	30	暫定
松雪 銀彦	30	暫定
窪田 均	30	暫定
窪田 吉延	30	暫定
中尾 嗣	31	JGA
高島 嗣	31	JGA
竹本 修	31	JGA
北浦 義弘	31	JGA
村田 文男	31	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
安田 忠壽	31	JGA
杉山 磯子	31	JGA
奥山 公平	31	JGA
上島 紳一	31	暫定
三輪 寛義	31	暫定
森 昭侍	31	暫定
小久保 勲	31	暫定
仲庭 裕明	31	暫定
中村 幸夫	31	暫定
松本 昭	32	JGA
丸山 義一	32	JGA
近藤 正	32	JGA
岩本紀世	32	JGA
山梨 時江	32	JGA
田邊 朔郎	32	JGA
平尾 明	32	JGA
三宮 清一	32	JGA
尾崎 宗秀	32	JGA
本田 侑三	32	暫定
加藤 徳永	32	暫定
北村 新三	32	暫定
高廣 一	32	暫定
佐藤 萬三	32	暫定
越智 清	32	暫定
小野 晃温	32	暫定
木梨 憲忠	32	暫定
西村 亮一	32	暫定
浅井 信雄	32	暫定
有本 正春	33	JGA
和田 忠治	33	JGA
林 光子	33	JGA
村上 良子	33	JGA
保井 剛一	33	JGA
酒井 泰	33	JGA
中島 晋介	33	JGA
岡田 節子	33	JGA
林 隆士	33	暫定
広瀬 洋三	33	暫定
羽島 賢一	33	暫定
入江 宏	33	暫定
紀村 知博	33	暫定
清原 義博	33	暫定
串田 憲泰	33	暫定
相原 洋介	33	暫定
浅田 憲一	33	暫定
高橋 順子	34	JGA
竹内 正	34	JGA
田中 宗迪	34	JGA
林 道子	34	JGA
坂野 和夫	34	JGA
福井 康雄	34	JGA
片桐 大亮	34	JGA
川島 國敬	34	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
村岡 勝	34	JGA
西本 昭雄	34	JGA
平井 康代	34	暫定
山本 芳弘	34	暫定
北村 良男	34	暫定
黒田 七ツ子	34	暫定
長岡 文子	34	暫定
荒井 敬一郎	34	暫定
由良 泰造	35	JGA
川田 みさ子	35	JGA
椎尾 市郎	35	JGA
鈴木 恵子	35	JGA
岩城 眞一	35	暫定
尾崎 敏郎	35	暫定
郡司 進	35	暫定
小林 武次郎	35	暫定
野口 富生	35	暫定
山本 源吉	36	JGA
堀切 公郎	36	JGA
田中 善一	36	暫定
米田 稲次郎	36	暫定
五十嵐 昭雄	36	暫定
黒川 実	37	JGA
山本 菊子	37	JGA
吉田 良	37	暫定
白崎 龍男	37	暫定
外海 みつ子	37	暫定
入江 知恵子	37	暫定
木村 禮三	37	暫定
後藤 紀雄	37	暫定
阿部 喜夫	37	暫定
浅田 幸吉	38	JGA
田口 孟	38	暫定
土屋 誠之	38	暫定
徳矢 卓史	38	暫定
村治 巖	39	JGA
肥原 奎子	39	暫定
廣田 裕子	39	暫定
高澤 知寿	39	暫定
富永 才吉	39	暫定
松岡 栄子	39	暫定
森山 光雄	39	暫定
森山 仙彌	39	暫定
幸原 久	40	JGA
井内美佐子	40	JGA
井上 礼子	40	JGA
渡辺 厚	40	JGA
瀧川 智子	40	JGA
田口 富子	40	JGA
田中美代子	40	JGA
本多 晃	40	JGA
村上 惣一	40	JGA
山岸 悦子	40	JGA

氏名	Hdcp	JGA・暫定
佐野 隆昭	40	JGA
筋師 清	40	JGA
根岸 徳子	40	JGA
長部 幸子	40	JGA
林 法信	40	暫定
廣井 恂一	40	暫定
福山 正義	40	暫定
藤尾 誓	40	暫定
古河 百代	40	暫定
堀田 雅子	40	暫定
角谷 政保	40	暫定
兼元 大典	40	暫定
岸本 公志	40	暫定
土井 篤	40	暫定
道幸彦三郎	40	暫定
山川 尚義	40	暫定
井上 正治	40	暫定
岩本 照子	40	暫定
三砂 晋	40	暫定
久保 洋子	40	暫定
郷田 有里	40	暫定
小谷喜久子	40	暫定
中野 平	40	暫定

●資料編●

歴代理事長	226
平成14年度7月現在 役員・理事・評議員	227
委員会委員名	228
年度別歴代役員	229
年度別歴代委員長	230
年度別歴代理事長および三役、 年度別社員数動向、年度別来場者数動向	231
社員年齢構成の推移	232
過去20年間の収益部門の動向	234
議事抄録抜粋	235
芦屋カンツリー倶楽部が持っている敷地	246
50年の時を超えて	250

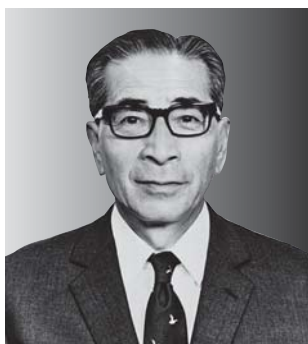
歴代理事長



大西 耕三
(昭和26年～31年)



野田 誠三
(昭和32年～39年)



和仁 宝寿
(昭和40年～50年)



村野 辰雄
(昭和51年～57年)



吉村 清三
(昭和58年～平成2年)



平田 豊
(平成3年～)

委員会委員名

◎印委員長 ○印副委員長 委員（アイウエオ順）

グリーン委員会	◎高澤嘉昭 加村憲造 古河幸義	○大月宏治 林義雄 山口稔彦	○平野一齊 平井信太郎	井岡俊治 藤本俊
競技ジュニア育成委員会	◎高木芳治 井上隆行 平野洋治	○大野崇司 神戸哲治 山本澄	○田中徹雄 佐々木宗一郎	板垣周三 澤田雄幸
ハンディキャップ委員会	◎平井忠夫 尾上浩平 樋口昌弘	○外賀昭藏 竹本謙蔵 廣田傳左衛門	○野村健清 中島清	伊藤真也 中山克彦
キャディ委員会	◎稲鍵雄康 池田吉孝 森川匡弘	○黒川辰蔵 石末哲治 山本孝三郎	○横山宏史 江原英彦	浅川泰一 阪口善雄
エチケット・フェロウシップ委員会	◎堀口正彦 岩堀嘉明 山本章善	○張哲彦 金本鶴三	○藤井勇二郎 田宮進	井田充彦 坂東平
ハウス委員会	◎金澤嘉幸 木村哲也	○田村真二 竹内昭	○寺山満春 廣瀬吉彦	上杉佳郎 三崎龍哉
環境公益委員会	◎福岡昭吉 皆見一夫	○杉野浩次 村尾徹	○森輝彦 脇村春夫	佐藤元美
バー・メス委員会	◎小國武彦 郡司進也 和田達也	○有海澈明 耕三寺宏山	○脇勉 篠裕美	上垣一興 細川喜子雄
編集委員会	◎久保富男 工藤雅和 山本陽三	○新原一世 二木直彦 村上健司	岩本和夫 松本昭	歌川杜之助 松山正之
労務委員会	◎森昭侍	○廣井恂一	松原倉敏	三宅潔
婦人委員会	◎中川博二 佐藤範子	○野田穰三 田野紀子	宇田敏子 長岡文子	小林ちづ子 國光子

年度別歴代役員 (1952年～2001年)

歴代キャプテン

S.26～39 西村熊市
 40～45 黒田宗次郎
 46～55 木村伊太郎
 56～57 曾我野秀雄
 58～H.4 木村伊太郎
 H.5～8 井上浩三郎
 9～ *米田實

歴代名誉書記

S.26～28 西川道男
 29～32 柴田喜代治
 33～39 和仁宝寿
 40～43 伊丹久吉
 44～45 木村伊太郎
 46.7 小川芳光
 46.8～57 大原武
 58～61 高橋孝吉
 62～H.4 井上浩三郎
 H.5～8 板持吉雄
 9～ *星島三平

歴代名誉会計

S.26 宇田耕一
 27～31 野田誠三
 32～34 荒井清雄
 35.5 村野辰雄
 36.6～43 木村伊太郎
 44～45.11 伊丹久吉
 45.11～51 前田義里
 52～55 山中隆文
 56～57 吉村清三
 58～H.4 板持吉雄
 H.5～8 鈴木重孝
 9～12 平野一雄
 13～ *山本信孝

歴代理事

S.26 三村和義

26 西川道男
 26 西村熊市
 26 大西耕三
 26 野田誠三
 26 柴田喜代治
 26 高畑誠一
 26 宇田耕一
 26 和田薫
 26 渡辺忠雄
 27 中井栄三郎
 30 小川芳光
 32 和仁宝寿
 32 荒井清
 36 村野辰雄
 36 岩井登門
 36 川延善一郎
 36 木村伊太郎
 38 黒田宗次郎
 38 伊丹久吉
 38 高橋庸次
 40 野田忠二郎
 40 大原武
 40 大和清一
 42 山中隆文
 44 永沢信義
 46 前田義里
 46 横山治
 48 水野健次郎
 50 岡本貞三
 52 脇村悌吉
 52 小津正次郎
 56 曾我野秀雄
 56 吉村清三
 56 原吉平
 56 藤本一郎
 56 岡本高佳
 56 杉浦廣吉
 56 武田佳次
 56 中村敏郎
 58 板持吉雄

58 谷路順三
 58 安田博
 58 東功
 58 鈴木重孝
 58 高橋孝吉
 60 井上浩三郎
 60 長岡修
 60 田邊朔郎
 H.1 種田憲次
 1 *平田豊雄
 5 平野一雄
 5 保井剛一
 5 *星島三平
 7 森川照光
 7 *米田實
 7 *稲鍵雄康
 7 *平井忠夫
 7 *高木芳治
 7 *福岡昭吉
 9 *高澤嘉昭
 9 *大野平彦
 9 *堀口正彦
 9 *金澤嘉幸
 9 *森昭侍
 11 *久保富男
 13 *小國武彦
 13 *山本信孝
 13 *八木幸一

歴代監事

S.26 中井栄三郎
 26 竹村忠男
 27 茶谷順次
 27 小川芳光
 30 阪本美夫
 32 野田忠二郎
 38 大原武
 38 永沢信義
 40 川延善一郎
 43 岸本一郎

44 水野健次郎
 45 脇村悌吉
 46 北村匡弘
 48 岡本貞三
 50 小津正次郎
 52 板持吉雄
 53 谷路順三
 56 岩井登門
 56 安田博
 58 東功
 58 鈴木重孝
 58 長岡修
 58 田邊朔郎
 58 平野一雄
 60 柴崎俊男
 60 保井剛一
 H.1 星島三平
 4 米田實
 5 森川照光
 5 宮川敬一
 7 高澤嘉昭
 7 大野平彦
 7 堀口正彦
 7 金澤嘉幸
 7 森昭侍
 9 肥原良樹
 9 久保富男
 9 富永周作
 11 *羽間平安
 11 *酒井瑛
 11 小國武彦
 12 山本信孝
 12 *中川博二

*印は現役員

年度別歴代委員長

	グリーン	ハウス	キャディ	競 技	ハンディ キャップ	エチケット	交通、環境整備、 環境公益	パー・メス	編 集	労 務	婦 人
S.26											
27	西村熊市	柴田喜代治	小川芳光	西川道夫	和田 薫						
28	西川道夫	〃	〃	竹村忠男	〃	野田誠三					
29	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
30	柴田喜代治	西川道夫	〃	〃	江見祐吉	高石勝男	川島通弘				
31	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
32	小川芳光	和仁宝寿	岩井登門	木村伊太郎	〃	川延善一郎					
33	川延善一郎	小川芳光	〃	〃	〃	山中隆文	伊丹久吉				
34	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
35	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
36	重村 武	〃	〃	高橋庸次	黒田宗次郎	〃	〃	野田忠二郎			
37	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
38	〃	伊丹久吉	〃	〃	〃	田中隆造	〃	山中隆文	永沢信義	和仁宝寿	
39	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
40	高橋庸次	野田忠二郎	〃	木村伊太郎	永沢信義	〃	〃	〃	重村 武	伊丹久吉	
41	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小川芳光
42	小川芳光	〃	山中隆文	高橋庸次	〃	刈田保蔵	〃	山本将義	北村匡弘	〃	岩井登門
43	〃	伊丹久吉	〃	黒田宗次郎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
44	〃	木村伊太郎	〃	永沢信義	辻 修平	三浦利夫、杉藤 浩	〃	大原 武	〃	永沢信義	〃
45	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
46	横山 治	大原武、藤村 隆結	杉浦広吉	山中隆文	〃	大和清一	〃	脇村悌吉	〃	〃	〃
47	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	岡本貞三	〃	〃	〃
48	〃	板持吉雄	北村匡弘	岡本貞三	中村敏郎	脇村悌吉	〃	杉村広吉	矢野定雄	小津正次郎	〃
49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
50	〃	〃	〃	〃	〃	永沢信義	山中隆文	北川邦男	〃	〃	〃
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
52	〃	〃	〃	〃	〃	北川邦男	〃	脇村悌吉	東 功	〃	〃
53	〃	〃	木村伊太郎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
54	〃	〃	谷路順三	〃	〃	〃	鈴木重孝	〃	〃	〃	〃
55	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
56	東 功	谷路順三	北川邦男	田辺朔郎	安田 博	長岡 修	〃	柴谷昭治	中村敏郎	〃	川延善一郎
57	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	柴崎俊男	杉浦広吉
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
60	長岡 修	〃	〃	〃	東 功	保井剛一	〃	安田 博	〃	〃	宮崎恵三郎
61	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
62	〃	鈴木重孝	東 功	〃	安田 博	武田佳次	谷路順三	保井剛一	〃	〃	〃
63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	柴崎俊男(死亡)	〃
H.1	〃	〃	〃	〃	〃	星島三平	〃	〃	〃	森 昭侍	〃
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃	種田憲次	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	東 功	長岡 修	星島三平	中村敏郎	田辺朔郎	種田憲次	米田 實	〃	森川照光	〃	道幸彦三郎
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7	高澤嘉昭	金澤嘉幸	〃	〃	〃	高木芳治	〃	稲鍵雄康	〃	〃	大野 平
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
9	〃	〃	稲鍵雄康	高木芳治	堀口正彦	肥原良樹	福岡昭吉	富永周作	久保富男	〃	〃
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃	平井忠夫	堀口正彦	〃	小國武彦	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	中川博二
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

注) 交通委員会は昭和30年設置、昭和38年5月解散、ハウス兼任となる。環境整備委員会(初代山中氏)は昭和50年5月、ハウス周辺整備計画特別委員会と浄化装置対策特別委員会を併せて発足し、昭和58年8月より、その業務を環境公益委員会に引き継ぎ、今日に至る。

年度別歴代理事長および三役

	理事長	名誉書記	名誉会計	キャプテン
S.26	大西耕三	西川道夫	宇田耕一	西村熊市
27	"	"	野田誠三	"
28	"	"	"	"
29	"	柴田喜代治	"	"
30	"	"	"	"
31	"	"	"	"
32	野田誠三	柴田喜代治	荒井 清	西村熊市
33	"	和仁宝寿	"	"
34	"	"	"	"
35	"	"	"	"
36	"	"	木村伊太郎	"
37	"	"	"	"
38	"	"	"	"
39	"	"	"	"
40	和仁宝寿	伊丹久吉	"	黒田宗次郎
41	"	"	"	"
42	"	"	"	"
43	"	"	"	"
44	"	"	"	"
45	"	"	"	"
46	"	小川/大原	前田義里	木村伊太郎
47	"	大原 武	"	"
48	"	"	"	"
49	"	"	"	"
50	"	"	"	"
51	村野辰雄	"	"	"
52	"	"	山中隆文	"
53	"	"	"	"
54	"	"	"	"
55	"	"	"	"
56	"	"	吉村清三	曾我野秀雄
57	"	"	"	"
58	吉村清三	高橋孝吉	板持吉雄	木村伊太郎
59	"	"	"	"
60	"	井上浩三郎	"	"
61	"	"	"	"
62	"	"	"	"
63	"	"	"	"
H.1	"	"	"	"
2	"	"	"	"
3	平田 豊	"	"	"
4	"	"	"	"
5	"	板持吉雄	鈴木重孝	井上浩三郎
6	"	"	"	"
7	"	"	"	"
8	"	"	"	"
9	"	星島三平	平野一雄	米田 實
10	"	"	"	"
11	"	"	"	"
12	"	"	"	"
13	"	"	山本信孝	"
14	"	"	"	"

年度別社員数動向

年度	社員数	個人	法人	週日	婦人
S.27	380	280	50	50	
28	697	482	167	39	9
29	720	495	171	45	9
30	738	524	187	48	9
31	929	502	383	36	8
32	976	532	401	36	7
33	1,009	555	407	38	9
34	1,032	567	422	33	10
35	1,036	569	421	36	10
36	1,166	613	442	90	21
37	1,206	613	442	118	33
38	1,258	613	442	152	51
39	1,258	613	442	152	51
40	1,258	613	442	152	51
41	1,278	613	442	152	71
42	1,278	613	442	152	71
43	1,278	613	442	152	71
44	1,278	613	442	152	71
45	1,278	613	442	152	71
46	1,433	768	442	152	71
47	1,448	784	442	152	70
48	1,440	775	442	152	71
49	1,444	781	442	152	69
50	1,445	781	442	152	70
51	1,444	781	442	152	69
52	1,443	780	442	152	69
53	1,443	778	444	152	69
54	1,459	778	460	152	69
55	1,446	769	459	150	68
56	1,448	769	458	152	69
57	1,447	767	459	152	69
58	1,440	763	458	150	69
59	1,415	744	458	147	67
60	1,414	744	456	147	67
61	1,421	751	455	147	68
62	1,427	754	458	147	68
63	1,429	754	458	149	68
H.1	1,423	751	458	147	67
2	1,428	752	462	146	68
3	1,422	746	460	148	68
4	1,423	752	458	145	68
5	1,422	749	457	148	68
6	1,428	755	457	148	68
7	1,421	746	458	149	68
8	1,419	749	454	148	68
9	1,410	743	453	146	68
10	1,393	728	453	144	68
11	1,449	726	452	143	128
12	1,445	724	450	143	128
13	1,439	726	449	139	125

年度別来場者数動向

年度	来場者数	M	V
S.27	開場後半年のため記録せず		
28	9,866	6,065	3,801
29	11,741	7,145	4,596
30	14,969	9,245	5,724
31	21,728	11,897	9,831
32	27,462	16,397	11,065
33	35,570	19,975	15,595
34	33,825	19,767	14,058
35	34,499	20,355	14,144
36	37,038	20,101	16,937
37	35,804	19,989	15,815
38	38,654	21,723	16,931
39	38,167	21,536	16,631
40	35,134	20,481	14,653
41	36,748	21,159	15,589
42	35,936	20,550	15,386
43	36,928	20,339	16,589
44	38,760	20,220	18,540
45	38,279	18,455	19,824
46	42,410	19,905	22,505
47	42,796	18,168	24,628
48	44,289	18,882	25,407
49	43,440	17,745	25,695
50	40,138	17,126	23,012
51	39,097	16,327	22,770
52	38,771	15,804	22,967
53	40,015	15,674	24,341
54	39,265	15,572	23,693
55	37,642	14,445	23,197
56	39,451	15,481	23,970
57	32,959	12,021	20,936
58	37,372	14,083	23,289
59	39,723	15,298	24,425
60	37,613	14,404	23,209
61	36,983	14,506	22,477
62	38,990	15,240	23,750
63	41,797	15,141	26,656
H.1	43,342	16,033	27,309
2	45,463	15,847	29,616
3	46,521	16,412	30,109
4	43,780	16,187	27,593
5	40,528	15,583	24,945
6	35,249	13,648	21,601
7	31,098	14,220	16,878
8	33,432	14,687	18,745
9	32,160	14,901	17,259
10	29,749	14,792	14,957
11	29,107	15,069	14,038
12	26,253	14,635	11,618
13	31,156	16,727	14,429

注)平成13年現在、定数は1,512名(個人767、法人462、週日152、婦人131)
その中で不在、死亡、ノンプレイヤーを除いた。

社員年齢構成の推移

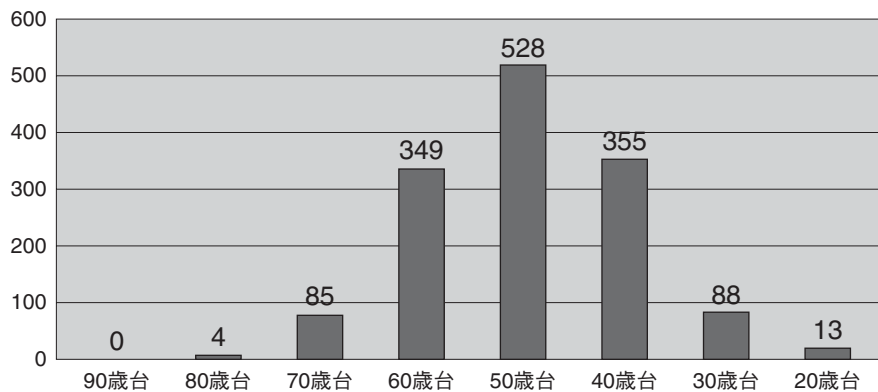
1972年（昭和47年）

年齢	法	正	週	婦	計
99歳					
94歳					
93歳					
92歳					
91歳					
90歳					
89歳					
88歳					
87歳					
86歳					
85歳		1			1
84歳					
83歳					
82歳					
81歳					
80歳	2		1		3
79歳	1	2	1		4
78歳	1	3			4
77歳		1	1		2
76歳		4	1		5
75歳	2	4			6
74歳		5	1		6
73歳		7	1		8
72歳	2	10	4	1	17
71歳	6	5	2		13

年齢	法	正	週	婦	計
70歳	4	14	2		20
69歳	9	13	4		26
68歳	3	15	8	1	27
67歳	6	13	1		20
66歳	11	19	2	1	33
65歳	11	28	2	1	42
64歳	17	15	5		37
63歳	7	22	1		30
62歳	10	21	2		33
61歳	9	28	5	1	43
60歳	18	32	4	4	58
59歳	19	22	6	5	52
58歳	21	47	6		74
57歳	26	24	6		56
56歳	22	31	3		56
55歳	14	28	5	6	53
54歳	21	17	4		42
53歳	24	17	2	1	44
52歳	11	25	4	1	41
51歳	18	20	4	5	47
50歳	25	31	3	4	63
49歳	16	20	5	4	45
48歳	12	21	4	5	42
47歳	22	27	4	2	55
46歳	16	18	4		38
45歳	6	22	7	4	39

年齢	法	正	週	婦	計
44歳	11	19	7	4	41
43歳	6	16		3	25
42歳	8	15	5	1	29
41歳	2	10	5	2	19
40歳	3	13	4	3	23
39歳	3	5	2	2	12
38歳	2	8	3	2	15
37歳	3	12	4	4	23
36歳	2	8	2		12
35歳	2	4	1		7
34歳		2			2
33歳	1	3			4
32歳		9			9
31歳		2			3
30歳	1	1			1
29歳		3		1	4
28歳		1	1		2
27歳		1			1
26歳	1	1			2
25歳					
24歳	1	1		2	4
23歳					
21歳					

年齢構成一覽



社員年齢構成の推移

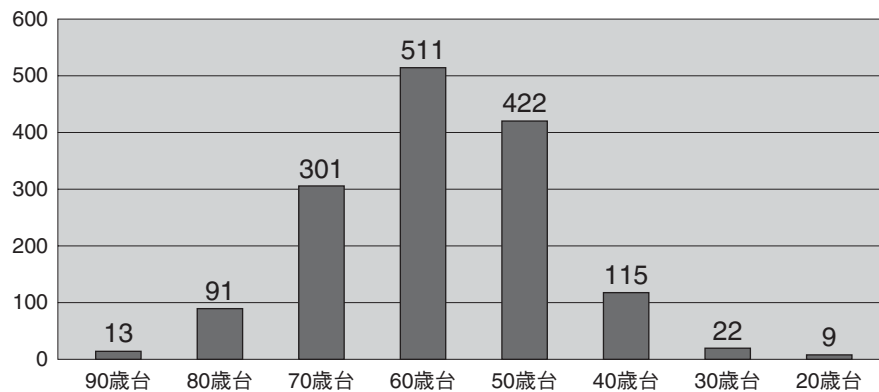
2001年（平成13年）

年齢	法	正	週	婦	計
99歳			1		1
94歳	1	1			2
93歳		1			1
92歳		2			2
91歳		2			2
90歳	2	1	2		5
89歳		1	1		2
88歳	1	2	1		4
87歳	1	10	3		14
86歳		7	1		8
85歳		12			12
84歳		7		4	11
83歳		6	2		8
82歳		8	1	1	10
81歳		7	2	1	10
80歳	1	9	1	1	12
79歳		14	5		19
78歳	4	8	6	2	20
77歳	2	18	1	4	25
76歳	6	22	3	1	32
75歳	5	16	5	1	27
74歳	2	18	4	2	26
73歳	4	22	8	3	37
72歳	9	18	2	3	32
71歳	6	22	7	6	41

年齢	法	正	週	婦	計
70歳	9	24	5	4	42
69歳	11	28	15	4	58
68歳	10	20	5	6	41
67歳	10	18	5	3	36
66歳	16	27	2	3	48
65歳	19	31	1	4	55
64歳	25	24	5	3	57
63歳	19	21	5	5	50
62歳	21	19	2	3	45
61歳	30	34	2	4	70
60歳	20	24	4	3	51
59歳	35	23	6	5	69
58歳	24	23	4	6	57
57歳	17	21	6	7	51
56歳	12	8	1	3	24
55歳	17	11	2	3	33
54歳	22	23	2	3	50
53歳	20	21	3	5	49
52歳	13	21	1	5	40
51歳	11	11		2	24
50歳	11	10	1	3	25
49歳	8	11	4	1	24
48歳	4	5	2	1	12
47歳	4	5	1	1	11
46歳	3	10	1		14
45歳	2	9	2	2	15

年齢	法	正	週	婦	計
44歳	3	4		1	8
43歳	3	2		2	7
42歳	2	5	1		8
41歳	5	4	1	3	13
40歳	1	2			3
39歳		6	1	1	8
38歳		1	1		2
37歳		1		2	3
36歳	1		1		2
35歳					
34歳		4			4
33歳			1		1
32歳		1			1
31歳					
30歳		1			1
29歳		2	1	1	4
28歳		1			1
27歳				1	1
26歳		1			1
25歳				1	1
24歳					
23歳					
21歳		1			1

年齢構成一覽



過去20年間の収益部門の動向

1983年～2001年（昭和58年～平成13年）

（単位百万円）

項目 年度別	収 入	支 出	剰余金	特 別 事業費	現預金	芦屋市 寄 付	参 考
昭和 58年	553	541	12	11	215	1	
59	613	577	36	32	427	1	土地売却益（汐見寮売却）143・大浴場改修工事 16
60	588	582	6	33	434	1	土地売却益 8・グリーン改造（NO.2池工事）15
61	641	624	17	14	440	1	土地売却益 12
62	674	669	5	34	451	1	土地売却益17・NO.11～NO.12ベルトコンベア工事費 8 関西グリーン研究所への寄付 100万円
63	774	741	33	39	491	3	貫流ボイラ入替 9・コース管理棟立替 13・ロッカー室 バック運搬用リフト 3
平成 元年	779	754	25	132	589	5	NO.16～NO.17ベルトコンベア 12・食堂浴室別館クーラー 16・ NO.16補修工事 13・配電線工事 20
2	813	788	25	50	694	5	NO.1～ベルトコンベア 6・NO.15茶店改築 19
3	898	894	4	139	629	5	男子トイレ改修 15・男子ロッカー室改造 60・女子ロッカー室改修 20
4	875	908	▲ 33	180	532	7	土地売却益 38・女子浴場ロッカー室改修 114・道路補修 22
5	814	842	▲ 28	186	440	7	フロント事務所改造 94・駐車場舗装 50
6	738	784	▲ 46	172	286	1	新駐車場工事 138
7	732	730	2	49	346	2	阪神大震災復旧工事 35、その後追加 25
8	762	728	34	59	362	2	ティフトン芝除去工事 39・貫流ボイラ入替 8
9	728	719	9	57	324	2	ティフトン芝除去追加工事 35・焼却炉 52・個別呼出無線機 8
10	630	701	▲ 71	77	198	3	井戸堀削工事 58・キャディ室改装 5・ティフトン芝除去追加工事 35・ ゴルフ場コンピューターシステム 32
11	692	668	24	29	1,077	3	ハウス給水本管引替工事 8・婦人社員募集による基金 806
12	607	604	3	11	1,009	2.5	避雷小屋 2
13	649	628	21	311	760	3	カート道改修 69・充電設備 7・別館改築 328・ NO.9婦人トイレ新築 6・乗用カート 50台×124万=62（リース）

特別事業費：資産勘定又は特別経費に計上されるもの

● 議事抄録抜粋 ●

H 5年1月 ハウス前山取崩し工事に関する件

前山取崩し工事について、環境公益委員会での検討状況、並びに見積書提出後の第三者業者を交えた米田、板東両弁護士等の報告にもとづき、正式に契約を取り交したい旨を諮り全員異議なくこれを承認した。

新コースレコードの承認の件

田辺競技委員長より下記新コースレコードが達成された事を報告し承認された。又本人に対してのコースレコード達成記念品については前例にならぬ銀皿を贈ることで了承された。

樋口昌弘 9月6日(於)キャプテン杯予選競技アウト36イン35計71

その他

当倶楽部の場合、10月11日現在当倶楽部をホームコースとする、JGAハンディキャップ取得の社員は635名。

H 5年4月 事務室等改良工事の件

井上名誉書記よりハウス委員会に於ける検討事項について説明、同委員会では事務室ならびにバッグ置場の改良工事を行う旨の結論に達し工事に着手した。討議の結果、①キャディバッグの運搬を機械化すること。②貴重品ロッカーの検討を行った。

事務室フロント他改修に関する件(計画、見積、資金繰等)

事務室、フロント、バッグの搬送機械化等の改修について説明を行い、84,197千円程度である事を報告した。

その他

皇太子ご結婚の儀に関する取扱いは、当日を祝日とした。

H 5年6月 環境公益委員会の報告

ハウス前山除去工事の進行状況並びに今後工事の日程について承認した。芦屋市民ゴルフ大会実行委員会委員長を倶楽部が引受けることを辞退した。

ハウス前山取崩し工事及び新駐車場設置に関する工事の支払いを仮払金で処理した。

H 5年6月 日本ゴルフ協会主催、平成6年度の日本女子シニア選手権予選会場引き受けを承認

芦屋市民ゴルフ大会に関して、本年は市側の要望により夏冬の2回開催

芦屋川清掃作戦に関する件

芦屋市水道部主催の行事に積極的に参加協力することになった。

H 6年1月 兵庫県教育委員会よりの公益法人指

導に関する件

8月11日県下社団法人クラブに対し、県教員委員会から公益法人としての公益活動状況について、調査並びに指導会議があり、支配人はその内容について概略を報告した。

その他

芦屋市民ゴルフ大会引受けに関する件、年に2回開催の希望により平成6年8月8日・29日とすることに決定。

吉村前理事長を名誉社員に推薦の件在任8年の功績に対し全員異議なく了承した。

H 6年4月 敷地内自然環境保護について

芦屋市、西宮市並びに自然保護団体(芦屋川に魚をふやす会)代表者より、当倶楽部敷地内(4番ホール左側、湿地帯)に六甲山系では珍しい動植物(八丁とんぼ、トキソウ、カキラン)等が繁殖しており、これらの保護方を要請して来た。

女子キャディ制服

マスター室にて取り寄せてくれた多数のサンプルを検討した。その中より数着を選び、使用する本人達の意見を聴取した。

食堂での使用米について

現在は内地米のみを使用していたが、凶作につき近くブレンド米の使用はやむを得ないとの結論に至った。

H 6年6月 従業員の労働時間短縮について

労働時間の短縮については現在の週46時間を4月1日より44時間とし、平成9年には40時間に労基法上規制されるので、今回当倶楽部としては4月1日より週42時間を目標として、就業規則を改正した。

4番ホール横土置場に関する件

5月21日付朝日新聞朝刊阪神版に記事として掲載される。新駐車場残土処理許可条件違反の疑いの件について諸官庁の指示に従い、極力穏便に解決ならびに国立公園に付き、環境破壊にならないよう注意をすることとした。

H 7年1月 新競技の設定について

現在80歳以上社員数は102名で、内しげれば来場される社員は約33名程度であり、今後80歳以上のプレーヤーが益々増加する傾向にある(70歳以上約300名)。

H 7年4月 阪神大震災に関する件

倶楽部の被害状況及び復旧工事について

県教育委員会へ提出済の当倶楽部被

災状況報告書により支配人から概略説明し、特に12番ホールの地すべりについては本日特別出席の阿河俊夫氏(当社メンバー、西宮支配人、工学博士)より六甲山の土質、法面崩壊のメカニズム、今後の復旧方法とその効果等について詳細説明を受けた。宝塚CC、西宮CC各々の被害状況について報告

現在の業務と今後の見通しについて

1月25日より、芦屋市対策本部と相談の上浴場を一般被災者並びに社員とその家族に開放しており、その利用状況について報告した。

オープンについて

被害箇所については極力短時日に修復を終る事として現在努力中であり、オープンは被災者等、社会情勢を見守りつつ慎重にオープンの時期を考えて行く事とする。

社員並びに従業員の被災状況について

●社員において死亡された方

大原武 名誉社員(芦屋市三条南町6-11)、隅田善雄 個人正社員(芦屋市竹園町2-22)、従業員死亡者なし

●家屋全壊したもの6名(但し本日現在までに届出のあった者)尚、従業員の自宅待機中についての賃金、休業手当の補給金等について意見の交換があった。

●今後決算の見通しと来期予算について 支配人より例月の財務収支について報告、3月期決算の見通しと、来期予算につき資料により説明を行い共に非常に厳しい見通しであり、理事長より今後の対策検討の為、経営強化特別委員会を結成して近日中に対策を考えたい旨を発表し、全員之を了承した。

●阪神大震災の影響によりゴルフ場は休業中であったが4月1日よりのゴルフ場再開の決定を受け、当面の競技の諸問題を検討のため競技委員会を開催した。

競技並びに決定をしたのは次の通りである。

①平成7年度クラブ対抗競技の代表選手を次の諸氏にお願いする。

54歳以下(脇勉、樋口昌弘、藤井勇二郎)、55歳以上(平野一齊、大野崇司、平井忠夫(補欠/竹内昭))

②時節を鑑み次の競技は本年は取り止める事を検討した。

③芦屋市長杯は本年は自粛する事とする。

④兵庫県知事杯、三和銀行杯、阪神電鉄杯、帝人杯、神戸新聞杯はスポンサーの意向を確認したうえで取

● 議事抄録抜粋 ●

り止めるかどうかを決める。

H 7 年 6 月 第一次経営強化特別委員会発足

経営に関する設問機関として設置し、委員には次の諸氏に委嘱した。委員長・井上キャプテン、副委員長・鈴木名誉会計、委員・中村、東、田辺、平野、星島各理事と米田監事。

経営強化特別委員会は、発足後精力的に会合を持ち、新年度ならびに震災後の経営に関する緊急課題を討議した。そのなかで、今後の経営の要諦として、①経費の削減②収入の増加を当面の最重要課題として取り上げ、そのひとつ経費の削減については、各部門ごとに細部に亘って抜本的対策を講じることで一致した。

また、収入増加案では、社費、名義変更料などの改定、メンバー・フィ、競技参加費等の改訂によって増収を計ることを理事会に提案。それに付随して、来場者誘致対策として平日のビジターの紹介を積極的にアプローチするとともに、1プレーの実施等が盛り込まれた。

特に、震災による補修費についての支出面では、慎重に討議された。

これらを含めた案件は、現況と同時に中長期的経営事項として委員全員これを確認した。

新支配人紹介の件

故井上一郎支配人の後任として、菊池満昭支配人が4月1日付着任した旨理事長が報告し、本人より着任の挨拶があった。

細則第5章第41条の社費及び名義書換料の項を次の通り改定する。

ただし評議員会の諒承の上、社員に通知。

社費(平成7年度より)

●個人正社員48,000(改定)、36,000(現行) ●法人社員(1名につき)48,000(改定)、36,000(現行) ●週日社員28,800(改定)、21,600(現行) ●婦人社員28,800(改定)、21,600(現行)、●不在社員 一般社員の半額(現行・改定) ●ノンゴルファー 一般社員の半額(現行・改定)

名義書換料

改定(4月～5月)、現行(6月以降)

●個人正社員、終日社員、婦人社員150万円(改定)、100万円(現行) ●法人登録社員(1名につき)100万円150万円 80万円 ●法人が法人へ譲渡する場合(2人制)300万円(改定)、200万円(現行) ●法人が法人へ譲渡する場合(3人制)450万円(改定)、300万円(現行)

阪神大震災義援金徴求の件

関西ゴルフ連盟の提案通り、来場者、1人当り50円を徴収し、更に50円を倶楽部負担として、協力する事とし、5月1日入場者より実施する事とした。

諸料金の一部改定の件

平成7年5月13日の経営強化特別委員会での討議を受けて、下記の通り諸料金の一部を改定する事を提案、審議の結果承認。

●メンバー・グリーン・フィー2,000円(改定)、1,800円(現行)

●競技参加料(18H)1,000円(改定)、500円(現行)

●競技参加料(27H～36H) 1,500円(改定)、1,000円(現行)

(実施時期 平成7年6月1日より) 競技の参加資格の変更に伴い競技規則の一部変更を討議決定した。

改正条文

第2条(参加資格)

- ①左に同じ。
- ②正社員は婦人マンスリー杯競技を除くすべての倶楽部競技に参加することができる。
- ③週日社員は婦人マンスリー杯競技を除く週日に行われるすべての倶楽部競技及び会場記念競技に参加することができる。
- ④婦人社員は週日マンスリー杯競技を除く週日に行われるすべての倶楽部競技及び開場記念競技に参加することができる。

第12条(失格その他)

倶楽部競技のスコアカードの提出が5枚以下のもの及び3ヵ月以上倶楽部競技のスコアカードを提出していない者は優勝の資格を失うものとする。なお予選競技においては予選通過を認めない。

H 7 年 10 月 震災によるハウス施設被害箇所の修理について

ハウス委員会は今回の震災によるハウス関係被害箇所を列挙し、すでに修理実施済のもの5項目支出計5,369千円及び今後実施予定のもの5項目支出予定計8,580千円、合計13,949千円について説明を行った。その結果特別事業費予備費にて充当する事で了承された。

H 8 年 1 月 平成8年度関西ジュニア選手権決勝大会にコース協力の件(H7.9)

関西ゴルフ連盟より平成8年度関西ジュニア選手権決勝大会開場を当倶楽部に依頼された。本件はKGU主催の公式競技であり、理事倶楽部とし

て、又公益事業の一環として応諾する事で一致した。

コースレートの測定について

KGUによるコースレート計測は8月10日に決定。

新駐車場周辺の植栽状況の調査を受ける(H7.9)

新駐車場建設計画に基づく植栽許可条件と平成7年9月30日現在に於ける植栽状況との比較検討が為され、不足本数が指摘され、駐車場地域への高木植栽と、期間延長届提出の指導を受けた。

経営強化特別委員会報告(H7.10)

井上委員長より11月11日開催の委員会での決定事項について報告

①従業員採用の件

定年退職者による、人員減少も見込まれるので、要員の補充について了承し、やむを得ぬものとする。

②倶楽部手帳の内容について

同内容については重複している部分を省略する事とする。

③倶楽部送迎バスの運行の件

送迎バス2台の運行委託料について、経費節減の見地より、委託先との交渉を指示すると共に運行時間等の合理化対策を検討することとした。

H 8 年 4 月 浴場漏水改修工事実施について(H8.1)

平成7年7月度理事会に於いて、ハウス施設震災被害による要修理箇所の一つとして承認されていた男子浴場の漏水改修工事について、その後の調査により要改修箇所の拡大が判明。工事については、2月13日から15日までの倶楽部休場日の3日間に実施する。

経営強化特別委員会、中長期を展望しての討議に入る

1月13日に、グリーン、ハウス両委員会の委員長、副委員長の出席を求め、意見交換を行なった。その席上次回委員会ではそれぞれの担当分野についての具体的な中長期計画の策定をもとに、ヒアリングを行なうこととした。

H 8 年 6 月 インタークラブ競技選手権選出の件(H8.3)

平成8年度KGUインタークラブ競技出場選手の選出につき、3月10日の競技委員会に於いて下記の通り決定した旨報告があり承認された。

54歳以下(野田稔三、山口稔彦、樋口昌弘)、55歳以上(平井忠夫、平野一齊、板垣周三、(補欠/大野崇司))

● 議事抄録抜粋 ●

芦屋市民チャリティ・ゴルフ大会開催申し入れの件(H8.5)

芦屋市民まつり協議会より、中止された芦屋サマーカーニバルの再開に際し、同市からの補助金が減額された。その資金不足を補うため当倶楽部で市民チャリティ・ゴルフ大会を開催したい旨の申し入れがあった。

本件について、公益事業の一環として、従来の芦屋市民ゴルフ大会の実施方法に準じて会場を提供することとし、その売上金の一部を主催者側に寄贈することで承認された。

土日祝のエントリ方法見直し

7月1日よりいずれも3ヶ月前より受付することに決定。

H 8年10月 経営強化特別委員会(H8.6)

①理事会開催場所の検討

昨年の震災以後、さまざまな観点から理事会を倶楽部内で開催してきたが、来場者数も戻りつつあること、および、プライベートコンベ利用室の不足などを考慮して、理事会の開催場所を元に戻すとの結論に達した。

②開場記念競技での飲食及び賞品の改善について

バー・メス委員会及び競技委員会より当日の飲食及び賞品の内容を昨年より若干良くしたい旨の要望が出ている件で、少し戻して然るべきではないかとの意見で一致した。

③グリーン委員会の中長期計画について

●ティフトン対策については中長期と言うより緊急の課題。よって、3年以内にティフトン芝の除去をする。

●1番と9番のグリーンが非常に傷んでいて、修復の時期に来ている。これを機に、ペント・グリーンへの変更可否について、グリーン委員会は、水資源の確保が最大の要点であるため、現状の高麗で行くべきとの意見が多数を占めた。

その他

①関西ゴルフ連盟の震災義援金運動は4月30日を以て終了し、約7億7千万円が集まり、うち当倶楽部は320万円であった。

②5月27日、幼稚園児が来場した折り、芦屋のケーブルテレビが取材し、その光景を6月10日に放映された。

③5月28日に芦屋市長より昨年の震災時の倶楽部の貢献に対し感謝状

を受けた。

④平石プロ待望の関西オープン初優勝、於奈良県グランデージゴルフ

H 9年1月 緊急連絡用無線機購入の件(H8.9)

危機管理の充実を計る点から、「もしものとき」に備えて緊急連絡用無線機を設置する件は、ハウス委員会で議論を重ねた結果、最終的に携帯用小型無線機をキャディに持たせる方式を採択した。採用機種及び購入方法については事務局に一任した。

中長期経営強化特別委員会 将来的展望としての討議(H8.10)

①現在ビジター依存体制を経営の基盤として存続しているが、倶楽部がこのような体質でいいのか、と言う懸念が浮上している。この問題に対応するために、メンバーの社費をアップせざるを得ないのではないか。

②キャディ対策並びに高齢者対策。乗用カートの導入は時代に即応した手立てとして一考を要する課題ではないか。

③番外編として、公益事業費の増額の財源をどうするか。

平石武則プロ表彰される(H8.12)

第62回関西オープンに優勝した当倶楽部専属プロ平石武則君は、12月11日に開かれた評議員会の席上、平田豊理事長よりその功績をたたえ、表彰された。

H 9年4月 芦屋市に対する寄付行為について(H9.1)

平成8年度の芦屋市に対する公益事業としての寄付行為について、当初予算2百万円よりすでに幼稚園への土産品代等約50万円を支出しているため、残余の150万円を贈りたい旨上申し承された。

H 9年6月「芦屋市民チャリティゴルフ大会」開催について(H9.3)

芦屋市民まつり協議会(名誉会長・北村春江芦屋市長、会長・松尾資治芦屋青年会議所理事長)より、「芦屋市民チャリティゴルフ大会」の開催に関する要望書が理事長宛に届けられ、審議の結果了承された。

経営強化特別委員会(井上浩三郎キャプテン)

経営強化特別委員会は平成7年3月11日に理事長の命により発足して2年あまり、経営基盤の充足などに積極的に取り組んで来た。前半期は、短期計画で、震災による即時の対応など倶楽部の経営のあり方に終始した。

後半期は、中長期計画が主たる任務

で、グリーン委員会、ハウス委員会などからのレポートをもとに、さまざまな懸案事項に対応し、纏めて来た。

なお、特別委員会の報告書は、評議員会に配布され、詳細に説明された。

打ち放し練習場の借用方申し出の件(H9.5)

私立甲南高校(芦屋市山手町)より、当倶楽部の打ち放し練習場を自クラブの練習のため借用したい旨の申し出があった。本件については、公益事業の一環ならびにジュニア育成の観点から条件付きで応諾することにした。

H 9年10月 平成9年度インタークラブ競技出場選手決定について(H9.7)

平成9年10月9日(木)に開かれる平成9年度インタークラブ選手権大会に出場する当クラブの選手が決定した。理事会は以下の出場選手について了承した

54歳以下(樋口昌弘、脇脇、山口稔彦、野田稔三)、55歳以上(板垣周三、横山宏史、平野一齊、平井忠夫)以上8名のうち補欠2名を含んでいる。

倶楽部送迎バスの委託変更について
現在委託契約している観光バスを平成9年8月15日で廃止、8月16日より新体制で実施することになった。

諸料金の一部改訂について(H9.7)

- ①利用料金(練習のみの方が対象)
 - M及びその配偶者と子女 500円(改訂料金)、200円(現行料金)
 - ビジター 800円(改訂料金)
- ②ボール代 250円(25個)、200円(24個)

H 10年1月 チャリティーコンサート開催に当たって当倶楽部の食堂ホールを利用したい旨の申し出について(H9.9)

国際ソロプチミスト芦屋(会長・久米敏子氏)及び財団法人アルカディア音楽芸術振興財団(理事長・中村八千代氏)より、平成9年11月12日(水)の午後4時30分から倶楽部食堂ホールに於いてチャリティーコンサートを開きたいので、同ホールを貸与願いたい旨の申し出がありました承された。

キャディー・フィー(プレーヤー1人当たりの一部改定について)

改定内容

- ①2バッグプレーヤーの一人当たりのキャディー・フィー 4,500円(改定料金)、3,000円(現行料金)
- ②平成10年1月8日より実施

● 議事抄録抜粋 ●

この件について諮られたところ、異論なく認められた。

H 10年 4月 X会メンバー、芦屋市に社会福祉に寄付金贈る(H10.2)

X会、倶楽部にこのようなグループがあることはあまりご存じないでしょう。当倶楽部のメンバーとヴィジターから構成された任意の団体。このグループは早くからドネーション・ポットを設け、社会福祉のために寄付金をプールして来た、そのポットが今回も満杯になったので、社会福祉事業に役立ててほしいと全額を芦屋市に寄贈し、当倶楽部の公益事業の一端を担って頂いた。X会のこのような寄付行為は、これで2回目。これに対して同市は、X会の心温まるドネーションに感謝状を贈った。

H 10年 4月 芦屋市に対する寄付行為について

芦屋市教育委員会の要望で、運動能力テスト用の固定式自転車(1台約40万円)を300万円の範囲内で寄贈する。これらは新設された市民体育館に置かれる。

第2次経営強化特別委員会(委員長:米田實キャプテン)

第2回目の会合を1月17日に持った。その中の中心的事業(50周年記念事業)の内容は、

- ①別館の改修
- ②乗用カートの設置
- ③コースでの散水設備

の3点が主たる問題であった。

H 10年 6月 井戸掘削工事業者の選定と工事の実施について(H10.3)

井戸掘削工事業者の選定と工事の実施内容について、別紙資料に基づいて上申した。

委託業者は、浮羽試験工業株式会社(大阪府茨木市)。

工事予算は約5,000万円。その他契約に当たっての付帯事項を説明。審議の結果、承諾された。

開場記念競技参加料の改訂

従来の10,000円徴収を倶楽部負担増加のため2,000円アップし、12,000円に改定した。

第2次経営強化特別委員会(米田實キャプテン)(H10.5)

5月9日開かれた第2次経営強化特別委員会では、50周年記念事業について、その大筋として倶楽部ハウスの改修問題、乗用カートの導入問題に焦点は絞られた。

H 10年 10月 渡邊忠雄名誉社員にお祝い品を贈る件(H10.6)

今年の9月3日に、めでたく満100歳を迎えられる名誉社員の渡邊忠雄さんに倶楽部としてお祝い品を贈りたい旨の審議がなされた。

関西グランドシニア選手権競技会に対するコース提供の件(H10.6)

平成11年度の関西ゴルフ連盟主催の関西グランドシニア選手権の開催に当たって、当倶楽部のコースを使用したい旨の申し入れを了承した。

第2次経営強化特別委員会(米田實キャプテン)(H10.7)

7月18日に開催された経営強化特別委員会は、前回の理事会に提出した報告書の中身について再確認をした。

また、50周年記念事業以外の検討事項として委員会は下記の4項目を取り上げている。

- ①倶楽部定款ならびに細則の見直し
- ②平日ビジターの集客方法
- ③プレーヤーのセルフ化の問題
- ④ゴルフ場施設の活用

H 11年 1月 ビジターに対する冬期優待料金扱い実施に関する件(H10.9.16)

過去のスキームを大幅に修正した。その主たるところは、土曜日、日曜日、祝日の扱いにおいて土曜日を別建てにしたこと、および、優待期間を1カ月余り早めたことである。また、料金的にも土曜日、日曜日、祝日に関して大幅なサービスを試みた。

①ビジター・グリーン・フィー

平 日10,000円(通常15,000円)

土曜日17,000円(通常22,000円)

日曜日・祝日19,000円(通常22,000円)

②優待期間

平成10年12月1日(火)より平成11年3月19日(金)まで

スタート予約方法の変更について

来場者誘致策の一環として現行のスタート予約方法の見直しが必要であるという観点から変更したい。

土、日、祝日のビジター同伴のエントリー可能回数は社員一人につき月1回に限定されていたものを撤廃する。

土曜日のビジター同伴エントリー可能組数を従来の3組までを一人6組まで出来るとする。また、社員紹介の場合、一人1組エントリーすることが出来る。

土曜日のスタート予約の受付開始日を現行は3カ月前であるのを6カ月前の一日午前11時から受け付ける。

井戸掘削工事に関する経過報告

(H10.10.21)

工事は順調に推移し、平成10年10月15日現在で深度452.5mに達した。この後作業を継続して500mまで掘削する予定。

第1滞留ゾーンは、深さ300~310mに位置し、幅約10メートル、毎日10万mを揚水すると2~3年の容積。

第2滞留ゾーンは、深さ370~388mに位置し、幅約18メートル、毎日10万mを揚水すると10年の容積。

第3滞留ゾーンは、深さ460~480mに位置し、幅が相当大きい、毎日10万mを揚水しても半永久的に活用出来る。

水質は、鉄分をやや含んでいる。水温は、約20度C。揚水設備費用に約500万円必要。掘削工事は10月中旬に完了する。

食堂の献立料金の値上げ決定(H11.1.2より)

焼き飯800円を900円に、A,Bランチ900円を1,000円に、スパゲティ800円を1,000円に。

神戸市環境局からの排水水についての調査結果(H10.11.25)

当倶楽部に関して異常は認められなかったという報告を受けた。

永続動続者2名表彰

ハウスキャディーの沼崎コウ(昭和48年4月1日入社)及び上岡節子(昭和48年8月1日入社)が表彰される。

今年2回目の芦屋市民チャリティーゴルフ大会(H10.10.30)

10月30日(金)当倶楽部で開催された。

この大会は芦屋市民まつり協議会が主催、芦屋市、芦屋市教育委員会が後援するイベントで、当倶楽部は環境公益委員が中心となって地元市民の活性化のため支援している。

今回で5回目になるこの大会には、市民110名のプレーヤーが参加して大いにこの催しを盛り上げた。

芦屋市立の9幼稚園と保育所の子供達を招待(H10.11.9)

約830人は、それぞれ先生らに引率されて朝早く元気に倶楽部へやって来た。

当倶楽部が公益事業の一環として市内の幼稚園児たちにコースを開放して、かれこれ20年近くになる。このところすっかり定着して園児たちに贈るおみやげも好評で、各幼稚園からそれぞれお礼の手紙が倶楽部宛に届けられている。

平成10年度インタークラブ競技兵庫東地区予選(H10.11.5)

● 議事抄録抜粋 ●

11月5日(木)、猪名川国際C年Cで17チームが決勝進出を目指して覇を競い合った。

当倶楽部は健闘空しく Total-430で16位に甘んじた。

●当倶楽部の出場選手 樋口昌弘、野田稔三、山口稔彦、平野一齊、平井忠夫、横山宏史、(補欠/脇勉、大野崇司)

H 11年 4月 国際ソロプチミスト芦屋主催のゴルフコンペ申込みの件

ゴルフコンペを催し、その収益を地域公益活動のため寄付したいとの主旨を了承した。

芦屋市に対する寄付行為について(H11.1.20)

平成10年度の公益事業寄付行為を具申し了承された。

●寄付品目 ①ニュースポーツ用具—市民体育館備え付け、②フィットネス用具—市民温水プール備え付け、③ライフステップ(2セット)と付属品、合計金額297万円

公益法人の営利法人等への転換に関する指針(H11.2.24)

これは平成10年12月4日付けのもので関係関係協議幹事会が決めたもの。その主な指針は、「事業内容が営利法人と競合する公益法人について、一定期間内に公益法人にふさわしい内容に変更するか営利法人に転換しない場合は、設立許可取り消しも含め検討するよう」所轄官庁に求めた。また「改善されない場合は、営利法人への転換を指導し、3年以内に転換されない時は設立許可取り消しもある」という厳しい通達。

兵庫県ジュニアスクールに施設を提供(H11.2.24)

ジュニア育成のため、「ジュニアゴルフスクール」(東地区)を当倶楽部で開催したい旨申し出があり承認した。開催日は年3回で、それぞれ約60名の予定。

ローカルルールの変更(H11.3.21)

2番ホール池のOBをラテラル・ウォーターハザードに変更。

平田氏、KGU理事長に(H11.2.15)

平田豊理事長は、去る2月15日平成11年度の関西ゴルフ連盟(KGU)定時総会に於いて常務理事から新しく理事長に就任された。また、日本ゴルフ協会の副会長にも2月26日開かれた同協会の総会で選任された。

関西ゴルフ連盟理事長に平田氏が選ばれたのは、元理事長の故和仁宝寿氏以来のことで、当倶楽部として実に33年ぶり2人目である。平田新理

事は「アマチュアゴルフは品位のある立派なスポーツである。国民スポーツとして大衆化された今日、もっと安い料金でより多くの人々が楽しくプレー出来るよう努力したい」と就任の挨拶を述べておられた。

芦屋市へスポーツ器具を贈る(H11)

3月23日(火)、倶楽部から福岡昭吉環境公益委員長、それに菊池支配人らが市庁舎を訪ね、北村春江市長にこれらの寄付目録書を手渡した。

当倶楽部は今日まで10数年、地域社会との共生を軸に、運動技芸の発達に寄与するため、芦屋市に対して継続的に寄付を行っている。北村市長は「芦屋カンツリー倶楽部からは、市民ゴルフを初め市民チャリティーゴルフそれに幼稚園児に対するコースの開放などいろいろお世話になっている。そのうえ、このように毎年市民のためにご寄付下さって本当に感謝している」。

H 11年 6月 社費の改定およびメンバーフィの改正(H11.3.24)

次の通り改定

●個人正社員 現行48,000円を72,000円に改定(1名につき)

●法人社員 現行48,000円を72,000円に改定(1名につき)

●週日社員 現行28,800円を43,200円に改定

●婦人社員 現行28,800円を43,200円に改定

●メンバー利用料金 現行2,000円を3,000円に改正
(平成11年4月1日より)

薄暮(夏期)ハーフプレー制度の導入について(H11.3.24)

この制度の導入と内容について審議した結果、承認された。

グリーン委員会(H11.5)

昨年4月以降今年3月までの1年間の植樹数は317本である。

ソロプチミスト芦屋・コンペ開く

緑っぱいの街、そしてうらおいのある環境作りを目指して、国際ソロプチミスト芦屋が「第1回チャリティーゴルフコンペ」を5月25日(火)当倶楽部で開催した。男女合わせて181名のプレーヤーが参加。今回のチャリティーコンペは「次世代に大樹を」というテーマを掲げ、その収益金を芦屋市に寄付し、震災後めっきり緑が少なくなった街にうらおいのある環境を作ってもらおうというもの。

「第4回芦屋市民チャリティーゴルフ大

会」

5月28日(金)、当倶楽部で参加139名の市民によって盛大に行われた。福岡昭吉環境公益委員長が挨拶。スポーツ器具の寄付、幼稚園児らにコースの開放、大きいイベントとしてチャリティーゴルフ、それに市民ゴルフ大会など、倶楽部は積極的に参画している。当倶楽部から夏のイベントの成功を願って同大会会長堀真一郎氏に金一封(100万円)を贈った。

幼稚園児コースで楽しむ

5月17日(月)に園児約1,000名、バス10数台で来場。ゴルフ場の広い芝生で十分に遊んだあと、各幼稚園にお土産品を配った。

H 11年 10月 評議員会(H11.6.9)

平成9年10月22日、50周年記念事業を如何に取り組むべきかを中心に発足した第2次経営強化特別委員会より提出された報告書をもとに説明が行われた。

①婦人社員の募集について

委員会の答申を受け、その後、四役会で検討の結果、7月1日付で50名を募集することとなった。

②来場者、集客対策について

③スタート予約方法の変更

④新企画の実施

⑤経常収支の改善対策の実施

⑥社費の改正

⑦メンバーフィーの改正

⑧練習場利用時間の改定

婦人社員募集人員の確定について(H11.8.21)

7月8日現在で予約申込みは65名となり、最終募集人員は64名が入社手続きを取ることに決定した。

週日ならびに婦人社員に対する特別暫定処置について

特定期間の日曜日および祝日に限って、他人および法人社員同様メンバー扱いとしてプレーを認めることが了承された。

ジュニアゴルフスクール開かれる(H11.8.24)

兵庫県ゴルフ連盟主催「ジュニアゴルフスクール」が8月24日、25日の両日、当倶楽部で開かれた。中高生を対象に行われたこのスクールには将来のトッププレーヤーを目指して早朝から父兄同伴で倶楽部に駆けつけ、熱心に研鑽を積んだ。倶楽部では公益事業の一環として、ゴルフを通じて青少年の健全な育成につとめるため全面協力を果たした。

平成11年度(第11回)関西グランドシニ

● 議事抄録抜粋 ●

アゴルフ選手権競技

9月10日(金)当倶楽部で行われ、153名のプレーヤーが覇を競い合った。当倶楽部からは、平田豊理事長をはじめ、大竹俊夫氏、藤田隆良氏、黒田三郎氏と山本孝三郎氏の5名が出場した。

倶楽部細則第4条の一部を暫定措置(H11.7.21)

週日社員および婦人社員の日曜および祝日におけるゴルフプレーを、次に列挙する日に限って個人正社員および法人社員同様メンバー扱いにてプレーすることを認める。

●日曜および祝日プレー可能な日

①1月2日(振り初めプライズ)、②1月3日(新年杯)※ただし、先着30名迄の受付、③1月～2月の日曜・祝日のうち倶楽部競技のない日曜・祝日をプレー可能日とする。④上記以外に下記祝日をプレー可能日とする。5月4日(木・祝日)、7月20日(木・祝日)、10月9日(月・祝日)

●暫定期間 とりあえず、平成12年1月1日から平成12年12月31日迄の1年間とする。

平石プロ、関西オープンで辛勝(H11.9)

3年ぶり2度目の快挙4日間ボギーなし。

第65回関西オープンゴルフ選手権大会は、兵庫県小野市にある小野グランドカントリークラブで9月2日から行われ、熱戦が繰り広げられた。

最終日(9月5日)、平石を始めオーストラリア人のケニー・デュルースそれに富田正行がトータル204で並び、若手のホープ谷昭範が206で追い上げて来るという厳しい展開となった。競技は3人でのプレーオフに持ち込まれた。

今回の大会の裏には、平石プロが所属する芦屋カンツリー倶楽部の平田豊理事長が今年関西ゴルフ連盟の理事長に就任されたからには、自分の一生の思い出として平田理事長自らの手で優勝カップを戴きたいという願いと、「孝行息子」でありたいという望みを託した思いが隠されていた。

72ホール、ノーボギー(69、66、69、72=276)というミラクルなプレーを演じた平石プロは、これで3年ぶり2度目の快挙となる。

H 12年 1月 チャリティゴルフ大会開催、要請の件
芦屋業平ライオンズクラブより申し出を受け、審議の結果了承。開催日は、倶楽部の休日である10月18日(月)とする。

レッスンプロと特別契約をする件

社員のゴルフ技術向上を目指し、そのニーズに応えるため、新たに松沢勉プロ(63才)と契約した。

50周年事業推進のための委員会設置について

●50周年推進委員会

委員長/米田實キャプテン
委員/星島三平名誉書記
委員/平野一雄名誉会計
委員/菊池満昭支配人

●総務委員会

委員長/平野一雄名誉会計
委員/高木芳治競技委員長、堀口正彦エチケット・フェローシップ委員長、久保富男編集委員長

●別館委員会

委員長/星島三平名誉書記
委員/金澤嘉幸ハウス委員長、小國武彦バー・メス委員長、酒井瑛ハウス副委員長、田村真二ハウス副委員長、有海淑明バー・メス副委員長

●カート委員会

委員長/星島三平名誉書記
委員/高澤嘉昭グリーン委員長、稲鍵雄康キャディー委員長、平野一齊グリーン副委員長、大月宏治グリーン副委員長、藤井勇二郎キャディー副委員長、黒川辰蔵キャディー副委員長

平成11年度関西インタークラブ競技兵庫地区予選

11月4日(木)、宝塚高原ゴルフクラブで行われた。天候に恵まれ17クラブが決勝進出を目指して競い合った。当倶楽部は健闘らしく11位に終わった。

●当倶楽部の出場選手 脇勉、樋口昌弘、山口稔彦、平井忠夫、平野一齊、野田稷三、(補欠/山本澄)

エントリー方法の変更とドロー扱いについて(H11.9)

プレー日の10日前迄にプライベートコンペティション参加者氏名をフロントに提出するよう義務づける。

プレー日の10日前迄に氏名の提出がないと、キャンセルしたものとみなし、他のプレーヤーのエントリーを受け付ける。

春分の日杯と秋分の日杯の組み合わせを原則としてドローにする。

平石プロ、倶楽部より表彰される

関西ゴルフ連盟主催の平成11年度・第65回関西オープン選手権競技に見事優勝を果たした当倶楽部所属の平

石武則プロは、12月15日開かれた評議委員会に於いて表彰された。

平田豊理事長から同プロに感謝状と金一封(50万円)が贈られた。

『ゴルフ俳句』展示される

花鳥風月を愛する同好の士によって、本誌に掲載されている俳句は、1985年から既に15年、わたしたちを和ませてくれた。現在15番の茶店と浴場の脱衣場にそれらの額が飾られている。色紙の揮毫は書家の木村洋さんによるもの。選者は歌川杜之助さん。

練習場に新しくレッスンプロ配属

社員のゴルフ技術向上を目指して、もう一人のレッスンプロが配属された。松沢勉氏(63歳)で、石井勉夫プロの門下生。昭和33年から39年まで当倶楽部に所属していた。レッスン可能日は週2日の火曜と水曜日。

六甲山を美しくする会に参加

毎年恒例となっている六美会主催の「六甲山を美しく運動」は、9月5日恵まれた晴天のなか約500名が参加して行われた。

当倶楽部から10名が加わり、阪急芦屋川から奥池の広場まで、約2時間、ごみの収拾に汗を流した。

H 12年 4月 池改良工事に伴う特別事業費の追加について

15番ティーグランド前下の池を改良し、貯水池として活用するべく特別事業費の追加として5百万円を了承した。

労務委員会

労災ゼロの目標達成に向けて、安全標語を作成し、従業員の意識啓蒙を計った結果、今年度もKGUより労災ゼロ達成(3年連続)。倶楽部として表彰を受けた。

芦屋市に対する寄付行為(H11.12.13)

当倶楽部が公益事業の一環として、芦屋市に毎年行っている寄付行為は、今年で18年目を迎える。

今年同市教員委員会の要望に応じて、体育館青少年センターに3百万円相当の体育機器を贈る。

さくらまつりに寄付

4月8日(土)、9日(日)は「芦屋さくらまつり」、すっかり市民の間に定着して数万人の人出で賑わった。当倶楽部はこのイベントの趣旨に賛同し、金一封を贈った。

芦屋市民ゴルフデーが開設された

今年4月から芦屋市民ゴルフデーが開設された(H12.4)。芦屋市教育委員会と当倶楽部との連携により実現し、芦屋市在住の市民の方々に格安料金

● 議事抄録抜粋 ●

でゴルフを楽しんでもらおうという
もの。

H 12年 7月 来場者動向(菊池支配人)

6月の来場者動向について菊池支配人は別紙資料をもとに報告した。来場者予算2,300名に対して実績は2,330名、前年度実績2,259名で回復率は103.1%、辛うじて予算をクリアした。また、市民ゴルフデー及び薄暮プレーは現在のところ順調に増えつつあることを付け加えた。

50周年推進委員会(米田實委員長)

●別館委員会(屋島三平委員長)

別館改築に当たって、竹中工務店は基本設計を8月末に終え、詳細設計に入る。委員はこれらについて同工務店より詳細設計ならびに詳細見積もり等の説明を受ける。12月にすべて資料が出揃うので、同月の理事会に於いて詳細説明し、予算の承認を得たいと思っている。

工事中については承認を得た後直ちに入るので来年1月早々を予定しており、竣工までは約12ヵ月を見込んでいます。

●カート委員会(星島三平委員長)

日立製電磁誘導式バッテリーカートを導入するに当たって、カート軌道敷設工事等に関する申請が必要。測量に多少日にちを要することと、国立公園内での工事ということで、許認可をとる迄相当の時間を要する見込み。なお、工事自体は2ヵ月半で竣工するが、当局からの工事認可等を勘案してカート走行開始時期については、余裕を持って来年の3月1日からの稼働としたい。

●総務委員会(平野一雄委員長)

総務委員会でこれまで取り上げられた諸問題のなかの中間的まとめを報告した。

①50周年記念招待競技について、基本的には地味に対応する。競技関係の予算は300万円とする。

②50周年記念品について、エチケッ ト・フェロシップ委員会が担当で準備を進めている。予算は1,680万円。

③50年史については、久保富男編集委員長が精力的に資料の収集に当たっており、まとまり次第後日報告がある。なお、予算については987万円とする。

④50周年記念植樹ならびに式典について、予算300万円を実施する。実施内容と時期は今後検討する。(極力同時期に行いたい)記念植樹には、大木(例えば松)1本の植、樹に加えて小木(例えば竹、もみじ

等)を50周年にちなんでコース内に同品種のものをまとめて50本植えることを考えている。この件についてはグリーン委員会の協力を要請することにしている。

⑤50周年記念公益関係の行事について、倶楽部施設を利用した公益事業に関わる予算、50万円。

50周年を記念し、地元への寄付行為予算は200万円とする。詳細については、環境公益委員会で検討してもらおう。

⑥永年勤続従業員に対する表彰を予定。予算は20万円。以上の結果、50周年記念事業に伴う予算総額は、当初予算通り4,000万円とすることを確認した。

H 12年 9月 芦屋市「平和モニュメント」建設募金活動に協賛する件

芦屋市は市政施行60周年並びに消防本部および教育委員会設置50周年を記念し、後世に平和の願いを伝えるための「平和モニュメント」を建設する準備を進めている。環境公益委員会は、その募金活動の趣旨を理解した結果、当倶楽部が芦屋市へ毎年行っている寄付行為の予算内で協力したい旨を申し上した。

審議の結果、公益法人の立場上協力するのが妥当であるという観点からこれを了承した。

細則第4条の条項の一部を暫定的に取り扱うことについて

暫定措置の内容は次の通り

●週日社員並びに婦人社員の日曜及び祝日におけるゴルフプレーを次に列挙する日に限って個人正社員並びに法人社員同様メンバー扱いにてプレーすることを認める。

●日曜および祝日プレー可能日

①平成13年1月2日(振り始めブライズ) ②平成13年1月3日(新年杯)但し、先着30名迄の受付とし、競技への参加可能。③平成13年1月～2月の日曜・祝日のうち、倶楽部競技のない日曜・祝日をプレー可能日とする。【平成13年1月8日(月・成人の日)・21日・28日、平成13年2月4日・12日・25日】 ④上記以外に下記祝日をプレー可能日とする。【平成13年4月30日(月・振替祝日)、平成13年5月4日(金・祝日)、5日(土・祝日)、平成13年7月20日(金・祝日)、平成13年10月8日(月・祝日)】

●暫定期間 平成13年1月1日より平成13年12月31日迄の1年間とする。

●暫定措置適用社員 週日社員並び

に婦人社員以上の件について審議した結果、承認された。

JCBゴールド会員のエントリー要請を再度受け入れる件について

本件は平成12年4月26日の理事会で審議を仰ぎ、限定期間での承認を得、実施したところ何ら支障がなかったことを報告、趣旨説明を行って諮問した。この件について審議した結果、受け入れることにした。

「ゴルフウィーク」を設ける件について

(財)日本ゴルフ協会より「日本ゴルフ100年祭」を立案中であって、それぞれのゴルフ場においても独自の企画を立て、追従願いたいとの要請があった。当倶楽部としては下記内容にて「ゴルフウィーク」を設定し、対応したい旨を申し上した。

①「ゴルフウィーク」を平成13年8月18日(土)～25日(土)とする。ただし、平成13年8月19日(日)を対象外とする。②「ゴルフウィーク」期間の平日のプレー料金は、夏期優待扱いと重複することとなるので、さらに5千円引きとし、食事別、キャディー付きで約1万1千円とする。土曜日のプレー料金も同様5千円引きとし、約1万9千円とする。③打球練習場でジュニアスクールを開催。(スポンサーとの共催を予定)④ファミリーまたはフレンドリー競技の開催。⑤地域住民へのコースの開放。(8月22日(水)は芦屋市民ゴルフ大会日に当たる)⑥近隣倶楽部との懇親競技の開催。[8月24日(金)は中近シニア懇親競技開催日に当たる]以上の件について審議した結果、了承された。

集客対策案について

プライベート・コンペでのビジターグリーンフィ어의優遇

①3組以上～9組のコンペ(ただし、10名以上)

●通常月(4～5月・9～11月)

平日 15,000円→12,000円

土曜日 22,000円→19,000円

●夏・冬期間(6～8月・12～3月)

平日 10,000円→8,000円

土曜日 17,000円→15,000円

②10組以上のコンペ

●通常月(4～5月・9～11月)

平日 15,000円→10,000円

土曜日 22,000円→17,000円

●夏・冬期間(6～8月・12～3月)

平日 10,000円→7,000円

土曜日 17,000円→13,000円

※上記コンペについては平成12年12

● 議事抄録抜粋 ●

月1日のプレー分より実施。

③一般ビジターの夏期優待扱いは冬期優待内容と同じ。

●期間は平成13年6月1日(金)より同年8月31日まで。

④倶楽部定休日(月曜日)を利用するコンペについて

●引き受け組数は原則として25組以上、開催3ヵ月前までにフロントに申し込む。以上の件について審議した結果、承認された。

H 12年10月 来場者動向

来場者動向について、菊池支配人は別紙資料をもとに説明した。それによると、9月の来場者実績は先月同様低迷し、前年実績にも及ばなかった。何れにしても現状は非常に厳しいと報告した。

因に兵庫県下9月度の前年比率は98.9%で約8ポイント当倶楽部は下回っている。その主たるところは、ビジターの来場が極度に少ないことであると菊池支配人は述べた。

50周年推進委員会(米田實委員長)

●別館委員会(星島三平委員長)

10月9日委員会を開催、竹中工務店から詳細設計が提出され、鋭意検討した。

同工務店は、11月末までに正式見積書を提出する。これを受けて委員会は再度会合を持ち、竹中工務店との正式契約等に関する値段決めを行い、12月の理事会で承認を得る予定。

平成13年の1月9日から別館取り壊し作業に入る。2月末までにはその作業が終わり、3月の初めに地鎮祭が執り行われ、工事着工。平成13年12月15日までは竣工し、暮れまでに備品等の内装を完了する。平成14年の正月より使用可能にするという説明があった。

●カート委員会(星島三平委員長)

6月度の理事会で承認を得た予算1億3千6百万円、その内訳は、カートに6千4百万円、工事に6千万円、カート格納庫に1千2百万円であったが、工事申請手続き費用が高み、工事請負側から200万円上積み要求があった。因にその申請先とは、瀬戸内海国立公園内として環境庁、砂防法指定地域として兵庫県、第一種法自治地区として神戸市である。これに対して倶楽部側としては予算の都合上受け難いという見地から、カート業者に依頼し、200万円の削減を受けてもらい、その分を工事業者に振り当てることにした。ここに内訳費用の変更の承認を得たい。(異議なし)工事等に関する許認可は12月中にお

りる予定。

●総務委員会(平野一雄委員長)

50周年記念行事の日程が大筋で纏まった。

①別館竣工式 2002年1月 ②植樹祭 2002年4月～5月(別館にて小宴) ③追悼式 2002年4月～5月 ④開場記念競技 2002年8月(3日間)(記念パーティー、記念誌、記念品の贈呈) ⑤招待競技 2002年10月(月曜日)(懇親会形式、記念誌、記念品の贈呈) ⑥記念誌発行 2002年7月～9月 ⑦記念品選定 2002年1月～2月 ⑧永年勤続者表彰式 2002年4月～5月 ⑨植樹品種の選定 2000年12月末(グリーン委員会) 植樹の内容(大木=11番に松、小木=(4種類)もみじ、さるすべり他) ⑩芦屋市への寄付行為(環境公益委員会)内容の決定(300万円+200万円、合計500万円の予定)

H 12年12月 別館建て替えに関する費用について

別館建て替えに対する正式見積もり額が、12月2日(株)竹中工務店より提示された。此の件について星島三平別館委員長より以下の説明があった。

3月の理事会で、別館建て替え経費として別館関係費の承認を得た。その後折衝の結果、最終見積額が今回提示された。

なお、竹中工務店より提出された見積額に対する倶楽部側の要望として、更に金額の見直し方を要請することになっている。依って、最終契約額の決定については4役ならびに50周年記念推進委員会に一任願いたい。併せて1月の理事会にその結果報告を予定している。

工事着工については、竹中工務店との契約が成立すれば1月9日に別館の取り壊し作業に入る。平成13年の12月中旬までに完工することになっており、平成14年1月から使用可能となっている。

審議の結果、了承された。

50周年推進委員会(米田實委員長)

カート委員会(星島三平委員長)

申請に対する官庁からの工事許可待ちといった状態、現段階で環境庁所管の自然公園法、神戸市所管の風致条例に関しては許可を得ている。残るは神戸市の建築確認と兵庫県の砂防法に対する許可でまだ下りてない。年内に下りるであろうという情報を得ている。1月に工事が始まり、3月に終了。4月1日より稼働することに期待を寄せている。

事務局報告

●ゴルフ場利用税廃止運動について
ゴルフ場利用税の3割軽減については見送られた。

●西日本各地のゴルフ場の来場者は8年連続減少傾向を呈した。

●労働災害発生状況について、全般的には減少傾向にあるが、他クラブで重大人身事故を1件起こしている。

●暴力団対策関係の動き。

●公益法人ゴルフ場に関する動向。

●従業員冬季ボーナスの妥結。

H 12年12月 グリーン委員会報告

●ティフトン芝除去を精力的にやっている。多少プレーに支障を来すかも知れない。

●3番フェアウエー左側前方の土手のところの排水工事を行う。

●12番フェアウエー左斜面に危険防止のためのV字型の枝道を作る。

●50周年に向けての植樹。

1番にサルズベリ50本。(夏開花)、2番にサルズベリ50本。(夏開花)、16番にコブシ50本。(春開花)、3番に紅葉50本。(秋開花)

●カート道の工事許可の不要な付帯工事については早急に着工する。

●オーバーシードによるベントグリーン化への試植作業は現在サブグリーン4カ所、練習グリーン2カ所で行われているが、抜本的な検討を加える必要があるため他クラブの状況を見学し、専門家の意見なども加えて進めて行きたい。

ハンディキャップ委員会報告

●12月10日当倶楽部をホームコースとしている609名についてハンディキャップ査定を行った。その結果、JGAハンディキャップ取得者で上がった人31名、下がった人51名、変更なしの人209名

暫定ハンディキャップ取得者で上がった人6名、下がった人17名、変更なしの人197名、新規取得者17名。

グリーン委員会報告

●カート委員長より報告があった通り、当局からの工事許可が下りたので既に工事に入っている。

●17番横の避難小屋を撤去することに決まっているが、17番から11番にかけての打球が飛び込む恐れがあるので、危険防止のため金網を設置したい。これと同時にクーラーボックスとベンチを10番との間に設けたい。

●16番フェアウエー特設ティーの右

● 議事抄録抜粋 ●

前方のラフ部分が谷側に沈下しつつある。多分地震の影響かと推測されるが、この場所は乗用カートの通り道になっているので、もし陥没でもすれば大きな事故につながりかねないので石垣を積んで整備したい。

H 13年 1月 50周年推進委員会(米田實委員長)別館委員会(星島三平委員長)

12月の理事会で既に承認を得た別館総工費について、その後竹中工務店と折衝した結果、最終的に2億7千万円で折り合いがついた。カート委員会(星島三平委員長)

懸案の許認可問題は1月9日神戸市の建築確認許可が、また1月16日に兵庫県の新設法関係の許可がそれぞれ下り、これで当倶楽部から出されたすべての工事関係に対する申請が認められた。これでカート工事も最大目標としている3月中旬、もしくは下旬にはカートが稼働できるよう努める。総務委員会(平野一雄委員長・菊池支配人代行)

記念事業の推進と内容の再検討について
植樹の件—小木50本の植樹に関して、グリーン委員会の提案内容について検討した結果、2月24日(土)にグリーン委員会の正・副委員長列席のもと詳細について最終決定を出したい。

竣工式、植樹祭及び追悼式のそれぞれの行事を当初予定していた日時を変更して、同じ日に施行する方向で再検討する。

記念誌の発行及び記念品の配布について、現状の倶楽部財政を考慮して再検討する。

H 13年 3月 3月度理事会

日時・平成13年3月28日(水)午後2時

本館リフレッシュ工事に伴う予算案上程の件

かねて理事会、ハウス委員会等において本館のリフレッシュ工事が取り上げられていたが、竹中工務店より本館改修案が出た。これを受けてハウス委員会で慎重討議、検討した結果、工事に伴う予算案を上程した。

●改修項目では、外装のリフレッシュを重点に緊張度の高い8項目が選ばれた。

●工事に必要な金額 総額約3千8百50万円。(消費税を含まず)

●その他 工事費用の約3千9百万円のうち、2千6百万円はハウス部門の通常予算を充当する。この上程案について審議した結果、異議なく承認された。

●特別委員会設置について

①設置する特別委員会名 業務委員会

②委員委嘱者(敬称略)

委員長/米田實キャプテン

副委員長/星島三平名誉書記

委員/高木芳治理事、久保富男理事、小國武彦監事以上5名

③趣旨 景気の先行きが今なお不透明であるところから、今後の倶楽部運営に於いて見直しが必要である。

磐石の倶楽部財政を確立するために諸施策の再検討並びに推進が必要である。

④その他 本委員会は趣旨が遂行された時点で解散する。従って委員会の委員の任期は特に定めない。

この件について諮問したところ、全員異議なく了承した。

H 13年 4月 4月度理事会

日時・平成13年4月25日(水)午後2時

公益関連事業の企画引き受けの件

芦屋市教育委員会並びに(株)ダンロップスポーツセンタープライズより、当倶楽部練習場およびコース施設の貸与方の申し出があった。

その申し出内容とは、

①芦屋市教育委員会が抱えているグラウンドゴルフ協会会員のなかから100名をもってグラウンドゴルフ大会を開きたい。使用施設は練習場。開催日は5月14日(月)および9月17日(月)。[当倶楽部が市内の幼稚園児にコースを開放する日と同じ]

②(株)ダンロップスポーツセンタープライズの申し出企画は、兵庫県下在住の小・中・高校生50名を対象にジュニアゴルフスクールを開催したい。使用施設は練習場およびコースの一部。開催日は7月30日(月)。

カート使用料の改定と条件付きセルフプレーの導入について

業務委員会での討議を経た結果、カート使用料の改定と条件付きセルフプレーの導入を行いたい旨上申された。

●カート使用料の改定については、新機種の導入に伴って受益者にそれなりの負担を担ってもらうこと、同時に現況の倶楽部財政に多少なりとも寄与してもらうため、現在の使用料を1,000円から2,000円に引き上げたい。実施は6月12日(火)より。

●セルフプレーについては、原則としてキャディー付きであるが、希望者があればセルフプレーを条件付きで認める。その条件とは、①事前予約としてエントリーの際に申し込む。②スタート時間帯を原則的に限定し、午前8時～8時30分と9時30分以降とする。③プレーは原則として社員同伴とし、ビジターのみのプレーは認めない。なお、セルフプレーの運営に問題が生じた場合はキャディー委員会に於いて対処調整することとする。

この件について審議した結果、承認された。

「ジュニア育成委員会」設置について

(財)日本ゴルフ協会からジュニアに対する育成活動をそれぞれの倶楽部で積極的に取り組んでほしいとの要請があった。この要請に呼応して、当倶楽部内にも「ジュニア育成委員会」を設置する案が諮問された。これによって、当倶楽部内では、「エチケット・フェローシップ委員会」を「エチケット・フェローシップ、ジュニア育成委員会」と改称し、その主旨に応えたいという案が出された。設置時期は、平成13年6月13日の委員会委員長委嘱時に行いたい。同時に倶楽部細則の第16条及び第30条をそれぞれ見直しが必要であると求められた。

審議の結果、承認された。

H13年 5月 第51回通常社員総会

日時・平成13年5月30日(水)午後4時15分

①平田豊議長の挨拶

②社員の出席状況 菊池支配人より本日の社員の出席状況について報告。社員総数 1174名、本人出席 18名、委任状出席 680名、出席総数 698名(59.5%)との事務局報告を受けて、平田議長は、本通常社員総会は定款第34条による総社員数の5分の1以上の出席を必要とする条件を満たしているため、有効に成立している旨を報告した。

③議事録署名者指名 高木芳治氏、大野平氏の両氏を議事録署名者に指名、全員異議なく了承した。

④議案

(第1号議案) 平成12年度の事業報告並びに決算案承認の件。

●平成12年度事業報告について、米田實キャプテンが報告。

●平成12年度決算案承認の件について、平野一雄名誉会計が説明。

●監事による監査結果と安田公認会計士による監査結果の報告は、小國

● 議事抄録抜粋 ●

武彦監事によって行われた。

上記議案について諮ったところ全員異議なく、第1号議案は原案通り承認可決した。

(第2号議案) 平成13年度収支予算案承認の件

●平成13年度収支予算案承認について、平野一雄名誉会計が説明。

上記議案について諮ったところ全員異議なく、第2号議案は原案通り承認可決した。

(第3号議案) 評議員任期満了につき改選の件。

●評議員の任期満了に伴う改選について、議長は評議員選出方法を一任願いたい旨を諮ったところ全員異議なく了承した。

●議長は評議員選出に当たって、通常選挙と同等の効力を有するものとして、選考委員若干名を選び、候補者を選考する方法を採りたい旨諮ったところ全員異議なく了承。議長は6名の選考委員を選び、これら選考委員の中から委員長に米田實氏が指名された。米田實委員長より、選考結果が発表され、以下の42名が選ばれた。

◆選出された評議員(敬称略・アイウエオ順)

[再任評議員] 阿河俊夫、有海澈明、稲鍵雄康、大竹俊夫、大月宏治、大野平、大野崇司、金澤嘉幸、久保富男、黒川辰蔵、外賀昭、小國武彦、酒井瑛、新保良一、杉野浩次、高木芳治、高澤嘉昭、田中徹雄、田村真二、中川博二、新原一世、野村健、羽間平安、平井忠夫、平田豊、平野一齊、廣井侑一、福岡昭吉、藤井勇二郎、星島三平、堀切民喜、堀口正彦、森昭侍、山本信孝、米田實(35名)

[新任評議員] 張哲彦、寺山満春、野田稔三、森輝彦、八木幸一、横山宏史、脇勉(7名)

これら選ばれた評議員について、採決を求めたところ、全員異議なく承認、可決した。

以上をもって社員総会の全ての審議は終了し、可決した。

H13年6月 6月度第1回理事会

日時/平成13年6月13日(水)午後3時45分、場所/東洋ホテル

議案

①理事長互選の件 定款第15条により、理事長を互選した結果、引き続き平田豊が理事長に選ばれ、同氏はこれを応諾し、就任した。

②3役指名の件 平田豊理事長は、倶楽部細則第15条に基づき、執行役

員を指名し、それぞれ本人の就任承諾を得た。キャプテン/米田實理事、名誉書記/星島三平理事、名誉会計/山本信孝理事

③平田豊理事長は、倶楽部細則第18条に基づき、各委員会の委員長を指名した。グリーン委員会/高澤嘉昭、競技委員会/高木芳治、ハンディキャップ委員会/平井忠夫、キャディー委員会/稲鍵雄康、エチケット・フェローシップ、ジュニア育成委員会/堀口正彦、ハウス委員会/金澤嘉幸、環境公益委員会/福岡昭吉、パー・メス委員会/小國武彦、編集委員会/久保富男、労務委員会/森昭侍、婦人委員会/中川博二(以上11名)

なお、副委員長、委員の指名については、3役と各委員長間で相談した結果を参考にして、今回の理事会の席上で平田豊理事長が指名することとした。

H13年6月 6月度第2回理事会

日時/平成13年6月27日(水)午後2時
場所/東洋ホテル

社員誕生日祝い、同伴ビジター優遇扱いについて

来場者対策の一環として、社員の誕生日月に優待状を発送し、パースデーをゴルフ場で祝ってもらおうという主旨と同時に同伴競技者(家族若しくは友人)に対して優待しようという案が上程された。

この件について審議した結果、承認された。

50周年記念特別企画について

来場者誘致対策の一環と開場50周年記念を併合して業務委員会は、新企画として非営業日の月曜日を利用してビジターを誘致する案が上程された。エントリー組数は原則として25組以上、3ヵ月前までにエントリーすることが条件。これらエントリーしたビジターに対しては、50周年記念優待として、ビジターフィーを5,000円とする。(平日のビジターフィーは15,000円)取扱期間は平成13年10月1日より15年3月31日までとする。

この件について審議した結果、承認された。

H13年9月 9月度理事会

9番ティーグラウンド横の仮設トイレ改修工事に伴う予算措置について

掲題の件についてハウス委員会で慎重討議した結果、平成13年度特別予算で改修したい旨上申した。予算は6百万円。なお、トイレ改修に併せ

て隣接する避雷小屋も更新する。本工事についてはすでに予算措置が講じられている。

審議の結果、承認された。

ビジター料金の優待扱い(冬期間)実施の件

①優待扱いの内容 平日10,000円(通常15,000円)、土曜日17,000円(通常22,000円)、日・祝日19,000円(通常22,000円)

②優待期間 平成13年12月1日(土)より平成14年3月31日(日)まで。
上記の件について審議の結果、承認された。

細則第4条の条項の一部を暫定的に取り扱うことについて

暫定措置の内容は次の通り

①週日社員並びに婦人社員の日曜及び祝日におけるゴルフプレーを次に列挙する日に限って個人正社員並びに法人社員同様メンバー扱いにてプレーすることを認める。

②日曜および祝日プレー可能日 平成14年1月2日(振り初めプライズ)、平成14年1月3日(新年杯)但し、先着30名迄の受付とし、競技への参加可能。

③平成14年1月～2月の日曜・祝日のうち、倶楽部競技のない日曜・祝日をプレー可能日とする。平成14年1月14日(月・成人の日)・20日・27日

④上記以外に下記祝日をプレー可能日とする。平成14年4月28日(日)平成14年5月4日(土・国民の日)5月6日(月・振替休日)、平成14年7月20日(土・海の日)、平成14年10月14日(月・体育の日)

⑤暫定期間 平成14年1月1日より平成14年12月31日迄の1年間とする。

⑥暫定措置適用社員 週日社員並びに婦人社員

KGU主催インタークラブ競技兵庫東地区予選に施設を提供する件

関西ゴルフ連盟より平成14年8月28日(水)に開催予定している平成14年度のインタークラブ競技兵庫東地区予選を当倶楽部で行いたい旨の要請があった。

本件について審議の結果、承認された。

H13年10月 10月度理事会

日時/平成13年10月23日(火)午後2時

50周年記念行事と開催日程等について総務委員会の討議を経て、50周年の

● 議事抄録抜粋 ●

記念行事等の素案が下記のように纏まったので諮問した。

- ①行事と開催日(2002年) 別館竣工式1月4日(金)、植樹祭1月4日(金)、追悼会1月4日(金)、開場記念競技8月2日(金)、8月3日(土)、8月4日(日)、永年勤続表彰8月4日(日)、招待競技10月7日(月)、公益事業10月7日(月)
- ②記念誌の発行 発行時期2002年7月～9月
- ③記念品の配布 配布時期2002年7月～10月

以上による予算総額は4千万円になる。

審議の結果、異議なく承認された。

H13年11月11月度理事会

日時/平成13年11月27日(火)午後2時

関西電力(株)より倶楽部敷地の一部買い取り要請並びに地役権設定願いの件
関西電力(株)より当倶楽部敷地内の既存の特別高圧架空送電線に林立する鉄塔部分の用地を買い取りたい、及び送電線下の地役権を設定したい旨の要請があった。

関西電力(株)は昭和40年に送電線設置事項に関する当倶楽部との話し合いは付けているが、今回恒久的に設備の確保と必要用地の買収並びに地役権の設定を行っておきたいというもの。本要請に対して審議した結果、受け入れることとした。

乗用カート導入に伴う追加工事代金の精算について

工事会社より乗用カート導入に伴う追加工事代金の請求があったので精算したい旨諮問した。

追加代金の内容は、①乗用カート導入に伴う許認可申請に係わる費用。②13番ホールの工事が国立公園法の適用を受けるにあたって、当初申請の仕様に変更を余儀なくされたための費用。③10番ホールほか、カートルートの変更等による費用。

この件について審議した結果、継続審議とした。

13番ホールの補修工事に対する追加予算措置について

震災時に応急工事をした13番ホールが地盤の軟弱によって土砂崩れを起こしているため、フェアウエー等の補修工事が必要となった。これに対して特別事業費の追加予算措置を講じたい旨を上申した。

この工事に併せて右側一帯のコース整備も行いたい。工事期間は平成13年12月より同14年1月末までの予定。

この件について審議した結果、了承された。

H13年12月12月度理事会

乗用カート導入に伴う追加工事代金の精算について

前回の理事会で継続審議となった日立バッテリー株式会社よりの乗用カート導入に伴う追加工事代金の件で、倶楽部としては350万円(業者要求額は650万円)で精算したい旨別紙資料をもとに諮問した。

追加工事代金等の内容は、①乗用カート導入に伴う許認可申請に係わる追加費用。(260万円)②13番ホールの工事工法の仕様に変更を余儀なくされたための費用。(550万円)

この件について審議した結果、追加代金として350万円の支払いで了承してもらうこととした。

特別事業費の追加予算措置について
ハウス委員会の討議を踏まえて下記4件について追加予算措置を講じてほしい旨を諮問した。

- ①カート庫新設に伴う充電設備の移転工事、カート走行路の誘導線改修工事費用。(400万円)
- ②従業員食堂及び倉庫としてプレハブ小屋2棟の新設、それに付帯する階段等の工事費用。(740万円)
- ③老朽化した給水管の取り替え工事費用。(840万円)
- ④老朽化した水道水濾過施設の改良工事費用。(6,500万円。内5,200万円は10年リースで対応、残り1,300万円を現金払)

これらの件について審議した結果、持ち回り審議とした。

H14年1月1月度理事会

細則の一部改正について

「ジュニア育成」を担任していたエチケット・フェローシップ委員会からその担任を削除し、競技委員会が「ジュニア育成」を兼任するというもの。

この移行事項の承認によって、以下の細則を改正する。

- ①細則第16条の競技委員会を競技・ジュニア育成委員会とする。エチケット・フェローシップ委員会・ジュニア育成委員会をエチケット・フェローシップ委員会と改正する。
- ②細則第27条の競技・ジュニア育成委員会の担任事項について、以下の文言を付加する。「併せて、ジュニアゴルファーを技量だけでなく、エチケット・マナーの向上にも努めるとともに、ゴルフ界の健

全な発展に寄与するよう裾野から活動を推進する」

- ③細則第30条のエチケット・フェローシップ委員会の担任事項について、委員会名改正と同時に「ジュニア育成」に関する担任事項が競技委員会に移行されたためその文言を削除する。

- ④改正施行日 平成14年2月1日
この件について審議した結果、承認された。

入社申し込み手続きの規定の改定について

法人社員登録者の変更手続きの円滑推進及び倶楽部の格式をより一層高めることを目途に、入社申し込み手続きの規定を改定したい旨の案が上申された。

その内容は、入社規定第1条の第6項の現行規定に「ただし、事情によっては、理事長の判断に委ね、面接を免除することも有り得る。」を文中に挿入し、施工する。実施日は平成14年2月1日。

この件について審議した結果、承認された。

特別事業費の追加予算措置 2件

- ①カート庫内の充電設備移転工事費用 追加予算計上額は340万円。これまで使用していたカート庫から新設のカート庫に充電設備を移転するための工事費用並びに走行路の誘導線工事等それらに伴う付帯工事費用。
- ②従業員食堂、倉庫用ハウス2棟並びに階段の新設と既存設備の改修工事費用

追加予算計上額は690万円。内訳は、480万円が従業員食堂並びに倉庫(プレハブ)。及び210万円は上記に纏わる階段等の付設工事と既存設備の改修費用。

これら2件について審議した結果、それぞれ承認された。

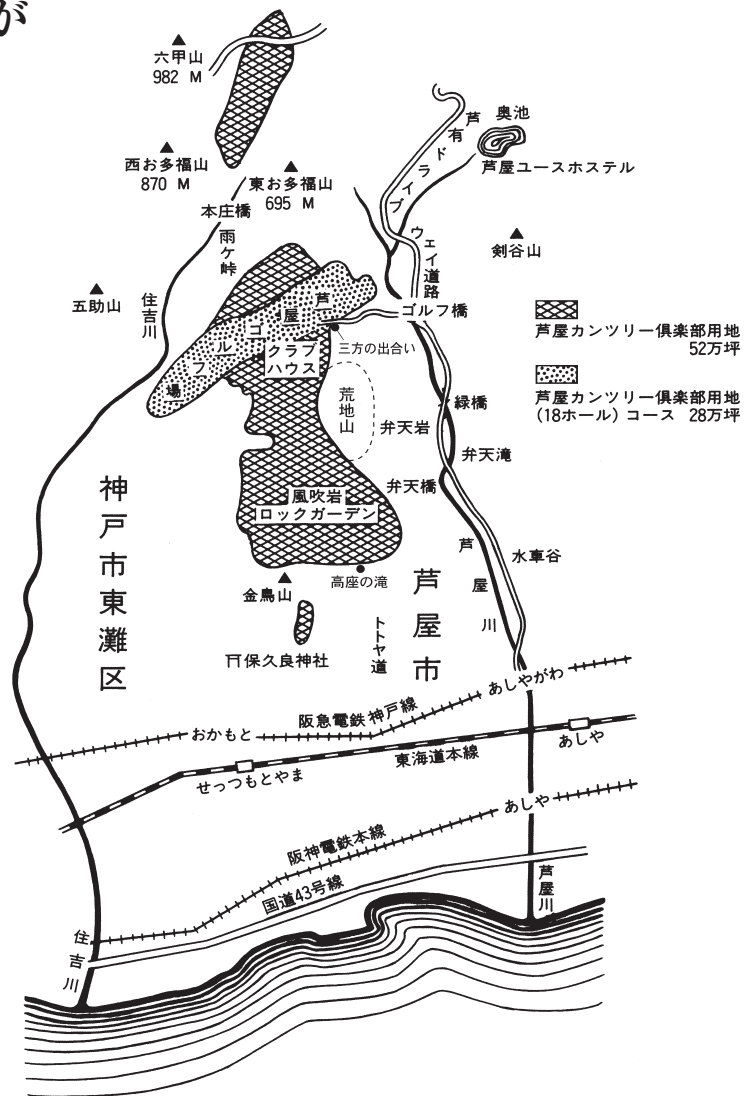
H14年2月2月度理事会

緊急対策用無線機の更新について

現在キャディーが緊急対策用として携帯している無線機のリース契約が平成14年4月を以て終了するので、機種更新に当たって最新の軽便かつ機能的に優れたものに替えたい旨上申した。

この件について審議した結果、承認された。

芦屋カンツリー倶楽部が 持っている敷地



芦屋カンツリー倶楽部の所有地

芦屋カンツリー倶楽部の所有地は約85万坪(280万m²)で私有地では、阪神間で最大の大地主である。所有地は下記の3回に亘って取得していた。

①昭和25年	本山村8ヶ部落共有林	20万余坪
	芦屋市共有林	5万余坪
	計	25万余坪
②昭和33年	阪神土地株式会社所有山林	53万7千余坪
③昭和44年	芦屋市共有林	6万余坪

昭和25年、本山村8ヶ部落共有林(20万余坪)、芦屋市共有林(5万余坪)、計25万坪を坪10円で買収

この土地はたまたま別の芦有道路の開発の下調査のため山中に入った県の技術者や芦屋市職員の一行が道を間違えて、お多福山の頂上に出た。眼下に花原一帯の平坦なスロープの土地を発見した。ゴルフ場に適した地形であると、松岡潤吉氏(当時芦屋カンツリー倶楽部の発起人)が持ち込んだ。

本山村村長、林勇次郎氏の協力を得て、8ヶ部落共

有林20万余坪を坪10円で買収した。併せて芦屋市の共有林5万余坪も同じく坪10円で買収し、計25万余坪の土地を確保した。これが現在の芦屋カンツリー倶楽部のアウトコース、インコース全18ホールの敷地になっている土地である。

昭和33年阪神土地(株)の所有地(山林)537,790坪を1,400万円(坪26円)で買収

場所を示すと、クラブハウスの敷地から練習場10番ホールの南方の山林の全部である。風吹岩からロックガーデンの岩場を含む一帯の土地である。東側は三方の出会いから、荒地山山麓の小川を境にして流れに添って上り、分水嶺を越えて下る。高座の滝の側の川に添ってロックガーデンの先端部に至る。西は保久良神社と境を接し、住吉川に至る。中央部に里道(通称／魚や道)が通じている。ハイキング道としてロックガーデンから中央部を通過して11番ホールの横を登り、西お多福山から東お多福山に至り、一旦住吉川上流付近へ下り、七曲り道を登って六甲山最高峰に至る。多くのハイカーが利用している里道である。

別に阪神土地より買い受けた飛地が、六甲山最高峰付近にある。約5万坪の場所を示すと一軒茶屋から下って七曲り道の里道を境にした東側の谷で、土肥割り付近迄の山林。この土地を買収するに至った経緯を述べる。

コースと隣接する阪神土地(株)の所有地と境界に間違いがあるとの指摘があった。調査すると、クラブハウスの敷地となっている所と、その周辺全部と、三方の出会いからクラブハウスに至る道路とその周辺全部、10番ホールの一部と道路周辺の全部が阪神土地の所有地である。芦屋カンツリー倶楽部が不法占拠していることが判明した。

芦屋カンツリー倶楽部が不法占拠している土地を買い取ることで交渉を進めた。阪神土地側はこれらの土地を含めた所有地の山林全部(53万余坪)を買い取って貰いたいと要請して来た。

芦屋カンツリー倶楽部は土地全部を買い受ける資

金は無く困惑していた。三和銀行の渡辺忠雄頭取(当時)(芦屋カンツリー倶楽部理事)に相談して、全額資金についてはなんとかするとの内諾を得て、和仁名誉書記(当時)が買収交渉に当たり53万7,790坪の山林全部を1,400万円を買収するに至った。

昭和33年頃の1,400万円は大変な金額であった。当時資金は厳しく規制されていた。戦後の復興に必要な産業の石炭、肥料、鉄鋼、造船などに資金は重点的に配分されていた。不急不用産業であるゴルフ場などは調達が大へんむずかしい状態の時である。この時に渡辺忠雄氏の特別裁量を得て土地代金1,400万円と併せて、その前後に合計3,000万円の調達を受けている。そのお陰で土地を取得し、経営難を乗り越えて来ている。芦屋カンツリー倶楽部の今日あるのは偏にこの時の渡辺忠雄氏の配慮のお陰である。これは忘れてはならない事柄であって、当時のことを知る人も少ない今、改めて50年史に特記する。

この土地を利用して昭和40年頃9ホールの増設が計画され、実地を踏査した結果、余裕をもって9ホールが造成できること、高低差は現在のアウト、コースより少ない程度の平坦なコースが予想された。コース設計は上田治氏に依頼した。設計図をもとに開発計画を作成し、関係官庁に許可申請した。しかし、それは認可に至らなかった。

昭和44年、芦屋市共有林(打出芦屋共有山財産区)の山林(芦屋市奥山1)197,302m²(約6万余坪)をm坪629円、総額1億2,377万円を買収

この場所は現在の3番ホールを新らしく造成した所と、4番ホールのティグラウンドを造成した場所とその周辺一帯の土地である。

当時の芦屋カンツリー倶楽部のコースの状況は、スコアカードの表示では、アウト36イン35のパー71となっているが、実測距離ではアウトコース2,942ヤード、コースレート33.6、インコース3,076ヤード、コースレート34.6、計6,068ヤード、コースレート68.2で

あった。

アウトコースは距離が2,942ヤードと特に短くコースレートは33.6であり、正常なコースと言い難い状態であった。アウトコースを拡張して、距離で3,300ヤード、コースレートは36以上を維持出来るコースに改造したいとの思いが長い間の悲願となっていた。

旧3番ホールに隣接した土地、奥山1番の山林にコース新增設に適した土地があり、手前の山々の斜面を開いて、ティグラウンド、フェアウエーを造成して、その先の平坦な場所にグリーンを造成すれば、距離400ヤード位のホールを新設できる絶好の土地がある。この土地の払下げを申請する計画が進められた。

昭和39年4月、打出芦屋共有山財産区管理人の芦屋市長に、土地譲渡受申請書を提出した。この土地は共有山財産区である。市長、市議長、共有山等の意向が交錯して払い下げ交渉は長期に亘り難航を極めた。その間、和仁宝壽理事長（当時）が5年間もの長い間、前後50回を超える買取交渉を、辛抱強く続けて来られたご苦勞のお陰で、土地が入手出来た。偏に和仁理事長のお骨折りの賜ものであり深甚の謝意を表したい。

その後、上田治氏に設計を依頼して、コース新設、拡張工事が進められた。その結果夢がかない、買取した土地に新3番ホールの造成工事が進められた。距離410ヤード、パー4。2グリーンを持つミドルホールが遂に完成した。

また、旧3番ショートホールのグリーンを利用して、新たに2番ホールの本グリーンとする改造を実施した。そのためこれに至る周辺の山を切り開いてフェアウエーを造成した。これによって2番ホールは、距離445ヤードと従来より90ヤード延長された。

4番ホールのティグラウンドを谷川の後方の山に新設した。この造成によって約150ヤード延長した。従来短かった4番ホールが距離540ヤードとなり、実質パー5のロングホールが完成した。

以上3ホールの新設と拡張によってアウトコース3,323ヤード、インコース2,999ヤード、計6,322ヤード、コースレート70.3、積年の念願であった、距離6,300ヤード以上、コースレート70以上を達成するに至った。

江戸時代の芦屋古絵図



寛延3年(1750年) 山論裁許状紙背絵図(芦屋市役所 所蔵)

50年の時を超えて——

年 号	社会の動き	倶楽部のあゆみ
1950(s25)	朝鮮戦争勃発、日本では「朝鮮特需」	花原用地買収、芦屋カントリー倶楽部と命名
1951(s26)	対日平和条約調印、独立回復	社団法人認可される
1952(s27)	メーデー騒乱(破防法成立)	待望の9ホール開場
1953(s28)	スターリン死亡、朝鮮戦争終結	台風による大被害
1954(s29)	特需景気終わる、死の灰事件	石井プロ第2回カナダカップ初出場
1955(s30)	神武景気で電化時代始まる	コース改良協力費徴収
1956(s31)	日ソ国交回復、ハンガリー事件	石井プロ第4回カナダカップ7位、関西オープン優勝
1957(s32)	ソ連スプートニク1号打ち上げ	アウトコース逆まわり着手
1958(s33)	世界初の関門海底道路開通	阪神土地(株)所有地約53万坪買収
1959(s34)	皇太子明仁親王ご成婚	うぐいす橋完成
1960(s35)	安保反対デモ、浅沼社党党首刺殺	打ち放し練習場完成
1961(s36)	所得倍増計画、ベルリンに壁	新入社員募集
1962(s37)	綿紡、鉄鋼不況、キューバ危機	クラブハウス竣工
1963(s38)	ケネディ大統領暗殺	会誌あしや創刊、汐見寮竣工
1964(s39)	ベトナム介入始まる	六万坪の土地買収申請
1965(s40)	ベトナム北爆拡大、大型倒産	ビジターフィー値上げ
1966(s41)	黒い霧事件、航空機事故多発	婦人委員会新設
1967(s42)	第一次中東戦争勃発、中国文革激化	集中豪雨による道路崩壊
1968(s43)	キング牧師暗殺	新幹線のずりを利用し1番、11番と練習場を改修
1969(s44)	アポロ11号月面着陸	3番の土地買収成立、約6万坪
1970(s45)	大阪万博開催、よど号ハイジャック	新入社員100名募集
1971(s46)	沖縄返還、ニクソンショック	第1次植樹計画発表
1972(s47)	列島改造ブーム	大雪のため28日間クローズ
1973(s48)	第1次石油ショック、第二次中東戦争勃発	アウトコース改造計画完成
1974(s49)	ウォーターゲート事件	避雷小屋設置、石井プロ関西シニア、日本プロシニア優勝
1975(s50)	サイゴン陥落、米介入終わる	汚水処理施設完成、石井プロ関西シニア優勝

年号	社会の動き	倶楽部のあゆみ
1976(s51)	毛沢東死去、ロッキード事件発覚	猪防護柵5,300m完成
1977(s52)	樋口全米女子オープン優勝	東お多福山火災、石井プロ関西シニア優勝
1978(s53)	青木世界マッチ優勝、日中平和条約	猪被害多発
1979(s54)	イラン革命第2次石油ショック	マン・コンベア完成（11番と17番）
1980(s55)	ソ連アフガン侵攻	ビジターフィ・名義書換料改訂
1981(s56)	ダイアナ成婚、エジプトサダト暗殺	8番水源池完成
1982(s57)	フォークランド紛争勃発	クラブの入口に石碑完成
1983(s58)	大韓航空機サハリンで墜落	平石プロテスト合格
1984(s59)	グリコ森永事件発生	石井プロ退職、2月豪雪40日間クローズ
1985(s60)	日航機御巣鷹山に墜落	会誌に俳句欄登場
1986(s61)	ソ連チェルノブイリ原発事故	スプリングラー完成
1987(s62)	国鉄民営化、地価高騰	11番ホール改造完成
1988(s63)	消費税3%導入決定	第一回市民ゴルフ大会開催
1989(h1)	昭和天皇崩御、ベルリンの壁崩壊	関西シニア選手権予選開催
1990(h2)	イラク軍クエートへ侵攻	うぐいす橋撤去、マン・コンベア完成（16番）
1991(h3)	湾岸戦争、バブル崩壊	15番茶店建替え、男子ロッカールーム改装
1992(h4)	都市銀行不良債権続発	ジュニアゴルフスクール開催、女子ロッカー室と浴場改修
1993(h5)	皇太子ご成婚、奥尻島大津波発生	新フロント事務局完成
1994(h6)	松本サリン事件発生、関西空港開港	新駐車場完成
1995(h7)	阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件発生	阪神淡路大震災のため3ヶ月間クローズ
1996(h8)	ペルー日本大使館人質事件発生	平石プロ関西オープン初優勝
1997(h9)	ダイアナ妃交通事故死、消費税5%に	焼却炉完成、井戸掘削成功 日/100t
1998(h10)	和歌山毒カレー事件発生	事務局、新コンピューターシステムに入れ替え
1999(h11)	トルコ、台湾大地震発生	新婦人社員募集（62名入社）
2000(h12)	三宅島大噴火全住民離島	ビジター料金値下げ
2001(h13)	アメリカ同時多発テロ発生、米国アフガン侵攻、敬宮愛子内親王ご誕生	新別館完成、乗用カート導入、平石プロメジャートーナメント初優勝

結び

身をつくし 心をつくし 言葉をつくして

我がふる里

芦屋カンツリー倶楽部に

幸多かれと 祈らん

● 芦屋カンツリー倶楽部50年史 ●

総合監修 開場50周年 年史編纂委員会

史料収集／原稿執筆／基本編集

久保富男
新原一世
山本陽三
二木直彦
松山正之
歌川杜之助
松本 昭
工藤雅和
岩本和夫
村上健司
丸山正美

発行責任者 社団法人 芦屋カンツリー倶楽部
開場50周年 年史編纂委員会
〒659-0002 芦屋市奥山1の25
TEL.(0797)31-0501

発行年月日 平成14年8月2日

●

ブックデザイン
装画 書

佐々義人

写真資料提供

横野浩三

写真提供

(株)竹中工務店

写真撮影

豊島正史

空撮

第一航空(株)
松田智博

DTP制作

タオ・システムズ
吉田直樹
永岡順子
回陽竹美

印刷 製本

丸山印刷(株)
〒676-8566 兵庫県高砂市神爪1丁目11番33号
TEL.(0794)32-1515 FAX.(0794)32-7046



この記念出版には環境配慮の時代にふさわしく、
本文用紙は古紙再生紙を、印刷には大豆油系インキを使用しました。